こども学科

1）教養科目

日本の憲法	長沼　秀明	1
英語コミュニケーション	蒔田　裕美	3
情報機器演習	原　かおり	5
生涯スポーツⅠ	小山内弘和	7
生涯スポーツⅡ	小山内弘和	9
知の技術	長沼,井上,西,岩崎, 小林	11

2）専門科目

国語（書写を含む）	佐内　信之	13
社会	長沼　秀明	15
算数	森田　大輔	17
理科	長友　大幸	19
生活	中野　英之	21
音楽Ⅰ	齊藤, 佐藤(千), 佐藤(良), 舘岡, 荻原, 高梨, 児玉	23
音楽Ⅱ	宮澤, 佐藤(千), 佐藤(良), 舘岡, 荻原, 高梨, 児玉	25
音楽Ⅲ	宮澤, 佐藤(良), 舘岡, 松山, 山口, 高梨	27
音楽Ⅳ	齊藤　淳子・宮澤多英子	29
図画工作	木谷　安憲	31
家庭	佐藤　真弓	33
体育	藤田　倫子	35
児童英語	蒔田　裕美	37
教職・保育概論(教育制度等を含む)	小林　佳美	39
教育原理	西　　敏郎	41
教育心理学	一色　　翼	43
保育・教育課程論	西　　敏郎	45
発達心理学	一色　　翼	47
保育内容総論	小林　佳美	49
保育内容（健康）	藤田　倫子	51
保育内容（人間関係）	岩﨑　桂子	53
保育内容（環境）	伊藤　能之	55
保育内容（言葉）	佐々木美和	57
保育内容（表現・音楽）	齊藤　淳子	59
保育内容（表現・造形）Ⅰ	木谷　安憲	61
保育内容（表現・造形）Ⅱ	佐藤　牧子	63
子どもと健康	小山内弘和・藤田　倫子	65
子どもと人間関係	岩崎　桂子	67
子どもと言葉	佐々木美和	69
子どもと表現	木谷安憲・齊藤淳子・宮澤多英子	71
子どもと環境	伊藤　能之	73
初等教科教育法（国語）	佐内　信之	75
初等教科教育法（社会）	長沼　秀明	77
初等教科教育法（算数）	森田　大輔	79
初等教科教育法（理科）	長友　大幸	81
初等教科教育法（生活）	中野　英之	83
初等教科教育法（音楽）	齊藤　淳子	85
初等教科教育法（図画工作）	木谷　安憲	87
初等教科教育法（家庭）	佐藤　真弓	89
初等教科教育法（体育）	小山内弘和	91
初等教科教育法（英語）	蒔田　裕美	93
道徳の指導法	長沼　秀明	95
特別活動の指導法	長沼　秀明	97
教育方法論(総合的な学習の時間の指導法を含む)	西　　敏郎	99
ICT 活用の理論と方法	織戸　恒男	101
生徒・進路指導の理論と方法	長沼　秀明	103

教育相談の理論と方法　原口　幸 …… 105
児童文化　佐々木美和 …… 107
子どもの理解と実践　一色　翼 …… 109
児童文学　佐々木美和 …… 111
社会福祉論　西内　俊朗 …… 113
子育て支援　佐藤　晃子 …… 115
子ども家庭支援の心理学　森本真由美 …… 117
子ども家庭福祉　佐藤　晃子 …… 119
社会的養護Ⅰ　西内　俊朗 …… 121
社会的養護Ⅱ　西内　俊朗 …… 123
保育原理　関根　久美 …… 125
子どもの保健　鈴木香代子 …… 127
子どもの健康と安全　鈴木香代子 …… 129
子どもの食と栄養Ⅰ　中西由季子 …… 131
子どもの食と栄養Ⅱ　中西由季子 …… 133
乳児保育Ⅰ　関根　久美 …… 135
乳児保育Ⅱ　関根　久美 …… 137
特別支援論Ⅰ(対象理解)　井上　昌士 …… 139
特別支援論Ⅱ(乳･幼児への支援方法)　井上　昌士 …… 141
特別支援論Ⅲ(児童への支援方法)　井上　昌士 …… 143
地域子育て支援論　佐藤　晃子 …… 145
子ども家庭支援論　佐藤　晃子 …… 147
在宅保育　関根　久美 …… 149
栽培　橋本　敏幸 …… 151
演劇　中村　一規 …… 153
教育実習指導（事前事後）（幼稚園）　木谷, 小山内, 関根, 西, 齊藤, 佐々木, 小林 …… 155
教育実習Ⅰ（幼稚園）　こども学科専任教員 …… 157
教育実習Ⅱ（幼稚園）　こども学科専任教員 …… 159
教育実習指導（事前事後）（小学校）　長沼,木谷,小山内,一色 …… 161
教育実習Ⅰ（小学校）　こども学科専任教員 …… 163
教育実習Ⅱ（小学校）　こども学科専任教員 …… 165
保育実習指導Ⅰ（事前事後）　岩﨑, 小林, 宮澤, 藤田 …… 167
保育実習指導Ⅱ（事前事後）　井上, 小山内, 佐藤, 西内 …… 169
保育実習Ⅰ（保育所）　こども学科専任教員 …… 171
保育実習Ⅱ（施設）　こども学科専任教員 …… 173
保育実習指導Ⅲ･Ⅳ（事前事後）　木谷, 井上, 西, 佐藤, 岩﨑, 小林, 宮澤, 西内､藤田 …… 175
保育実習Ⅲ（保育所）　こども学科専任教員 …… 177
保育実習Ⅳ（施設）　こども学科専任教員 …… 179
保育･教職実践演習（幼･小）　長沼, 関根, 西, 岩﨑, 小林, 西内, 藤田, 一色 …… 181
ICT 活用の理論と方法（旧カリ）　織戸　恒男 …… 183

3）ゼミ

保育・教育学演習Ⅰ　小山内弘和 …… 185
保育・教育学演習Ⅰ　木谷　安憲 …… 187
保育・教育学演習Ⅰ　井上　昌士 …… 189
保育・教育学演習Ⅰ　長沼　秀明 …… 191
保育・教育学演習Ⅰ　関根　久美 …… 193
保育・教育学演習Ⅰ　西　敏郎 …… 195
保育・教育学演習Ⅰ　齊藤　淳子 …… 197
保育・教育学演習Ⅰ　佐々木美和 …… 199
保育・教育学演習Ⅰ　佐藤　晃子 …… 201
保育・教育学演習Ⅰ　岩崎　桂子 …… 203
保育・教育学演習Ⅰ　小林　佳美 …… 205
保育・教育学演習Ⅰ　宮澤多英子 …… 207
保育・教育学演習Ⅰ　西内　俊朗 …… 209
保育・教育学演習Ⅰ　藤田　倫子 …… 211
保育・教育学演習Ⅰ　一色　翼 …… 213

保育・教育学演習Ⅱ　小山内弘和 …… 215
保育・教育学演習Ⅱ　木谷　安憲 …… 217
保育・教育学演習Ⅱ　井上　昌士 …… 219
保育・教育学演習Ⅱ　長沼　秀明 …… 221
保育・教育学演習Ⅱ　関根　久美 …… 223
保育・教育学演習Ⅱ　西　　敏郎 …… 225
保育・教育学演習Ⅱ　齊藤　淳子 …… 227
保育・教育学演習Ⅱ　佐々木美和 …… 229
保育・教育学演習Ⅱ　佐藤　晃子 …… 231
保育・教育学演習Ⅱ　岩崎　桂子 …… 233
保育・教育学演習Ⅱ　小林　佳美 …… 235
保育・教育学演習Ⅱ　宮澤多英子 …… 237
保育・教育学演習Ⅱ　西内　俊朗 …… 239
保育・教育学演習Ⅱ　藤田　倫子 …… 241
保育・教育学演習Ⅱ　一色　　翼 …… 243

4）自由選択科目

文学　柴田　勝二 …… 245
文化論　平澤　純子 …… 247
環境論　小島　　望 …… 249
経営学（旧課程）　平澤　純子 …… 251
民法　三重野雄太郎 …… 253
心理学　伊澤　利文 …… 255
メンタルケア　蓮井千恵子 …… 257
臨床心理学　蓮井千恵子 …… 259

日本の憲法　～子どもたちを守るために憲法を学ぼう～

長沼　秀明

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
2年	後期	2	選択	必修	必修	選択

授業概要

この科目は教育職員免許法施行規則（文部科学省令）が定める教員免許状取得のための必修科目です。授業では、憲法の重要な論点を講義します。また、教育現場をはじめとする身近な話題の中に、どんな憲法問題が潜んでいるのかを討論も交えて皆で検討します。また、「それでも生きる子供たちへ」という外国映画を観て、世界の子どもたちが直面する問題へも目を向けます。

今の日本社会に生きる子どもたちがどのような問題を抱えているのか、そして教師は子どもたちをどのように導き、守り抜いていくべきかを共に考えます。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	なぜ憲法を学ぶのか
第 2 回	日本国憲法第１３条（その１）：個人の尊厳
第 3 回	日本国憲法第１３条（その２）：公共の福祉
第 4 回	自由権：思想・良心の自由、表現の自由、学問の自由、経済的自由
第 5 回	日本国憲法第２５条：不安なく生きる権利
第 6 回	日本国憲法第２６条：教育を受ける権利
第 7 回	身近な話題の中の憲法問題（その１）
第 8 回	映画で学ぶ憲法（その１）
第 9 回	身近な話題の中の憲法問題（その２）
第 10 回	映画で学ぶ憲法（その２）
第 11 回	国を治める仕組み：象徴天皇・国民主権、国会・内閣・裁判所、地方自治
第 12 回	平和主義―国を守るということ―
第 13 回	身近な話題の中の憲法問題（その３）
第 14 回	映画で学ぶ憲法（その３）
第 15 回	まとめ―保育・教育と憲法―

予習・復習

・予習：授業内容に関する教科書の該当部分を事前に読んできてください。
・復習：授業で扱われた内容を教科書であらためて確認しておいてください。

履修上の注意

毎回、授業内容に関する質問票を作成・提出してもらいます。詳細は授業で指示します。
遅刻３回を欠席１回に換算するので、くれぐれも遅刻しないようにしてください。

到 達 目 標

日本国憲法を深く理解し、学んだことを教育現場で活かす準備ができるようになること。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
理解度（70%）	授業内容を超えた自主的な学修ができる。	授業内容をほぼ100%理解している。	授業内容の理解に多少不足がある。	授業内容について最低限の理解をしている。	授業内容についての理解ができていない。
論理的に文章で説明する力（30%）	提示された課題について、他人を十分に説得する内容を記述することができる。	論理が通った内容をよく記述することができる。	不足する点はあるものの、他人が理解できる程度の論理的な文章を書くことができる。	最低限の内容について文章で説明ができる。	内容について文章で説明することができない。

評価方法

授業の成果 55%
筆記試験の得点 45%

テキスト

・教科書名：『保育と日本国憲法』（シリーズ 保育と現代社会）
・著 者 名：橋本勇人編、長沼秀明ほか著
・出版社名：株式会社みらい
・出 版 年（ISBN）：2018 年

英語コミュニケーション　～保育学生のための実践英語～

蒔田　裕美

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
2 年	後期	2	選択	必修	必修	選択

授 業 概 要

グローバル化が進む現代社会においては、英語でコミュニケーションをとる機会が多く、幼稚園でも遊びの中で英語に触れる時間を取り入れるところが増えている。本科目ではアクティビティやロールプレイを通して、保育園や幼稚園の現場で必要な英語表現を学び、実際に運用できるよう指導する。英語圏の文化を理解した上で、英語の唄を習得することも目指す。

授 業 計 画

授業回	授業内容
第 1 回	Unit: Please Speak More Slowly
第 2 回	Unit 1: Hi, I'm Yuri Tanaka
第 3 回	Unit 2: Where Is the Multi-purpose Room?
第 4 回	Unit 3: Good Morning. How Are You Today?
第 5 回	Unit 4: What Color Do You Like?
第 6 回	Unit 5: There's a Ladybug on the Leaf
第 7 回	Unit 6: It's Time to Play Outside
第 8 回	Unit 7: She Is Allergic to Eggs
第 9 回	Unit 8: You Should Go to the Bathroom
第 10 回	Unit 9: We Made Masks Today
第 11 回	Unit 10: If It Rains, What Happens?
第 12 回	Unit 11: What Shall We Do Today?
第 13 回	Unit 12: I Feel Feverish
第 14 回	Unit 13: This Is Yuri from Cosmos Day Care Center
第 15 回	Unit 14: Thank You Very Much for Everything

予 習 ・ 復 習

・予習：テキストの単語の意味を調べ、問題をあらかじめ解いて分からない箇所を明確にしておく。

・復習：授業で学んだ英単語の発音練習をして、表現を自分のものにできるよう覚える。

履修上の注意

遅刻２回で欠席１回とみなす。授業開始から大幅に時間が過ぎても、参加の意欲があれば欠席扱いにしないので遅刻してもあきらめないで授業に参加すること。

到 達 目 標

・保育園や幼稚園で使われる会話表現を覚え、実際に使用できるようになる。
・相手に伝わる発音や英語のイントネーションが身につく。
・英語圏の文化を理解し、グローバル化が進む社会で教育活動に生かすことができる。
・マザーグースなどの英語の唄や、英語の手遊び唄を習得できる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
理解力（50%）	授業内容を越えた自主的な取り組みができる。	授業内容をほぼ100%理解している。	理解はしているが授業内容の理解に多少不足がある。	授業内容を最低限の理解をしている。	内容についての理解ができていない。
表現力（50%）	場面に応じた多様な英語表現を用い、正しい発音で自分の意見を表明することができる。	相手に伝わる発音と適切な英単語で自分の意見を表現できる。	英語で最低限の意思疎通をすることができる。	英単語の並べ方や発音に改善が必要である。	英語を聞き取り、発音することができない。

評価方法

試験 50%、発表 50%

テキスト

・教科書名：『Happy English for Childcare 保育のための基礎英語』
・著 者 名：土屋麻衣子
・出版社名：金星堂
・出 版 年（ISBN）：2015 年（978-4-7647-4008-2）

情報機器演習　～実務スキルを身につける～	原　かおり

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
1年	前期	2	選択	必修	必修	選択

授業概要

情報機器には、あらゆる現場で利用できる多種多様な機能が備わっています。
情報機器演習では、その中から、Word、Excel、PowerPoint の３つのソフトウェアを中心に、保育の現場で活用できる使い方を指導します。また、情報を取り扱う上での留意点やセキュリティについても指導し、課題や問題点について考察していきます。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	オリエンテーション　電子メールの作成とマナー
第 2 回	Word：基本操作（縦書きと横書き・印刷設定・テキストボックスの利用）データの種類
第 3 回	Word：図入り文書の作成（SmartArt・アイコン・図形の利用)、情報に関する法制度
第 4 回	Word：おたよりの作成（リストと行間）
第 5 回	Word：年間行事カレンダーの作成（表のある文書）
第 6 回	Word：クラス新聞の作成（段組とセクション）
第 7 回	Excel：基本操作（セルの書式・オートフィル機能・挿入・削除）
第 8 回	Excel：名簿の作成（テーブル・並び替え・フィルター）
第 9 回	Excel：成績表の作成（関数の利用）
第 10 回	Excel：条件付書式・印刷設定・ヘッダーとフッター・改ページプレビュー
第 11 回	Excel&Word 複合データ：エクセルの表を Word で利用する
第 12 回	PowerPoint：基本スライドの作成
第 13 回	PowerPoint：保護者会の進行プログラムのスライド作成
第 14 回	PowerPoint：卒園式プログラムのスライド作成（アニメーションの利用）
第 15 回	総合資料の作成・セキュリティと個人情報の保護

予習・復習

・予習：タイピング練習をしましょう。(授業内で練習プログラムを紹介します)

・復習：練習ドリル（データ）を配付します。指定のファイルを繰返し練習しましょう。
　　授業内で作成したデータを再作成してみましょう。

履修上の注意

授業開始後 30 分までの入室は遅刻として受講を認めます。30 分を超えての入室の場合は欠席扱いとします。遅刻 3 回で 1 回の欠席扱いとなり、欠席 6 回以上で単位付与はしません。
授業開始までに、パソコンにログインし、準備をすること（ID、パスワードを各自確認しておくこと。）
データを保存する USB を各自で用意してください。（初回の講義で説明しますので、初回は持参不要）

到 達 目 標

・基本文書の作成（Word）ができるようになること。
・表計算ソフトの基本（Excel）を理解し、活用できるようになること。
・用途を考え、使用する機能を選択できるようになること。
・個人情報を含む、情報の取り扱い方について理解すること。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
基礎力（基本操作）（30%）	基本機能を十分に理解し、効率よく操作ができる。	基本機能を十分に理解し、操作ができる。	ヒントを与えれば、理解し、基本操作ができる。	指示通りに操作はできるが、基本理解が不足している。	基本機能の理解が足りない。
応用力（発想能力）（30%）	使用したことのない機能でも自分で調べ活用できる。	応用機能を十分に理解し、機能を組み合わせて操作ができる。	ヒントを与えれば、理解し、応用操作ができる。	指示通りに操作はできるが、応用理解が不足している。	応用機能の理解が足りない。
読解力（判断能力）（30%）	作成者の意図を理解した上で、データをアップグレードできる。	作成者の意図を理解し、編集作業ができる。	ヒントを与えれば理解し、編集作業ができる。	指示通りに操作はできるが、自分自身で判断ができない。	どのようにしたらよいか自身で判断ができない。
情報リテラシー（10%）	危険を回避して行動でき、他者への提案もできる。	危険を回避して行動できる。	危険な状況であることは理解できる。	危険な状況であるか否か迷いがある。	危険な状況を判断できない。

評価方法

学期末試験（50%）　　授業内課題（25%）　　授業態度（25%）

テキスト

指定のテキストはありません。毎授業、プリントを配付します。
プリントを入れるファイル（A4 版）を用意してください（初回の講義で説明します）。
データを保存する USB を用意してください。（初回の講義で説明しますので、初回は持参不要）

生涯スポーツⅠ　～スポーツの楽しさと自己の身体を考える～	小山内　弘和

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
1年	前期	1	必修	必修	必修	必修

授業概要

「身体を動かす」ことに重点を置き、複数のスポーツにより展開し、それぞれのスポーツの特性に触れる。さらに、経験者が初心者を教えるなどにより、スポーツを全体として楽しむための方法について考え、そして運動・スポーツを通して「教授」することの重要性を再確認できるよう指導する。また、身体のデータを収集し、その変化と体力との関連についても考える。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	ガイダンス：　授業内容、授業の特性上、必要な注意を伝達する。
第 2 回	自己の身体について（身体計測１）：　自己の身体的、体力的な現状を知るために、データの収集を行う。
第 3 回	バスケットボール①確認：　運動経験や個々の運動能力を確認しながら、種目に触れることから始め、簡単なゲームを行う。
第 4 回	バスケットボール②応用：　確認した個々の運動能力を考慮しながら、応用した練習を組み込み、簡単なゲームを行う。
第 5 回	バスケットボール③ゲーム：　学習した内容や個々の運動能力を考慮しながら、ゲームを行う。
第 6 回	バトミントン①確認：　運動経験や個々の運動能力を確認しながら、種目に触れることから始め、簡単なゲームを行う。
第 7 回	バトミントン②応用：　確認した個々の運動能力を考慮しながら、応用した練習を組み込み、簡単なゲームを行う。
第 8 回	バトミントン③ゲーム：　学習した内容や個々の運動能力を考慮しながら、ゲームを行う。
第 9 回	バレーボール①確認：　運動経験や個々の運動能力を確認しながら、種目に触れることから始め、簡単なゲームを行う。
第 10 回	バレーボール②応用：　確認した個々の運動能力を考慮しながら、応用した練習を組み込み、簡単なゲームを行う。
第 11 回	バレーボール③ゲーム：　学習した内容や個々の運動能力を考慮しながら、ゲームを行う。
第 12 回	ドッヂビー①基礎：　運動経験や個々の運動能力を確認しながら、種目に触れることから始め、簡単なゲームを行う。
第 13 回	ドッヂビー②ゲーム：　学習した内容や個々の運動能力を考慮しながら、ゲームを行う。
第 14 回	自己の身体の変化について（身体計測２）：　自己の身体的、体力的な変化を知るために、データの収集を行う。
第 15 回	まとめ

予習・復習

日常の運動習慣は、実技での活動の基礎となる。より充実したスポーツ活動を進めるために以下の事を心がける事。

・予習：日々の生活における健康管理に努め、健康な心身で授業に参加するよう努力する。
・復習：授業で感じたことを日常の生活に組み込む努力を行う。

履修上の注意

・ 遅刻（30 分以内の遅れ）は 3 回で 1 回の欠席とする。
・ 授業は体育アリーナで実施する。必ずジャージで、屋内履きで受講すること。ジャージ以外の服装、屋内履き（運動靴）がない場合は、安全上、出席を認めない。
・ 安全上の問題から適切に身だしなみを整えて出席すること。
・ 暑さが予想されることから、十分に体調管理の上で出席すること。
※履修者人数や環境条件に合わせて変更する場合がある。
※土足での授業参加を発見した場合、以降の履修の可否について検討する。

到 達 目 標

・ 身体計測を通して、自己の身体の変化について知ることができる。
・ 自らの運動能力（体力）の現状を実感できるよう、積極的に実技に参加することができる。
・ 仲間づくりや協調性を含めた、運動・スポーツの楽しさ、一生懸命に動くことによる爽快感を感じることができる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
理解度（50%）	授業内を越え積極的に学修ができる。	授業内容をほぼ100%理解している。	理解はしているが授業内容の理解に多少不足がある。	授業内容を最低限の理解をしている。	内容についての理解ができていない。
授業への積極性（20%）	授業内での学習に積極的に取り組み、自主的な学習や準備につなげることができる。	授業内での学習に積極的に取り組むことができる。	授業内での学習への取り組みがやや消極的である。	授業内での学習への取り組みが消極的である。	授業内での学習に取り組む姿がみられない。
授業での協調性（30%）	授業内での学習に協調的に取り組み、自主的な学習や準備も協調して行うことができる。	授業内での学習にとても協調的に取り組むことができる。	授業内での学習に協調的に取り組むことができる。	授業内での学習にやや協調的に取り組むことができる。	授業内での学習に協調的に取り組むことができない。

評価方法

・レポート（50%）
・提出物（20%）
・授業への貢献度（積極性と協調性）（30%）

テキスト

なし。
必要に応じて、適宜、プリントを配布する。

生涯スポーツⅡ　～今の自分とこれからの自分～

小山内　弘和

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
2年	後期	2	選択	必修	必修	必修

授業概要

スポーツは、豊かな生活を営むための一つ活動である。身体活動を伴うスポーツは健康にとっても有益な活動である。健康に対する価値観はさまざまではあるが、生涯にわたって身体的に良好な状態であることがQOLを向上させることは明らかである。本講義では、スポーツの基礎となる健康や身体について、自己の身体、日常生活を記録するとともに分析し、自己の「今」を知る事から初める。そして、その基礎データをもとに身体について学習することで、スポーツなどの身体活動や健康などへ目を向けるきっかけとなるように講義を行う。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	ガイダンス：　生涯スポーツⅡの授業の進め方や注意事項について伝達する。
第 2 回	健康について：　健康についての一般的な考え方や個々の捉え方、それとともに自分たちの状況について考える。
第 3 回	身体組成の測定の意義と方法：　自己の身体についての理解を深めるとともに、身体組成を速成する意義と方法について説明する。
第 4 回	自己の身体について（身体計測１）：　自己の身体的な現状を知るために、データの収集を行う。
第 5 回	自己の体力レベルの確認①：　自己の体力的な現状を知るために、実際に活動し確認をする。
第 6 回	身体の変化について：　測定した身体組成を基に、体重、BMI、体脂肪率を中心に理解を深める。
第 7 回	生活活動記録調査：　自己の生活を知るために、生活活動記録の記録を行う。
第 8 回	身体活動量（カロリー）の算出：　生活活動記録を基に、自己の日常の消費エネルギーについて算出してみる。
第 9 回	日常生活について：　自己の生活活動記録とエネルギー消費量を参考に、日常生活についての理解を深めの過ごし方を考える。
第 10 回	エネルギーの生成と消費、筋肉について：　身体のエネルギーの生成と消費、筋肉について学ぶ
第 11 回	呼吸循環系について：　生命維持に必要な身体活動について学ぶ
第 12 回	自己の体力レベルの変化の確認②：　自己の体力的な変化を知るために、実際に活動し変化の確認をする。
第 13 回	自己の体力レベルの変化の確認③：　自己の体力的な変化を知るために、実際に活動し変化の確認をする。
第 14 回	自己の身体の変化について（身体計測２）：　自己の身体的、体力的な変化を知るために、データの収集を行う。
第 15 回	まとめ

予習・復習

自分自身の日常の生活や身体活動が、健康維持・増進には大きな影響を与えている。このことから、日々の生活が予習であり復習となる。

・予習：毎日の気づきから、自己の健康に必要な課題を明確に持ち、生活する。

・復習：予習と授業内容から得た知識を実践し、自己の身体・生活の結果に反映させる努力をする。

履修上の注意

・遅刻（30 分以内の遅れ）は３回で１回の欠席とする。
・身体計測、体力レベルの確認時は、ジャージ、上履き等適した服装を必要とする（事前に連絡）。

到 達 目 標

自己の身体、日常生活の「今」を明確にし、健康の基準となるデータから自己の身体や生活を見直すことができる。
自己の身体、生活と健康との関連を検討し、生涯に渡っての身体、日常生活を考えることができる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
理解度（55%）	授業内を越え積極的に学修ができる。	授業内容をほぼ100%理解している。	理解はしているが授業内容の理解に多少不足がある。	授業内容を最低限の理解をしている。	内容についての理解ができていない。
問題発見能力（15%）	発見できない学生に解決方法をアドバイスできる。	独自の能力で課題を発見することができる。	参考にするものがあれば、独自の能力で課題を発見することができる。	他人のアドバイスがあれば課題を発見することができる。	他人のアドバイスがあっても自発的に課題を発見すること ができない。
問題解決能力（15%）	解決できない学生に解決方法をアドバイスできる。	独自の能力で課題を解決することができる。	参考にするものがあれば、独自の能力で課題を解決することができる。	他人のアドバイス があれば課題を解決することができる。	他人のアドバイスがあっても自発的に課題を解決すること ができない。
授業での協調性（15%）	授業内での学習に協調的に取り組み、自主的な学習や準備も協調して行うことができる。	授業内での学習に協調的に取り組むことができる。	授業内での学習に協調的な取り組みがやや消極的である。	授授業内での学習に協調的な取り組みが消極的である。	授業内での学習に協調的な取り組みがみられない。

評価方法

・テスト（筆記またはレポート）（55%）
・提出物（30%）
・授業への積極性（15%）

テキスト

なし。
必要に応じてプリントを配布する。

知の技術　～教員・保育士養成基礎講座～	長沼･井上･西･岩﨑･小林

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
1年	前期	2	必修	－	－	－

※実務経験のある教員による授業科目

授業概要

教員や保育士を目指す学生が初年次に身につけるべき以下の内容を指導する。
・学生としての学びの技術を習得し、本学で履修する科目内容への理解を深める
・社会人として求められる基本的なスキル（コミュニケーション力とプレゼンテーション力）を磨く

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	ガイダンス―本学での学ぶ意義と授業形態、履修登録の方法を理解しよう
第 2 回	川短での学びの概要と各授業受講に指してのルールを知ろう（学生としての学び❶）
第 3 回	メディアセンターの機能、資料の探し方を知り活用しよう（学生としての学び❷）
第 4 回	ノート、レポートの書き方を身につけよう（学生としての学び❸）
第 5 回	ICT 活用の意義と注意事項を理解しよう（学生としての学び❹） 保育・教職課程学生としての情報活用の倫理を考えよう（SNS の利用、引用表記）
第 6 回	（学生としての学び❺）
第 7 回	実習参加に際しての心構え、幼稚園の１日、日誌の基本を理解しよう（実習にむけての学び❶）
第 8 回	地図、礼状等の書き方を身につけよう（実習にむけての学び❷）
第 9 回	人前に立って話す準備をしよう（実習にむけての学び❸）
第 10 回	「教育・保育学演習」の授業（ゼミ活動）について知ろう（学生としての学び❺）
第 11 回	「教育・保育学演習」の授業（ゼミ活動）を決めよう（学生としての学び❻）
第 12 回	個人調書を書こう（実習にむけての学び❺）
第 13 回	実習生としてのマナー、言葉遣い、オリエン電話のかけ方を理解しよう（実習にむけての学び❻）
第 14 回	模擬保育に挑戦しよう（実習にむけての学び❼）
第 15 回	まとめ―「かわたんシート」を使って授業の振り返りをしよう（学生としての学び⑦）

予習・復習

・予習：漢字学習を授業回ごとに指示されたペースで進める。
・復習：各回の授業内容に基づき、具体的に指示する。

履修上の注意

本授業は本学での学びの基礎となる事項であり、免許・資格取得と密接に関連した重要事項を扱うため、すべての回に出席し、求められる提出物を期限内に提出する必要がある。配布物はすべてファイルして保管すること。

さらに、1 年次後期に開講する「教育実習指導（事前事後）幼稚園／小学校」「保育実習Ⅰ・Ⅱ（事前事後)」は、本授業の内容を修得済であることを前提に進められるので、実習参加予定者は特に注意が必要である。

また、5 回・10 回・15 回の授業時に「漢字テスト」を行うので、授業回毎に伝える学習案内のペースに従って自習を進めること。

遅刻・早退３回で欠席１回の扱いとする。

到 達 目 標

2 年間の学生生活を有意義なものにするために必要な学びの態勢を整え、教員や保育士を目指すうえで不可欠な社会常識とマナー、および社会人としての基本的なスキルを身につける。
上記を踏まえ、具体的には以下 5 項目の知識や資質・能力の習得を目指す。
① スタディスキル（ノートテイキング、発言、グループ内での協働、講義内容の理解、ならびに期限内に課題提出ができる）
② スチューデントスキル（メールや電話、手紙等を使って、マナーを踏まえた報告・連絡・相談ができる）
③ 文章表現の基礎力（正しい漢字・文法により的確な文章作成ができる）
④ 情報リテラシー（メディアセンター、インターネット等を活用して多様な情報を収集し、モラルに則って活用することができる）
⑤ 保育・教育実践の基礎力（保育の観察・記録の基本を理解し、テーマに沿った保育実技のプレゼンテーションができる）

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
スタディスキル（20%）	ノートテイキング、発言、グループ内での協働に積極的であり、すべての課題が期限内に提出され、講義内容の理解が十分に行われている。	ノートテイキング、発言、グループ内での協働ができており、すべての課題が期限内に提出され、概ね講義内容が理解されている。	すべての課題が期限内に提出され、概ね講義内容が理解されているが、ノートテイキング、発言、グループ内での協働に積極性・主体性が求められる。	概ねの課題は期限内に提出されたが、一層の講義内容・意図の理解が必要である。	課題の提出が期限内に提出されておらず、講義内容・意図の理解が不十分である。
スチューデントスキル（20%）	メールや電話、手紙等を使って、適切なマナーを踏まえ、滞りなく報告・連絡・相談ができる。	メールや電話、手紙等を使って、一定のマナーを踏まえた報告・連絡・相談ができる。	メールや電話、手紙等を使って、報告・連絡・相談ができるが、一般的なマナーの理解を深める必要がある	メールや電話、手紙等を活用できるが、滞りなく報告・連絡・相談する態度を習得する必要がある。	報告・連絡・相談の必要性を理解し、少なくともメールを適切に活用するスキルを習得する必要がある。
文章表現の基礎力（20%）	正しい漢字・文法を使って、的確な文章作成ができる。	正しい漢字・文法を使って、他者が理解できる文章の作成ができる。	他者が理解できる文章の作成はできるが、正しい文法、漢字・語彙の使用に努める必要がある。	辛うじて他者が理解できる文章を作成できるが、正しい文法・漢字の習得が求められる。	他者が理解できる文章を作成するスキル、および正しい文法・漢字の習得が求められる。
情報リテラシー（20%）	メディアセンター、インターネット等を活用して多様な情報を収集し、適切な情報を取捨選択したうえで、モラルに則って活用することができる。	メディアセンター、インターネット等を活用して多様な情報を収集し、モラルに則って活用することができる。	メディアセンター、インターネット等を活用して多様な情報を収集できるが、情報モラルへの理解が必要である。	メディアセンター、インターネット等を活用できるが、必要な情報を収集する方法を習得する必要がある。	メディアセンター、インターネット等を適切に活用する方法を理解する必要がある。
保育・教育実践の基礎力（20%）	保育の観察・記録の基本を十分に理解し、基本を踏まえて、魅力的に保育実技のプレゼンテーションができる。	保育の観察・記録の基本を理解し、テーマに沿った保育実技のプレゼンテーションができる。	保育の観察・記録の基本を概ね理解しているが、基本を踏まえた保育実技の方法を理解し、実践するスキルの習得が必要である。	保育の観察・記録の理解度を判断する課題の提出、または保育実技のプレゼンテーションの、いずれかが行われなかった。	保育の観察・記録の理解度を判断する課題の提出、および保育実技のプレゼンテーションのどちらも行われなかった。

評価方法

漢字テストおよび課題レポート　50%
授業時の提出物　30%
発表　20%

テキスト

・教科書名：【改訂 2 版】これだけは知っておきたい 保育の基本用語(漢字練習シート付)
・著者名：長島和代（編）　石丸るみ・亀﨑美沙子・木内英実（著）
・出版社名：わかば社
・出版年：2021 年
＊『実習のてびき』『履修のてびき』（他に、必要に応じて資料を配布する）

国語(書写を含む)　～言語活動で国語力を高めよう～	佐内　信之

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
1年	後期	2	選択	－	選択必修	－

授業概要

小学校における国語という教科の位置づけと内容の概略を理解する。さらに、言葉の手本となるべき教員自身の国語に対する意識を高め、思考力・判断力・表現力につながる言葉の力（話す力・聞く力、書く力、読む力）を確かなものにし、具体的な言語活動を通して各技能を磨き高めるように指導する。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	ガイダンス　国語「概説」
第 2 回	ことばの力1　話す力・聞く力
第 3 回	ことばの力1　書く力1－文字を書く－
第 4 回	ことばの力1　書く力2－文章を書く－
第 5 回	ことばの力1　読む力
第 6 回	文章のいろいろ　説明的文章
第 7 回	文章のいろいろ　文学的文章
第 8 回	文章のいろいろ　言語文化
第 9 回	ことばの理解　表記
第10回	ことばの理解　ことばのきまり
第11回	ことばの理解　語と意味
第12回	ことばの力2　音読の力
第13回	ことばの力2　コミュニケーションの力
第14回	ことばの力2　情報活用の力
第15回	ことばの力2　論理の力

予習・復習

・予習：授業計画にしたがって、事前に教科書の該当箇所を読んでおく。

・復習：課題には自分の感想や意見を自由に表出し、各自の課題解決能力を評価する。

履修上の注意

・授業の中に演習形式の内容を多用していきたいと考えている。積極的な参加意欲を期待したい。
・遅刻３回で欠席１回の扱いとする。

到 達 目 標

・言語活動を通して国語力を構成する「考える力」「感じる力」を深める。
・日常の言語生活において「聞く・話す」「読む」「書く」という具体的な言語活動のスキルを高める。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
理解度（40%）	授業内容を越えた自主的な学修ができる。	授業内容をほぼ100%理解している。	理解はしているが授業内容の理解に多少不足がある。	授業内容を最低限は理解している。	内容についての理解ができていない。
課題解法能力（30%）	解法が分からない他人にアドバイスができる。	何も参照せずに独自の能力で課題を解くことができる。	参考書や教科書を参考にすれば、独自に課題を解くことができる。	他人のアドバイスがあれば課題を解くことができる。	他人のアドバイスがあっても自発的に課題を解くことができない。
解法を文章で説明する力（レポート）（30%）	他人を説得する内容を記述することができる。	論理が通った説明文を記述することができる。	不足する点はあるが、説明文を書くことができる。	最低限の内容について説明ができる。	内容についての説明ができない。

評価方法

授業内レポート 70%、学期末レポート 30%

テキスト

・教科書名：言語活動中心　国語概説　改訂版－小学校教師を目指す人のために－
・著 者 名：岩﨑淳ほか
・出版社名：学文社
・出 版 年（ISBN）：2022 年（9784762031274）

社会　～社会科とは、いかなる教科か～	長沼　秀明

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
1年	前期	2	選択	－	選択必修	－

授業概要

小学校の教育課程における社会科の役割や性格について講義する。具体的には、学習指導要領に掲げられている「教科の目標」および「各学年の目標及び内容」について、社会科という教科の歴史をふまえて指導する。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	社会科の目標（1） 小学校社会科の目標
第 2 回	社会科の目標（2） 「社会生活についての理解」
第 3 回	社会科の目標（3） 「我が国の国土と歴史に対する理解と愛情」
第 4 回	社会科の目標（4） 「公民的資質の基礎」
第 5 回	学年の目標―構造と系統―
第 6 回	各学年の目標および内容（1） 第 3 学年および第 4 学年（その 1）
第 7 回	各学年の目標および内容（2） 第 3 学年および第 4 学年（その 2）
第 8 回	各学年の目標および内容（3） 第 3 学年および第 4 学年（その 3）
第 9 回	各学年の目標および内容（4） 第 5 学年（その 1）
第 10 回	各学年の目標および内容（5） 第 5 学年（その 2）
第 11 回	各学年の目標および内容（6） 第 5 学年（その 3）
第 12 回	各学年の目標および内容（7） 第 6 学年（その 1）
第 13 回	各学年の目標および内容（8） 第 6 学年（その 2）
第 14 回	各学年の目標および内容（9） 第 6 学年（その 3）
第 15 回	まとめ

予習・復習

・予習：授業内容に関する教科書の該当部分を事前に読んできてください。
・復習：授業で扱われた内容を教科書であらためて確認しておいてください。

履修上の注意

毎回、積極的に課題に取り組み、発言して、授業に大いに貢献してください。学生諸君同士、お互いに、大いに学びあってください。

遅刻 3 回を欠席 1 回に換算するので、くれぐれも遅刻しないこと。

到 達 目 標

社会科とは、いかなる教科であるのかについて、十分に理解できるようになること。あわせて、初等教育における社会科教育の内容について指導できる能力の基盤を養うこと。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
理解度（70%）	授業内容を超えた自主的な学修ができる。	授業内容をほぼ100%理解している。	授業内容の理解に多少不足がある。	授業内容について最低限の理解をしている。	授業内容についての理解ができていない。
論理的に文章で説明する力（30%）	提示された課題について、他人を十分に説得する内容を記述することができる。	論理が通った内容をよく記述することができる。	不足する点はあるものの、他人が理解できる程度の論理的な文章を書くことができる。	最低限の内容について文章で説明ができる。	内容について文章で説明することができない。

評価方法

授業の成果 55%

筆記試験の得点 45%

テキスト

・教科書名：『小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 社会編』
・著 者 名：文部科学省
・出版社名：日本文教出版
・出 版 年（ISBN）：平成 30 年

算数　～教える立場から捉える算数の内容～	森田　大輔

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
1年	後期	2	選択	－	選択必修	－

授 業 概 要

本授業では，小学校算数科の内容について講義する。現行の学習指導要領において，小学校算数科には「A 数と計算」「B　図形」「C　測定」「C　変化と関係」「D　データの活用」という5つの領域があるが，それぞれの領域には内容の系統性が存在する。それを，「教える立場」から概観し，子どもが示す学習上の困難点を講義する。

また，本授業の後半では，「一般化と拡張」など算数学習の方法について指導する。「算数をつくる」という立場に立つことで，算数の学び方や内容の系統性を指導する。

授 業 計 画

授業回	授業内容
第 1 回	オリエンテーション，十進位取り記数法
第 2 回	乗法と除法
第 3 回	演算決定のためのモデル
第 4 回	有理数の順序構造
第 5 回	偶数と奇数
第 6 回	比較と測定
第 7 回	面積と体積
第 8 回	単位量あたりの大きさ
第 9 回	合同と拡大図・縮図
第 10 回	文字の式
第 11 回	統計グラフの小学校における系統の数学的意味づけ
第 12 回	一般化と拡張
第 13 回	数学的な説明
第 14 回	数学史の活用
第 15 回	算数教育の仕組み

予 習 ・ 復 習

・予習：テキストの該当箇所を読む

・復習：授業で学んだことをノートにまとめる，解けなかった問題を改めて解き直す

履修上の注意

・本授業では，しばしば問題演習を取り入れるが，その際一人で取り組むだけでなく，少人数またはグループによるディスカッションも適宜促す。「問題が解ける・解けない」という点だけでなく，主体的・対話的で深い学びを行うという観点から，自身の学びを見つめ直してもらいたい。
・授業開始から 20 分経過後に入室した学生は遅刻とみなす。なお，公共交通機関の遅延による遅刻はその限りではない。2 回の遅刻で 1 回分の欠席とカウントするので，注意すること。

到 達 目 標

・教える立場から小学校算数科の内容を捉え直し，指導上の困難点を理解することができる。
・「算数をつくる」という立場に立ち，小学校算数科の内容の系統性を理解することができる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
「A　数と計算」に関する内容の理解（20%）	「A　数と計算」に関する内容や指導上の困難点を理解することができる。	「A　数と計算」に関する内容を理解することができる。	「A　数と計算」に関する内容を概ね理解することができる。	「A　数と計算」に関する内容を理解することが部分的にできる。	「A　数と計算」に関する内容を理解することができない。
「B　図形」に関する内容の理解（20%）	「B　図形」に関する内容や指導上の困難点を理解することができる。	「B　図形」に関する内容を理解することができる。	「B　図形」に関する内容を概ね理解することができる。	「B　図形」に関する内容を理解することが部分的にできる。	「B　図形」に関する内容を理解することができない。
「C　測定」「C 変化と関係」に関する内容の理解（20%）	「C　測定」「C 変化と関係」に関する内容や指導上の困難点を理解することができる。	「C　測定」「C 変化と関係」に関する内容を理解することができる。	「C　測定」「C 変化と関係」に関する内容を概ね理解することができる。	「C　測定」「C 変化と関係」に関する内容を理解することが部分的にできる。	「C　測定」「C 変化と関係」に関する内容を理解することができない。
「D　データの活用」に関する内容の理解（20%）	「D　データの活用」に関する内容や指導上の困難点を理解することができる。	「D　データの活用」に関する内容を理解することができる。	「D　データの活用」に関する内容を概ね理解することができる。	「D　データの活用」に関する内容を理解することが部分的にできる。	「D　データの活用」に関する内容を理解することができない。
算数の学び方や内容の系統性の理解（20%）	「算数をつくる」という立場から，算数の学び方や内容の系統性を理解することができる。	算数の学び方や内容の系統性を理解することができる。	算数の学び方や内容の系統性を概ね理解することができる。	算数の学び方や内容の系統性を理解することが部分的にできる。	算数の学び方や内容の系統性を理解することができない。

評価方法

・リアクションペーパー(40%)
・筆記試験(60%)

テキスト

・教科書名：これだけは知っておきたい　小学校教師のための算数と数学 15 講
・著 者 名：溝口達也・岩崎秀樹(編著)
・出版社名：ミネルヴァ書房
・出 版 年 (ISBN)：2019 年(978-4-623-08428-9)

理科　～身につけておきたい理科の知識と実験技能～	長友　大幸

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
1年	前期	2	選択	－	選択	－

授業概要

小学校学習指導要領を概説するとともに，教科書に取り上げられている教材を詳説する。その際には，可能な限り観察や実験を取り入れて指導する。そして，小学校において理科を指導する上で必要となる知識や技能，安全面での配慮事項など，教師として体得しておくべき基本的な素養の育成をはかるための講義を行う。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	オリエンテーション，小学理科の概要
第 2 回	学校および小学校学習指導要領における理科教育の目標
第 3 回	小学校理科の学習内容（A区分・B区分）
第 4 回	実験器具の取り扱い方と安全教育
第 5 回	A区分「物質・エネルギー」に関わる基本的事項「物体の運動」
第 6 回	A区分「物質・エネルギー」に関わる基本的事項「電気，磁石」
第 7 回	A区分「物質・エネルギー」に関わる基本的事項「光，物質の性質」
第 8 回	A区分「物質・エネルギー」に関わる基本的事項「物質の変化」
第 9 回	B区分「生命・地球」に関わる基本的事項「植物の成長，生物と環境」
第 10 回	B区分「生命・地球」に関わる基本的事項「動物の成長，人の体のつくり」
第 11 回	B区分「生命・地球」に関わる基本的事項「大地の構成とその変化」
第 12 回	B区分「生命・地球」に関わる基本的事項「天気とその変化」
第 13 回	B区分「生命・地球」に関わる基本的事項「太陽，月，星の動き」
第 14 回	理科における環境教育と野外観察の方法
第 15 回	まとめ

第 4～14 回にかけて，実習や実験および野外観察を取り扱う。

予習・復習

・予習：事前に教科書に目を通しておくことが望ましい。

・復習：知識や実験の技能の定着を図る小テストを第 2 回目以降毎回行うので，それに対応できるように前時の学習事項の確認に力を入れ，本時の授業に臨むことが重要である。

履修上の注意

本授業では，実験・観察を取り入れることが多い。説明を聞かずに取り組むと事故につながることもあるので，原則として遅刻は認めないので留意すること。

後期の小学校実習のための条件科目「初等教科教育法（理科）」の授業は、本授業内容を理解していることを前提に進めるので、必ず本授業を履修すること。

到 達 目 標

１．小学校理科の各分野にわたる基礎的な教授内容を理解できる。
２．学習指導要領理科の目標，小学校理科の内容の構成と各学年の目標をふまえながら，児童の自然認識の形成を図る基本的な指導法を習得することができる。
３．小学校理科で取り扱う実験の基本的な操作，危険の回避，実験準備の注意点，考え方などを理解できる。
４．児童の体験が予想される身の回りの事物現象，自然とのふれ合いを考えることができる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
理解度（70%）	授業内容を越えた自主的な学修ができる。	授業内容を100%近く理解している。	理解はしているが授業内容の理解に多少不足がある。	授業内容について最低限の理解をしている。	内容についての理解ができていない。
技能（20%）	実験・観察方法が分からない他人にアドバイスできる。	何も参照せずに独自の能力で実験・観察を行うことができる。	参考書や教科書を参考にすれば、独自で実験・観察を行うことができる。	他人のアドバイスがあれば実験・観察を行うことができる。	他人のアドバイスがあっても自発的に実験・観察を行うことができない。
結果から考察したことを説明する能力（10%）	他人を説得する考察を記述することができる。	論理が通った考察を記述することができる。	不足する点があるが、考察を書くことができる。	最低限の内容について考察できる。	内容についての考察ができない。

評価方法

授業への取り組み（授業中の課題や実験への取り組み）20%、教師として必要な知識と技能の取得状況（定期試験）70%、小テスト 10%
欠席が１/３を超えた場合は，原則として評価の対象とはしないので充分注意すること。

テキスト

・教科書名：文部科学省検定済み教科書「新しい理科」（小学校 3～6 年）の 4 冊
・出版社名：東京書籍　・令和 6 年度初版
参考資料：文部科学省『小学校学習指導要領』『小学校学習指導要領解説　理科編』（最新版）

生活　～体験を通して気づきの質を高める～	中野　英之

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
1年	後期	2	選択	－	選択必修	－

授業概要

小学校低学年で設定されている教科「生活科」について、その成立、目標、学習活動例についての学習を通して、低学年期の児童の学びについて考える。特に、本授業においては、生活科の９つの内容について、実際に具体的な活動を通して各内容の理解を深めるとともに、児童の気づきを促す環境構成の在り方について深く考察することを重視する。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	ガイダンス、生活科の歴史的背景と意義について講義する。
第 2 回	「生活」の内容と目標について講義する。
第 3 回	（1）「学校と生活」の内容について講義し、活動を通して理解を深める。
第 4 回	（2）「家庭と生活」の内容について講義し、活動を通して理解を深める。
第 5 回	（3）「地域と生活」の内容について講義し、活動を通して理解を深める。
第 6 回	（4）「公共物や公共施設の利用」の内容について講義し、活動を通して理解を深める。
第 7 回	（5）「季節の変化と生活」の内容について講義し、活動を通して理解を深める。
第 8 回	（6）「自然や物を使った遊び」の内容について講義し、活動を通して理解を深める。
第 9 回	（7）「動植物の飼育・栽培」の内容について講義し、活動を通して理解を深める。
第 10 回	（8）「生活や出来事の伝え合い」の内容について講義し、活動を通して理解を深める。
第 11 回	（9）「自分の成長」の内容について講義し、活動を通して理解を深める。
第 12 回	科学原体験について講義を行うとともに、活動を通して理解を深める①
第 13 回	科学原体験について講義を行うとともに、活動を通して理解を深める②
第 14 回	生活科の授業づくりの基礎について講義する。
第 15 回	授業全体の振り返りを行う。

予習・復習

・予習：学習内容に関する学習指導要領の内容を事前に読んでおいてください（週１時間）。
・復習：毎回の授業に関する振り返りシートを仕上げ、授業の振り返りを行ってください（週１時間）。

履修上の注意

・学習内容に関する学習指導要領の内容を事前に読んでください（週 1 時間）。授業後は授業で紹介する参考文献等も参考にしながら振り返りを行ってください（週 1 時間）。
・天候などの理由で活動内容が前後あるいは変更になる場合もあります。
・ハサミ、のり、カッターナイフ、色鉛筆などが必要になりますので各自で用意しておくこと。
・20 分以内の遅刻は出席扱いとしますが、3 回の遅刻（各 20 分以内）で 1 回欠席したものとして扱います。

到 達 目 標

１．生活科の創設の過程と生活科のねらいを理解する。
２．生活科の目標、学習内容を理解する。
３．低学年における体験的な学習活動の事例について理解する。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
理解度（40%）	授業内容を超えた自主的な学修ができる。	授業内容をほぼ100%理解している。	授業内容を理解はしているが、授業内容の理解に多少不足がある。	授業内容について最低限の理解をしている。	内容についての理解ができていない。
活動への積極的な参加（30%）	積極的に活動に参加し他者の学びや授業の充実に大きく寄与した。	積極的に活動に参加している。	概ね積極的に活動を行っているが多少の不足がある。	最低限の活動を行っている。	活動に参加できていない。
解決を文章で説明する力（振り返りシート）（30%）	他人を説得する内容が記述することができる。	論理が通った説明文を記述することができる。	不足する点があるものの、説明文を書くことができる。	最低限の内容について説明ができる。	内容についての説明ができない。

評価方法

各授業で行う発表・授業の終わりに提出する振り返りシート（50%）※授業態度も含まれます。
試験（50%）

テキスト

・教科書名：小学校学習指導要領解説 生活編
・著 者 名：文部科学省
・出版社名：東洋館出版社
・出 版 年（ISBN）：2018 年 ISBN:978-4491034645
※指導要領は各自でダウンロードして印刷したものを使用してもよい。参考文献は適宜紹介します。

音楽Ⅰ

～保育・教育現場における音楽活動を行うための基礎理論と実践～

齊藤･佐藤(千)･佐藤(良)･
舘岡･萩原・髙梨･児玉

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
1年	前期	1	必修	－	選択必修	必修

※実務経験のある教員による授業科目

授業概要

教員・保育者として，子ども達に楽しい音楽あそびを展開するために必要な音楽の基礎的な能力の育成を目指す。受講者を２グループに分け，クラス授業（45 分）とピアノの個人レッスン（45 分）を並行して行う。クラス授業では，音楽の基礎的な理論（楽典）とピアノ伴奏のための基礎演習，コード伴奏法などについて，小・中学校教員としての実務経験を生かして指導する。個人レッスンでは，教育・保育実習や保育現場において使用頻度の高い歌唱曲や生活の歌（実習曲）を必修課題とし，ハ長調のコード伴奏を中心に，子ども達が楽しく歌うための伴奏技術を身に付ける。

授業計画

授業回	授業内容	
第 1 回	ガイダンス，童謡の歌唱及びリズム唱	個人レッスン
第 2 回	ピアノの演奏の基礎①・楽典①（小・中学校教員の実務経験を生かした指導）	個人レッスン
第 3 回	Ⅰ・V_7 の和音による伴奏を様々な調に移調することで響きの違いを感じ取る，楽典②	個人レッスン
第 4 回	ピアノ演奏の基礎②・楽典③（小・中学校教員の実務経験を生かした指導）	個人レッスン
第 5 回	ピアノ演奏の基礎③・楽典④（小・中学校教員の実務経験を生かした指導）	個人レッスン
第 6 回	ピアノ演奏の基礎④・楽典⑤（小・中学校教員の実務経験を生かした指導）	個人レッスン
第 7 回	「かえるのがっしょう」Ⅰ・V_7 の全調課題試験①（ピアノ演奏の基礎）	個人レッスン
第 8 回	「かえるのがっしょう」Ⅰ・V_7の全調課題試験②（ピアノ演奏の基礎），楽典⑥	個人レッスン
第 9 回	Ⅰ・Ⅴの和音による伴奏を様々な調に移調することで響きの違いを感じ取る，楽典⑦	個人レッスン
第 10 回	ピアノ演奏の基礎⑤・楽典⑧（小・中学校教員の実務経験を生かした指導）	個人レッスン
第 11 回	ピアノ演奏の基礎⑥・楽典⑨（小・中学校教員の実務経験を生かした指導）	個人レッスン
第 12 回	ピアノ演奏の基礎⑦・楽典⑩（小・中学校教員の実務経験を生かした指導）	個人レッスン
第 13 回	ピアノ演奏の基礎⑧・楽典⑫（小・中学校教員の実務経験を生かした指導）	個人レッスン
第 14 回	「メリーさんの羊」Ⅰ・Ⅴの全調課題試験及び楽典のまとめ	個人レッスン
第 15 回	楽典試験	個人レッスン

予習・復習

・予習：音楽の各技能の向上を目指すには，日々の練習が欠かせません。個人レッスンの一人あたりの時間は短いですので，必ず練習をして臨むこと。練習をしていない状態では，個人レッスンを受ける資格がないに等しいと思いましょう。

・復習：合格した課題曲はいつでも演奏できるよう，レッスン後も継続して練習すること。さらに，理論については，かなり難しい内容もありますので，授業内で理解できない場合は積極的に質問し，しっかりと理解できるよう努めること。

履修上の注意

・卒業必修科目及び保育士資格取得の必修科目である。
・クラス授業は音楽室，個人レッスンはレッスン室でグループレッスンを行う。
・「クラス授業」「個人レッスン」のどちらかしか出席していない場合は欠席扱いとなるので注意すること。また，遅刻３回で１欠席扱いとする。
・音楽室及び個人レッスン室の使用マナーを守ること（飲食厳禁など遵守事項を守る）。

到 達 目 標

・音楽に関する基礎的な知識を理解する。
・教育・保育実習や保育現場での実践に対応できる力を身に付ける。
・子ども達自らが児童文化財を楽しむ体験を支えるための音楽的技能を身に付ける。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
ピアノの技能①全調課題Ⅰ・V_7（10%） ピアノの技能②全調課題Ⅰ・Ⅴ（10%）	どの調もスムーズに，音楽的に表現しながら弾くことできる。	どの調もスムーズに弾くことができる。	弾き始めるまでに考える時間が長く，時々躓くが最後まで弾くことはできる。	躓きながら弾くことはできるが，間違いが多く，曲として成立していない。	全調課題の意味が理解できていないため，全く弾くことができない。
ピアノの技能③弾き歌い（30%）	オリジナル伴奏による弾き歌いを，歌，ピアノともに音楽的に工夫をしながら表現することができている。	コード伴奏による弾き歌いを，歌，ピアノともにしっかり演奏することができ，所々，工夫することができる。	所々，躓くが，コード伴奏による弾き歌いができている。歌声はか細く，伴奏に消されることがある。	コード伴奏による弾き歌いは躓きがかなり多く，途中から歌が消え，ピアノのみの演奏になっている。	コード伴奏で弾いているが躓きが非常に多く，曲の流れが止まる。弾き歌いの意味が理解できていない。
楽典の理解度（30%）	内容をしっかりと理解できており，困っている人が理解できるよう解説することができる。	説明内容をほぼ全て理解できている。	説明を聞いてすぐは理解できているが，時間が経つとあやふやになっている。	小学校音楽で学んできた内容の振り返りは理解できているが，調などの難しい内容の理解は不足している。	音符を読むことができず，小学校音楽で学んできた内容の振り返りも理解できていない。
学習意欲（20%）	必修課題は早々に終わらせ，積極的にレパートリーを増やしている。課題は期日内に全て提出している。	必修課題はただ弾くだけでなく，伴奏の方法や表現の工夫をしている。課題は期日内に全て提出している。	期日までに必修課題を終わらせることはできたが，期日ギリギリである。課題は概ね期日内に提出している。	期日までに終わらなかった必修課題が２～３曲ある。課題は提出しているが期日を守れないものが多い。	期日までに終わっていない必修課題が 1/3 以上ある。未提出の課題がある。

評価方法

・実技試験（全調課題(2 回)各 10%・期末実技試験 30%）　・楽典試験（30%）　・学習態度・練習状況・課題提出（20%）

テキスト

・教科書名：『保育のためのやさしい子どもの歌　－弾き歌い・合奏・連弾・合唱－』
・著 者 名：有村さやか・今泉明美・望月たけ美 編著　　・出版社名：ミネルヴァ書房
・出 版 年（ISBN）：2023 年（9784623094714）
・入学前配布資料も持参すること
・配布された資料を保存するためのスクラップブック等を準備すること。ただし，クリアファイルは不可。

音楽Ⅱ　～音楽活動を実践するための基礎力の育成～

宮澤･佐藤(千)･佐藤(良)･
舘岡・荻原･髙梨･児玉

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
1年	後期	1	必修	－	選択必修	選択必修

※実務経験のある教員による授業科目

授業概要

子どもが楽しめる音楽あそびや歌唱表現活動を実践するために必要な音楽の基礎的な知識や演奏法や表現法を指導します。「音楽Ⅰ」と同様に、クラス授業とピアノの個人レッスンを45分交代で実施します。

クラス授業では、保育現場における音楽鑑賞会のアウトリーチ活動や中学校・高等学校における音楽科教員としての実務経験に基づいて指導します。音楽の基礎的な理論は、必修曲の「子どものうた」に関連付け、実際に演奏しながら学ぶことで生きた音楽の知識を身に付けます。また、歌唱や合唱発表を通して、楽曲のよさや美しさを生かした歌唱表現や身体表現、舞台発表の工夫について協働的に学びます。

ピアノの個人レッスンでは、保育・教育現場で扱われる頻度の高い「子どものうた」や「生活のうた」を必修課題とし、コード伴奏法を含めて、子どもが楽しく歌える弾き歌いの技能を身に付けます。また、音楽表現の幅を広げるため、選択曲として個々のレベルに応じた「子どものうた」の弾き歌いやピアノ曲の演奏にも取り組みます。

授業計画

授業回	授業内容	
第 1 回	オリエンテーション､歌唱①音取り（大学祭合唱発表曲）	個人レッスン（夏休みの課題）
第 2 回	歌唱②呼吸と発声の基礎（大学祭合唱発表曲）	個人レッスン（生活のうた･必修曲）
第 3 回	歌唱③音楽表現の工夫（大学祭合唱発表曲、必修曲）	個人レッスン（生活のうた･必修曲）
第 4 回	歌唱④身体表現の考案（大学祭合唱発表曲、必修曲）	個人レッスン（生活のうた･必修曲）
第 5 回	【大学祭合唱発表（リハーサル・本番)】	
第 6 回	歌唱⑤「子どものうた」歌唱表現法（必修曲）	個人レッスン（生活のうた･必修曲）
第 7 回	歌唱⑥「子どものうた」歌唱表現法（必修曲）	個人レッスン（生活のうた･必修曲）
第 8 回	【中間実技試験】「生活のうた」弾き歌い	個人レッスン（生活のうた･必修曲）
第 9 回	楽典・ソルフェージュ①音楽を形づくっている要素	個人レッスン（必修曲・選択曲）
第 10 回	楽典・ソルフェージュ②拍の流れとリズム	個人レッスン（必修曲・選択曲）
第 11 回	楽典・ソルフェージュ③音階の仕組みと調	個人レッスン（必修曲・選択曲）
第 12 回	楽典・ソルフェージュ④和音の響きとコードの種類	個人レッスン（必修曲・選択曲）
第 13 回	楽典・ソルフェージュ⑤コード伴奏のアレンジ法	個人レッスン（必修曲・選択曲）
第 14 回	【ソルフェージュ試験】音名唱、リズム唱	個人レッスン（必修曲・選択曲）
第 15 回	期末実技試験リハーサル（「子どものうた」弾き歌い）	個人レッスン（必修曲・選択曲）

予習・復習

・予習：ピアノの個人レッスンで指定された楽曲を次回の授業までに毎日15分以上練習しましょう。
・復習：既習曲を週2回程度練習し、自分自身のレパートリーとしていつでも弾ける状態に維持しましょう。
　　楽典やソルフェージュ（音名唱・リズム唱）等、クラス授業で学んだ内容も必ず復習しましょう。

履修上の注意

・卒業必修科目であるため、こども学科の学生は全員履修します。
・遅刻は 3 回で 1 回欠席とします。授業開始後 20 分以降は欠席扱いとなりますので注意してください。
・クラス授業と個人レッスン両方に出席しないと欠席扱いとなりますので注意してください。
・クラス授業では、【大学祭合唱発表（リハーサル・本番)】【ソルフェージュ試験】を、ピアノの個人レッスンでは「夏休みの課題」「生活のうた（実習曲)」「必修曲」の合格を必須とします。

到 達 目 標

・保育者、教員になるための音楽的資質の向上を目指し、授業に主体的に取り組むことができる。
・音楽の基礎的な理論について、実際に演奏する楽曲と結び付けて理解することができる。
・楽曲のよさや美しさを感じ取り、子どもの音楽活動にふさわしい表現を工夫しながら歌ったりピアノを演奏したりすることができる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
学修に対する姿勢や態度（20%）	予習・復習や全ての課題に丁寧に取り組んだ上で、自主的な課題にも取り組み、クラス授業と個人レッスンに積極的、主体的な姿勢や態度で取り組んでいる。	指定された予習・復習や課題に丁寧に取り組み、クラス授業と個人レッスンに主体的な姿勢や態度で取り組んでいる。	全ての課題を提出し、指定された予習・復習におおむね取り組んでいるが、クラス授業と個人レッスンでの姿勢や態度がやや主体性に欠ける。	期日が守れなかったが全ての課題を提出し、指定された予習・復習にもおおむね取り組んでいるが、クラス授業と個人レッスンでの姿勢や態度が主体性に欠ける。	指定された予習・復習や課題に取り組まず、クラス授業と個人レッスンでの姿勢や態度も主体性に欠ける。
表現の創意工夫と演奏の技能（50%）	子どもの音楽活動にふさわしい表現を創意工夫しながら、楽曲のよさや美しさを十分に生かして弾き歌いができる。	子どもの音楽活動にふさわしい表現を創意工夫しながら、楽曲のよさや美しさを生かして弾き歌いができる。	音楽の流れが止まる箇所が所々あるものの、子どもの音楽活動にふさわしい表現を自分なりに工夫しながら弾き歌いができる。	音楽の流れが止まる箇所が多くあるものの、子どもの音楽活動にふさわしい表現を自分なりに工夫しながら、弾き歌いができる。	音楽の流れが大きく止まる箇所が非常に多くあり、子どもの音楽活動にふさわしい表現の工夫もみられない。
ソルフェージュ能力（20%）	常に一定のテンポ感を維持し、スムーズな拍の流れの中で音程やリズムを正確に伝えることができる。	ほぼ一定のテンポ感を維持し、スムーズな拍の流れの中で音程やリズムを正確に伝えることができる。	ややテンポが崩れる箇所があるが、拍の流れを自分なりに感じながら、音程やリズムをほぼ正確に伝えることができる。	ややテンポが崩れる箇所があるが、拍の流れを自分なりに感じながら、音程やリズムをおおむね正確に伝えることができる。	テンポが崩れる箇所が所々あり、全体の半分以上の音程やリズムを正確に伝えることができない。
音楽の基礎知識の理解（10%）	音楽の基礎的な知識や楽曲の音楽的特徴を十分に理解し、課題の記述内容も模範的な水準である。	音楽の基礎的な知識や楽曲の音楽的特徴を十分に理解している。	音楽の基礎的な知識や楽曲の音楽的特徴の理解がやや不足している。	音楽の基礎的な知識や楽曲の音楽的特徴の理解が不足している。	音楽の基礎的な知識や楽曲の音楽的特徴の理解ができていない。

評価方法

・受講態度 20%（クラス授業 10%、ピアノレッスン 10%）…【評価項目】学修に対する姿勢や態度
・実技試験 50%（中間実技試験 20%、期末実技試験 30%）…【評価項目】表現の創意工夫と演奏の技能
・ソルフェージュ試験 20%（音名唱 10%、リズム唱 10%）…【評価項目】ソルフェージュ能力
・個人レッスン待機課題 10% …【評価項目】音楽の基礎知識の理解

テキスト

・「音楽Ⅰ」に引き続き『保育のための やさしい子どもの歌』を教科書として使用します。
・オリジナルテキスト『音楽活動実践のための基礎力を身に付ける 音楽Ⅱ』を初回の授業で配布します。
・配布物を整理、保管できるファイルを各自用意してください。

音楽Ⅲ　～保育・教育現場における音楽活動実践力の育成～	宮澤・佐藤（良）・舘岡・山口（茜）・松山・髙梨

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
2年	前期	1	選択	－	選択必修	選択必修

※実務経験のある教員による授業科目

授業概要

「音楽Ⅱ」と同様に、クラス授業とピアノの個人レッスンを45分交代で実施します。「音楽Ⅰ」「音楽Ⅱ」で学んだ内容を発展させ、保育者・小学校教員として音楽活動実践力を育成します。

クラス授業では、保育現場における音楽鑑賞会のアウトリーチ活動や中学校・高等学校における音楽科教員としての実務経験に基づいて、歌唱やピアノ、ミュージックベルの演奏法と表現法、責任実習を想定した音楽あそびや音楽授業の模擬実習、音楽の基礎的な理論を指導します。歌唱では主に音楽文化財である「季節のうた」と「わらべうた」を取り上げ、集団で歌ったり遊んだりする体験を通して、子どもの生活の中で歌い継がれてきたうたのよさや楽しさを味わい、音楽的特徴を学びます。音楽の基礎的な理論では、「音楽Ⅰ」「音楽Ⅱ」で学んだ音楽の基礎知識を生かし、楽譜作成ソフトを用いた記譜法を身に付けます。

ピアノの個人レッスンでは、子どもが親しみやすい行進曲や芸術曲、「季節のうた」の演奏に取り組み、楽曲のイメージを広げたりふさわしい音楽表現を創意工夫したりしながら、ピアノ演奏の技能を高めます。

授業計画

授業回	授業内容	
第 1 回	オリエンテーション、「自己紹介のうた」づくり	個人レッスン（春休み課題）
第 2 回	弾き歌い①前奏と後奏のつけ方（6月のうた）	個人レッスン（マーチ）
第 3 回	弾き歌い②楽曲の特徴を生かした演奏法（春のうた）	個人レッスン（マーチ）
第 4 回	弾き歌い③楽曲の特徴を生かした演奏法（夏のうた）	個人レッスン（マーチ・季節のうた）
第 5 回	わらべうた遊び①「わらべうた」の音楽的特徴	個人レッスン（マーチ・季節のうた）
第 6 回	わらべうた遊び②伝承遊び体験と指導法	個人レッスン（マーチ・季節のうた）
第 7 回	わらべうた遊び③伝承遊び体験と指導法	個人レッスン（マーチ・季節のうた）
第 8 回	【模擬実習】「自己紹介のうた」歌唱発表、音楽あそび・音楽授業の発表と体験	
第 9 回	【中間実技試験】「6月のうた」弾き歌い　／　「マーチ」のピアノ演奏	
第 10 回	弾き歌い④楽曲の特徴を生かした演奏法（秋のうた）	個人レッスン（芸術曲）
第 11 回	弾き歌い⑤楽曲の特徴を生かした演奏法（冬のうた）	個人レッスン（芸術曲）
第 12 回	楽譜作成ソフトを用いた記譜法　※ICTの活用	個人レッスン（芸術曲）
第 13 回	ミュージックベル①基本の奏法、「チャイム」づくり	個人レッスン（芸術曲）
第 14 回	ミュージックベル②指導法、楽曲練習とグループ発表	個人レッスン（芸術曲）
第 15 回	期末実技試験リハーサル（芸術曲のピアノ演奏）	個人レッスン（芸術曲）

予習・復習

・予習：ピアノの個人レッスンで指定された楽曲を次回の授業までに毎日15分以上練習しましょう。
・復習：既習曲を週2回程度練習し、自分自身のレパートリーとしていつでも弾ける状態に維持しましょう。

履修上の注意

・実習派遣に関わる科目であるため、幼稚園教諭免許および保育士資格取得予定者は履修してください。
・遅刻は 3 回で 1 回欠席とします。授業開始後 20 分以降は欠席扱いとなりますので注意してください。
・クラス授業と個人レッスン両方に出席しないと欠席扱いとなりますので注意してください。

到 達 目 標

・保育者、小学校教員になるための音楽的資質の向上を目指し、授業に主体的に取り組むことができる。
・楽曲のよさや美しさなどを感じ取り、楽曲のイメージを広げながらふさわしい音楽表現を工夫して弾き歌いやピアノ演奏をすることができる。
・幼児の音楽あそびや小学校低学年の音楽科授業を計画し、模擬実習として実践することができる。
・記譜法の基礎を理解し、ピアノ伴奏譜を作成することができる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
学修に対する姿勢や態度（20%）	予習・復習や全ての課題に丁寧に取り組んだ上で、自主的な課題にも取り組み、クラス授業と個人レッスンに積極的、主体的な姿勢や態度で取り組んでいる。	指定された予習・復習や課題に丁寧に取り組み、クラス授業と個人レッスンに主体的な姿勢や態度で取り組んでいる。	全ての課題を提出し、指定された予習・復習におおむね取り組んでいるが、クラス授業と個人レッスンでの姿勢や態度がやや主体性に欠ける。	期日が守れなかったが全ての課題を提出し、指定された予習・復習にもおおむね取り組んでいるが、クラス授業と個人レッスンでの姿勢や態度が主体性に欠ける。	指定された予習・復習や課題に取り組まず、クラス授業と個人レッスンでの姿勢や態度も主体性に欠ける。
表現の創意工夫と演奏の技能（50%）	子どもの音楽活動にふさわしい表現を創意工夫しながら、楽曲のよさや美しさを十分に生かして弾き歌いやピアノ演奏ができる。	子どもの音楽活動にふさわしい表現を創意工夫しながら、楽曲のよさや美しさを生かして弾き歌いやピアノ演奏ができる。	音楽の流れが止まる箇所が所々あるものの、子どもの音楽活動にふさわしい表現を自分なりに工夫しながら弾き歌いがやピアノ演奏できる。	音楽の流れが止まる箇所が多くあるものの、子どもの音楽活動にふさわしい表現を自分なりに工夫しながら弾き歌いやピアノ演奏ができる。	音楽の流れが止まる箇所が非常に多くあり、子どもの音楽活動にふさわしい表現の工夫もみられない。
音楽活動の計画・実践力（20%）	教育実習での音楽活動を想定した指導案を的確に作成でき、発表において子どもの興味を引き出す創意工夫や様々な配慮がみられ、模範的な水準である。	教育実習での音楽活動を想定した指導案を的確に作成でき、発表において子どもの興味を引き出す創意工夫や配慮がみられる。	教育実習での音楽活動を想定した指導案をおおむね的確に作成できているが、発表において子どもの興味を引き出す工夫や配慮がやや不足している。	教育実習での音楽活動を想定し、自分なりに指導案を作成できているが、発表において子どもの興味を引き出す工夫や配慮が不足している。	教育実習での音楽活動を想定していない不十分な指導案で、発表においても子どもの興味を引き出す工夫や配慮がみられない。
記譜法の理解（10%）	記譜法の基礎だけでなく、応用的な内容も自主的に学び理解している。	音楽の基礎的な知識を活用し、記譜法を十分に理解している。	音楽の基礎的な知識がやや足りていないが、記譜法をおおむね理解している。	音楽の基礎的な知識がやや足りていないため、記譜法の理解がやや不足している。	音楽の基礎的な知識が定着しておらず、記譜法が理解できていない。

評価方法

・受講態度 20%（クラス授業 10%、ピアノレッスン 10%）…【評価項目】学修に対する姿勢や態度
・実技試験 50%（中間実技試験 20%、期末実技試験 30%）…【評価項目】表現の創意工夫と演奏の技能
・模擬実習 20%（発表 10%、音楽活動の指導案 10%）…【評価項目】音楽活動の計画・実践力
・課題 10%（楽譜作成ソフト課題 10%）…【評価項目】記譜法の理解

テキスト

・教科書は「音楽Ⅱ」に引き続き、『保育ためのやさしい子どもの歌』を使用する。
・オリジナルテキスト『音楽活動実践力を身に付ける 音楽Ⅲ』を初回の授業で配布する。
・配布物を整理、保管できるファイルを各自用意すること。

音楽Ⅳ　～保育・教育現場における実践力及び指導力を身に付ける～	齊藤･宮澤

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
2 年	後期	1	選択	－	－	－

※実務経験のある教員による授業科目

授 業 概 要

選択人数や学習内容により指導形態は変わるが，第８回までは合同授業と個人レッスンを，第９回からは合同授業を中心に行う。保育・教育現場での実践にすぐに役立つ教材の演習を通し，実践法や指導法を身に付けられるよう，全ての回について小・中・高等学校教員の実務経験を活かして指導する。

授 業 計 画

授業回	授業内容	
第 1 回	ガイダンス，音色の違いに注目したボディパーカッション	
第 2 回	歌によるコミュニケーション①（斉唱と合唱「わらべうた」，交互唱「よろこびのうた」①）	
第 3 回	歌によるコミュニケーション②（交互唱「よろこびのうた」② 他）	個人レッスン①
第 4 回	初見演奏①，歌に合わせたリズム遊び	個人レッスン②
第 5 回	初見演奏②，ボディパーカッションとピアノによるアンサンブル	個人レッスン③
第 6 回	初見演奏③，保育実践での器楽教材の演習①連弾・重奏に向けて	個人レッスン④
第 7 回	初見演奏④，ボイスパーカッションによるアンサンブル	個人レッスン⑤
第 8 回	中間実技試験	個人レッスン⑥
第 9 回	保育実践での器楽教材の演習②器楽合奏に向けて	
第 10 回	保育実践での器楽教材の演習③器楽合奏に向けた練習方法について	
第 11 回	保育実践での器楽教材の演習④器楽合奏	
第 12 回	保育実践での器楽教材の演習⑤指揮法	
第 13 回	保育実践での歌唱・器楽教材の演習①劇あそび体験	
第 14 回	楽譜作成ソフトの活用（ピアノ伴奏の編曲・作成した楽譜の実演「楽器のお名前なぁに？」）	個人レッスン⑦（連弾）
第 15 回	保育実践での器楽教材の演習⑥連弾・重奏発表に向けて	個人レッスン⑧（連弾）

予 習 ・ 復 習

・予習：音楽の各技能の向上を目指すには，日々の練習が欠かせません。個人レッスンの一人あたりの時間は短いため，必ず練習をして臨むこと。練習をしていない状態では，個人レッスンを受ける資格がないに等しいです。

・復習：合格した課題曲はいつでも演奏できるよう，レッスン後も継続して練習すること。さらに，理論については，授業内で理解できない内容があった場合は積極的に質問し，理解を深めること。

履修上の注意

大学で個人レッスンを受けられる最後の授業であるが，音楽Ⅰ～Ⅲのようにレッスンの先生はおらず，授業者がレッスンを行うため，これまで以上にレッスン時間は非常に短くなる。そのため，短時間のレッスンが有効に機能するよう必ず練習をして授業に臨むこと。また，履修者数によっては個人レッスンが受けられない日もあるが，その場合は個人練習をしっかり行うこと。さらに，連弾・重奏は一人で行うものではないため，積極的にペアやグループで合わせる時間を作って練習を進めること。

なお，履修希望者が多く定員に達した場合は，履修届の先着順とする。

到 達 目 標

就職後の音楽活動について，柔軟な感覚と実践力を持って指導できるための力を養う。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
表現の創意工夫（中間・期末試験）（40%）	楽曲に相応しく，且つオリジナル性の高いアレンジや表現の工夫を考えることができる。	楽曲に相応しいアレンジや表現の工夫を考えることができる。	アレンジや表現の工夫を自分なりに考えることができる。	アレンジや表現の工夫を自分なりに考えることはできないが，アドバイスをもとに考えることができる。	アレンジや表現の工夫をすることができない。
表現の技能（中間・期末試験）（20%）	自分で考えたアレンジなどを音楽的に表現しながら，完成度の高い演奏をすることができる。	自分で考えたアレンジなどを音楽的に表現しながらスムーズに演奏することができる。	自分で考えたアレンジなどを表現することはできるが，所々，躓くため，音楽の流れがやや止まる。	アドバイスを受けて考えた表現をしようとするが，躓きがかなり多い。	アドバイスを受けても考えることができず，全く演奏することができない。
保育者として必要な支援方法の理解（20%）	保育者として必要な支援方法を理解し，上手く表現できない人に対してアドバイスすることができる。	保育者として必要な支援方法を理解し，どのような声掛けが必要かを考えることができる。	保育者として必要な支援方法は理解しているが，具体的な声掛けや手段を考えるまでには至っていない。	保育者として必要な支援方法をあまり理解しておらず，具体的な声掛けや手段を考えることができない。	保育者として必要な支援方法を全く理解しておらず，具体的に考えることができない。
学習意欲（20%）	レパートリーを増やすなど自主的に課題を設定し，積極的な態度で授業に取り組んでいる。	自主的に課題を設定し，積極的な態度で授業に取り組んでいる。	自主的に課題を設定することはできるが，授業に臨む姿はやや積極性に欠ける。	自主的に課題を設定することができず，授業に臨む姿は積極性に欠ける。	自主的に課題を設定せず，授業に臨む姿は消極的である。

評価方法

・実技試験（中間実技試験（個人）・期末実技試験（連弾・重奏） 60%）
・保育者としての支援方法の理解（様々な活動の様子の観察）（20%）
・学習態度・練習状況・課題提出（20%）

テキスト

・音楽Ⅰ～Ⅲで使用した教科書
・その他，適宜，資料を配布する（Ａ４サイズのスクラップブックやフラットファイルなどを準備すること）

図画工作　～子どもによりそう造形表現活動の実践～	木谷　安憲

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
2年	後期	1	必修	－	選択	必修

※実務経験のある教員による授業科目

授業概要

幼児期にふさわしい様々な造形表現活動を実際に行い、子どもの気持ちによりそい、その感性を育むとともに、深い学びを導くことのできる保育者となることを目指す。素材の変化を楽しみ自己表現を育てる。幼児期の感覚を追体験し、驚きや喜びを子どもと分かち合えるような活動について具体的に考える指導をする。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	授業ガイダンス・「なぐりがきで描いてみよう」
第 2 回	「お面づくり１」園で使うためのお面の構想
第 3 回	「お面づくり２」園で使うためのお面の制作
第 4 回	「お面づくり３」園で使うためのお面の制作・完成
第 5 回	「絵具あそび」(ローラー・スタンピング)
第 6 回	「ねんど遊び１」半立体的な作品の粘土での制作
第 7 回	「ねんど遊び２」立体的な作品の粘土での制作
第 8 回	ポートフォリオ制作
第 9 回	「お菓子の箱でつくろう」空き箱による立体物の制作
第 10 回	「光であそぶ」
第 11 回	「紙コップで遊ぶ」
第 12 回	「といかけことば」　卒業後、園で行うことのできる言葉遊び　構想
第 13 回	「といかけことば」絵入り説明シート作成
第 14 回	「といかけことば」発表
第 15 回	ポートフォリオ制作・まとめ

予習・復習

・予習：教科書や保育雑誌に定期的に目を通す。下描きなど事前準備が必要な場合は指示をする。

・復習：教科書や保育雑誌に定期的に目を通す。

履修上の注意

保育内容(表現・造形)Ⅰの履修者が受講する。
絵の具セットを毎回持参する。
ハサミ、のりは毎回持参する。
20 分を超えた遅刻は欠席扱いとする。遅刻 3 回で 1 回の欠席とする。

到 達 目 標

造形活動を楽しみ、指導の計画を立てることができるようになる。
感じたことや考えたことを自分なりに表現し、子どもの気持ちを想像できるようになる。
指導者の立場で活動を考え、実践する準備ができるようになる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
思考力［活動計画等］(20%)	思考力を働かせた、全学生の見本となるような活動計画等を作ることができる。	思考力を働かせた、すぐれた活動計画等を作ることができる。	思考力を働かせた活動計画等を作ることができる。	活動計画等を作ることができても、思考力の観点が抜けている。	思考力という観点が抜けている
構想力［作品制作におけるアイディア等］(20%)	全学生の見本となるような構想力のある作品制作を行うことができる。	すぐれた構想力のある作品制作を行うことができる。	構想力のある作品制作を行うことができる。	作品制作を行うことができるが、構想力の観点が抜けている。	構想力という観点が抜けている。
表現力［見本作品制作等］(40%)	全学生の見本となるような見本作品を作る表現力を持っている。	すぐれた見本作品を作る表現力を持っている。	見本作品を作る表現力を持っている。	見本作品を作ることができても、表現力の観点が抜けている。	表現力という観点が抜けている。
総合的な力 (20%)	思考力、構成力、表現力を結びつけ、全学生の見本となるような実践を行うことができる。	思考力、構成力、表現力を結びつけた、すぐれた実践を行うことができる。	思考力、構成力、表現力を結びつけた、実践を行うことができる	実践を行うことができても、思考力、構成力、表現力が結びついていない。	思考力、構成力、表現力を結びつける観点が抜けている。

評価方法

テスト（筆記と発表）：40%
提出物：40%
授業態度：20%

テキスト

・教科書名：ずこうことばでかんがえる（新装版）
・著 者 名：きだにやすのり
・出版社名：H.A.B.
・出 版 年（ISBN）：2022 年（978-4990759667）
※１年次に使用したもの

家庭　～小学校家庭科で学ぶ「生活」とは何か～	佐藤　真弓

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
2 年	前期	2	選択	－	選択必修	－

授 業 概 要

小学校 5 年生から学ぶ「家庭科」について、教科の特性や現代の子どもたちの生活実態に触れながら、家庭科を学ぶ意義などについて検討していく。家庭科の基本理論である家政学の視点を知り、家庭科教育の理念や目的、特性を理解するように演習を織り交ぜつつ講義をする。

授 業 計 画

授業回	授業内容
第 1 回	本授業のガイダンス（受講者の確認、学んできた家庭科を振り返る等）
第 2 回	家庭科教育の本質（歴史的社会的背景からの考察）
第 3 回	家庭科教育の目的と理念
第 4 回	家庭科の内容構成、枠組み
第 5 回	家政学の環境概念と家庭科
第 6 回	家庭科の学習内容の検討①家族・家庭生活の基礎理論と家政学
第 7 回	家庭科の学習内容の検討②衣生活の基礎理論と家政学
第 8 回	家庭科の学習内容の検討③食生活の基礎理論と家政学
第 9 回	家庭科の学習内容の検討④住生活の基礎理論と家政学
第 10 回	家庭科の学習内容の検討⑤消費生活・環境の基礎理論と家政学
第 11 回	家庭科の学習内容に関する体験学習からの検討①情報機器の活用と生活時間調査
第 12 回	家庭科の学習内容に関する体験学習からの検討②衣服の着用と手入れ
第 13 回	家庭科の学習内容に関する体験学習からの検討③食事の役割と栄養
第 14 回	家庭科の学習内容に関する体験学習からの検討④ごみ処理調査
第 15 回	家庭科の学習内容に関する体験学習からの検討⑤家計簿作成

予 習 ・ 復 習

・予習：小学校学習指導要領解説（家庭編）の授業計画に該当する内容を読んでおくこと。新聞やインターネットから、家庭、生活に関する時事問題を探しておく。

・復習：授業で学んだこと、課題等を復習として各自行うこと。

履修上の注意

小学校教諭を目指す学生は履修をすることが望ましい。また、「初等教科教育法（家庭)」を履修する前に、本授業を履修すること。

到 達 目 標

家庭科の基礎理論である家政学の思想を背景とした小学校家庭科の目標、教科内容等基本的な事項について理解できる。

身近な生活課題を発見しそれを解決するための方策を主体的に考えることができる。

家庭科の学習指導において必要な知識理解とともに実践的な技能・態度を身に付けることができる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
理解度（40%）	授業内容を超えた自主的な学習ができる。	授業内容をほぼ100%理解している。	理解はしているが授業内容の理解に多少不足がある。	授業内容の最低限の理解をしている。	内容についての理解ができていない。
課題発見能力（20%）	生活課題を発見しその根本原因を探ることができる。	生活課題を発見することができる。	課題を見つけることができるが、生活課題として認識できない。	他人のアドバイスがあれば課題を見つけることができる。	アドバイスがあっても課題を見つけることができない。
課題解決能力（20%）	生活課題の解決のために方策を検討し、主体的に実践できる。	生活課題の解決のための方策を主体的に考えることができる。	生活課題の解決のための方策を他人のアドバイスを受けて考えることができる。	生活課題の解決のための方策の検討ができない。	生活課題の解決の必要性に気づくことができない。
実践的な技能・態度（20%）	家庭科指導に必要な技能と態度を身につけ、自らの生活課題の解決にとりくむ。	家庭科指導に必要な技能と態度をもつことができる。	家庭科指導に必要な技能と態度が多少不足している。	最低限の家庭科指導に必要な技能と態度が身についている。	家庭科指導に必要な技能と態度が身についていない。

評価方法

期末レポート（40%)、授業態度（30%)、小課題レポートの評価（30%）から総合的に評価する。

テキスト

・新版 生活と家族―幸せに生きることのへ探究　　佐藤真弓
一藝社　　2025 年　　ISBN：978-4-86359-292-6

・小学校学習指導要領解説（平 29 年告示）家庭編　文部科学省
東洋館　　ISBN：978-4-491-03466-9

体育　～あそぶ～	藤田　倫子

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
2年	前期	1	選択	－	選択必修	必修

授業概要

本授業では、子どもの運動遊びの体験と運動発達理論の理解を通して、乳幼児期の遊びについて考察・検討する。また、運動欲求を満たすための多様な動作の経験や運動量の確保、仲間と関わる遊び、遊びを創意工夫できる環境設営など、乳幼児期の運動遊びにおける留意点を理解する。そして、それらの体験と留意点の理解のもと、設定保育、自由保育での子どもの遊びへのかかわり方について考察する。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	オリエンテーション・子どもにとっての遊びとは【教室】
第 2 回	体を使った運動遊びの実践①（体つくり運動）（ふれあい遊び・集団遊び）【体育館】 自分の体がどのように動くのか、身体認識力を高め、理解する。また、2人組から集団へと遊びを展開し、仲間とふれあい遊ぶことの意義を理解する。
第 3 回	体を使った運動遊びの実践②（手あそび・リズム運動）【体育館】 手遊びを通じて粗大運動から微細運動への移行について理解するとともに、音楽やリズムを使って体を動かし、その意義を理解し、楽しさを体験する。
第 4 回	用具を使った運動遊びの実践①（ボール・タオル）【体育館】 ボールの特性を楽しみ、空間認知能力について理解する。また、身近にある用具を使え遊び、園だけではなく、家庭でも実践できる遊びについて理解を深める。
第 5 回	用具を使った運動遊びの実践②：（フラフープ・縄・マット・跳び箱）【体育館】 固定概念にとらわれない遊具の使い方について学ぶ。また、マットや跳び箱が楽しい用具であることを理解するために、様々な使い方について言及していく。
第 6 回	用具を使った運動遊びの実践③（パラシュート・運動会）【体育館】 集団で遊ぶ楽しさ、息を合わせて動く一体感を体験する。また、力を合わせて競技することから、応援する気持ちや踏ん張る気持ちを体験する。
第 7 回	運動あそびの立案①【体育館】 用具の用い方について考察し、自分が行いたい遊びを計画する。
第 8 回	運動あそびの立案②【体育館】 用具の用い方について考察し、自分が行いたい遊びを計画し、実践する。
第 9 回	運動あそびの立案③【体育館】 用具の用い方について考察し、自分が行いたい遊びを計画し、実践する。
第 10 回	運動あそびの立案④【体育館】 リズム体操の創作を行い、発表する
第 11 回	運動あそびの立案⑤【体育館】 リズム体操の創作を行い、発表する。
第 12 回	運動遊びの指導案の作成①【教室】: 運動発達理論について学び、指導案を作成する。
第 13 回	運動遊びの指導案の作成②【教室】: 運動発達理論について学び、指導案を作成する。
第 14 回	運動遊びの指導案の作成③【教室】: 運動発達理論について学び、指導案を作成する。
第 15 回	運動遊びの指導案の作成④【教室】: 運動発達理論について学び、指導案を作成する。

予習・復習

・予習：次の授業内容のトピックスについて調べる。
・復習：授業での実践や得られた知見を振り返り、指導上の留意事項や要点をまとめておく。

履修上の注意

・内容により、使用する施設は、教室と体育館、多目的室である。
・遅刻について、30 以内の遅刻 3 回で、欠席 1 回とする。また、30 分以上の遅刻は、欠席となる。
・教室での活動時以外は、体育館シューズを持参し、運動のできる服装（普段着は認めない。動きやすい服装ではなく、運動用に作られた服装）で受講する。
・露出度の高い服装で、授業を受けることはできない。
・安全のため、アクセサリー、腕時計、スマートフォンなど、運動に支障をきたし、自他ともに傷つける可能性のあるものは身につけないこと。また、爪は清潔に短くしておく。

到 達 目 標

・運動遊びの重要性を理解し、楽しさを伝えることができる。
・子どもの発育発達を踏まえた段階的な運動遊びの計画を立てることができる。
・安全な環境を設営し、子どもの発育発達を踏まえた段階的な運動遊びの指導ができる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
理解度（30%）	授業内容を越えて、積極的に学修ができる。	授業内容を十分に理解している。	理解はしているが授業内容の理解に多少不足がある。	授業内容は、最低限理解している。	授業内容についての理解ができていない。
課題作成・実践能力 （30%）	他学生の模範となり、他学生への助言ができる。	独自に課題を作成し、十分に実践することができる。	見本を参考にしながら課題を作成し、実践することができる	助言があれば課題を作成し、実践することができる。	助言や指導があっても課題作成や、実践することができない。
授業への積極性と協調性（20%）	自ら積極的に行動するだけでなく、周りの状況に配慮することができる。	授業内で十分に積極的に取り組む。	授業内で積極的な学修がおおむねできる。	授業内で積極的に学修に関わる努力はみられる。	授業内で学修への関りが消極的である。
授業での協調性（20%）	授業内で他学生と顕著に協調を図れる。	授業内で他学生と十分に協調を図れる。	授業内で他者と部分的に協調を図れる。	授業内で他者と協調を図る努力はみられる。	授業内で他者と協調を図れない。

評価方法

授業への取り組み：理解度（30%）・課題作成・実践能力（20%）・授業への積極性（20%）・授業での協調性 （30%）

テキスト

・適宜資料を配布する。

児童英語　～児童の特徴を踏まえた英語指導の実践～

蒔田　裕美

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
2 年	前期	2	選択	−	必修	−

授 業 概 要

2020 年より改訂版『小学校学習要領』が完全実施となり、小学校高学年で「外国語」が教科となった。また、中学年で「外国語活動」が導入されるなど、英語教育の教科化、早期化とともに低学年から外国語活動を実施する学校も増えている。

本科目では児童の特徴を踏まえ、幼稚園から小学校高学年まで英語を用いて指導できる教員を育成する。英語の指導に求められる 4 技能の向上を図り、実際の授業において必要となるクラスルーム・イングリッシュを習得し、授業で用いられる言語活動、歌、チャンツを指導する。

授 業 計 画

授業回	授業内容
第 1 回	Unit 1: Hello!　非言語コミュニケーションについて（Nonverbal Communication）
第 2 回	Unit 2: Numbers and colors　多感覚を使用したアプローチ（Multisensory Approach）
第 3 回	Unit 3: Let's play! Let's move!　TPR 教授法について（Total Physical Response）
第 4 回	Unit 4: Quiz Show　クイズを通して英語の語彙・表現に慣れ親しむ
第 5 回	Unit 5: I like fruit.　カタカナ、和製英語の発音の違い
第 6 回	Unit 6: Reading a picture book　英語の絵本の読み聞かせ（Story-based learning）
第 7 回	Unit 7: Do you have a pencil?　ICT の活用法
第 8 回	Unit 8: What subject do you like?　時間割や教科に関する英語
第 9 回	Unit 9: My favorite place　道案内など課題を中心に構成する指導法（Task-based learning）
第 10 回	Unit 10: Let's help our family　家事や日常生活の英語
第 11 回	Unit 11: Let's celebrate!　行事などトピックを中心に構成する指導法（Theme-based learning）
第 12 回	Unit 12: She can skateboard. He can play the trumpet.　3 人称の代名詞
第 13 回	Unit 13: Ordering food at a restaurant　他教科と関連づけた Activity
第 14 回	Unit 14: Welcome to Japan　日本文化を英語で紹介する
第 15 回	Final Exam and Review　期末試験とまとめ

予 習 ・ 復 習

・予習：テキストの単語の意味を調べ、問題をあらかじめ解いて分からない箇所を明確にしておく。
・復習：授業で学んだ英単語の発音練習をして、表現を自分のものにできるよう覚える。

履修上の注意

小学校教職過程の履修者が望ましい。
「初等科教育法（英語）」を同時に履修することが望ましい。
遅刻２回で欠席１回とみなす。授業開始から大幅に時間が過ぎても、参加の意欲があれば欠席扱いにしないので遅刻してもあきらめないで授業に参加すること。

到 達 目 標

・幼児・児童が学ぶ語彙や表現を実際に運用できるようになる。
・歌やチャンツ、絵本、クイズ・ゲームなどの言語活動を知り、自ら活動を設計できるようになる。
・ALT（外国語指導助手）とスモールトークをしたり、活動の指示や説明をするクラスルーム・イングリッシュを使えるようになる。
・小学校で指導するための基礎的な文法事項を復習し、児童に指導できるようになる。
・英語の発音や音声変化を理解し、正しい音声を身につけることができる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
理解力（50%）	授業内容を越えた自主的な取り組みができる。	授業内容をほぼ100%理解している。	理解はしているが授業内容の理解に多少不足がある。	授業内容を最低限の理解をしている。	内容についての理解ができていない。
表現力（50%）	場面に応じた多様な英語表現を用い、正しい発音で自分の意見を表明することができる。	相手に伝わる発音と適切な英単語で自分の意見を表現できる。	英語で最低限の意思疎通をすることができる	英単語の並べ方や発音に改善が必要である。	英語を聞き取り、発音することができない。

評価方法

試験 50%、発表 50%

テキスト

・教科書名：『Basic English for Teachers of Young Learners 楽しく教える子ども英語』
・著 者 名：泉惠美子他編
・出版社名：朝日出版社
・出 版 年（ISBN）：2023 年（978-4-255-15689-7）

教職･保育概論(教育制度等を含む)

～保育者・教員の魅力と責務～

小林　佳美

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
1 年	前期	2	選択	必修	必修	必修

※実務経験のある教員による授業科目

授 業 概 要

現代の乳幼児と子育て家庭を取り巻く環境を広い視野で捉え、保育・幼児教育の重要性や保育職・教職の意義と役割等を講義する。特に前半では、保育者の制度・法令上の位置付け、服務・身分の義務と職務内容に関する基本的事項を講義する。また、様々な事例や視聴覚教材をとおして、子どもにかかわる専門職として求められる資質・能力、及び保護者・家庭支援の姿勢や専門職としての学びの必要性が理解できるようにする。後半では、保育の意義と目的、及び保育実践を支える基本的な理論と諸制度を講義する。さらに、教育専門紙、保育図書の記者・編集者としての実務経験をもとに、現代の社会的コンテクストにより生み出されている子ども・家庭の多様な課題に、保育者・教員はどのような具体的貢献ができるのかということに言及する。

授 業 計 画

第 1 回	**オリエンテーション**―保育、養護、教育等、基本用語を確認し「保育」という言葉の意味を知る。被保育体験から子どもにとってのうれしい保育者・教員像を考える。
第 2 回	**様々な保育施設①**―自分の通っていた園を振り返り、多様な保育施設があること、及び施設類型に関連する諸制度にふれる。
第 3 回	**様々な保育施設②**―多様な保育施設とそこで働く保育者の 1 日にふれ、保育者・教員をとりまく資格と制度を理解する。
第 4 回	**現代社会が求める保育・教育①**―Society5.0 時代に生きる子どもたちの育ちを支えるために、指針・要領の改訂動向にふれ、「子ども主体」の保育・教育の意義を理解する。
第 5 回	**現代社会が求める保育・教育②**―10 円玉ピカピカプロジェクトで「遊びのなかの学び」を理解する。
第 6 回	**現代社会が求める保育・教育③**―「なってみる」子ども理解を通して、養護と教育の一体的な展開の意味、振り返り(省察)の意味・意義を理解する。
第 7 回	**計画と評価の基本①**―指針・要領における「ねらい」から、方向目標の概念を理解する。園の理念と保育の特徴の関連の検討を通して、自らの保育観を見つめる。
第 8 回	**計画と評価の基本②**―ペーパークロマトグラフィの色遊びを題材に、ウェブ型記録・計画用ツールを用いて記録と計画、実践のサイクルを理解する。
第 9 回	**計画と評価の基本③**―グループワークを通して保育・教育における PDCA の意味・意義を考える。
第 10 回	**計画と評価の基本④**―なぜ計画・評価が必要なのか、保育・教育の現場ではどのような計画・評価が行われているのか、カリキュラムマネジメントの全体像を把握する。
第 11 回	**子どもの権利と保育者の倫理①**―コルチャック先生の実践から、ユニセフ「児童の権利条約カード」を題材に子どもの権利について考える。
第 12 回	**子どもの権利と保育者の倫理②**―絵本･動画を活用した保育における子どもの人権意識の変遷と現状を理解したうえで、全国保育士会「人権擁護のためのセルフチェックリスト」による事例検討を行う。
第 13 回	**子どもの権利と保育者の倫理③**―貧困の連鎖による結果の不平等と児童虐待の関連にふれ、保育施設や保育者の義務と役割を考える。多様な社会資源の存在を知る。
第 14 回	**子どもの権利と保育者の倫理④**―炎上 CM から現代の子育てを困難にする社会的要因を考え、保育・教育の場における多様な子育て支援の展開を知る。
第 15 回	**保育者の職業キャリアを通じた専門性向上の必要性・振り返りテスト**

予 習 ・ 復 習

・予習：授業計画に沿って参考書籍や関連する保育のニュース記事を一読することを推奨する。
・復習：授業での配布資料等をノートに整理することで理解を深めることを推奨する。

履修上の注意

・振り返りテストでは手書きノート、授業での配布物の閲覧を可とします。
・授業期間中で1回、レポート作成課題を求めます。
・3回の遅刻で1回の欠席、20分以降の入室は欠席として扱います。

到 達 目 標

・保育者・教員に求められる職務内容の全体像や制度上・身分上の義務を理解する。
・保育者・教員にふさわしい価値観・倫理観を自分なりの言葉で説明できるようになる。
・保護者や地域社会、専門機関との連携・協働の必要性を理解する。
・乳幼児期・児童期の子どもの保育・教育施設に関する制度の基本事項を理解し、各施設の社会的役割を説明できるようになる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
保育者・教員に求められる職務内容の全体像や制度上・身分上の義務を理解する。（25%）	保育者・教員に求められる職務内容の全体像や制度上・身分上の義務を十分理解している。	保育者・教員に求められる職務内容の全体像や制度上・身分上の義務を理解している。	保育者・教員に求められる職務内容の全体像は理解しているが、制度上・身分上の義務を理解していない。	保育者・教員に求められる職務内容の全体像も制度上・身分上の義務も理解していない。	保育者・教員に求められる職務内容の全体像、及び制度上・身分上の義務に関する理解度を問う課題を提出しない。
保育者・教員にふさわしい価値観・倫理観を自分なりの言葉で説明できるようになる。（25%）	保育者・教員にふさわしい価値観・倫理観を自分なりの言葉で、他者が理解できるように説明できる。	保育者・教員にふさわしい価値観・倫理観を自分なりの言葉で説明できる。	保育者・教員にふさわしい価値観・倫理観を自分なりの言葉で説明するが、偏っており、十分でない。	保育者・教員にふさわしい価値観・倫理観を自分なりの言葉で説明しようとするが、偏っているうえに、意味不明である。	保育者・教員にふさわしい価値観・倫理観を自分なりの言葉で述べようとしない。
保護者や地域社会、専門機関との連携・協働の必要性を理解する。（25%）	保護者や地域社会、専門機関との連携・協働の必要性を十分理解し、その実践例を述べることができる。	保護者や地域社会、専門機関との連携・協働の必要性を理解している。	保護者や地域社会、専門機関との連携・協働の必要性を十分に理解していない。	保護者や地域社会、専門機関とはどのような人・組織を指しているのかを理解していない。	保護者や地域社会、専門機関との連携・協働の必要性の理解度を問う課題を提出しない。
乳幼児期・児童期の子どもの保育・教育施設に関する制度の基本事項を理解し、各施設の社会的役割を説明できるようになる。（25%）	乳幼児期・児童期の子どもの保育・教育施設に関する制度の基本事項を理解し、各施設の社会的役割を他者が理解できるように、適切に説明できる。	乳幼児期・児童期の子どもの保育・教育施設に関する制度の基本事項を最低限は理解し、各施設の社会的役割を説明できる。	乳幼児期・児童期の子どもの保育・教育施設に関する制度の基本事項を理解しているが、各施設の社会的役割を説明できない。	乳幼児期・児童期の子どもの保育・教育施設に関する制度の基本事項を理解していない。	乳幼児期・児童期の子どもの保育・教育施設に関する制度の基本事項や、各施設の社会的役割の理解度を問う課題を提出しない。

評 価 方 法

授業態度（発表・リフレクションシート・グループワーク等で評価） 40%、試験 40%、授業内レポート 20%
※評価方法の詳細は第1回目に説明するので、必ず出席してください。

テ キ ス ト

・『幼稚園教育要領/保育所保育指針/幼保連携型認定こども園教育・保育要領〈原本〉（平成29年告示）（チャイルド本社）

教育原理　～教育とは何か～	西　敏郎

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
1年	前期	2	必修	必修	必修	必修

授業概要

本授業では、「教育」とは何か？という根源的な問いを教育の理念や思想、歴史から捉え、学生自身が自分 なりの問いや考えを導くために必要な教育学の基本的な知識を体系的に習得することをめざす。保育者や教 育者など教育に携わる者に必要な基本的な知識を中心に講義する。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	オリエンテーション：これまでの教育経験を振り返る
第 2 回	教育とは何か
第 3 回	教育の理念と目的
第 4 回	子ども理解と地域・家庭
第 5 回	西洋の教育の歴史と思想
第 6 回	日本の教育の歴史①（古代～戦前）
第 7 回	日本の教育の歴史（戦後～現代）
第 8 回	文部科学省の歴史と役割
第 9 回	学校制度の多様化と学力観
第 10 回	教員養成の歴史と現在
第 11 回	世界の学校教育の課題
第 12 回	現代日本の学校教育の課題
第 13 回	現代日本の教育と課題①　教育の国際化
第 14 回	現代日本の教育と課題②　多様な背景を持つ子どもへの教育
第 15 回	授業のまとめ

予習・復習

・予習：前回の授業内容および配布された資料を見直しその確認を行うこと。

・復習：授業内容を振り返り知識の定着と疑問点を明確にしておくこと。

履修上の注意

・日頃から新聞やニュースなどを通して、教育問題や社会問題に関心をもつことが望ましい。
・遅刻 3 回で欠席 1 回の扱いとする。

到 達 目 標

・教育の理念や歴史、制度についての基礎的な知識を体系的に習得し、その内容を説明することができる。
・今日の学校や子どもを取り巻く問題について、多角的な視点から捉えることができる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
授業内容の理解度（40%）	授業内容を越えた自主的な学修ができる	授業内容を十全に理解している	授業内容を理解はしているが多少不足がある	授業の基本的な内容を概ね理解しているにすぎない	授業内容を全く理解していない
問題を捉え考察する力（30%）	授業の内容にとどまらず関連する発展的な内容を踏まえて考えることができる	授業の内容に関して、自分の考えを自分の言葉でまとめることができる	参考書や教科書を参考にすれば、自分の考えを導くことができる	他者の助言があれば、自分の考えをまとめることができる	他者の助言があっても、自分の考えがまとまらない
自分の考えを論理的に文章で説明する力（30%）	他者を説得する内容を記述することができる	論理的な説明文を記述することができる	不足する点はあるが、説明文を書くことができる	基本的な内容を説明することができる	基本的な内容についての説明ができない

評価方法

学期末試験（50%）、授業内レポート・課題等（50%）により総合的に評価する。

テキスト

教科書は特に指定しないが、適宜必要に応じて参考資料などを紹介する。

教育心理学

～教育にかかわる現象や問題への心理学的アプローチ～

一色　翼

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
2年	後期	2	必修	必修	必修	－

授業概要

教育心理学とは、保育・教育の場で起きている現象や問題を心理学の視点から分析し、よりよい支援や対応につなげようと探究する学問である。

本授業では、幼児・児童の心身の発達を理解するとともに、子どもたち一人ひとりが大切にされる支援の在り方について講義する。また、理論的な理解にとどまらず実践力を身に付けるために、保育・教育の場で起きている具体的な問題を取り上げ、学生一人ひとりが深く考えたり、他の学生と話し合ったりする機会を設定することで、アクティブ・ラーニングの実現を目指す。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	ガイダンス　授業計画と進め方
第 2 回	学習のメカニズム　条件づけとその応用
第 3 回	動機づけの基礎　やる気の心理学的理解
第 4 回	動機づけの応用　やる気を引き出し持続させる支援
第 5 回	記憶の分類　人間の記憶の多様性
第 6 回	記憶と思考　覚え方や考え方の偏り
第 7 回	学習指導　学習法・指導法
第 8 回	発達の理論　発達を見つめる枠組
第 9 回	人間関係と社会性の発達（1）　関係性の中での発達
第 10 回	人間関係と社会性の発達（2）　他者理解
第 11 回	パーソナリティの発達　自分らしさ
第 12 回	学級集団の理解と対応　学級集団づくり
第 13 回	学校不適応の理解と対応　いじめや不登校
第 14 回	教育評価　教育評価の目的と具体的方法
第 15 回	まとめ　教育心理学に基づいた保育・教育の在り方

予習・復習

・予習：授業の最後に次回予告した内容や授業計画に示された内容について、事前に学習しておくこと。
・復習：授業内容と関連するものについて、関心を広げ、発展的な学修を行うことを期待する。
　　授業の内容によって、レポートを課すことがある。

履修上の注意

1．授業開始後 20 分未満の遅刻を 3 回すると、1 回分の欠席扱いとする。
　　授業開始後 20 分を超過した場合、遅刻ではなく欠席扱いとする。
2．授業中、グループごとのディスカッションや意見交換、演習を行う。
　　授業内容に関連した発言を求めるため、積極的な発言を期待する。
3．配布プリントはファイルし、整理しておくこと。
4．身近に乳幼児や児童がいたら、授業内容と照らし合わせながら観察し、理解を深めることを期待する。

到 達 目 標

1．教育心理学の諸理論について、基本的事項を理解している。
2．教育心理学の知見に基づいて、自分の考えを文章で表現することができる。
3．教育心理学の知見に基づいて、根拠を示しながら自分の考えを発言・議論することができる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
教育心理学の諸理論についての理解度（70%）	授業内容を超えて、自主的な学修ができている。	授業内容についてほぼ 100%理解している。	授業内容について理解しているが、多少不足がある。	授業内容について最低限理解している。	授業内容について理解できていない。
考えを文章で表現する力（レポート）（15%）	説得力のある文章で自分の考えを表現できている。	論理的に矛盾のない文章で自分の考えを表現できている。	文章で自分の考えを表現できている。	文章で自分の考えを最低限表現できている。	文章で自分の考えを表現することができていない。
根拠を示しながら発言・議論する力（15%）	根拠を示しながら説得力のある発言・議論をすることができている。	根拠を示しながら発言・議論をすることができている。	根拠を示しながら発言・議論をすることができているが、多少根拠が乏しい。	最低限の根拠を示しながら発言・議論をすることができている。	根拠を示しながら発言・議論をすることができていない。

評価方法

・学期末試験　70%
・課題への取組（レポート等）　15%
・授業中の議論や発言等　15%

テキスト

・テキストは使用しない。
・必要に応じてプリントを配布する。

保育・教育課程論

～保育・教育活動の基盤となるカリキュラムについて考える～

西　敏郎

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
1年	後期	2	選択	必修	必修	必修

授業概要

本授業では、保育や教育活動の基盤となるカリキュラムの編成について、その意義や目的を捉えたうえで、子どもたちの育ちと学びを支えるカリキュラムのあり方について考える。保育所、幼稚園における保育や教育課程の編成にかんする基本的な内容について、具体的なカリキュラムの展開が理解できるように講義する。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	オリエンテーション：カリキュラムとは
第 2 回	カリキュラムの基礎理論
第 3 回	カリキュラムの意義と機能
第 4 回	カリキュラムの変遷
第 5 回	カリキュラムの編成
第 6 回	指導計画の基礎
第 7 回	子どもの発達過程
第 8 回	全体的な計画と保育
第 9 回	教育課程と保育
第 10 回	指導計画の作成
第 11 回	指導計画の実際
第 12 回	保育記録・保育評価・カリキュラムマネジメント
第 13 回	保育所・幼稚園の自己評価
第 14 回	保幼小の連携
第 15 回	授業のまとめ

予習・復習

・予習：授業の前に教科書を読み授業内容を確認して臨むこと。

・復習：授業内容を振り返り知識の定着を図ること。

履修上の注意

・日頃から、保育所、幼稚園、小学校に関する新聞記事やニュースに関心をもつことが望ましい。
・遅刻３回で欠席１回の扱いとする。

到 達 目 標

・保育所や幼稚園におけるカリキュラムの意義や機能を理解し、説明することができる。
・保育所や幼稚園におけるカリキュラムの理論と実践を踏まえて、具体的なカリキュラムのあり方について考えることができる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
授業内容の理解度（40%）	授業内容を越えた自主的な学修ができる	授業内容を十全に理解している	授業内容を理解はしているが多少不足がある	授業の基本的な内容を概ね理解しているにすぎない	授業内容を全く理解していない
問題を捉え考察する力（30%）	授業の内容にとどまらず関連する発展的な内容を踏まえて考えることができる	授業の内容に関して、自分の考えを自分の言葉でまとめることができる	参考書や教科書を参考にすれば、自分の考えを導くことができる	他者の助言があれば、自分の考えをまとめることができる	他者の助言があっても、自分の考えがまとまらない
自分の考えを論理的に文章で説明する力（30%）	他者を説得する内容を記述することができる	論理的な説明文を記述することができる	不足する点はあるが、説明文を書くことができる	基本的な内容を説明することができる	基本的な内容についての説明ができない

評価方法

学期末レポート課題（50%）、授業内レポート・課題等（50%）により総合的に評価する。

テキスト

・教科書名：『保育・教育カリキュラム論』
・著 者 名：佐藤康富　編著
・出版社名：大学図書出版
・出 版 年（ISBN）：2020 年（978-4-909655-30-1）

発達心理学

～ヒトが人として生きるうえでの心の発達段階と課題～

一色　翼

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
1年	前期	2	必修	必修	必修	必修

授業概要

発達心理学とは、生物の一種である「ヒト」が、社会や文化を獲得した「人」として生き、死に至るまでの、心の発達過程の共通性と個別性を探究する学問である。

本授業では、生涯発達の視点から発達段階と発達課題について講義する。また、発達の共通性に関する理論的理解にとどまらず、発達の個別性に関する実践的理解を促すために、学生一人ひとりが自身の育ちを振り返ったり、他の学生と話し合ったりする機会を設定することで、アクティブ・ラーニングの実現を目指す。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	ガイダンス　授業計画と進め方
第 2 回	発達の基本的理解　発達段階や発達課題
第 3 回	胎児期の発達と理解　生命の芽生えや出生をめぐる現代的な問題
第 4 回	乳幼児期の発達と理解（1）　認知的発達理論
第 5 回	乳幼児期の発達と理解（2）　アタッチメント理論
第 6 回	乳幼児期の発達と理解（3）　言葉と遊びの発達
第 7 回	乳幼児期の発達と理解（4）　自己概念の発達
第 8 回	乳幼児期の発達と理解（5）　仲間関係の発達
第 9 回	児童期の発達と理解　思考の深まりや学校における学びの発達
第 10 回	青年期の発達と理解　アイデンティティの発達
第 11 回	成人初期（若年期）の発達と理解　職業選択や家庭生活における発達
第 12 回	成人中期（壮年期）の発達と理解　職業生活や親としての発達
第 13 回	成人後期（高齢期）の発達と理解　認知機能の加齢変化や死生観の発達
第 14 回	発達におけるつまずきの理解　つまずきの理解と支援
第 15 回	まとめ　発達心理学に基づいた保育・教育の在り方

予習・復習

・予習：授業の最後に次回予告した内容や授業計画に示された内容について、事前に学習しておくこと。
・復習：授業内容と関連するものについて、関心を広げ、発展的な学修を行うことを期待する。
　　授業の内容によって、レポートを課すことがある。

履修上の注意

1．授業開始後 20 分未満の遅刻を 3 回すると、1 回分の欠席扱いとする。
　　授業開始後 20 分を超過した場合、遅刻ではなく欠席扱いとする。
2．授業中、グループごとのディスカッションや意見交換、演習を行う。
　　授業内容に関連した発言を求めるため、積極的な発言を期待する。
3．配布プリントはファイルし、整理しておくこと。
4．身近に乳幼児や児童がいたら、授業内容と照らし合わせながら観察し、理解を深めることを期待する。

到 達 目 標

1．発達心理学における発達段階や発達課題について、基本的事項を理解している。
2．発達段階や発達課題の特徴を踏まえて、自分の考えを文章で表現することができる。
3．発達段階や発達課題の特徴を踏まえて、根拠を示しながら自分の考えを発言・議論することができる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
発達心理学の基本的事項についての理解度（70%）	授業内容を超えて、自主的な学修ができている。	授業内容についてほぼ 100%理解している。	授業内容について理解しているが、多少不足がある。	授業内容について最低限理解している。	授業内容について理解できていない。
考えを文章で表現する力（レポート）（15%）	説得力のある文章で自分の考えを表現できている。	論理的に矛盾のない文章で自分の考えを表現できている。	文章で自分の考えを表現できている。	文章で自分の考えを最低限表現できている。	文章で自分の考えを表現することができていない。
根拠を示しながら発言・議論する力（15%）	根拠を示しながら説得力のある発言・議論をすることができている。	根拠を示しながら発言・議論をすることができている。	根拠を示しながら発言・議論をすることができているが、多少根拠が乏しい。	最低限の根拠を示しながら発言・議論をすることができている。	根拠を示しながら発言・議論をすることができていない。

評価方法

・学期末試験　70%
・課題への取組（レポート等）　15%
・授業中の議論や発言等　15%

テキスト

・テキストは使用しない。
・必要に応じてプリントを配布する。

保育内容総論

～保育における「領域」を総合的に捉え、実践を構想する～

小林　佳美

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
2 年	後期	1	必修	必修	－	必修

※実務経験のある教員による授業科目

授 業 概 要

乳幼児期の保育において育みたい資質・能力について学ぶとともに、遊びや生活を通して指導する保育の実際と指針・要領に示された領域のねらい及び内容とのつながりが理解できるように指導する。特に前半は、子どもの権利を尊重した子ども主体の保育において、「養護と教育の一体的な展開」が不可欠であることを理解できるようにする。中盤は、遊びや生活を通した総合的な指導の構造・展開、及び小学校以降の教育とのつながりを理解できるようにすることに重点を置く。後半は、多様な子どもを理解するための基礎知識を踏まえ、集団としての生活や遊びへとつなげるための保育実践上の工夫を、学生自らが考えられるように指導していく。また、教育専門紙、保育図書の記者・編集者としての実務経験をもとに、現代の社会的コンテクストにより生み出されている子ども・家庭の多様な課題に、保育者・教員はどのような具体的貢献ができるのかということに言及する。

授 業 計 画

授業回	授業内容
第 1 回	**オリエンテーション**―グループづくり、評価方法説明、「人権擁護のためのセルフチェックリスト」を活用して、実習で行った、又は観察した保育実践を振り返る。
第 2 回	**発達に応じた子ども理解と保育内容①**―3 歳児の発達を確認し、なってみて、屋外遊びでの保育内容を考察する。
第 3 回	**発達に応じた子ども理解と保育内容②**―4 歳児の発達を確認し、ブンブンゴマの製作を題材に、総合的な指導、環境を通した指導の概念を理解し、指導案を作成する。
第 4 回	**発達に応じた子ども理解と保育内容③**―1、2 歳児の発達、自我の芽生え前後の援助の在り方等を確認し、粘土遊びを題材に、子どもの主体性が生まれる環境構成の在り方を考察する。
第 5 回	**子どもの発達と生活・文化に即した保育**―4 か国の Babys の誕生から歩行までの 1 年間の動画視聴を通して、人間の育ちの普遍性と多様性に即した援助の在り方を考察する。
第 6 回	**子どもの多様性を支える保育の構想①**―障害名で決めつけない”みんなで育つ保育”の在り方を考える
第 7 回	**子どもの多様性を支える保育の構想②**―ベイビーX の実験を踏まえて、無意識の差別、隠れたカリキュラムを掘り起こす。子どもをとりまくメディアにおけるジェンダー・ニュートラリティの変遷を調べ、プレゼンテーションを行う。
第 8 回	**子どもの多様性を支える保育の構想③**―アイデンティティを大切にする保育、多文化共生の実際とその意義にふれ、海外にルーツのある子どもとつながる遊びの体験を通して、必要な援助の在り方を考察する。
第 9 回	**発達に応じた子ども理解と保育内容④**―5 歳児の個人と集団の発達、方向目標としての「10 の姿」を確認し、和凧の製作と凧揚げ遊びを題材に、文字、数、自然事象への気付きを深める保育の工夫を考察する。
第 10 回	**小学校との接続を意識した保育**―就学前の保育のねらい・内容と低学年期の各教科の教育目標の差異とつながりを理解する。就学での段差の実態を確認し、交流活動、接続期のカリキュラムの実際とその意義を理解したうえで、接続を意識した保育の在り方を考察する。
第 11 回	**個と集団を生かす保育の展開・振り返りテスト**
第 12 回	**オリエンテーション**―グループづくり、評価方法説明、「人権擁護のためのセルフチェックリスト」を活用して、実習で行った、又は観察した保育実践を振り返る。
第 13 回	**発達に応じた子ども理解と保育内容①**―3 歳児の発達を確認し、なってみて、屋外遊びでの保育内容を考察する。
第 14 回	**発達に応じた子ども理解と保育内容②**―4 歳児の発達を確認し、ブンブンゴマの製作を題材に、総合的な指導、環境を通した指導の概念を理解し、指導案を作成する。
第 15 回	**発達に応じた子ども理解と保育内容③**―1、2 歳児の発達、自我の芽生え前後の援助の在り方等を確認し、粘土遊びを題材に、子どもの主体性が生まれる環境構成の在り方を考察する。

予 習 ・ 復 習

・予習：授業計画に沿って参考書籍や関連する保育のニュース記事を一読することを推奨する。
・復習：授業での配布資料等をノートに整理することで理解を深めることを推奨する。

履修上の注意

・試験では手書きノート、授業での配布物の閲覧を可とします。
・振り返りテストでは手書きノート、授業での配布物の閲覧を可とします。
・授業期間中で１回、レポート作成課題を求めます。
・3 回の遅刻で 1 回の欠席、20 分以降の入室は欠席として扱います。

到 達 目 標

・乳幼児の保育における養護と教育の一体的な展開の意味を理解している。
・指針・要領における「5 領域」「3 つの視点」を踏まえ、乳幼児が経験し身に付けていくねらい・内容と指導上の留意点を自分なりの言葉で説明できる。
・保育における計画・評価の考え方を理解したうえで、子ども主体に配慮した保育の計画を作成できる。
・「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を理解し、幼児期の育ち・学びを小学校低学年期の学習へとスムーズにつなげていくために配慮すべき総合的指導の具体例を構想できる。
・子どもの多様性を理解し、一人ひとりの権利を尊重した集団保育の構想を、自分なりの言葉で表現できる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
乳幼児の保育における養護と教育の一体的な展開の意味を理解している。（20%）	乳幼児の保育における養護と教育の一体的な展開の意味を理解し、実践例を説明できる。	乳幼児の保育における養護と教育の一体的な展開の意味を理解している。	養護と教育という言葉は理解しているが、その一体的な展開の意味を理解していない。	養護と教育という言葉・概念を理解していない。	養護と教育という概念理解度を問う課題を提出しない。
「指針・要領における「5 領域」「3 つの視点」を踏まえ、乳幼児が経験し身に付けていくねらい・内容と指導上の留意点を自分なりの言葉で説明できる。（20%）	「指針・要領における「5 領域」「3 つの視点」を踏まえ、乳幼児が経験し身に付けていくねらい・内容と指導上の留意点を十分に理解し、実践例を説明できる。	「指針・要領における「5 領域」「3 つの視点」を踏まえ、乳幼児が経験し身に付けていくねらい・内容と指導上の留意点を説明できる。	「指針・要領における「5 領域」「3 つの視点」を踏まえ、乳幼児が経験し身に付けていくねらい・内容と指導上の留意点を説明できない。	「指針・要領における「5 領域」「3 つの視点」を理解していない。	「指針・要領における「5 領域」「3 つの視点」の理解度を問う課題を提出しない。
保育における計画・評価の考え方を理解したうえで、子ども主体に配慮した保育の計画を作成できる。（20%）	保育における計画・評価の考え方を理解したうえで、子ども主体に配慮した保育の計画を創意工夫を凝らして作成できる。	保育における計画・評価の考え方を理解したうえで、子ども主体に配慮した保育の計画を作成できる。	保育における計画・評価の考え方は理解しているが、子ども主体の保育を展開するうえでの計画作成ができない。	保育における計画・評価の考え方を理解していない。	保育における計画・評価の考え方の理解度を問う課題を提出しない。
乳幼児期の保育と小学校の教科教育とのつながりを理解している。（20%）	幼児期の育ち・学びを低学年期の学習へとスムーズにつなげていくための総合的な指導の実践例と意義を説明できる。	幼児期の育ち・学びを低学年期の学習へとスムーズにつなげていくための総合的な指導の実践例を説明できる。	幼児期の育ち・学びを低学年期の学習につなげるための配慮の必要性は理解しているが、実践例を構想することができない。	幼児期の育ち・学びを低学年期の学習へとつなげていくための配慮の必要性を理解していない。	幼児期の育ち・学びと低学年期の学習のつながりについて、理解度を問う課題を提出しない。
子どもの多様性を理解し、一人ひとりの権利を尊重した保育の構想を、自分なりの言葉で表現できる（20%）	子どもの多様性を理解し、一人ひとりの権利を尊重した保育の構想を、他者が理解できるように説明できる。	子どもの多様性を理解し、一人ひとりの権利を尊重した保育の構想を、自分なりの言葉で表現できる。	子どもの多様性を理解しているが、一人ひとりの権利を尊重した保育の具体例が構想できない。	子どもの多様性及び子どもの権利を理解していない。	子どもの多様性及び子どもの権利の理解度を問う課題を提出しない。

評価方法

授業態度 40%、試験 40%、授業内レポート 20%　※詳細は第 1 回目に説明するので、必ず出席してください。

テキスト

・指定しない。必要に応じて資料を配布する。・参考テキストを初回授業で提示する。
ただし、平成 29 年告示版『幼稚園教育要領』、『保育所保育指針』、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』はいつでも参照できるように準備しておくこと。

保育内容（健康）　～自ら生き生きと動く子どもを育てる～

藤田　倫子

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
1年	後期	1	必修	必修	－	必修

授業概要

幼稚園教育要領および保育所保育指針における、心身の健康に関する領域の「健康」を中心に、その内容を理解するように講義する。乳幼児期の子どもの健康について、からだと心の発育・発達、体力・運動能力と動きの獲得、休養(睡眠)・栄養(食事・排便)・運動(あそび)の側面から、規則正しい生活というものを具体的に考えていく。また、あそびに関わる時の留意事項、安全に関する事項を理解する。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	オリエンテーション、乳幼児の健康：授業内容や進め方について確認する。
第 2 回	領域「健康」のねらいと内容：テキストをもとに、領域「健康」の概要を理解する。
第 3 回	生活リズム（休養・栄養・運動）：基本的な生活習慣の確立に向けて、休養・栄養・運動の関わりについて紐解いていく。
第 4 回	心と体の発育発達：乳幼児期の心身の発育発達や運動発達について理解する。
第 5 回	体型（やせ・肥満の実態と予防・改善方法）：子どもの体格調査に関する資料を参考に、現状と課題を明確にする。
第 6 回	視力（視力低下の要因と予防方法）：子どもの視力低下に関する資料を参考に、現状と課題を明確にする。
第 7 回	体力・運動能力と動きの獲得：子どもが生き生きと動き、生活する力を身に着けていくために、必要な体力・運動能力の向上について理解する。
第 8 回	病気・アレルギー：生活習慣との関連やアレルギーについて調べ、理解する。
第 9 回	健康教育：子どもの健康教育について、乳児期、幼児期、学童期に分けて調べ、考察する。
第 10 回	安全管理・安全教育：園での安全管理、感染症予防、交通安全、災害対応などについて、資料や文献をもとに学ぶ。
第 11 回	性に関する教育：子どもが性や生に健康的に適切に向き合うことができるように、幼児期の性教育の特徴を理解する。
第 12 回	遊びへの関わり：保育者や教員として、子どもの遊びにどのようにかかわるのか、事例をもとに考察する。
第 13 回	子どもの健康と関連する法律・計画・ガイドライン： 子どもを守るための法律やガイドラインなどについて、理解を深める。
第 14 回	保育者の役割と保育者自身の健康： 子どもの健康をはぐくみ守るための保育者や教員の役割について、考察する。また、保育者自身の健康の維持増進についても言及し、考察する。
第 15 回	まとめ：これまで学習してきた内容を確認し、それらについてどのように感じ、どのように実践していこうと考えるのか、まとめる。

予習・復習

・予習：次の授業の事前学習として示された項目を調べて、授業に臨むこと。
・復習：授業中の重要ポイントを振り返り、現代社会の課題と関連付けて自分の考えをもつ。授業での実践や得られた知見を振り返り、要点をまとめる。

履修上の注意

・遅刻について、30 以内の遅刻 3 回で、欠席 1 回とする。また、30 分以上の遅刻は、欠席となる。
・授業中に積極的に発言し、考えを表明する。またその上で、子どもの健康を育むために保育者として何ができるのかを模索し続けること。
・授業時に必ず教科書を持参すること。

到 達 目 標

①子どもの健康と心身の発育発達について理解し、説明できる。
②子どもの生活習慣（休養・栄養・運動）について理解し、説明できる。
③保育・幼児教育における安全管理・安全教育を理解し、説明できる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
理解度（50%）	授業内容を越え積極的に学修ができる。	授業内容を十分に理解している。	理解はしているが、授業内容の理解に多少不足がある。	授業内容を最低限理解している。	内容についての理解ができていない。
授業への積極性（50%）	自ら積極的に行動するだけでなく、周りの状況に配慮することができる。	授業内で主体的に発言し、積極的に取り組むことができる。	授業内での発言や、積極的に取り組もうとする意欲がある。	授業内では、最低限の発言や取り組みはみられる。	授業内で学修への関わりが消極的である。

評価方法

授業への取り組み：授業への積極性（50%）・
筆記試験：理解度（50%）

テキスト

＜教科書＞
・教科書名：＜ねらい＞と＜内容＞から学ぶ　保育内容・領域　健康
・著 者 名：清水将之・相楽真樹子
・出版社名：わかば社
・出 版 年：2018 年
・ISBN：978-4-907270-21-6
※教科書の他、適宜資料を配布する。

保育内容(人間関係)　～子どもと保育者でつくる人間関係～

岩崎　桂子

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
2年	前期	1	必修	必修	－	必修

※実務経験のある教員による授業科目

授業概要

本授業では、乳幼児の人間関係について、毎回、乳幼児の園生活の映像資料を紹介し、人と関わる力や心の働きが育つ過程の長期的な見通しが持てるように指導する。保育士の実務経験に基づき、それを支える保育者の関わりについて具体的な指導・援助の行為とその背景にある心の働きを見取ることができる見方を指導する。さらに現代の家庭や地域における人間関係の特徴と課題について、保育を営む上で基本的な認識を指導する。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	オリエンテーション：人間関係とは何かを解説する
第 2 回	乳幼児期の「人間関係」がその後の「人間関係」に及ぼす影響
第 3 回	保育における「人間関係」を学ぶ-領域「人間関係」-
第 4 回	保育者が作る「人間関係」-保育者が築く「人間関係」-
第 5 回	新入園児と保育者と人間関係-グループで事例検討-
第 6 回	遊びを支える保育者と人間関係-グループで事例検討-
第 7 回	こどもが遊びに夢中になるになる人間関係-グループで事例検討-
第 8 回	こどもの一人遊びを捉える-グループで事例検討-
第 9 回	こどもの創造性を支える人間関係-グループで事例検討-
第 10 回	一人のこどもと関わる保育者の人間関係-グループで事例検討-
第 11 回	年齢別のこどものケンカの意味を探る-グループで事例検討-
第 12 回	見せる保育とは？-グループで事例検討-
第 13 回	行事に向けたこどもと保育者の人間関係-グループで事例検討-
第 14 回	人間関係の育ちを見通した保育計画を考える-グループワーク-
第 15 回	多様化する社会の人間関係-保育者として学び合い、育つとは-まとめ

予習・復習

・予習：事前に映像資料の解説を配布するので、子どもや保育者の関わりを深く捉えられるように理解しておく。次回の学習範囲を伝えるのでテキストを読んでおく。
・復習：返却されたワークシートを見直しておく。必要に応じて授業外でグループでの話し合いを進めておく。

履修上の注意

・映像資料で使用するワークシートを保管するファイルを用意する。
・ワークシートは期限内に必ず提出すること。・授業に対して積極的な態度で臨むこと。
・遅刻（授業開始 20 分）３回で欠席１回とする。
・グループワークでは、グループ内での積極性を重要視する。
・テキストは、「子どもと人間関係」と同じものを使用する。

到 達 目 標

・人と関わる力が育つ過程について、乳児期から幼児期の終わりまでの見通しを理解する。
・人間関係が育つ保育の基本的なあり方について、保育者の意図を見取って理解する。
・多様化する保育の特徴と課題について理解し、向き合う姿勢を身につける。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
理解度（10%）	授業内容を超えた自主的な学修ができる。	授業内容をほぼ100%理解出来る。	理解はしているが授業内容の理解に多少不足がある。	授業内容を最低限理解している。	内容について理解出来ていない。
課題解決能力（30%）	自身の解決策と他者からの意見を含めて課題を解くことができる。	自身の力で課題を解くことができる。	教科書や他者の意見を参考にすれば課題を解くことができる。	他者からアドバイスを受けることで課題を解くことができる。	他者のアドバイスや教科書があっても課題を解決する事ができない。
課題を文章で説明する力（レポート）（60%）	他者を説得する内容が記述する事ができる。	論理が通った説明文を記述する事ができる。	不足する点があるが、説明文を書くことができる。	最低限の内容について説明できる。	内容について説明できない。

評価方法

学期末試験（レポート）60%　　授業内グループワーク 30%　　授業態度 10%

テキスト

・教科書名：資質・能力を育む保育内容領域人間関係-こどもにとっての人間関係とは-
・著 者 名：編者：齊藤崇
・出版社名：教育情報出版
・出 版 年（ISBN）：2023 年　978-4-909378-51-4

保育内容(環境)　～知識と感性の獲得を目指して～

伊藤　能之

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
2年	後期	1	必修	必修	－	必修

授業概要

「保育内容（環境)」について領域内容についての理解を深めることを目的とする。より具体的に「環境を通した保育」の意味、「遊びをとおして通した保育」の意味について学ぶ。その際、より実践を意識し、遊びを発展させるには具体的にどのように環境を構成すればいいのか等について指導する。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	領域の意味、および総合性という言葉について考える
第 2 回	指導計画におけるねらいと内容の意味
第 3 回	環境の持つ意味についての実践的理解
第 4 回	教材研究としてのモノと関わる遊びについて
第 5 回	園全体の環境　保育課程、長期指導計画としての環境
第 6 回	環境を構成する教材研究としての自然との関わり
第 7 回	指導案作成Ⅰ　自然との関わりから
第 8 回	指導案作成Ⅱ　環境構成の視点から
第 9 回	指導案作成Ⅲ　人的環境、物的環境の意味
第 10 回	模擬保育Ⅰ　指導案の具現化という視点から
第 11 回	模擬保育Ⅱ　自己評価という視点
第 12 回	模擬保育Ⅲ　ねらいと内容の具現化という視点
第 13 回	遊びを構成する環境の位置づけ
第 14 回	実践事例からの学び
第 15 回	まとめ　環境に関する現代的諸問題

予習・復習

・予習：幼稚園教育要領、保育所保育指針の「環境」にあたる箇所をよく読んでおくこと。

・復習：教科書の該当箇所を読み直し、授業内容を確認すること。

履修上の注意

定時に出席を取る。30 分以内の遅れは「遅刻」。それ以降は欠席とする。電車の遅延などは、大きな事故などの例外を除いて原則認めない。遅刻３回で欠席１回とする。

到 達 目 標

環境構成の視点を意識し指導案を作成し模擬保育を通して、環境の意味を理解し保育実践につなげることができるようにする。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
立案能力（ 40%）	指導計画の意味を理解し計画を立てることができる。	指導計画の意味を理解する。	指導計画の意味の理解が一部不十分である。	指導計画の意味の理解にかける。	指導計画の必要性を理解していない。
感性（ 30%）	子どもの目線にたって環境をみつめることができる。	やや子どもの目線に立って環境をみつめることができる。	環境に対する感性を身に付けている。	環境に対する感性がやや不足している。	環境に対する感性が大きく欠けている。
技術的達成度（ 30%）	授業で得た知識をもとに保育行為を実践できる。	授業で得た知識をもとに保育行為を部分的に実践できる。	サポートがあれば保育行為を実践できる。	保育行為実践の際、大幅なサポートを必要とする。	サポートがあっても保育行為を実践ができにくい。

評価方法

筆記試験の結果 70%、授業態度 30%とする。欠席が 3 分の 1 を超える学生は受験資格がないので留意すること。

テキスト

・教科書名：基礎から学べる保育内容「環境」
・著 者 名：田中卓也他　編著
・出版社名：編著　あいり出版
・出 版 年（ISBN）：2021 年　978-4865550870

保育内容(言葉)　～子どもの言葉の発達を理解し支える～	佐々木美和

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
1年	前期	1	必修	必修	－	必修

授業概要

保育内容の領域「言葉」の目的・ねらい・内容について、および0歳から6歳までの具体的な子どもの姿を理解した上で、乳児・幼児期に身につけたい言葉への感覚や言葉で表現する力を養うための保育活動を構想し、指導方法の立て方を指導する。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	ガイダンス　―演習授業の特徴・保育の基本と保育の専門性― 保育内容（言葉）とは…シラバスの内容説明（授業シート配布）
第 2 回	言葉の発達理論① 言葉の獲得を支える環境…メディア・文化財の関わりについて
第 3 回	言葉の発達理論② 乳幼児の言葉の発達を支えるさまざまなもの、話し言葉と書き言葉の機能・発達・保育展開
第 4 回	児童文化財① 絵本と紙芝居…共通点と相違点、種類と活用例
第 5 回	児童文化財② わらべ歌と童謡…“遊び”を通じて言葉への感覚を養う
第 6 回	児童文化財③ さまざまなシアター教材…ペーパーシアターの制作
第 7 回	児童文化財④ ペーパーシアターの実演と活用時の留意点（指導案作成に向けて）
第 8 回	言葉あそび① 言葉あそび教材の種類と特徴、活用が求められている背景
第 9 回	言葉あそび② 言葉あそびの実践
第 10 回	言葉あそび③＋児童文化財④ 言葉あそびを主題とした「絵本」、「素話」の意義と練習
第 11 回	児童文化財⑤ 「素話」の実演
第 12 回	指導法① 絵本の読み聞かせの仕方と絵本の選び方
第 13 回	指導法② 読み聞かせの練習と「指導案」の説明
第 14 回	指導法③ 指導案の作成と絵本の読み聞かせ実演
第 15 回	指導法④ 絵本の読み聞かせ実演と指導案の修正と提出

予習・復習

・予習：配布資料や教科書の授業回内容の読み込み、実演や発表の準備

・復習：制作物の改良や授業内容の振り返り

履修上の注意

・遅刻は 20 分以内とし、遅刻 3 回で欠席 1 回とみなす。
・グループワークを含む実演に際しては、事前によく相談して、十分に練習してから臨むこと。
・制作物の準備や改良は、授業時間外に行うこと（他の授業時も同様）。
・制作課題で使用する材料や道具を、各自で授業時に持参すること。
・毎回授業の最後に、授業回の内容を振り返る「授業シート」を記入し提出すること。

到 達 目 標

・保育内容の領域「言葉」の意義、ねらい、内容を踏まえて子どもの発達を理解する。
・領域「言葉」に関する具体的な場面を想定して教材を選択し、指導法を作成できる。
・児童文化財（絵本・言葉あそび・シアター教材等）について、実演を含む基礎的な知識を身につける。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
授業内容理解度（30%）	授業内容はもちろん、それ以上の自主的な学修ができる	授業内容をほぼ100%理解している	授業内容をある程度理解しているが多少の不足がみられる	授業内容について最低限の理解をしている	授業内容の理解ができていない
保育活動の企画力と文章表現力 指導案、レポート（30%）	執筆要項に則し論理的かつ優れた文章表現で記述できる	執筆要項に従い過不足のない記述ができる	難点はあるが、執筆要項に則った記述ができる	難点は多いが、執筆要項に従い最低限の記述ができる	執筆要項に従わず、記述の質量に大きな難点がある
保育活動実践力（30%）	すべての課題に対して模範的な実演ができる	すべての課題の実演内容が必要十分である	課題によって実演内容の出来不出来が分かれる	準備不足な面はあるが、課題に挑んでいる	実演していない課題がある、または準備不足が非常に目だつ
保育教材制作力 ペーパーシアター・言葉あそび教材（10%）	時間内に独創的で模範的な教材を作成できる	時間内に保育のねらいに沿う教材を作成できる	時間超過だが、ねらいに沿う教材を作成できる	時間超過で独創性にも欠けるが課題は提出する	提出しない、または提出期限を大幅に超過する

評価方法

・実技など授業時の課題（ペーパーシアター、言葉あそび、絵本の読み聞かせ、素話、指導案など）60%
・課題レポート 20%
・受講態度（「授業シート」の記載内容を含む）20%

テキスト

・教科書名：保育学生のための「幼児と言葉」「言葉指導法」
・著者名：馬見塚昭久、小倉直子
・出版社名：ミネルヴァ書房
・出版年（ISBN）：2022 年（4623092518）

保育内容（表現・音楽）

～保育者として必要な音楽表現の理論と実践～

齊藤　淳子

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
1年	後期	1	必修	必修	－	必修

※実務経験のある教員による授業科目

授業概要

幼稚園や保育園で日常的に行われている音楽表現について，『幼稚園教育要領』『保育所保育指針』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』の領域「表現」をふまえながら理論的・実践的に理解を深めるとともに，その指導法を修得できるようにする。また，子どもの学びの連続性を確保するためには保幼小連携の視点が大切となる。幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を手掛かりとして保幼小連携の在り方についても考える。楽器の奏法や歌唱，創作活動，舞台発表については，小・中学校教員としての実務経験を生かして指導する。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	ガイダンス，楽器で奏でる①～太鼓あそび及び太鼓の基本奏法，声で奏でる①わらべうたあそび～
第 2 回	楽器で奏でる②～長胴太鼓と小締太鼓でアンサンブルをつくろう（創作お囃子）～
第 3 回	楽器で奏でる③～創作お囃子の「なか」の部分を完成させよう～
第 4 回	楽器で奏でる④～創作お囃子を練る～
第 5 回	楽器で奏でる⑤～創作お囃子を完成させる～
第 6 回	舞台発表のリハーサル及び本番（舞台セッティング・演奏・舞台撤去等の体験）
第 7 回	舞台発表の振り返り，世界の音楽教育メソッドを知る，手で奏でる・身体で奏でる①～手あそび～
第 8 回	手で奏でる・身体で奏でる②～手話の歌・リトミック～
第 9 回	声で奏でる②～童謡をア・カペラで 100 曲演習～
第 10 回	楽器で奏でる⑥～様々な打楽器の音を聴き，基本奏法を知ろう～
第 11 回	身近な素材で奏でる①～身の回りの音素材探し（ICT の活用を含む）～
第 12 回	身近な素材で奏でる②～身の回りの音から音楽へ（ICT の活用を含む）～
第 13 回	絵本と音楽～絵本と音楽の関係について考え，絵本に音・音楽をつけてみよう～
第 14 回	絵本と音楽～好きな絵本に音・音楽をつけてみよう～
第 15 回	絵本に音・音楽をつけながら読み聞かせの発表をしよう

予習・復習

・予習：音楽の各技能の向上を目指すには日々の練習が欠かせない。必ず練習をして授業に臨むこと。

・復習：クリアした課題はいつでも演奏できるよう，継続して練習すること。さらに，理論については難しい内容もあるため，授業内で理解できない内容があった場合は積極的に質問し，理解を深めること。

履修上の注意

・大学祭での舞台発表は，普段の授業とは異なる学びを得ることができるため，練習，準備，本番の全てに出席することを必修とする。
・グループやペアなど仲間と協力して音楽づくりを進めること。
・積極的に様々な音楽表現を体験すること。
・遅刻３回で１欠席扱いとする。また，30 分以上の遅刻は欠席扱いとする。

到 達 目 標

・領域「表現」における音楽表現の扱いについて学び，そのねらいと内容を理解する。
・子どもの歌 100 曲をア・カペラで歌うことができる能力，幼児が親しみやすい打楽器の奏法技能，即興表現の能力，音・音楽づくり(創作)能力を修得する。
・想像力と創造力を伸ばす。
・世界の音楽教育メソッドについて理解する。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
器楽表現の技能（期末試験）（30%）	楽器の奏法を理解し，自由に演奏することができる。	楽器の奏法を理解し，演奏することができる。	楽器の奏法は理解しているが，上手く演奏することはできない。	楽器の奏法を理解しているものもあるが，自己流のものもあり上手く演奏することができない。	楽器の奏法は全く理解しておらず，自己流で音を鳴らすことしかできない。
歌唱表現の技能（期末試験）（10%）	指定数以上の曲を覚え，どの曲も正しく歌うだけでなく，イメージなども考え表現することができる。	指定数の曲を覚え，どの曲も正しい音程・リズムで歌うことができる。	指定数の曲を覚え，歌うことはできるが，音程等が不安定になるところがある。	指定数の曲を覚えたが，正しい音程やリズムで歌うことができない。	指定数の曲を覚えておらず，元々知っている曲以外は歌うことができない。
表現の創意工夫（絵本と音楽による表現発表）（20%）	日頃から日常に溢れる音を意識して聴き，音楽表現や保育の中でどのように生かすことができるかを考え，創作活動に生かすことができる。	身の回りの音に関心を持ち，創作活動に生かすことができる。	身の回りの音に関心を持つことはできるが，創作活動に生かすことはあまりできない。	身の回りの音にあまり関心を持つことができず，創作活動に生かすことはほぼできない。	身の回りの音に全く関心がなく，自分で考えて創作活動をすることができない。
音楽教育についての理解度（レポート）（20%）	世界の様々な音楽教育に関心を持ち，その内容を十分に理解した上で，保育にどのように生かすことができるかを考えることができる。	世界の音楽教育に関心を持ち，内容を理解し，保育との繋がりを考えることができる。	世界の音楽教育に関心を持ち，大まかな内容は理解しているが，保育との繋がりを考えることはあまりできない。	世界には様々な音楽教育があることは理解しているが，内容及び保育との繋がりに関する理解は乏しい。	世界の音楽教育に関心がなく，保育との繋がりがあることを理解することができない。
学習意欲（20%）	グループ活動の際にリーダーを務め，話し合いをまとめるなど積極的な態度で授業に取り組んでいる。	話し合い活動の際に活発に意見やアイディアを出し，積極的な態度で授業に取り組んでいる。	話し合い活動の際，意見を求められたらいうことはできるが，授業に臨む姿はやや積極性に欠ける。	話し合い活動の際に意見を求められても，ほとんど何も発言することがなく，授業に臨む姿は積極性に欠ける。	話し合い活動の際，その場にいるだけで話し合い等に参加しておらず，授業に臨む姿は消極的である。

評価方法

期末実技試験（40%），絵本と音楽による表現発表（20%），レポート（20%），学習態度・課題提出（20%）

テキスト

・教科書名：『保育者のための表現あそび　ー音楽・身体・造形のアイディアー』
・著 者 名：若谷啓子 編・齊藤淳子・渡辺敏明・桐原礼 著
・出版社名：大学図書出版
・出 版 年（ISBN）：2023 年（978-4-909655-70-7）
＊その他，適宜，資料を配布する（Ａ４ サイズのスクラップブックやフラットファイルなどを準備すること）

保育内容(表現･造形) Ⅰ ～子どもに関わる造形表現の基礎～	木谷　安憲

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
1年	前期	1	選択	必須	－	選択必修

※実務経験のある教員による授業科目

授 業 概 要

感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにするための授業である。そのために、自分が表現するだけではなく園児に対してどのようにかかわっていけばよいのかを、授業全体を通して指導する。

授 業 計 画

授業回	授業内容
第 1 回	授業スケジュールと材料・用具の説明(情報機器及び教材の活用を含む)
第 2 回	色紙を使った「自分の名前デザイン」
第 3 回	色彩表現 I 色の三原色を使った色彩あそび
第 4 回	色彩表現 II 色の三原色と白・黒を使った色彩あそび
第 5 回	色彩表現 III 色の三原色を使った絵画あそび
第 6 回	色紙と絵具を使った絵画遊び
第 7 回	幼稚園教育要領について
第 8 回	絵の活動を考える I 幼稚園でできる絵画の制作
第 9 回	絵の活動を考える II 幼稚園での絵画活動 導入のプレゼンテーション
第 10 回	絵の活動を考える III クラス単位での模擬授業
第 11 回	絵の活動を考える IV クラス単位での壁面装飾風共同制作
第 12 回	絵画制作 ごしごしあそび かたつむりを描く
第 13 回	絵画制作 どこから描いたらいいのあそび
第 14 回	絵画制作 こすりだしあそび フロッタージュなどの技法習得
第 15 回	おなまえ絵本制作

予 習 ・ 復 習

・予習：教科書や保育雑誌に定期的に目を通す。下描きなど事前準備が必要な場合は指示をする。

・復習：教科書や保育雑誌に定期的に目を通す。

履修上の注意

保育内容(表現・造形)Ⅰの履修者が受講する。
絵の具セットを毎回持参する。
ハサミ、のりは毎回持参する。
20 分を超えた遅刻は欠席扱いとする。遅刻 3 回で 1 回の欠席とする

到 達 目 標

造形活動を楽しむことができるようになる。
感じたことや考えたことを自分なりに表現できるようになる。
指導者の立場で活動を考えられるようになる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
思考力［活動計画等］(20%)	思考力を働かせた、全学生の見本となるような活動計画等を作ることができる。	思考力を働かせた、すぐれた活動計画等を作ることができる。	思考力を働かせた活動計画等を作ることができる。	活動計画等を作ることができても、思考力の観点が抜けている。	思考力という観点が抜けている
構想力［作品制作におけるアイディア等］(20%)	全学生の見本となるような構想力のある作品制作を行うことができる。	すぐれた構想力のある作品制作を行うことができる。	構想力のある作品制作を行うことができる。	作品制作を行うことができるが、構想力の観点が抜けている。	構想力という観点が抜けている。
表現力［見本作品制作等］(40%)	全学生の見本となるような見本作品を作る表現力を持っている。	すぐれた見本作品を作る表現力を持っている。	見本作品を作る表現力を持っている。	見本作品を作ることができても、表現力の観点が抜けている。	表現力という観点が抜けている。
総合的な力 (20%)	思考力、構成力、表現力を結びつけ、全学生の見本となるような実践を行うことができる。	思考力、構成力、表現力を結びつけた、すぐれた実践を行うことができる。	思考力、構成力、表現力を結びつけた、実践を行うことができる	実践を行うことができても、思考力、構成力、表現力が結びついていない。	思考力、構成力、表現力を結びつける観点が抜けている。

評価方法

テスト（筆記と発表）：40%
提出物：40%
授業態度：20%

テキスト

・教科書名：ずこうことばでかんがえる（新装版）
・著 者 名：きだにやすのり
・出版社名：H.A.B.
・出 版 年（ISBN）：2022 年（978-4990759667）
※「こどもと表現」でも使用しているもの

保育内容（表現・造形）Ⅱ

～保育者の視点と子どもとの視点を生かした造形表現の実践～

佐藤　牧子

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
1年	後期	1	選択	必修	－	選択必修

授業概要

授業を通して、学生自身が心身を開放して造形表現を楽しむこと、その際に感じたこと・気づいたこと・考えたことを、保育者の視点と子どもの視点をもって考察することにより、多様な子どもの個性に寄り添う造形表現活動を実現できるようになることを目指す。本授業では、そのために必要な素材・画材・技法、環境等の理解を深め、環境を通して行う保育における造形表現活動を学生自身が体験を通して理解することができるように進める。さらに、授業を通して学んだことやポートフォリオ等の記録を生かして、幼児の造形表現活動を「立案-計画」し、模擬保育として「実践」する。実践後の振り返りを通して、造形表現活動の面白さを再認識して、今後の実践に生かすことができるようにする。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	授業ガイダンス、○○風 自己紹介カードの作成と発表
第 2 回	「色・形・光・影であそぶ」 ～身近な環境の中で、色・形・光・影を捉える～
第 3 回	「○○に見えるかもしれない、から始まる世界の創造 」～造形における見立て遊びの実践～
第 4 回	「ポートフォリオの制作①」 ～見せる記録を作る～
第 5 回	「新聞紙であそぶ」 ～素材の可能性を探る～
第 6 回	「自然物であそぶ」 ～身近な自然素材を造形素材として捉える～
第 7 回	「ポートフォリオの制作②」 ～見せる記録を作る～
第 8 回	「フロッタージュであそぶ」～表現技法を通して身近な環境を造形表現に取り入れる～
第 9 回	「スクラッチであそぶ」 ～表現技法の可能性を探る～
第 10 回	「ポートフォリオの制作③」 ～見せる記録を作る～
第 11 回	「指導計画と実践から学ぶ模擬保育①」 ～保育者の視点・子どもの視点を磨く～
第 12 回	「指導計画と実践から学ぶ模擬保育②」 ～保育者の視点・子どもの視点を磨く～
第 13 回	「指導計画と実践から学ぶ模擬保育③」 ～保育者の視点・子どもの視点を磨く～
第 14 回	「指導計画と実践から学ぶ模擬保育④」 ～保育者の視点・子どもの視点を磨く～
第 15 回	まとめ、振り返り

予習・復習

・予習：次回の授業内容に合わせて、教科書や資料に目を通し、イメージもって授業に参加すること。
　　必要に応じて、素材を集めたり、活動内容を考えたりするなどの準備を行って参加すること。
・復習：リフレクションやポートフォリオで得た「気づき」と「課題」を次の授業や実践に生かすこと。
　　造形表現の見方・考え方を生かして、日常生活や身近な環境を見つめ直すこと。

履修上の注意

・保育内容（表現・造形）Ⅰの履修者が受講する。
・共通のスケッチブック（B4）を使用する。
・デジタルカメラ（スマーフォフォン可）を必ず持参する。
・ハサミ・のり・クレヨン・絵の具などの画材・道具や、使用する素材については都度指示する。
・遅刻 30 分で欠席扱いとする。遅刻 3 回で 1 回の欠席とする。

到 達 目 標

・造形表現活動の面白さ（醍醐味）を保育者の視点と子どもの視点をもって体験して理解を深める。
・素材、画材、技法、環境等の理解を深め、保育における造形表現活動を構造的に捉えて、多様な活動を立案・展開できるようになる。
・ポートフォリオの作成を通して、人に見せることを意識した記録が作れるようになる。
・子どもの多様な個性に応えられるような造形表現活動を具体的に立案-計画-実践できるようになる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
理解度［リフレクションシート等］（30%）	考察を元に、次の活動に生かすための具体的な考えやアイデアを示すことができる。	感じたこと、気づきを元に、考察ができる。	感じたこと、気づきを書くことができる。	気づきが書かれていない。	リフレクションシートの提出がない。
表現力［ﾎﾟｰﾄﾌｫﾘｵ・模擬保育等］（30%）	場に応じたオリジナリティーのある表現ができる。	相手の理解と興味を引き出す表現ができる。	相手を意識した表現になっていない。	伝えるために必要な記載や準備が不十分である。	ポートフォリオの作成、模擬保育に取り組んでいない。
実践力［授業、模擬保育等］（40%）	リーダーシップを発揮して、積極的に場の「構成」及び「雰囲気作り」を行なうことができる。	アイディアを出して積極的に活動に参加し、実践することができる。	活動の目的を理解して実践ができている。	活動の目的を理解せずに実践している。	活動に参加していない。

評価方法

提出課題（30%） 学期末課題（30%） 授業態度（40%）

テキスト

テキストの指定なし。必要に応じて資料を配布する。
【参考図書】
・教科書名：『ワークシートで学ぶ子どもの造形表現 第 2 版』
・著 者 名：北沢昌代・畠山智宏・中村光絵
・出版社名：開成出版
・出 版 年（ISBN）：2024 年（ISBN:9784876035533）

子どもと健康　～子どもの「健康」にむけて～	小山内　/　藤田

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
1年	前期	2	選択	必修	－	－

授業概要

保育内容の領域「健康」のねらい・内容を基に、子どもの発達や特徴と生活習慣の結びつきや安全管理の観点から理解するよう、保育者の役割について講義する。幼児期に健康な心と体を身に付けるために必要な知識や技能を養うための保育を検討・実践できるよう指導する。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	「子どもと健康」のオリエンテーション 健康の定義と幼児期の健康の意義：　健康の概念について学習するとともに、子どもにとっての健康について知る。
第 2 回	乳幼児期の体の発達と運動発達の特徴などの健康課題：　子どもの健康を考えるにあたり、幼児期の子どもの身体的な発達について知る。
第 3 回	乳幼児の心の発達と基本的な生活習慣の形成とその意義：　子どもの健康を考えるにあたり、幼児期の子どもの心の発達を知るとともに、基本的な生活習慣について知る。
第 4 回	乳幼児の健康、心と体や生活習慣ついての課題と対策の検討（ICT の活用を含む）：　子どもの健康、生活習慣の疑問についてＩＣＴやインタビューを用いて掘り下げる。
第 5 回	幼児期の運動発達の特徴、意義と注意事項：　子どもにとって必要な運動を学習するとともに、意識すべき内容について知る。
第 6 回	幼児期における多様な動きの獲得について：　子どもにとって必要なさまざまな動きの獲得とその意義について知る。
第 7 回	領域「健康」から考える運動遊びの検討　①作成（ICT の活用を含む）：　学習した内容を踏まえた運動遊びをグループで検討する。
第 8 回	領域「健康」から考える運動遊びの検討　②作成（ICT の活用を含む）：　学習した内容を踏まえた運動遊びをグループで作成・準備する。
第 9 回	領域「健康」から考える運動遊びの検討　③発表または実践：　学習した内容を踏まえて作成した運動遊びを発表（実践）する。
第 10 回	領域「健康」から考える運動遊びの検討　④発表または実践：　発表（実践）を踏まえて、振り返りをする。
第 11 回	幼児の安全教育・健康管理に関する基本：　子どもの安全を守るために必要な安全教育と安全管理について知る。
第 12 回	幼児期のケガの特徴：幼稚園・保育園・こども園での子どものケガの特徴について、データを読み解く
第 13 回	危険の理解と安全管理、リスクとハザード：　危険について理解を広げるために、リスクとハザードについて学び、その違いについて知る。
第 14 回	幼児期の安全管理、健康管理についての検討（ICT の活用を含む）：子どもの安全、ケガやン管理の疑問について ICT やインタビューを用いて掘り下げる。
第 15 回	「子どもと健康」のまとめ

予習・復習

・予習：必要な授業内容を確認し、授業に備える。特に、事前配布資料については必ず準備をした上で授業に臨むこと。

・復習：学習内容を再度確認し、学習内容の定着に繋げる。特に事前準備をした内容については、授業内での再確認を忘れないこと。

履修上の注意

・遅刻は 3 回で欠席 1 回とする。
・話し合いには積極的に参加し、自分の意見と他者の意見を摺り合わせる中で学びを深めていくように努力すること。

到 達 目 標

領域「健康」の指導に関する、幼児の心身の発達、基本的な生活習慣、安全な生活、運動発達などの専門的事項についての知識を身に付ける。
・　乳幼児期の健康課題、健康の定義と乳幼児期の健康の意義を説明できる。
・　乳幼児期の体の発達的特徴と基本的な生活習慣の形成とその意義について説明できる。
・　幼児期の安全教育・健康管理の基本を理解し、幼児期のけがの特徴や病気の予防について説明できるとともに、危険に関するリスクとハザードの違いと安全管理を理解する。
・　日常生活における幼児の動きの経験や多様な動きを獲得することの意義を理解する。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
理解度（50%）	授業内を越え積極的に学修ができる。	授業内容をほぼ100%理解している。	理解はしているが授業内容の理解に多少不足がある。	授業内容を最低限の理解をしている。	内容についての理解ができていない。
問題発見能力（15%）	発見できない学生に解決方法をアドバイスできる。	独自の能力で課題を発見することができる。	参考にするものがあれば、独自の能力で課題を発見することができる。	他人のアドバイスがあれば課題を発見することができる。	他人のアドバイスがあっても自発的に課題を発見すること ができない。
問題解決能力（15%）	解決できない学生に解決方法をアドバイスできる。	独自の能力で課題を解決することができる。	参考にするものがあれば、独自の能力で課題を解決することができる。	他人のアドバイス があれば課題を解決することができる。	他人のアドバイスがあっても自発的に課題を解決すること ができない。
授業への積極性（10%）	授業内での学習に積極的に取り組み、自主的な学習や準備につなげることができる。	授業内での学習に積極的に取り組むことができる。	授業内での学習への取り組みがやや消極的である。	授業内での学習への取り組みが消極的である。	授業内での学習に取り組む姿がみられない。
授業での協調性（10%）	授業内での学習に協調的に取り組み、自主的な学習や準備も協調して行うことができる。	授業内での学習に協調的に取り組むことができる。	授業内での学習に協調的な取り組みがやや消極的である。	授授業内での学習に協調的な取り組みが消極的である。	授業内での学習に協調的な取り組みがみられない。

評価方法

テスト（筆記、レポートまたは発表）：50%
提出物：30%
授業への貢献度、授業態度、発表：20%

テキスト

教科書名：改訂版　〈ねらい〉と〈内容〉から学ぶ　保育内容・領域　健康、
著 者 名：清水将之、相楽真樹子、
出版社名：わかば社、出 版 年：2018 年
ISBN　9784907270216

子どもと人間関係　～こどもにとっての人間関係～	岩崎　桂子

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
1年	後期	2	選択	必修	－	－

※実務経験のある教員による授業科目

授業概要

領域「人間関係」の指導の基礎となる基礎理論として発達論的視点について学び、他者との関係や集団との関係の中で幼児期の人と関わる力が育つことを理解できるように講義する。保育士の実務経験に基づいて、適時DVDの視聴、事例を通して子どもの育ちの姿について講義する。

授業計画

授業回	授業内容
第　1　回	現代社会と人間関係－こどもを取り巻く人間関係・社会システムとの関係について－
第　2　回	現代のこどもを取り巻く影響と人間関係－保護者、家族、地域と人間関係について－
第　3　回	保育・幼児教育の基本－保育とは何か？領域「人間関係」について－
第　4　回	乳幼児の「人間関係」－子どもの発達と「人間関係」・他の領域との関係について－
第　5　回	乳児保育の視点－乳児の発達、「人間関係」とのつながりについて－
第　6　回	1歳以上3歳未満児の「人間関係」－1歳以上3歳未満児の発達、領域とのつながりについて－
第　7　回	3歳以上の「人間関係」－3歳以上の発達、「人間関係」のねらいと内容について－
第　8　回	領域「人間関係」と10の姿－自立、協同、道徳・模範意識、社会性のつながりについて－
第　9　回	様々な人との「人間関係」－異年齢児との関わり、生活、遊びの中での人間関係について－
第10回	幼保小の接続－「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と「資質・能力」について－
第11回	保育者としての「人間関係」での援助－個々のこどもの育ち、集団と人間関係ついて－
第12回	領域「人間関係」と指導計画－乳幼児の各年齢における指導計画－
第13回	多文化保育－多文化、異文化と「人間関係」について－
第14回	支援を必要とするこども－困難を伴う保育、障がいのあるこどもの保育－
第15回	まとめ－遊びと「人間関係」の指導計画の立て方－

予習・復習

・予習：事前に映像資料の解説を配布するので、子どもや保育者の関わりを深く捉えられるように理解しておく。次回の学習範囲を伝えるのでテキストを読んでおく。
・復習：授業内容をまとめ、専門用語を覚える。

履修上の注意

・ワークシートは期限内に必ず提出すること。・授業に対して積極的な態度で臨むこと。
・遅刻（授業開始 20 分）３回で、欠席１回とする。
・進歩状況により授業内容が変更する可能性がある。

到 達 目 標

① 幼児期に育つ人と関わる力の発達について、身近な大人との関係から説明できる。
② 幼児期の遊びやの中で育つ人と関わる力の発達について、保育者との関係、幼児との関係、集団の中での育ちを観点として説明できる。
③ 自立心の育ち、協同性の育ち、家族や地域との関わりと育ちについて、発達の姿と合わせて説明できる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
理解度（30%）	授業内容を超えた自主的な学修ができる。	授業内容をほぼ100%理解している。	理解はしているが授業内容の理解に多少不足はある。	授業内容を最低限理解している。	内容についての理解が出来ていない。
文章で説明する力（レポート）（50%）	他者を説得する内容が記述できる。	論理が通った説明分を記述することができる。	不足する点があるが説明文を書くことができる	最低限の内容について説明できる。	内容について説明できない
受講態度（20%）	自身の解決策と他者からの意見を含めて課題に取り組むことが出来る。	自身の力で課題を解くことができる。	積極的に授業に参加し授業内の課題に取り組むことが出来る	授業内の課題に積極的に取り組み問題解決できる。	授業内容を理解した上で積極的に課題を解決できる。

評価方法

学期末試験 50%　　授業内課題 30%　　受講態度 20%

テキスト

・教科書名：資質・能力を育む保育内容領域人間関係-こどもにとっての人間関係とは-
・著 者 名：編者：齊藤崇
・出版社名：教育情報出版
・出 版 年（ISBN）：2023 年　978-4-909378-51-4

子どもと言葉　～領域「言葉」に関する専門的な知識を学ぶ～	佐々木美和

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
1年	前期	2	選択	必修	－	－

授業概要

保育内容の領域「言葉」の目的、ねらい、内容について、0歳から6歳までの具体的な子どもの姿と結びつけながら理解し、保育者の役割について講義する。また、幼児期に身につけたい言葉への感覚や言葉で表現する力を養うための保育を構想し実践する方法を指導する。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	ガイダンス① ・子どもと言葉とは…シラバスの内容説明（「授業シート」配布） ・言葉をめぐるワークショップ：人間と「言葉」
第 2 回	ガイダンス② ・保育の「5領域」と幼児期の終わりまでに育ってほしい「10の姿」
第 3 回	言葉の特徴と機能① ・言葉の豊かさと日本語の特徴について、言葉あそび「早口言葉（外郎売り）」に挑戦
第 4 回	言葉の特徴と機能② ・言葉の３つの機能―伝達、思考、行動調整―
第 5 回	言葉の発達理論① ・「言葉の機能」を子どもの姿（事例や映像）で確認し理解を深める
第 6 回	言葉の発達理論② ・各年齢の特徴と発達の道すじ
第 7 回	言葉の発達理論③ ・「言葉の発達理論」を子どもの姿（映像）で確認し理解を深める ・配慮を必要とする子ども①障害、虐待、成長過程の問題
第 8 回	「教育要領」「指針」① ・領域「言葉」のねらい、内容、内容の取扱い
第 9 回	「教育要領」「指針」② ・領域「言葉」のねらい、内容、内容の取扱いの「確認テスト」 ・配慮を必要とする子ども②日本語を母語としない子どもと家族
第 10 回	教材理解と実践① ・言葉を育てる児童文化財の種類と特徴、紙芝居のグループ分け発表
第 11 回	教材理解と実践② ・絵本と紙芝居の歴史や種類、紙芝居実演に向けて演じ方の理解
第 12 回	教材理解と実践③ ・紙芝居実演における「指導案」の書き方、指導案課題の提示
第 13 回	教材理解と実践④ ・紙芝居のグループ実演（練習）と指導展開の省察
第 14 回	教材理解と実践⑤ ・紙芝居のグループ実演（練習）と指導案の下書き提出
第 15 回	教材理解と実践⑥ ・紙芝居のグループ実演（本番）と事後考察、指導案の清書と提出

予習・復習

・予習：配布資料や教科書の授業回内容の読み込み、実演の準備や練習

・復習：授業内容の振り返り

履修上の注意

・遅刻は 20 分以内とし、遅刻 3 回で欠席 1 回とみなす。
・授業時の課題は“提出期日”がある。期日を過ぎた場合は「未提出」とみなす。
・実演を含むグループワークに際しては、事前に十分に練習してから臨むこと。
・毎回授業の最後に、授業回の内容を振り返る「授業シート」を記入し提出すること。

到 達 目 標

・言葉の意義と機能、幼児の言葉の発達過程と言葉の機能を説明できる。
・言葉の感覚を豊かにする実践の基礎を身につけ、幼児の発達の姿を意識して説明できる。
・幼児の発達における児童文化財の意義を学び、実演を通して基礎的な知識を身につける。
・教育活動のねらいや展開を理解し、指導案を作成できる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
授業内容理解度（80%）	授業内容はもちろん、それ以上の自主的な学修ができる	授業内容をほぼ100%理解している	授業内容をある程度理解しているが多少の不足がみられる	授業内容について最低限の理解をしている	授業内容の理解ができていない
教育活動実践力（紙芝居など）（10%）	すべての課題に対して模範的な実演ができる	すべての課題の実演内容が必要十分である	課題によって実演内容の出来不出来が分かれる	準備不足な面はあるが、課題に挑んでいる	実演していない課題がある、または準備不足が非常に目だつ
教育活動の企画力と文章表現力（指導案）（10%）	執筆要項に則し論理的かつ優れた文章表現で記述できる	執筆要項に従い過不足のない記述ができる	難点はあるが、執筆要項に則った記述ができる	難点は多いが、執筆要項に従い最低限の記述ができる	執筆要項に従わず、記述の質量に大きな難点がある

評価方法

・学期末試験（筆記、持ち込み不可） 70%
・実技など授業時の課題（言葉あそび、確認テスト、指導案、紙芝居実演など） 20%
・受講態度（「授業シート」の記載を含む）10%

テキスト

・教科書名：保育学生のための「幼児と言葉」「言葉指導法」
・著者名：馬見塚昭久、小倉直子
・出版社名：ミネルヴァ書房
・出版年（ISBN）：2022 年（4623092518）

子どもと表現　～子どもの表現を支えるための感性を豊かにする～

木谷・齊藤・宮澤

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
1年	前期	2	選択	必修	－	－

※実務経験のある教員による授業科目

授業概要

領域「表現」の指導に関する、子どもの表現の姿やその発達及びそれを促す要因、幼児の感性や創造性を豊かにする様々な表現遊びや環境の構成などについて、小・中・高等学校教員としての実務経験を生かして実践的に指導し、幼児期の表現活動を支援するための知識・技能・表現力を身に付ける。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	表現とは何か、表現の生成過程の理解、領域「表現」のねらいと内容の理解
第 2 回	乳幼児の音楽的発達及び音楽表現の芽生えの理解(担当:宮澤)
第 3 回	イメージを音や声で表現する(担当:宮澤)
第 4 回	子どもの音楽遊びの体験と保育における音楽表現活動への展開(担当:宮澤)
第 5 回	豊かな音楽活動―音楽表現から総合的な表現への広がり―(担当:宮澤)
第 6 回	乳幼児の造形的発達及び造形表現の芽生えの理解(担当:木谷)
第 7 回	子どもの造形遊びの体験と保育における造形表現活動への展開(担当:木谷)
第 8 回	イメージを色や形で表現する(担当:木谷)
第 9 回	豊かな表現活動―造形表現から総合的な表現への広がり―(担当:木谷)
第 10 回	子どもの身体表現と身体的発達の理解(担当:齊藤)
第 11 回	イメージを身体で表現する(担当:齊藤)
第 12 回	子どもの身体遊びの体験と保育における身体表現活動への展開(担当:齊藤)
第 13 回	豊かな表現活動―身体表現から総合的な表現への広がり―(担当:齊藤)
第 14 回	音や声・色や形・動きを媒体とした総合的な表現創作活動
第 15 回	表現活動における ICT の活用と学習の総括

・予習：様々な表現を感じる・みる・聴く・楽しむことを通してイメージを豊かにすることができるようにする授業なので、身の回りのものを身体の諸感覚でとらえるようにする時間を設ける。また、次回の授業内容に関する教科書のページやプリントを読み、不明な点や疑問点を挙げる。

・復習：子どもの遊びや生活における領域「表現」の位置付けについて説明できるように、その度に授業を振り返る。また、授業で扱った教科書のページやプリントを読み直し、要点を整理する。

履修上の注意

・授業では表現することの楽しさを実感するとともに、楽しさを生み出す要因について分析できることを目指す。そのために、協働して表現することを通し、他者の表現を受け止め共感し、より豊かな表現につなげていくように取り組むこと。また、様々な表現の基礎的知識を生かし、子どもの表現活動に展開させることができるように積極的な姿勢で授業に臨むこと。
・遅刻 3 回で 1 回欠席とする。授業開始後 20 分以降は欠席扱いとする。

到 達 目 標

(1)子どもの表現の姿や、その発達を理解する。
(2)身体・造形・音楽表現などの様々な表現の基礎的な知識・技能を学ぶことを通し、子どもの表現を支えるための感性を豊かにする。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
子どもの表現の姿や発達の理解(30%)	子どもの表現の姿や発達について十分に理解し、その内容から自らの気付きや考えを深めることができる。	子どもの表現の姿や発達について十分に理解している。	子どもの表現の姿や発達についておおむね理解している。	子どもの表現の姿や発達についての理解が不十分である。	子どもの表現の姿や発達について全く理解していない。
表現の基礎的な知識・技能を生かした思考力・表現力(30%)	表現の基礎的な知識・技能について学んだことを生かし、表現活動においてイメージ豊かに思考・判断・表現することができる。	表現の基礎的な知識・技能について学んだことを生かし、表現活動において自分なりに思考・判断・表現することができる。	表現の基礎的な知識・技能について学んだことを生かし、表現活動において指導者のアドバイスをもとに思考・判断・表現することができる。	授業で学んだ表現の基礎的な知識・技能と、表現活動における思考・判断・表現の結びつき付きがあやふやである。	授業で学んだ表現の基礎的な知識・技能が定着しておらず、表現活動における思考・判断・表現も不十分である。
総合的な表現活動の考案力・発表力(40%)	幼児が表現を楽しみ、感性や創造性を育めるよう工夫された総合的な表現の活動案を作成し、発表において他者にその活動を分かりやすく伝えることができる。	幼児が表現を楽しめるよう工夫された総合的な表現の活動案を作成し、発表において他者にその活動を分かりやすく伝えることができる。	総合的な表現の活動案を作成し、発表できるが、幼児が表現を楽しめるような工夫についての考案が不十分である。	総合的な表現の活動案を作成し、発表できるが、幼児が表現を楽しめるような工夫についての考案が不十分で、発表の説明も分かりにくい。	総合的な表現の活動の意味を理解せず、活動案の作成が不十分な上、発表で使用する教材・教具の準備も不十分で、説明も分かりにくい。

評価方法

・リフレクションシートの記述内容(30%)：音楽・造形・身体表現　各 10%
…評価項目【子どもの表現の姿や発達の理解】
・授業における表現活動の過程と発表(30%)：音楽・造形・身体表現　各 10%
…評価項目【表現の基礎的な知識技能を生かした思考力・表現力】
・総合的な表現活動の活動案と発表（40%)：期末試験　活動案 20%、発表 20%
…評価項目【総合的な表現活動の考察力・発表力】

テキスト

①音楽　・教科書名：保育者養成のための子どもと音楽表現
・著 者 名：宮澤多英子
・出版社名：一般社団法人日本電子書籍技術普及協会出版
・出 版 年（ISBN)：2021 年（978-4910472270)
②造形　・教科書名：ずこうことばでかんがえる
・著 者 名：きだにやすのり
・出版社名：HH.A.B.
・出 版 年：(ISBN)：2022 年（978-4990759667)
※「保育内容（表現・造形） Ⅰ」でも使用します
③身体表現・教科書名：保育者のための表現あそび　ー音楽・身体・造形のアイディアー
・著 者 名：若谷啓子 編・齊藤淳子・渡辺敏明・桐原礼 著
・出版社名：大学図書出版
・出 版 年（ISBN)：2023 年（978-4-909655-70-7)
※「保育内容（表現・音楽)」でも使用します

子どもと環境　～子どもの視点にたつ環境の捉え～

伊藤　能之

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
2年	前期	2	選択	必修	－	－

授業概要

子どもが主体的に環境に関わることの意味を考え、保育者としての環境設定について考える。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	オリエンテーション（授業のねらい、到達目標、評価等についてのガイダンス）
第 2 回	子どもにとっての人的環境、物的環境、社会的環境について考える。
第 3 回	子どもが主体的な環境との関わりを間接教育の視点から考える。
第 4 回	子どもが主体的な環境との関わりを誘導保育の視点から考える。
第 5 回	子どもとって身近な自然を大学周辺部の自然から捉える。
第 6 回	子どもにとって身近な動植物について映像教材から学ぶ。
第 7 回	地域行事が子どもにとってどのような意味を持つかについて考える。
第 8 回	異文化体験について事例・映像教材から学び、合わせて日本の文化について考える。
第 9 回	伝承遊び等を実際に体験することにより、子どもの感性を理解する。
第 10 回	地球環境問題を子どもの視線でとらえる。
第 11 回	子どもが興味を持つ文字、標識等を地域から探る。
第 12 回	日常生活から自然の変化を探り、子どもにとっての季節の意味を考える。
第 13 回	子どもの安全と環境との関係を事例を通して考察する。
第 14 回	子どもたちの取り巻く環境を、家庭、地域、施設の視点から考える。
第 15 回	まとめおよび保育内容「環境」における現代的課題

予習・復習

・予習：幼稚園教育要領、保育所保育指針の「環境」にあたる箇所をよく読んでおくこと。
・復習：保育の総合性を念頭に各領域との総合的に関連づけること。

履修上の注意

定時に出席を取る。遅刻は３回で欠席１回とする。電車の遅延などは、大きな事故などの例外を除いて原則認めない。

到 達 目 標

子どもを取り巻く環境や、子どもと環境との関わりについて感性、知識、技能を身に付ける。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
理論的理解度（ 40%）	授業内容を理解し、自ら課題をもって進めることができる。	授業内容を理解する。	授業内容の理解に欠けるところがある。	授業内容の理解が多くの面において不十分である。	授業の主たるテーマを理解していない。
技術的達成度（ 30%）	授業で得た知識をもとに保育行為を実践できる。	授業で得た知識をもとに保育行為を部分的に実践できる	サポートがあれば保育行為を実践できる	保育行為実践の際、大幅なサポートを必要とする	サポートがあっても保育行為を実践ができにくい。
感性（ 30%）	子どもの目線にたって環境をみつめることができる。	やや子どもの目線にたって環境をみつめることができる。	環境に対する感性を身に付けている	環境に対する感性がやや不足している。	環境に対する感性が大きく欠けている。

評価方法

筆記試験の結果 70%、授業態度 30%とする。欠席が 3 分の 1 を超える学生は受験資格がないので留意すること。

テキスト

・教科書名：「コンパス保育内容　環境」高橋貴志、目良秋子編著　建帛社　2018 年
・著 者 名：高橋貴志、目良秋子編著
・出版社名：建帛社
・出 版 年（ISBN）：978-4-7679-5060-0

初等教科教育法（国語）　～模擬授業で指導力を高めよう～

佐内　信之

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
1年	後期	2	選択	－	選択必修	－

授業概要

国語科の目標を理解した上で、実践的な指導力を身につけるための基礎的な力を養う。特に、学習指導要領下のこれからの国語教育の内容と方法について具体的に学んだ上で、国語科の教材研究、評価を含めた授業実践ならびに授業研究に向けての下地をつくることをねらいとして指導する。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	オリエンテーション　履修説明、講義の目的、模擬授業の進め方について
第 2 回	教材研究と学習指導案　教材研究とは何か、学習指導案と教材研究の関係
第 3 回	学習指導案と授業　学習指導案とは何か、本時案と授業の流れ
第 4 回	教材研究と指導案作成　１年生
第 5 回	模擬授業の発表と協議　１年生
第 6 回	教材研究と指導案作成　２年生
第 7 回	模擬授業の発表と協議　２年生
第 8 回	教材研究と指導案作成　３年生
第 9 回	模擬授業の発表と協議　３年生
第 10 回	教材研究と指導案作成　４年生
第 11 回	模擬授業の発表と協議　４年生
第 12 回	教材研究と指導案作成　５年生
第 13 回	模擬授業の発表と協議　５年生
第 14 回	教材研究と指導案作成　６年生
第 15 回	模擬授業の発表と協議　６年生

予習・復習

・予習：模擬授業計画にしたがって、事前に教材研究・指導案作成を行う。

・復習：課題には自分の感想や意見を自由に表出し、各自の課題解決能力を評価する。

履修上の注意

・授業の中に演習形式の内容を多用していきたいと考えている。積極的な参加意欲を期待したい。
・遅刻３回で欠席１回の扱いとする。

到 達 目 標

・しっかりとした教材研究に基づき単元の指導計画を作る。
・授業を構想して実践するという一連の過程に必要な知識と技術を身につける。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
理解度（40%）	授業内容を越えた自主的な学修ができる。	授業内容をほぼ100%理解している。	理解はしているが授業内容の理解に多少不足がある。	授業内容を最低限は理解している。	内容についての理解ができていない。
課題解法能力（30%）	解法が分からない他人にアドバイスができる。	何も参照せずに独自の能力で課題を解くことができる。	参考書や教科書を参考にすれば、独自に課題を解くことができる。	他人のアドバイスがあれば課題を解くことができる。	他人のアドバイスがあっても自発的に課題を解くことができない。
解法を文章で説明する力（レポート）（30%）	他人を説得する内容を記述することができる。	論理が通った説明文を記述することができる。	不足する点はあるが、説明文を書くことができる。	最低限の内容について説明ができる。	内容についての説明ができない。

評価方法

授業内レポート 70%、模擬授業 30%

テキスト

テキストは使用せず、毎回の講義で必要な資料を配布する。

初等教科教育法(社会)　～社会科の授業を創る～	長沼　秀明

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
1年	前期	2	選択	－	選択必修	－

授業概要

学習指導要領に示された社会科の学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行なう方法を身に付けられるよう指導する。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	社会科の目標及び内容（1）教科の目標・内容と全体構造
第 2 回	社会科の目標及び内容（2）第3学年・第4学年の目標・内容と教材研究
第 3 回	社会科の目標及び内容（3）第5学年の目標・内容と教材研究
第 4 回	社会科の目標及び内容（4）第6学年の目標・内容と教材研究
第 5 回	社会科の目標及び内容（5）指導上の留意点と学習評価（第3学年・第4学年）
第 6 回	社会科の目標及び内容（6）指導上の留意点と学習評価（第5学年）
第 7 回	社会科の目標及び内容（7）指導上の留意点と学習評価（第6学年）
第 8 回	社会科の目標及び内容（8）発展的な学習内容の探究
第 9 回	社会科の指導方法と授業設計（1）子どもの実態を視野に入れた授業設計
第 10 回	社会科の指導方法と授業設計（2）情報機器及び教材の効果的な活用法
第 11 回	社会科の指導方法と授業設計（3）授業設計と学習指導案作成
第 12 回	社会科の指導方法と授業設計（4）模擬授業の実施と授業改善の視点（第3・第4学年）
第 13 回	社会科の指導方法と授業設計（5）模擬授業の実施と授業改善の視点（第5学年）
第 14 回	社会科の指導方法と授業設計（6）模擬授業の実施と授業改善の視点（第6学年）
第 15 回	社会科の指導方法と授業設計（7）社会科の実践研究の動向

予習・復習

・予習：授業内容に関する教科書の該当部分を事前に読んできてください。
・復習：授業で扱われた内容を教科書であらためて確認しておいてください。

履修上の注意

※この科目は教育実習Ⅰ・Ⅱ（小学校）を実施するために単位の修得が条件となる科目（条件科目）です。
毎回、積極的に課題に取り組み、発言・行動して、授業に大いに貢献してください。学生諸君同士、お互い大いに学びあってください。
遅刻 2 回を欠席 1 回に換算するので、くれぐれも遅刻しないこと。

到 達 目 標

社会科における教育目標を理解し、小学校教諭として社会科を指導できる資質・能力を理解するとともに、授業設計を行なう方法を身に付けること。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
理解度（50%）	授業内容を超えた自主的な学修ができる。	授業内容をほぼ100%理解している。	授業内容の理解に多少不足がある。	授業内容について最低限の理解をしている。	授業内容についての理解ができていない。
教育活動の実践（30%）	指導案作成を含む準備が万全であり、責任感を持って児童の姿に配慮し臨機応変に教育活動を展開しようとする。	指導案作成を含む準備が十分であり、責任感を持って子どもの姿に配慮して教育活動を展開しようとする。	指導案を作成し、教師として責任感をもって子どもの姿に配慮して教育活動を展開しようとする。	指導案を作成し教育活動を展開しようとするものの、準備不足や柔軟性に課題がみられる。	指導案を含む準備が不十分で、教育活動の展開に困難を伴うことが予想される。
論理的に文章で説明する力（20%）	提示された課題について、他人を十分に説得する内容を記述することができる。	論理が通った内容をよく記述することができる。	不足する点はあるものの、他人が理解できる程度の論理的な文章を書くことができる。	最低限の内容について文章で説明ができる。	内容について文章で説明することができない。

評価方法

授業の成果 55%
筆記試験の得点 45%

テキスト

・教科書名：『小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 社会編』
・著 者 名：文部科学省
・出版社名：日本文教出版
・出 版 年（ISBN）：平成 30 年

初等教科教育法（算数）

～教える立場から捉える算数の目標・方法・評価～

森田　大輔

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
2年	前期	2	選択	－	選択必修	－

授業概要

本授業では，小学校算数科の目的・目標，学習指導や評価の方法について講義する。特に，資質・能力の育成を主眼とした算数指導のあり方について理解が深まるよう講義する。その際，必要に応じて，適宜アクティブ・ラーニングを導入することで，実体験を通して講義内容の理解をより深めるよう努める。

また，本授業の後半では指導案の作成や模擬授業の実施・協議に取り組む。グループワークやディスカッションといった協働を通して，算数科における授業研究（指導案作成，研究授業，研究協議）を模擬的に体験し，授業づくりの方法を指導する。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	オリエンテーション：自身の学習経験の省察
第 2 回	算数教育の目的
第 3 回	算数教育の目標の変遷
第 4 回	算数科における資質・能力の育成：数学的な見方・考え方と数学的活動
第 5 回	算数科における授業づくりの理論①：問題解決
第 6 回	算数科における授業づくりの理論②：多様な考えを生かす指導
第 7 回	算数科における授業づくりの理論③：オープンエンドによる指導
第 8 回	算数科における授業づくりの理論④：問題の発展的な指導
第 9 回	算数科における学習の評価：指導と評価の一体化
第 10 回	算数科における ICT の利活用：GeoGebra，Scratch を中心に
第 11 回	算数科における教材・教材研究：教科書比較を中心に
第 12 回	指導計画・指導案の作成
第 13 回	模擬授業の実施・協議①
第 14 回	模擬授業の実施・協議②
第 15 回	本授業のまとめ：授業研究を通した授業改善

予習・復習

・予習：テキストの該当箇所を読む，模擬授業の準備

・復習：授業で学んだことをノートにまとめる，模擬授業の省察

履修上の注意

・第 12 回以降の授業では，グループで協力して，模擬授業で用いるもの（指導案，掲示物等）を予め準備すること。
・授業開始から 20 分経過後に入室した学生は遅刻とみなす。なお，公共交通機関の遅延による遅刻はその限りではない。2 回の遅刻で 1 回分の欠席とカウントするので，注意すること。

到 達 目 標

・算数教育の目的および小学校算数科の目標を理解することができる。
・小学校算数科における授業づくりの理論や実際を理解することができる。
・小学校算数科における評価の役割や方法を理解することができる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
算数科の目標の理解（25%）	これまでの歴史的経緯を踏まえ，算数教育の目的および小学校算数科の目標を理解することができる。	算数教育の目的および小学校算数科の目標を理解することができる。	算数教育の目的および小学校算数科の目標を概ね理解することができる。	算数教育の目的および小学校算数科の目標を理解することが部分的にできる。	算数教育の目的および小学校算数科の目標を理解することができない。
指導案の作成（25%）	本授業で扱った授業づくりの理論を踏まえた，十分な学習指導案の作成ができる。	十分な学習指導案の作成ができる。	大まかな学習指導案の作成ができる。	学習指導案の作成が部分的にできる。	学習指導案の作成ができない。
模擬授業の実施（25%）	ICT を適切に活用することができ，作成した学習指導案に則った模擬授業を実施することができる。	作成した学習指導案に則った模擬授業を実施することができる。	模擬授業を概ね実施することができる。	模擬授業を実施することが部分的にできる。	模擬授業を実施することができない。
算数科における評価の理解（25%）	算数科における評価の役割や方法を理解することができ，指導案や模擬授業に反映させることができる。	算数科における評価の役割や方法を理解することができる。	算数科における評価の役割や方法を概ね理解することができる。	算数科における評価の役割や方法を理解することが部分的にできる。	算数科における評価の役割や方法を理解することができない。

評価方法

・リアクションペーパー(20%)
・学習指導案・模擬授業(50%)
・筆記試験(30%)

テキスト

・教科書名：小学校学習指導要領解説（平成 29 年告示）　算数編
・著 者 名：文部科学省
・出版社名：日本文教出版
・出 版 年（ISBN）：2018 年(978-4-536-59010-5)

初等教科教育法(理科)

～教師として必要な知識･技能の獲得と授業づくり～

長友　大幸

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
1年	後期	2	選択	－	選択	－

授 業 概 要

小学校理科の目標・学習指導・評価のあり方について，具体的な小学校現場の教育実践例を紹介しながら講義と実験を通して考察する。また，模擬授業を通してあるべき小学校の理科授業について検討し，理科の授業における知識及び指導技術を身につけることができるよう指導する。

授 業 計 画

授業回	授業内容
第 1 回	オリエンテーション，理科教育の現実と日本の子どもの理科学力の実態
第 2 回	理科教育の価値と目的
第 3 回	授業・日常経験を通した科学概念の形成とその探り方
第 4 回	小学校理科の教科書の単元構成とその内容
第 5 回	小学校理科学習指導案の構成内容とその作成
第 6 回	小学校における授業実践例
第 7 回	理科学習の評価とその方法
第 8 回	教材準備の重要性と模擬授業にむけた予備実験
第 9 回	模擬授業（3 年生）と討論会（観察・実験を取り扱う）
第 10 回	模擬授業（4 年生）と討論会（観察・実験を取り扱う）
第 11 回	模擬授業（5 年生）と討論会（観察・実験を取り扱う）
第 12 回	模擬授業（6 年生）と討論会（観察・実験を取り扱う）
第 13 回	理科教育の現代的諸問題（学校種間の接続，他教科との連携，環境教育など）
第 14 回	理科教育の現代的諸問題（疑似科学に対する理科教育の役割）
第 15 回	まとめ

第 6～12 回にかけて実習や実験・観察を取り扱う。

予 習 ・ 復 習

・予習：模擬授業のための学習指導案の作成や教材作成など，事前に自主的な学習や作業が必要になる。

・復習：知識や実験技能の定着を図る小テストを毎時間に行うので，それに対応できる復習が必要である。

履修上の注意

自身の模擬授業を無断で欠席した場合は評価の対象とはしないので十分注意すること。遅刻の取り扱いは，遅刻３回で欠席１回として扱う。また，20 分以上の遅刻は欠席として扱う。

本科目は小学校実習実施のための条件科目であり、前期「理科」の授業内容を理解していることを前提に授業を進めるので留意しておくこと。

到 達 目 標

1. 小学校理科を中心に理科の目標･内容･評価等について，学習指導要領を踏まえながら理解できる。
2. 児童の自然認識について考察し，それに基づく授業のあり方を理解できる。
3. 実際に予備実験を行い，指導案を作成して模擬授業を行う。授業後，検討会を行い，授業デザインについて理解を深めることができる。
4. 理科教育に関連する現代的諸問題について理解できる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
理解度（40%）	授業内容を越えた自主的な学修ができる。	授業内容を100%近く理解している。	理解はしているが授業内容の理解に多少不足がある。	授業内容について最低限の理解をしている。	内容についての理解ができていない。
技能（40%）	模擬授業の方法が分からない他人にアドバイスできる。	何も参照せずに独自の能力模擬授業を行うことができる。	参考書や教科書を参考にすれば、独自に模擬授業を行うことができる。	他人のアドバイスがあれば模擬授業を行うことができる。	他人のアドバイスがあっても自発的にも模擬授業を行うことができない。
考察したことを説明する能力（20%）	他人を説得する内容が記述することができる。	論理が通った説明文を記述することができる。	不足する点があるが、説明文を書くことができる。	最低限の内容について説明ができる。	内容についての説明ができない。

評価方法

授業への参加状況（授業中の課題や実験への取り組み、小テストなど）10%、課題やレポート及び模擬授業50%、教師として必要な知識と技能の取得状況（定期試験）40%

欠席が１/３を超えた場合は，原則として評価の対象とはしないので充分注意すること。

テキスト

・教科書名：教科書名：授業をつくる！　最新小学校理科教育法　～2017 学習指導要領準拠～
・著 者 名：左巻健男他
・出版社名：学文社
・出 版 年（ISBN）：2018 年（978-4-7620-2772-7）
・その他は適宜印刷して配布するが，以下のものを用意しておくことが望ましい。
　小学校 3～6 年生の教科書「新しい理科」（東京書籍：令和 6 年度初版），
　小学校学習指導要領解説　理科編（最新版）

初等教科教育法（生活）～気づきの質を高める授業づくり～

中野　英之

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
2年	後期	2	選択	－	選択必修	－

授業概要

生活科は、「具体的な活動や体験を通して、身近な生活に関わる見方・考え方を生かし、自立し生活を豊かにしていくための資質・能力を」育成することを目標としている。本科目においては、講義だけでなく実際に模擬授業を行うことにより、生活科の教科としての意義と特質についての理解を深める。また、三つの資質・能力の柱、９つの学習内容を把握した上で、気付きの質の向上目指した適切な指導法を選ぶとともに、評価と結び付けて考えていく。特に活動を通して思考する低学年児童の特徴を踏まえ、児童の思いや願いに即した指導ができるよう、指導と関連付けた授業を進める。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	ガイダンス、生活科新設の経緯について講義する。
第 2 回	教科目標と学年の目標について講義する。
第 3 回	生活科の内容について講義する（1）。
第 4 回	生活科の内容について講義する（2）。
第 5 回	指導計画作成上の配慮事項について講義する。
第 6 回	内容の取扱いについての配慮事項について講義する。
第 7 回	指導計画の作成と学習指導について講義する。
第 8 回	ICT の活用について講義する。
第 9 回	生活科の評価について講義する。
第 10 回	指導案の作成、略案・細案の書き方について講義する。
第 11 回	模擬授業①　グループワークを通して１人１回模擬授業を行う。
第 12 回	模擬授業②　グループワークを通して１人１回模擬授業を行う。
第 13 回	模擬授業③　グループワークを通して１人１回模擬授業を行う。
第 14 回	模擬授業④　グループワークを通して１人１回模擬授業を行う。
第 15 回	振り返りを行う。模擬授業で行った授業の指導案（細案）を作成する。

予習・復習

・予習：学習内容に関する学習指導要領の内容を事前に読んでおく（週１時間）。模擬授業では、模擬授業の略案の作成（計３時間）を行う。
・復習：毎回の授業の振り返りシートの作成を通して授業の振り返りを行う。模擬授業実施後は、自分自身や他の履修者が行った授業について振り返りを行う（週１時間）。

履修上の注意

・履修者数によって、実施する模擬授業の回数が変更になる場合もあります。
・学習内容に関する学習指導要領の内容を事前に読んでください（週１時間）。授業後は授業で紹介する参考文献等も参考にしながら振り返りを行ってください（週１時間）。
・ハサミ、のり、カッターナイフ、色鉛筆などが必要になることがありますので各自で用意しておくこと。
・20 分以内の遅刻は出席扱いとしますが、3 回の遅刻（各 20 分以内）で 1 回欠席したものとして扱います。

到 達 目 標

１．学習指導要領における目標及び内容を踏まえた上で、生活科は遊びなど具体的な活動を通して気付きの質を高め、自立し生活を豊かにしていくための学習であることを理解し、そのための基本的な知識・技能（ICT 機器の活用を含む）の習得を目指す。
２．気付きの質を高める実習を工夫したり、児童の特徴である思考と表現の一体化を踏まえた授業づくりをしたりするなど、実践的指導力の基礎を身に付ける。
３．将来小学校教員として児童の多様性を進んで理解しようとする態度や、授業に活かすように自ら学んでいく姿勢を身に付けることに重点をおく。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
理解度（30%）	授業内容を超えた自主的な学修ができる。	授業内容をほぼ100%理解している。	授業内容を理解はしているが、授業内容の理解に多少不足がある。	授業内容について最低限の理解をしている。	内容についての理解ができていない。
模擬授業への取り組み（40%）	積極的に模擬授業に取り組み、他者の学びや授業の充実に大きく寄与した。	積極的に模擬授業に取り組んでいる。	概ね積極的に模擬授業に取り組んでいるが多少の不足がある。	最低限の模擬授業を行っている。	模擬授業を行うことができていない。
解決を文章で説明する力（振り返りシート）（30%）	他人を説得する内容が記述することができる。	論理が通った説明文を記述することができる。	不足する点があるものの、説明文を書くことができる。	最低限の内容について説明ができる。	内容についての説明ができない。

評価方法

各回の授業後に提出する振り返りシート（25%）、模擬授業（35%）、試験（40%）

テキスト

・教科書名：小学校学習指導要領解説 生活編
・著 者 名：文部科学省
・出版社名：東洋館出版社
・出 版 年（ISBN）：2018 年 ISBN:978-4491034645
※指導要領は各自でダウンロードして印刷したものを使用してもよい。参考文献は適宜紹介します。

初等教科教育法（音楽）

～音楽科の授業づくりに必要な理論と指導法の演習～

齊藤　淳子

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
2年	前期	2	選択	－	選択必修	－

※実務経験のある教員による授業科目

授業概要

小学校音楽科の目標や指導内容，指導計画，指導展開及び評価を含めた基礎的な理論，情報通信技術の活用について理解を深めるとともに，学習指導案作成と模擬授業の実践を通して音楽科の授業づくりについて学ぶ。また，教材研究の方法を含めた音楽科の授業づくりについて，小・中学校教員としての実務経験を生かして指導する。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	ガイダンス，小学校学習指導要領（音楽）の目標・各学年の目標及び内容について
第 2 回	音楽科の指導内容と指導計画及び評価，音楽教育主要用語について
第 3 回	「歌唱」の学習指導案と授業体験及び指導内容と教材研究（情報通信記述の活用）
第 4 回	「器楽」の学習指導案と授業体験及び指導内容と教材研究（情報通信技術の活用）
第 5 回	「鑑賞」の学習指導案と授業体験及び指導内容と教材研究（情報通信技術の活用）
第 6 回	「音楽づくり」の学習指導案と授業体験及び指導内容と教材研究（情報通信技術の活用）
第 7 回	学習指導案の理解，ワークシートづくりについて
第 8 回	学習指導案の作成，ワークシートの作成
第 9 回	音楽教育史及び音楽史について
第 10 回	中間筆記試験（学習指導要領等，教員採用試験対策）及び解説
第 11 回	模擬授業①
第 12 回	模擬授業②
第 13 回	模擬授業③
第 14 回	模擬授業④
第 15 回	まとめ，音楽科における関連と連携

予習・復習

・予習：音楽の各技能の向上を目指すには，日々の練習が欠かせません。演習がある際は，必ず事前に練習をして授業に臨みましょう。

・復習：学習指導要領や配布資料を熟読し，内容の理解に努めましょう。特に前半は，教員採用試験対策も含まれています。

履修上の注意

・現場に出た際に，「音楽専科がいるから大丈夫」と思わず，音楽専科がいない学校へ着任したり，自分が音楽専科になったりする可能性もあるということを念頭に置いて授業を受けること。
・模擬授業は教師・児童役を体験します。少人数での授業ですので，意欲的に取り組みましょう。
・ソプラノリコーダー及び鍵盤ハーモニカを使用する予定です。
・学習指導案やワークシートについてはパソコンで作成してもらいますので，パソコンが苦手な人は，基本的な操作や文字の打ち込みに慣れておきましょう。

到 達 目 標

小学校学習指導要領（音楽）の目標・各学年の目標及び内容，指導計画，指導展開，評価等について理解した上で，学習指導案を作成し，授業を実践することができる力を身につける。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
小学校学習指導要領(音楽)及び小学校音楽の学習内容に関する理解度（中間・期末試験）（30%）	学習指導要領及び小学校音楽で学習する内容をしっかりと理解しており，他の人に解説することができる。	学習指導要領及び小学校音楽で学習する内容をほぼ全て理解できている。	学習指導要領及び小学校音楽で学習する内容を理解できていないところがいくつかある。	学習指導要領及び小学校音楽で学習する内容の理解が不足している。	学習指導要領及び小学校音楽で学習する内容を全く理解できていない。
歌唱共通教材の歌唱の能力（中間・期末試験）（10%）	全ての歌唱共通教材を正しく歌うだけなく，曲のイメージなども考え表現することができる。	全ての歌唱共通教材を正しい音程・リズムで歌うことができる。	全ての歌唱共通教材を歌うことはできるが，音程等が不安定になるところがある。	全ての歌唱共通教材を歌うことはできるが，正しい音程やリズムで歌うことができない。	低学年の歌唱共通教材や元々知っている曲以外は歌うことができない。
指導案立案及び模擬授業による実践力（40%）	指導案はしっかりと練って立案し，板書計画や掲示物等の準備も十分に行った上で模擬授業をスムーズに行うことができる。	よく考えて指導案を立案し，模擬授業を行うことができる。	指導案を立案することはできるが，時々，指導案を見ながらでなければ模擬授業を行うことができない。	教師用指導書を参考にしながら指導案を立案しているが，指導案を見ながらでなければ模擬授業をおこなうことができない。	指導案は教師用指導書を丸写しのため授業の流れを把握しておらず，指導案を見ながらでも模擬授業を行うことができない。
学習態度（10%）	話し合い活動の際にリーダーを務め，話し合いをまとめるなど積極的な態度で授業に取り組んでいる。	話し合い活動の際に活発に意見やアイディアを出し，積極的な態度で授業に取り組んでいる。	話し合い活動の際，意見を求められたらいうことはできるが，授業に臨む姿はやや積極性に欠ける。	話し合い活動の際に意見を求められてもほとんど何もいつことがなく，授業に臨む姿は積極性に欠ける。	話し合い活動の際，その場にいるだけで話し合い等に参加しておらず，授業に臨む姿は消極的である。
課題提出（10%）	課題は全て期日内に提出している。	課題は遅れることなく提出している。	概ね期日内に課題を提出している。	課題を提出しているが，期日は守れていない。	未提出の課題がある。

評価方法

筆記試験（中間試験 15%，期末試験 15%），歌唱共通教材の歌唱実技試験（中間試験 5%，期末試験 5%），学習指導案立案・模擬授業の実践（40%），学習態度（10%），課題提出（10%）

テキスト

・教科書名：『三訂版 小学校音楽科の学習指導 ー生成の原理による授業デザインー』
・著者名：清村百合子・小島律子（監修） ・出版社名：廣済堂あかつき株式会社
・出版年（ISBN）：2018 年（978-4-908255-74-8）
＊その他，適宜，資料を配布する（専用のフラットファイル等を準備すること）

初等教科教育法(図画工作)

～図工で育てる思考力、判断力、表現力～

木谷　安憲

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
2年	後期	2	選択	－	選択	－

※実務経験のある教員による授業科目

授業概要

小学校の教育課程における図画工作科における役割や性格について講義し、それを踏まえて実技制作を行う。1 学年から 6 学年までの作品制作をする中で、教科内容、指導方法等の基本的な事項について、指導者に必要な知識・理解を習得できるよう、授業全体を通して指導する。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	ガイダンス(受講者自身の振り返り：小学校時代の図工に関して)
第 2 回	図画工作科の目標および内容について理解する
第 3 回	第1・2学年の目標と内容について講義をする
第 4 回	第1・2学年の目標と内容についての演習を行う
第 5 回	第3・4学年の目標と内容について講義をする
第 6 回	第3・4学年の目標と内容についての演習を行う
第 7 回	第5・6学年の目標と内容について講義をする
第 8 回	第5・6学年の目標と内容についての演習を行う
第 9 回	模擬授業のための指導案を書く
第 10 回	模擬授業 1
第 11 回	模擬授業 2
第 12 回	模擬授業 3
第 13 回	模擬授業 4
第 14 回	授業分析と授業評価について講義・演習を行う
第 15 回	まとめ(情報機器及び教材の活用を含む)

予習・復習

・予習：次回の授業で扱われる学年部分の小学校学習指導要領を読む。

・復習：制作した作品を、小学校学習指導要領に書かれている部分を踏まえて振り返る。

履修上の注意

実技を行うための描画材や材料は各自用意する。
20 分を超えた遅刻は欠席扱いとする。
遅刻 3 回で 1 回の欠席とする

到 達 目 標

小学校図画工作科の教科内容、指導方法等の基本的な事項について、指導者に必要な知識理解とともに実践的な技能・態度を培うことを目標とする。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
思考力［指導計画等］(25%)	思考力を働かせた、全学生の見本となるような指導計画等を作ることができる。	思考力を働かせた、すぐれた指導計画等を作ることができる。	思考力を働かせた指導計画等を作ることができる。	指導計画等を作ることができても、思考力の観点が抜けている。	思考力という観点が抜けている
判断力［指導計画、見本作品制作等］(25%)	思考力を働かせた、全学生の見本となるような指導計画、見本作品制作等を作成することができる。	判断力を働かせた、すぐれた指導計画、見本作品制作等を作成することができる。	判断力を働かせた指導計画、見本作品制作等を作成することができる。	指導計画、見本作品制作等を作成することができても、判断力の観点が抜けている。	判断力という観点が抜けている。
表現力［見本作品制作等］(25%)	全学生の見本となるような見本作品を作る表現力を持っている。	すぐれた見本作品を作る表現力を持っている。	見本作品を作る表現力を持っている。	見本作品を作ることができても、表現力の観点が抜けている。	表現力という観点が抜けている。
総合的な力 (25%)	思考力、判断力、表現力を結びつけ、全学生の見本となるような実践を行うことができる。	思考力、判断力、表現力を結びつけた、すぐれた実践を行うことができる。	思考力、判断力、表現力のどれかを結びつけた実践を行うことができる。	実践を行うことができても、思考力、判断力、表現力が結びついていない。	思考力、判断力、表現力の観点が抜けている。

評価方法

指導案・課題作品から、小学校教諭になる者としての思考力、判断力、表現力がどれくらいあるのか、上記の基準に照らしながら評価していく。(75%)
図工における総合的な力がどのくらい身についたか、上記の基準に照らしながら評価していく。(25%)

テキスト

・教科書名：小学校学習指導要領(平成 29 年告示)解説 図画工作編
・著 者 名：文部科学省
・出版社名：日本文教出版
・出 版 年（ISBN）：2018 年　(978-4536590112)

初等教科教育法（家庭）～小学校家庭科の内容と指導方法～	佐藤　真弓

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
2年	後期	2	選択	－	選択必修	－

授業概要

小学校家庭科の目標や指導内容、指導方法に関する基本的事項及び効果的な学習指導を実践するための指導計画、評価、施設・設備等について理解を深める。また、望ましい家庭科の指導内容や授業構成について考究し、教育実践における諸問題を検討する。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	初等家庭科教育法の概要説明
第 2 回	小学校家庭科の内容
第 3 回	家庭科の学習指導について①学習指導要領の分析
第 4 回	家庭科の学習指導について②小学校教科書の分析
第 5 回	学習指導案の作成①　作成の手順、留意点について
第 6 回	学習指導案の作成②　模擬授業の検討、教材・教具の準備 （1）授業の展開（情報機器の活用を含む）
第 7 回	学習指導案の作成③　模擬授業の検討、教材・教具の準備 （2）資料の作成（情報機器の活用を含む）
第 8 回	模擬授業と教材研究①家庭生活と家族（情報機器の活用を含む）
第 9 回	模擬授業と教材研究②食事の役割と栄養
第 10 回	模擬授業と教材研究③調理の基礎
第 11 回	模擬授業と教材研究④衣服の着用と手入れ
第 12 回	模擬授業と教材研究⑤生活に役立つ物の製作（裁縫）
第 13 回	模擬授業と教材研究⑥快適な住まい方
第 14 回	模擬授業と教材研究⑦身近な消費生活と環境（情報機器の活用を含む）
第 15 回	模擬授業と振り返り・評価について（情報機器の活用を含む）

予習・復習

・予習：小学校学習指導要領解説（家庭編）、小学校家庭科教科書を授業に必ず用意し、授業計画に該当する内容を読んでおくこと。

・復習：授業で学んだこと、課題等を復習として各自行うこと。 家庭科の授業の教材研究として新聞やインターネットから、家庭、生活に関する時事問題を探しておく。

履修上の注意

小学校教諭を目指す学生は、「家庭」をすでに履修していることが望ましい。
第１回のガイダンスで、授業の進め方、遅刻の取り扱い等について説明をするので、必ず出席すること。
小学校家庭科教科書（東京書籍・開隆堂）は授業開始までに各自で準備すること。購入方法は全国教科書供給協会のＨＰを参照し自宅の最寄の取り扱い販売店に予約し各自購入すること。

到 達 目 標

小学校家庭科の目標や指導内容、指導方法、評価法に関する基本的事項を理解することができる。
家政学の視野をもった創造的・効果的な学習指導を実践するための指導計画を立て、適切な教材を検討し、学習指導案を立案、作成することができる。
生活課題を発見しそれを解決するための方策を検討することができる。
指導計画に基づき、模擬授業実習を通して実践力を身に付けることができる。
生活の総合性に鑑み、授業で得られた知識を統合させ家庭科の授業実践へつなげることができる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
授業内容理解度（ 20%）	授業内容を超えた自主的な学習ができる。	授業内容をほぼ100%理解している。	理解はしているが授業内容の理解に多少不足がある。	授業内容の最低限の理解をしている。	内容についての理解ができていない。
学習指導案立案能力（ 20%）	創造的・独創的な家庭科学習指導案を計画することができる。	家庭科の理念を踏まえた家庭科学習指導案を計画することができる。	家庭科学習指導案として多少不足がある。	家庭科学習指導案として多くの不足がある。	家庭科学習指導案を立案できない。
課題解決能力（ 20%）	生活課題の解決のために方策を検討し、主体的に実践できる。	生活課題の解決のための方策を主体的に考えることができる。	生活課題の解決のための方策を他人のアドバイスを受けて考えることができる。	生活課題の解決のための方策の検討ができない。	生活課題の解決の必要性に気づくことができない。
授業実践能力（ 20%）	創造的・独創的な家庭科授業実践ができる。	授業内容を踏まえた家庭科授業実践ができる。	家庭科授業実践として多少不足がある。	家庭科授業実践として多くの不足がある。	家庭科授業実践ができない。
知識の統合能力（ 20%）	知識を統合させ創造的・独創的な授業を計画できる。	知識を統合させた授業を計画することができる。	知識の統合に多少不足がある。	知識の統合に多くの不足がある。	知識の統合ができない。

評価方法

模擬授業への取り組み（学習指導案作成、教材作成含む）（40%）、授業内小課題レポート（20%）、期末レポート（40%）から総合的に評価する。

テキスト

・小学校学習指導要領解説（平 29 告示）家庭編　　文部科学省
東洋館　　ISBN：978-4-491-03466-9
・新しい家庭（小学校家庭科教科書）　岡　陽子・杉山久仁子　他
東京書籍　　2024 年　ISBN：978-4-487-10690-5
・わたしたちの家庭科（小学校家庭科教科書）　鳴海多恵子　他
開隆堂　　2024 年　ISBN：978-4-304-08124-8

初等教科教育法（体育）　～実感から実践へ～	小山内　弘和

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
2年	後期	2	選択	－	選択必修	－

授業概要

自らの体育の学習観を再確認し、小学校における体育科教育について考え、その上で、講義を通して援業づくりをする上での基盤を構築するよう講義する。さらに、実際に指導案を作成し、体育の指導についての理解を深め、よりよい授業づくりに向けて基礎を養うよう指導する。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	ガイダンス：　初等教科教育法（体育）の授業の進め方と授業の特性に合わせた注意事項を伝達する。
第 2 回	体育の在り方の理解と体育の学習観について：　現状の学校での体育への学習観を考える。
第 3 回	各自のレディネスの確認（ICT の活用含む）：　学校体育で実施される種目を実施し、自身の体育レベルについて確認する。
第 4 回	体育の授業づくりについて：　体育の授業の作り方（年間計画、単元計画、単位時間計画）について知る。
第 5 回	体育の教材研究について理解する：　体育での教材の重要性とその作成方法について知る。
第 6 回	体育授業の基礎的・内容的条件について理解する：　体育の授業を行うに当たっての、基礎的、内容的条件を知る。
第 7 回	模擬授業のための資料作り①（資料収集・ICT の活用含む）：　模擬授業作成のための資料を集め、模擬授業を行う種目を決める。
第 8 回	模擬授業のための資料作り②（単元作成・ICT の活用含む）：　模擬授業作成のために決まった種目を基に、単元計画を作成する。
第 9 回	模擬授業のための資料作り③（単位時間作成①・ICT の活用含む）：　模擬授業作成のために作成した単元計画を基に、単位時間のシナリオを作成する。
第 10 回	模擬授業のための資料作り④（単位時間作成②・ICT の活用含む）：　模擬授業作成のために作成した単元計画を基に、単位時間の指導案を作成する。
第 11 回	模擬授業シミュレーション：　模擬授業のシミュレーション行う。作成のために作成した単元計画を基に、単位時間のシナリオを作成する。
第 12 回	模擬授業および授業分析①：　模擬授業と授業の評価・分析をする。
第 13 回	模擬授業および授業分析②：　模擬授業と授業の評価・分析をする。
第 14 回	授業評価および分析と指導案の修正：　模擬授業全体の評価・分析とともに修正を行い、最終版の指導案の作成を行う。
第 15 回	全体評価・分析・まとめ

予習・復習

・予習：

指導要領解説、事前に配布された資料については確認の上で授業に参加すること。また、日常的なスポーツ・運動活動やそれらの観戦を積極的に行うこと。それにより、実践力の向上や種目の特性の理解し、授業作成に生かすことに繋がる。

・復習：

既習の授業プリントは再度見直した上で授業に臨むこと。その上で、指導案作成においては授業内容を反映した指導案を作成すること。

履修上の注意

実践を行う際は、それに適した服装をすること。
・遅刻（30 分以内の遅れ）は 3 回で 1 回の欠席とする。
※履修者の状況により，内容を変更する場合がある。

到 達 目 標

初等教科教育法（体育）の特徴を学び、知識・技能の蓄積から、授業づくりの基盤を確立し、体育授業の計画・実践・評価分析ができる基礎を養う。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
理解度（50%）	授業内を越え積極的に学修ができる。	授業内容をほぼ100%理解している。	理解はしているが授業内容の理解に多少不足がある。	授業内容を最低限の理解をしている。	内容についての理解ができていない。
問題発見能力（20%）	発見できない学生に解決方法をアドバイスできる。	独自の能力で課題を発見することができる。	参考にするものがあれば、独自の能力で課題を発見することができる。	他人のアドバイスがあれば課題を発見することができる。	他人のアドバイスがあっても自発的に課題を発見すること ができない。
問題解決能力（20%）	解決できない学生に解決方法をアドバイスできる。	独自の能力で課題を解決することができる。	参考にするものがあれば、独自の能力で課題を解決することができる。	他人のアドバイスがあれば課題を解決することができる。	他人のアドバイスがあっても自発的に課題を解決すること ができない。
授業での協調性（10%）	授業内での学習に協調的に取り組み、自主的な学習や準備も協調して行うことができる。	授業内での学習にとても協調的に取り組むことができる。	授業内での学習に協調的に取り組むことができる。	授業内での学習にやや協調的に取り組むことができる。	授業内での学習に協調的に取り組むことができない。

評価方法

授業への貢献度、授業態度： 10%
模 擬 授 業： 40%
模擬授業指導案： 50%

テキスト

（参考図書）
・教科書名：小学校学習指導要領解説（体育編）※巻末、小学校学習指導要領含む
・著 者 名：文部科学省
・出版社名：東洋館出版社
・ISBN 9784491034676

初等教科教育法（英語）～小学校英語教育法の理論と実践～

蒔田　裕美

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
2年	前期	2	選択	－	必修	－

授業概要

小学校で英語の授業を担当することを目指す学生が身につけておくべき知識、技能、指導者としての姿勢について講義する。発達段階に応じた指導能力、教材開発能力、そのバックボーンとなる言語習得理論や教授理論、具体的な指導方法、多様な教材、ICT利用のあり方などを指導する。

学生は学習指導要領、英語教授法、第二言語習得論、評価方法、模擬授業などを理解し、実践できるようになることを目指す。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	小学校における英語教育～導入の経緯、現状と展望～
第 2 回	言語習得理論と関連領域
第 3 回	基本的な外国語教授法
第 4 回	国際理解教育と英語教育
第 5 回	評価の意義と評価方法
第 6 回	カリキュラム・年間指導計画作成のポイント
第 7 回	小学校の英語授業作り
第 8 回	クラスルーム・イングリッシュの活用
第 9 回	求められる教員の資質
第10回	教材の使い方・選び方と開発方法
第11回	ICTの効果的な活用
第12回	指導の基本と留意ポイント
第13回	指導の実際
第14回	文字指導のあり方
第15回	模擬授業の実践

予習・復習

・予習：教科書の該当部分を事前に読み、事前に指示された課題があれば取り組んでおくこと。

・復習：授業で学んだことの要点を記録し、振り返ること。

履修上の注意

小学校教職過程の履修者が望ましい。
「児童英語」を同時に履修することが望ましい。
遅刻２回で欠席１回とみなす。授業開始から大幅に時間が過ぎても、参加の意欲があれば欠席扱いにしないので遅刻してもあきらめないで授業に参加すること。

到 達 目 標

・外国語活動の目的、指導内容や方法、評価方法を習得できる。
・学習到達目標に基づく授業を立案し、学習指導案を作成できる。
・学習指導案を踏まえ、模擬授業を行うことができる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
学習指導案の作成（50%）	創造的で、受講生のお手本となる学習指導案を作成できる。	授業の概要を踏まえた適切な学習指導案を作成できる。	学習指導案としてやや不足がある。	学習指導案としての多くの不足がある。	学習指導案を立案できない。
模擬授業（50%）	創造的で、受講生のお手本となる模擬授業を展開できる。	授業の概要を踏まえた適切な模擬授業を展開できる。	模擬授業としてやや不足がある。	学習指導案として多くの不足がある。	模擬授業を展開できない。

評価方法

学習指導案の作成 50%、模擬授業 50%

テキスト

・教科書名：『Basic English for Teachers of Young Learners 楽しく教える子ども英語』
・著 者 名：泉惠美子他編
・出版社名：朝日出版社
・出 版 年（ISBN）：2023 年（978-4-255-15689-7）

道徳の指導法　～道徳教育とは何か～	長沼　秀明

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
1年	前期	2	選択	－	必修	－

授業概要

道徳の意義や原理等を踏まえ、道徳教育、および、その要となる道徳科について具体的に理解するとともに、教材研究や学習指導案の作成、模擬授業等を通して実践的な指導力を身に付けられるよう指導する。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	道徳の理論（1）道徳の本質（道徳とは何か）
第 2 回	道徳の理論（2）道徳教育の歴史
第 3 回	道徳の理論（3）現代社会における道徳教育の課題（いじめ・情報モラル等）
第 4 回	道徳の理論（4）子どもの心の成長と道徳性の発達
第 5 回	道徳の理論（5）学習指導要領に示された道徳教育および道徳科の目標と主な内容
第 6 回	道徳の指導法（1）学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育とその要となる道徳科
第 7 回	道徳の指導法（2）道徳教育の指導計画および教育活動全体を通じた指導
第 8 回	道徳の指導法（3）道徳科の特質を生かした多様な指導方法
第 9 回	道徳の指導法（4）道徳科の教材の特徴を踏まえた授業設計
第 10 回	道徳の指導法（5）授業のねらいや指導過程を明確にした学習指導案作成①目標設定
第 11 回	道徳の指導法（6）授業のねらいや指導過程を明確にした学習指導案作成②内容
第 12 回	道徳の指導法（7）道徳科の特性を踏まえた学習評価のあり方
第 13 回	道徳の指導法（8）模擬授業の実施と授業改善の視点①模擬授業の内容吟味
第 14 回	道徳の指導法（9）模擬授業の実施と授業改善の視点②他教科との関連
第 15 回	道徳の指導法（１０）模擬授業の実施と授業改善の視点③授業改善

予習・復習

・予習：授業内容に関する教科書の該当部分を事前に読んできてください。
・復習：授業で扱われた内容を教科書であらためて確認しておいてください。

履修上の注意

※この科目は、教育実習Ⅱ（小学校）を実施するために単位の修得が条件となる科目（条件科目）です。
毎回、積極的に課題に取り組み、発言して、授業に大いに貢献してください。学生諸君同士、お互い大いに学びあってください。
遅刻 2 回を欠席 1 回に換算するので、くれぐれも遅刻しないこと。

到 達 目 標

学校の教育活動全体を通じて行なう道徳教育、および、その要となる道徳科の目標や内容、指導計画等を理解するとともに、実践的な指導力を身に付けること。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
理解度（50%）	授業内容を越えた自主的な学修ができる。	授業内容をほぼ100%理解している。	授業内容の理解に多少不足がある。	授業内容について最低限の理解をしている。	授業内容についての理解ができていない。
教育活動の実践（30%）	指導案作成を含む準備が万全であり、責任感を持って児童の姿に配慮し臨機応変に教育活動を展開しようとする。	指導案作成を含む準備が十分であり、責任感を持って子どもの姿に配慮して教育活動を展開しようとする。	指導案を作成し、教師として責任感をもって子どもの姿に配慮して教育活動を展開しようとする。	指導案を作成し教育活動を展開しようとするものの、準備不足や柔軟性に課題がみられる。	指導案を含む準備が不十分で、教育活動の展開に困難を伴うことが予想される。
論理的に文章で説明する力（20%）	提示された課題について、他人を十分に説得する内容を記述することができる。	論理が通った内容をよく記述することができる。	不足する点はあるものの、他人が理解できる程度の論理的な文章を書くことができる。	最低限の内容について文章で説明ができる。	内容について文章で説明することができない。

評価方法

授業の成果 55%
筆記試験の得点 45%

テキスト

・教科書名：『小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 特別の教科道徳編』
・著 者 名：文部科学省
・出版社名：廣済堂あかつき
・出 版 年（ISBN）：平成 30 年

特別活動の指導法　～集団活動を学び、実践する～	長沼　秀明

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
2年	後期	2	選択	－	必修	－

授業概要

「人間関係形成」・「社会参画」・「自己実現」の三つの視点および「チームとしての学校」の視点を持つとともに、学年の違いによる活動の変化、各教科等との往還的な関連、地域住民や他校の教職員と連携した組織的な対応等の特別活動の特質を踏まえた指導に必要な知識や素養を身に付けられるよう、指導する。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	特別活動の意義、目標および内容（1）学習指導要領における特別活動の目標と主な内容
第 2 回	特別活動の意義、目標および内容（2）教育課程における特別活動の位置付けと各教科等との関連
第 3 回	特別活動の意義、目標および内容（3）学級活動・ホームルーム活動の特質
第 4 回	特別活動の意義、目標および内容（4）児童会活動、クラブ活動、学校行事の特質
第 5 回	特別活動の指導法（1）教育課程全体で取り組む特別活動の指導のあり方
第 6 回	特別活動の指導法（2）特別活動における取組の評価・改善活動の重要性
第 7 回	特別活動の指導法（3）合意形成に向けた話合い活動の準備
第 8 回	特別活動の指導法（4）合意形成に向けた話合い活動の指導
第 9 回	特別活動の指導法（5）合意形成に向けた話合い活動の評価
第 10 回	特別活動の指導法（6）意思決定につながる指導
第 11 回	特別活動の指導法（7）集団活動の意義
第 12 回	特別活動の指導法（8）集団活動の準備
第 13 回	特別活動の指導法（9）集団活動の指導
第 14 回	特別活動の指導法（１０）集団活動の評価
第 15 回	特別活動の指導法（１１）特別活動における家庭・地域住民・関係機関との連携のあり方

予習・復習

・予習：授業内容に関する教科書の該当部分を事前に読んできてください。
・復習：授業で扱われた内容を教科書であらためて確認しておいてください。

履修上の注意

集団活動の実践として、皆で力をあわせて、学級活動を具体的に企画・立案し、実践します。毎回、積極的に課題に取り組み、発言・行動して、授業に大いに貢献してください。
学生諸君同士、お互い大いに学びあってください。
遅刻３回を欠席１回に換算するので、くれぐれも遅刻しないこと。

到 達 目 標

学校教育全体における特別活動の意義を理解し、特別活動に必要な視点を持つとともに、特別活動の特質をふまえた指導に必要な知識や素養を身に付けること。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
理解度（50%）	授業内容を越えた自主的な学修ができる。	授業内容をほぼ100%理解している。	授業内容の理解に多少不足がある。	授業内容について最低限の理解をしている。	授業内容についての理解ができていない。
教育活動の実践（30%）	指導案作成を含む準備が万全であり、責任感を持って児童の姿に配慮し臨機応変に教育活動を展開しようとする。	指導案作成を含む準備が十分であり、責任感を持って子どもの姿に配慮して教育活動を展開しようとする。	指導案を作成し、教師として責任感をもって子どもの姿に配慮して教育活動を展開しようとする。	指導案を作成し教育活動を展開しようとするものの、準備不足や柔軟性に課題がみられる。	指導案を含む準備が不十分で、教育活動の展開に困難を伴うことが予想される。
論理的に文章で説明する力（20%）	提示された課題について、他人を十分に説得する内容を記述することができる。	論理が通った内容をよく記述することができる。	不足する点はあるものの、他人が理解できる程度の論理的な文章を書くことができる。	最低限の内容について文章で説明ができる。	内容について文章で説明することができない。

評価方法

授業の成果 55%
筆記試験の得点 45%

テキスト

・教科書名：『小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 特別活動編』
・著 者 名：文部科学省
・出版社名：東洋館
・出 版 年（ISBN）：平成 30 年
・教科書名：『みんなで、よりよい学級・学校生活をつくる特別活動（小学校編）』
・著 者 名：文部科学省国立教育政策研究所教育課程研究センター
・出版社名：文渓堂
・出 版 年（ISBN）：2019 年

教育方法論(総合的な学習の時間の指導法を含む)

～教育の理論と実践について考える～

西　敏郎

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
2年	後期	2	選択	必修	必修	選択必修

授業概要

本授業では、これまで教師たちによって築かれてきた教育実践を手がかりとして、子どもたちの学びの基盤となる学習理論と教育方法の基本的な知識を習得し、授業づくりのあり方について考える。その上で、総合的な学習の時間の意義と指導方法の基本的内容を捉え、授業づくりの具体的なイメージがつかめるように理論と実践を有機的に結び付けて講義する。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	オリエンテーション：これまでの授業風景を振り返る
第 2 回	教育方法の基礎理論
第 3 回	日本の幼児教育方法の歴史
第 4 回	環境を通して行う教育
第 5 回	子どもの育ちと人的環境
第 6 回	子どもの育ちと社会的環境
第 7 回	幼児保育・保育における遊び
第 8 回	幼児教育・保育における情報機器（ICT）の活用
第 9 回	情報活用能力と幼児教育・保育
第 10 回	総合的な学習の時間について①　意義
第 11 回	総合的な学習の時間について②　学習指導要領にみる総合的な学習の時間
第 12 回	総合的な学習の時間について③　教育課程と指導計画
第 13 回	総合的な学習の時間について④　指導方法と評価方法
第 14 回	総合的な学習の時間について⑤　指導案
第 15 回	授業のまとめ

予習・復習

・予習：授業の前に教科書の該当箇所を読み授業内容を確認して臨むこと。

・復習：授業内容を振り返り、知識の定着を図ること。

履修上の注意

・授業の内容に応じてグループディスカッション等も用いて進めていくので、積極的に参加すること。
・遅刻３回で欠席１回の扱いとする。

到 達 目 標

・子どもたちの学びの基盤となる学習理論と教育方法についての基本的な知識を習得し、授業づくりの基本的な考え方を説明することができる。
・総合的な学習の時間の指導法についての基礎的な知識と技能を身につける。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
授業内容の理解度（40%）	授業内容を越えた自主的な学修ができる	授業内容を十全に理解している	授業内容を理解はしているが多少不足がある	授業の基本的な内容を概ね理解しているにすぎない	授業内容を全く理解していない
問題を捉え考察する力（30%）	授業の内容にとどまらず関連する発展的な内容を踏まえて考えることができる	授業の内容に関して、自分の考えを自分の言葉でまとめることができる	参考書や教科書を参考にすれば、自分の考えを導くことができる	他者の助言があれば、自分の考えをまとめることができる	他者の助言があっても、自分の考えがまとまらない
自分の考えを論理的に文章で説明する力（30%）	他者を説得する内容を記述することができる	論理的な説明文を記述することができる	不足する点はあるが、説明文を書くことができる	基本的な内容を説明することができる	基本的な内容についての説明ができない

評価方法

学期末レポート課題（50%）、授業内レポート・課題等（50%）により総合的に評価する。

テキスト

・教科書名：『幼児教育・保育のための教育方法論』
・著 者 名：垂見直樹　池田竜介　編著
・出版社名：ミネルヴァ書房
・出 版 年（ISBN）：2020 年（978-4-623-09091-4）

ICT 活用の理論と方法（旧課程）

～教育 DX への対応とオンライン授業の実践的活用法～

織戸　恒男

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
2 年	後期	2	選択	－	必修	－

授 業 概 要

「情報通信技術（ICT; Information & Communication Technology）を活用した教育の理論及び方法」の習得を目的として、ｸﾗｳﾄﾞﾈｯﾄﾜｰｸを利用した情報や知識のやり取り（＝生徒とｵﾝﾗｲﾝでつながる）に焦点を当て、教育ﾃﾞｼﾞﾀﾙﾄﾗﾝｽﾌｫｰﾒｰｼｮﾝに対応したｵﾝﾗｲﾝ授業の実践的活用方法をﾊﾝｽﾞｵﾝ（体験型学習）形式で指導する。

授 業 計 画

授業回	授業内容
第 1 回	イントロダクション －現代社会における ICT の役割－ 日常生活と最先端テクノロジー／ICT の基本理解／教育へのテクノロジー活用の意義
第 2 回	GIGA スクール構想と教育現場のデジタルトランスフォーメーション（DX） ICT 活用指導力が求められる理由／1 人 1 台の情報端末／情報活用能力とモラルの育成
第 3 回	オンライン授業に必要な情報端末（PC・スマートフォン・タブレット類）と基本操作 OS／アプリケーションソフト／データストレージサービス／コラボレーションツール
第 4 回	オンラインコミュニケーションと情報検索・収集の方法 ドメインの理解／電子メール・チャット／Web ブラウザー／検索エンジン／SNS
第 5 回	教育機関向けクラウド型ネットワークサービスの活用方法 クラウドサービスの機能・特徴と活用事例／校務の情報化／Microsoft Teams 基本設定確認
第 6 回	オンライン教室の設定 ①（トライアル・基礎編） テクノロジーを活用した教育の意義／クラウドサービスを活用したオンライン教室の特徴
第 7 回	オンライン教室の設定 ②（実践・活用編） オンライン教室の計画／クラスの作成／生徒の招待／チャネルの作成／チームの設定
第 8 回	オンライン授業の開始 ①（トライアル・基礎編） クラウドサービスを活用したオンライン授業の特徴／オンライン授業の設計
第 9 回	オンライン授業の開始 ②（実践・活用編） 生徒との対話・やり取り／資料ファイルの投稿／メッセージ投稿・返信・編集
第 10 回	オンライン授業の運営 ①（トライアル・基礎編） 授業開始／オーディオ・ビデオ・録画など授業運営の環境設定
第 11 回	オンライン授業の運営 ②（実践・活用編） 出席確認／画面共有／意見交換／グループワーク／質疑応答など授業運営の基本
第 12 回	オンライン授業の運営 ③（応用編） アンケート実施／課題／小テスト／ルーブリック／成績評価など授業運営の応用
第 13 回	オンライン授業の検証（機能・操作確認編） クラス・授業への参加／メッセージ確認・返信／質問・回答確認／録画閲覧／課題確認
第 14 回	模擬授業の実施と参加（実際の授業を想定したオンライン・ロールプレイ）
第 15 回	模擬授業の検証（オンライン授業の改善点・課題の明確化と解決策の検討）

予 習 ・ 復 習

- 予習：教科書の指定された範囲を必ず講義までに学習しておくこと（他に、授業内で事前準備の指示あり）。
- 復習：講義で学習した内容を必ずその日のうちに復習すること。興味や関心を持ったこと／理解できなかったこと／感想や要望／質問などを、毎回配布するシート（ミニットペーパー）に記入し、次回講義までに必ず提出すること(他に、授業内で課題の指示あり)。

履修上の注意

1. 受講者所有のノートパソコンを持参することを推奨する。
2. 受講者の情報端末操作リテラシーや理解度などに応じて、授業内容を変更することがある。
3. 交通機関の遅延等を除き、遅刻は原則認めない（やむを得ない事由の場合には要事前連絡）。

到 達 目 標

1. 教育現場おける ICT 活用の意義と理論を理解する。
2. ICT 活用指導力に必要な情報端末機能を操作することができる。
3. 教育機関向けクラウドサービスを活用したオンライン教室を設定することができる。
4. 教育機関向けクラウドサービスを活用したオンライン授業を実施することができる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
ICT 活用の意義と理論の理解（20%）	ICT 活用の意義と理論の理解にとどまらず、オンライン授業の設計まで習得できている。	ICT 活用の意義と理論を理解している。	ICT の役割を理解している。	ICT の役割をある程度理解している。	ICT 活用の意義や理論も ICT の役割も理解していない。
ICT 活用指導力に必要な情報端末の操作（20%）	講義で取り上げていない情報端末の機能を応用することができる。	講義で取り上げた情報端末の機能を活用することができる。	情報端末の機能をある程度活用することができる。	情報端末の機能を不十分であるが、操作することができる。	情報端末を操作することができない。
オンライン教室の設定（30%）	講義で取り上げていないオンライン教室設定の機能を応用することができる。	講義で取り上げたオンライン教室設定の機能を活用することができる。	オンライン教室設定の機能をある程度活用することができる。	オンライン教室設定の機能を不十分であるが、操作することができる。	オンライン教室設定の機能を操作することができない。
オンライン授業の実施（30%）	講義で取り上げていないオンライン授業実施の機能を応用することができる。	講義で取り上げたオンライン授業実施の機能を活用することができる。	オンライン授業実施の機能をある程度活用することができる。	オンライン授業実施の機能を不十分であるが、操作することができる。	オンライン授業実施の機能を操作することができない。

評価方法

受講態度（体験型学習への取り組み）40%、後期定期試験（実技）40%、課題（レポートなど）20%

テキスト

・教科書名：できる Microsoft Teams for Education すぐに始めるオンライン授業
・著 者 名：清水理史&できるシリーズ編集部
・出版社名：インプレス
・出 版 年（ISBN）：2021 年（978-4-295-01099-9）
※その他、講義で用いた資料は Microsoft Teams の「ICT 活用の理論と方法」のチームにある「クラスの資料」のフォルダーにアップロードする（必要に応じてダウンロードすること）。

生徒･進路指導の理論と方法

～児童が生きる今を知り、指導・援助する～

長沼　秀明

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
2年	後期	2	選択	－	必修	－

授 業 概 要

生徒指導は、一人ひとりの児童の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら、社会的資質や行動力を高めることを目指して教育活動全体を通じて行われる。他の教職員や関係機関と連携しながら生徒指導を進めていくために必要な知識・技能を身に付ける。また、進路指導・キャリア教育の視点に立った授業改善や体験活動、評価改善の推進、それに向けた学校内外の組織的体制に必要な知識や素養を身に付けられるよう、指導する。

授 業 計 画

授業回	授業内容
第 1 回	生徒指導の意義と原理（1）教育課程における生徒指導の位置付け
第 2 回	生徒指導の意義と原理（2）各教科・道徳教育・総合学習・特別活動における生徒指導の意義
第 3 回	生徒指導の意義と原理（3）集団指導・個別指導の方法原理
第 4 回	生徒指導の意義と原理（4）生徒指導体制と教育相談体制―基本的な考え方と違い―
第 5 回	児童全体への指導（1）校務分掌と学校指導方針および年間指導計画に基づく組織的な取組
第 6 回	児童全体への指導（2）生徒指導の在り方―基礎的な生活習慣の確立や規範意識の醸成―
第 7 回	児童全体への指導（3）児童及の自己存在感が育まれるような場や機会の設定の在り方
第 8 回	個別の課題を抱える個々の児童及び生徒への指導（具体例１）
第 9 回	個別の課題を抱える個々の児童及び生徒への指導（具体例２）
第 10 回	個別の課題を抱える個々の児童及び生徒への指導（具体例３）
第 11 回	個別の課題を抱える個々の児童及び生徒への指導（具体例４）
第 12 回	個別の課題を抱える個々の児童及び生徒への指導（具体例５）
第 13 回	進路指導・キャリア教育の理論と方法（1）進路指導・キャリア教育の意義および理論
第 14 回	進路指導・キャリア教育の理論と方法（2）ガイダンスとしての指導
第 15 回	進路指導・キャリア教育の理論と方法（3）カウンセリングとしての指導

予 習 ・ 復 習

・予習：授業内容に関する教科書の該当部分を事前に読んできてください。
・復習：授業で扱われた内容を教科書であらためて確認しておいてください。

履修上の注意

毎回、積極的に課題に取り組み、発言・行動して、授業に大いに貢献してください。学生諸君同士、お互い大いに学びあってください。

遅刻 3 回を欠席 1 回に換算するので、くれぐれも遅刻しないこと。

到 達 目 標

生徒指導・進路指導は学習指導と並ぶ重要な教育活動である。組織的に生徒・進路指導を進めていくために必要な知識・技能や素養を身に付けることが目標となる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
理解度（50%）	授業内容を越えた自主的な学修ができる。	授業内容をほぼ100%理解している。	授業内容の理解に多少不足がある。	授業内容について最低限の理解をしている。	授業内容についての理解ができていない。
課題解決および発表能力（30%）	解決方法や発表の仕方が分からない他人へアドバイスができる。	何も参照せずに独自の能力で課題を解き、発表することができる。	参考文献等を参照しながら課題を解き、発表することができる。	他人のアドバイスがあれば課題を解き、発表することができる。	他人のアドバイスがあっても自発的に課題を解くことができず発表することもできない。
論理的に文章で説明する力（20%）	提示された課題について、他人を十分に説得する内容を記述することができる。	論理が通った内容をよく記述することができる。	不足する点はあるものの、他人が理解できる程度の論理的な文章を書くことができる。	最低限の内容について文章で説明ができる。	内容について文章で説明することができない。

評価方法

授業の成果 55%

筆記試験の得点 45%

テキスト

・教科書名：『生徒指導提要』（改訂版）
・著 者 名：文部科学省
・出版社名：東洋館出版社
・出 版 年（ISBN）：2023 年
・教科書名：『事例で学ぶ生徒指導・進路指導・教育相談 小学校編（改訂版）』
・著 者 名：長谷川啓三・花田里欧子・佐藤宏平編
・出版社名：遠見書房
・出 版 年（ISBN）：2019 年

教育相談の理論と方法　～子どもの心の理解と対応～

原口　幸

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
2年	前期	2	選択	必修	必修	選択必修

授業概要

本講義では，教育相談の基礎理論と技法の理解を目指す。基礎的なカウンセリングの理論及び技法，乳幼児期・児童期・思春期に生じうる問題と対応，多職種との連携について講義する。また，アクティブ・ラーニングとして，グループ・ワークを用い，体験を通した事例理解を目指す。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	ガイダンス，教育相談とは何か
第 2 回	教育相談における連携と協働①：チーム学校（園）の基礎，専門職の役割
第 3 回	教育相談の基礎知識①：カウンセリングの代表理論と基礎技法
第 4 回	教育相談の基礎知識②：カウンセリングマインド，教師の自己理解
第 5 回	子どもの発達と生じうる問題①：乳幼児期
第 6 回	子どもの発達と生じうる問題②：児童期～思春期
第 7 回	教育相談の実際①：アタッチメントとトラウマの理解
第 8 回	教育相談の実際②：不登校・不登園
第 9 回	教育相談の実際③：いじめ
第 10 回	教育相談の実際④：発達障害
第 11 回	教育相談の実際⑤：児童虐待
第 12 回	教育相談の実際⑥：心身症・精神障害
第 13 回	教育相談の実際⑦：ヤングケアラー・LGBTQ・言語的マイノリティ（外国籍児童・生徒）
第 14 回	教育相談の予防的活用：心理教育
第 15 回	教育相談における連携と協働②：円滑な連携のための情報の活用，幼保小中の連携

予習・復習

・予習：授業計画や授業内で提示する資料を参照し，各自予習をする。必要に応じて，関連する資料を調べる。その他適宜授業内で提示する。

・復習：授業内で理解したこと，疑問をもったこと，興味をもったことをまとめる。

履修上の注意

（1） ２０分以上の遅刻は欠席扱い。遅刻３回で１回の欠席とする。リアクションペーパーの未提出は，欠席とする。
（2） すべての授業でリアクションペーパーの提出を求め，翌週の授業開始時に授業担当者がフィードバックする。
（3） 許可の無い限り，機器の如何にかかわらず授業内容の撮影・録音を禁ずる。
（4） 本授業では，グループワークを用いるため，積極的に参加すること
（5）授業計画は、受講生の興味関心に応じて、適宜、内容や順番を変更する。

到 達 目 標

１．幼保園・小学校における教育相談の意義，理論及び技法について説明できる。
２．幼保園・小学校における発達段階と生じうる問題について説明できる。
３．幼保園・小学校において生じうる問題への理解と対応について，体験を通した事例理解ができる。
４．教育相談における連携・協働の意義と具体的手法について説明できる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
教育相談の意義・手法について理解する力（４０%）	授業内容を超えて，自主的な学習・思考に基づく理解がなされている	教育相談の意義・手法・理論の基礎を理解している	教育相談の意義・手法について理解している	教育相談の意義・手法について最低限理解している	教育相談の意義・手法の理解が不足している
問題や事例を理解し，対応を検討する力（２０%）	学んだ知識や他者の意見を踏まえて，自分なりの対応方法を考えて説明できる	問題や事例についての基本的な対応について，説明できる	資料を参照しながら，対応について検討できる	他者の意見を聞いて，対応について検討できる	他者の意見を聞いても，対応について検討できない
校（園）内及び多職種連携の意義・手法について理解する力（１０%）	各専門職の役割と限界を理解し，連携の意義を理解している	各専門職の役割と限界について理解している	連携する専門職について理解している	自らの専門性について理解している	各専門職の役割についての理解が不足している
理解や対応について文章で説明する力（リアクションペーパー）（２０%）	自分の考えを交えて，説得力のある内容が記述されている	理解・疑問点が論理的に記述されている	授業で理解したことが記述されている	最低限の説明がなされている	授業内容についての説明が不足している

評価方法

学期末試験６０%，リアクションペーパー２０%，受講態度２０%

テキスト

教科書は使用せず，各授業のパワーポイント資料を用いる。その他，適宜資料を配布する。

児童文化　～実践を通して知っておくべき子どもの文化～	佐々木美和

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
1年	後期	1	選択	－	－	必修

授業概要

大人が子どもに与えるモノだけでなく、子ども自身が創り出す文化や衣食住を含む子どもを取り巻く環境にも視野を広げて、「児童文化」について講義する。一つひとつの児童文化財や遊び、玩具などへの探究を通して、保育者が身につけておくべき基本知識と、その知識を現場で生かすための技能の双方を指導する。

授業では、児童文化財による教材制作と実演、折り紙やあやとり、言葉あそびなどの実践を通して、その特徴や楽しさを体感してもらう。加えて、保育者の立場からこうした教材（玩具や遊具）の活用を考える。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	初回ガイダンス・子どもにとっての「遊び」 ・遊びの成立要件としての「三間」
第 2 回	児童文化財① ・メディアミックスと「赤ちゃん絵本」
第 3 回	児童文化財② ・人形劇の世界とフェルトパペットの構想
第 4 回	児童文化財③ ・フェルトパペットの制作と活用の仕方
第 5 回	児童文化財④ ・共遊玩具の世界（布絵本、UD 絵本を含む）
第 6 回	子どもの遊び① ・伝承行事と遊び、あやとりの技の理解と練習
第 7 回	子どもの遊び② ・あやとりの実技
第 8 回	児童文化の保育活用① ・幼稚園や保育園における壁面装飾や絵本や紙芝居の活用調査
第 9 回	子どもの遊び③ ・伝承遊びの知識と実践（前半）
第 10 回	子どもの遊び④ ・伝承遊びの知識と実践（後半）
第 11 回	子どもの遊び⑤ ・折り紙の知識（基本の型）と制作課題の指示
第 12 回	子どもの遊び⑥ ・折り紙を主とする“壁面装飾”の制作
第 13 回	子どもの生活と社会 ・児童向け文化施設についての理解と各自治体への調査
第 14 回	実演発表会① ・パペットを実演しながらの「児童文化財」の調べ学習課題の発表
第 15 回	実演発表会② ・パペットを実演しながらの「児童文化財」の調べ学習課題の発表

予習・復習

・予習：配布資料を読む、実技の練習、制作の準備

・復習：授業内で行った実技の練習、制作の改良

履修上の注意

・遅刻は 20 分以内とし、遅刻 3 回で欠席 1 回とみなす。
・グループワークを含む実演に際しては、事前によく相談して、十分に練習してから臨むこと。
・制作物の準備や改良は、授業時間外に行うこと（他の授業時も同様）。
・制作課題で使用する材料や道具を、各自で授業時に持参すること。
・毎回授業の最後に、授業回の内容を振り返る「授業シート」を記入し提出すること。

到 達 目 標

・「児童文化」に関する基本的な知識を身につける。
・子どもを取り巻く文化環境について学び、保育者の視座から考える力を身につける。
・実際に「児童文化財」を用いて、遊びを構築し実演する技能を身につける。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
授業内容理解度（40%）	授業内容はもちろん、それ以上の自主的な学修ができる	授業内容をほぼ100%理解している	授業内容をある程度理解しているが多少の不足がみられる	授業内容について最低限の理解をしている	授業内容の理解ができていない
保育活動実践力（30%）	すべての課題に対して模範的な実演ができる	すべての課題の実演内容が必要十分である	課題によって実演内容の出来不出来が分かれる	準備不足な面はあるが、課題に挑んでいる	実演していない課題がある、または準備不足が非常に目立つ
口頭発表力（10%）	論理的で独自性があり、発表の仕方にも工夫がある	論理の通った内容の発表ができる	説明の不足する点があるが、発表することができる	最低限の内容だが、発表をすることはできる	研究発表をしない、または準備不足が非常に目立つ
提出課題完成度（10%）	すべての完成度が高く、指定以上の内容を提出する	指定課題をほぼ100%完成させ期日内に提出できる	完成度に難点はあるが、期日内に課題は提出できる	提出や完成度に難点はあるが、最低限の課題数は提出できる	課題提出がないまたは期限超過や完成度に大きな難点がある
調査分析力と文章表現力（レポート）（10%）	執筆要項に則し論理的かつ優れた文章表現で記述できる	執筆要項に従い過不足のない記述ができる	難点はあるが、執筆要項に則った記述ができる	難点は多いが、執筆要項に従い最低限の記述ができる	執筆要項に従わず、記述の質量に大きな難点がある

評価方法

・制作や実技、発表など授業時の課題（パペットの制作と実演、あやとり実技など）50%
・提出課題（学期末レポート、「絵本リスト」、折り紙の制作課題など）40%
・受講態度（「授業シート」の記載内容を含む）10%

テキスト

教科書は使用しない。
必要に応じて資料を配布する。

子どもの理解と実践
～保育・教育カウンセリングの理論と方法～

一色　翼

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
2年	前期	2	選択	必修	－	必修

授業概要

保育・教育カウンセリングとは、保育者・教育者だからこそできる、保育や教育の場において実践的に役に立つカウンセリングのことである。

保育や教育の場において、子どもを理解し実践に結び付けるためには、何を目的にどのようなことを行うのか、その際の判断基準は何かを理解しておくことは重要である。本授業では、実践力のある保育者・教育者の育成を目指し、保育・教育カウンセリングの理論と方法について指導する。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	ガイダンス　授業計画と進め方
第 2 回	保育・教育カウンセリングの理論（1）　論理療法
第 3 回	保育・教育カウンセリングの理論（2）　交流分析
第 4 回	保育・教育カウンセリングの理論（3）　アドラー心理学
第 5 回	保育・教育カウンセリングの理論（4）　構成的グループエンカウンター（1）
第 6 回	保育・教育カウンセリングの理論（5）　構成的グループエンカウンター（2）
第 7 回	保育・教育カウンセリングの理論（6）　グループワーク・トレーニング
第 8 回	保育・教育カウンセリングの実践（1）　グループ・アプローチ実施準備（1）
第 9 回	保育・教育カウンセリングの実践（2）　グループ・アプローチ実施準備（2）
第 10 回	保育・教育カウンセリングの実践（3）　グループ・アプローチ実施（1）
第 11 回	保育・教育カウンセリングの実践（4）　グループ・アプローチ実施（2）
第 12 回	保育・教育カウンセリングの方法（1）　個別面接の技法（1）
第 13 回	保育・教育カウンセリングの方法（2）　個別面接の技法（2）
第 14 回	保育・教育カウンセリングの方法（3）　個別面接の技法（3）
第 15 回	まとめ　保育・教育カウンセリングに基づいた子どもの理解と実践の在り方

予習・復習

・予習：授業の最後に次回予告した内容や授業計画に示された内容について、事前に学習しておくこと。
・復習：授業内容と関連するものについて、関心を広げ、発展的な学修を行うことを期待する。
　　授業の内容に沿って、レポートを課す。

履修上の注意

1．授業開始後 20 分未満の遅刻を 3 回すると、1 回分の欠席扱いとする。
　　授業開始後 20 分を超過した場合、遅刻ではなく欠席扱いとする。
2．授業中、グループごとのディスカッションや意見交換、演習を行う。
　　授業内容に関連した発言を求めるため、積極的な発言を期待する。
3．配布プリントはファイルし、整理しておくこと。
4．身近に乳幼児や児童がいたら、授業内容と照らし合わせながら観察し、理解を深めることを期待する。
5．学期末試験は行わない。

到 達 目 標

1．保育・教育カウンセリングの理論と方法について、基本的事項を理解している。
2．保育・教育カウンセリングの理論と方法に基づいて、自分の考えを文章で表現することができる。
3．保育・教育カウンセリングの理論と方法に基づいて、根拠を示しながら自分の考えを発言・議論することができる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
保育・教育カウンセリングの理論と方法についての理解度（70%）	授業内容を超えて、自主的な学修ができている。	授業内容についてほぼ 100%理解している。	授業内容について理解しているが、多少不足がある。	授業内容について最低限理解している。	授業内容について理解できていない。
考えを文章で表現する力（レポート）（15%）	説得力のある文章で自分の考えを表現できている。	論理的に矛盾のない文章で自分の考えを表現できている。	文章で自分の考えを表現できている。	文章で自分の考えを最低限表現できている。	文章で自分の考えを表現することができていない。
根拠を示しながら発言・議論する力（15%）	根拠を示しながら説得力のある発言・議論をすることができている。	根拠を示しながら発言・議論をすることができている。	根拠を示しながら発言・議論をすることができているが、多少根拠が乏しい。	最低限の根拠を示しながら発言・議論をすることができている。	根拠を示しながら発言・議論をすることができていない。

評価方法

・課題への取組（レポート等）　70%
　※特に、「グループ・アプローチ」や「個別面接の技法」の課題への取組を重視する。
・授業中の議論や発言等　30%

テキスト

・テキストは使用しない。
・必要に応じてプリントを配布する。

児童文学　～もっと知っておきたい子どもの本の世界～

佐々木美和

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
2年	後期	2	選択	－	選択	選択必修

授業概要

子どもと本との関わりには、必ず保護者や保育者といった大人がその橋渡しを担っている。この授業では、教員や保育士が理解しておくべき児童文学の代表的な作品について講義する。

児童文学の領域は多岐にわたるが、この授業の履修生が卒業後に求められる専門性を意識して、主に「絵本」を例に用いながら説明し、学生が希望するテーマを題材とする作品への探究も行う。また、ブックスタートやブックトークといった児童読書活動についても講義する。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	ガイダンス ・「児童文学」とは
第 2 回	伝承文学 ・日本の昔話について
第 3 回	言葉遊び絵本 ・回文、しりとり、アナグラム、落語など
第 4 回	幼年向け童話① ・宮沢賢治、古田足日、寺村輝夫など
第 5 回	幼年向け童話② ・神沢利子、中川李枝子、海外作品など
第 6 回	海外童話① ・グリム童話
第 7 回	海外童話② ・アンデルセン童話
第 8 回	ファンタジー（日本） ・佐藤さとる、上橋菜穂子など
第 9 回	ファンタジー（海外） ・M.エンデ、A.A.ミルン、ルイス.キャロルなど
第 10 回	マンガ・アニメーション① ・やなせたかし「アンパンマン」
第 11 回	マンガ・アニメーション② ・絵本に繋がるアニメーション作品
第 12 回	ブックスタートからブックトークへ ・保育者の役割
第 13 回	テーマ別絵本探究① ・履修生と相談して決めた「テーマ」に則した絵本について
第 14 回	テーマ別絵本探究② ・履修生と相談して決めた「テーマ」に則した絵本について
第 15 回	テーマ別絵本探究③ ・まとめ（児童文学の保育活用について）

予習・復習

・予習：配布資料や事前に指定された絵本や童話作品を読む

・復習：授業時に配布された絵本を読み、その特徴を授業内容と結びつけて確認する

履修上の注意

・事前に配布された資料や指定された絵本は、必ず読んで授業に臨む。
・授業時にも多くの絵本に目を通してもらう。毎回、講義内容を踏まえて各自の意見の述べる機会を設けるので、主体的・積極的に授業へ参加してもらいたい。
・児童文学のテーマに関連する施設や展覧会等の訪問見学を実施する場合もある。

到 達 目 標

・児童文学、特に幼年向け童話や絵本に関する保育者として求められる知識を身につける。
・多様な絵本やジャンルやテーマを理解し、教育・保育活動で活用する技能を身につける。
・子どもと本を繋げる役割を自覚し、その意欲を高める。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
授業内容理解度（50%）	授業内容はもちろん、それ以上の自主的な学修ができる	授業内容をほぼ100%理解している	授業内容をある程度理解しているが多少の不足がみられる	授業内容について最低限の理解をしている	授業内容の理解ができていない
調査分析力と文章表現力 研究発表・レポート （40%）	執筆要項に則し論理的かつ優れた文章表現で記述できる	執筆要項に従い過不足のない記述ができる	難点はあるが、執筆要項に則った記述ができる	難点は多いが、執筆要項に従い最低限の記述ができる	執筆要項に従わず、記述の質量に大きな難点がある
協働学習力（10%）	履修生同士の学習に積極的に関わり、他者から学ぼうとする	履修生同士の学習において、協力する姿勢がある	協働学習において自分の役割を理解し、それに努める	協働学習において常に受動的な態度だが、活動には参加する	学習に参加しない、または非常に消極的な姿勢が目立つ

評価方法

・発表や意見交換などの授業時の活動　50%
・学期末レポート（授業時の発表内容を含む）40%
・受講態度　10%

テキスト

教科書は使用しない。
必要に応じて資料やワークシートを配布する。

社会福祉論 ～社会福祉の法制度および相談援助について理解する～

西内　俊朗

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
2年	前期	2	選択	－	－	必修

※実務経験のある教員による授業科目

授業概要

・社会福祉の動向、意義、歴史的経緯について講義する。
・子どもの家庭福祉の内容について講義する。
・社会福祉の制度、実施体系、相談援助の内容について講義する。
・社会福祉における利用者保護の内容について講義する。
・障害児者通園施設や医療機関での実務経験に基づき、様々な事例課題を提示してグループワークを指導する。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	保育と社会福祉
第 2 回	社会福祉の理念と概念
第 3 回	欧米における社会福祉の歴史的変遷
第 4 回	日本における社会福祉の歴史的変遷
第 5 回	子ども家庭福祉と社会福祉
第 6 回	社会福祉の法制度と法体系　～子ども、障害者に関連するもの～
第 7 回	社会福祉の法制度と法体系　～高齢者、その他に関連するもの～
第 8 回	社会福祉行財政と実施機関
第 9 回	社会福祉施設、社会福祉専門職
第 10 回	社会保障および関連法制度１
第 11 回	社会保障および関連法制度２
第 12 回	相談援助の理論、意義と機能
第 13 回	相談援助の対象、過程、方法、技術
第 14 回	社会福祉における利用者保護にかかわる仕組み～第三者評価、権利擁護、苦情解決～
第 15 回	これからの社会福祉

予習・復習

・予習：日頃の子育てに関するニュース等に関心を持つようにする。

・復習：毎回の授業で具体的に説明

履修上の注意

・遅刻、早退は3回につき1回の欠席とする。授業回数の3分の2以上の出席がない場合は期末試験を受けることができない。
・毎回の授業で、「授業レポート」を作成して提出。これを評価対象の資料とする。

到 達 目 標

・社会福祉の制度、実施体系、相談援助の方法と技術について理解する
・子どもが健やかに育つ社会のために、求められる社会福祉と保育のあり方を理解する。
・子育てにかかわる現状を自分自身の問題として考え、課題解決に向けた心構えを持つ。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
理解度（　５０%）	授業内容を超えた自主的な学修ができる。	授業内容をほぼ100%理解している。	理解はしているが授業内容の理解に多少不足がある。	授業内容を最低限の理解をしている。	内容についての理解ができていない。
文章で説明する力（レポート）（　３０%）	他人を説得する内容が記述することができる。	論理が通った説明文を記述することができる。	不足する点があるが、説明文を書くことができる。	最低限の内容について説明ができる。	内容についての説明ができない。
課題整理能力（　２０%）	課題整理能力の弱い他者に適切なアドバイスができる。	様々情報を適切に取捨選択して課題を整理することができる。	情報の整理方法に多少の課題があるが他者のアドバイスなしで課題整理できる。	他者のアドバイスを踏まえて課題整理ができる。	他者のアドバイスあっても課題整理ができない。

評価方法

筆記試験　　６０%
授業内レポート　３０%
受講態度　　１０%

テキスト

・教科書名：MINERVA はじめて学ぶ子どもの福祉　社会福祉
・著 者 名：倉石哲也　小崎恭弘
・出版社名：ミネルヴァ書房
・出 版 年（ISBN）：9784623079278

子育て支援　～保育者の専門性を活かした子育て支援の実際～	佐藤　晃子

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
2年	後期	1	選択	－	－	必修

授業概要

本授業では，現代において子育て支援が必要とされる社会的背景や子育てをめぐる現代的課題，そこにおける保育者の役割を踏まえた上で，保育者の専門性を活かした子育て支援（保育相談支援）の特性と展開，具体的な内容，方法について，事例を通して指導する。ケーススタディーをもとに，子育て支援の様々な対象や場面，展開過程等保育者が行う子育て支援の実際と，保護者理解や支援の方法・技術を学ぶ。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	オリエンテーション／子育て支援とは
第 2 回	子ども・子育て家庭の現状と子育て支援の課題
第 3 回	子育て支援の意義
第 4 回	「子どもの最善の利益」の保障と子育て支援
第 5 回	子育て支援の基本的価値・倫理
第 6 回	子育て支援の基本的姿勢
第 7 回	子育て支援の基本的技術
第 8 回	園内・園外との連携と社会資源
第 9 回	記録・評価・研修
第10回	日常会話・文書を活用した子育て支援
第11回	行事などを活用した子育て支援
第12回	環境を活用した子育て支援
第13回	地域子育て支援拠点における支援
第14回	入所・通所施設における子育て支援
第15回	子育て支援と保育者の役割／まとめ

予習・復習

・予習：翌回のテーマに関する内容ついて，自分なりに調べておくこと。

・復習：教科書を読み直し，授業の振り返りとまとめをしておくこと。

履修上の注意

・ 遅刻 3 回で欠席 1 回とする。
・ 遅刻，早退，欠席については，直接担当教員に申し出ること。

到 達 目 標

1) 子育て支援の社会的な必要性やニーズ，そこにおける保育者の役割について理解する。
2) 保育の専門性を背景とした，保育士の保護者に対する相談，情報提供，行動見本の提示等(保育相談支援)について，その特性と展開を理解する。
3) 保育士の行う子育て支援について，様々な場や対象に即した支援の内容と方法及び技術を，事例等を通して具体的に理解する。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
理解度（ワークシートの作成及び提出）（60%）	授業内容を越えた自主的な学習や発展的な議論ができる。	授業内容を十分理解している。	授業内容を理解できていない部分がある。	授業内容をほとんど理解できていない。	授業内容を理解できていない。
自分の考えを論理的に文章で説明する力（ワークシートの作成及び提出）（20%）	授業内容を踏まえた上で，自分の意見を論理的に文章にすることができ，かつ，授業内容を越えた自主的な学習の成果が反映されている。	授業内容を踏まえた上で，自分の意見を論理的に文章にすることができる。	自分の意見を論理的に文章にすることはできているが，授業内容への理解が不足している。	授業内容の理解が不足しており，意見の論述の論理性にも不足が見られる。	授業内容が理解できておらず，意見の論述に論理性もない。
自分の考えを論理的に述べる力（その他課題）（20%）	議論に積極的に参加し，自分の意見を論理的に述べることができる。	自分の意見を論理的に述べることができる。	自分の意見を述べることができるが，やや論理性に欠ける。	自分の意見をほとんど述べることができない。	議論に参加していない。

評価方法

各回のワークシートの作成及び提出　80%
その他課題（授業内の質疑応答，グループディスカッション等）　20%

テキスト

・教科書名：『子育て支援　15 のストーリーで学ぶワークブック』
・著 者 名：二宮祐子
・出版社名：萌文書林
・出 版 年（ISBN）：2020 年（4893472844）

子ども家庭支援の心理学

～子どもの未来を支える家庭支援のあり方を探る～

森本真由美

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
2年	前期	2	選択	－	－	必修

授業概要

本授業では家庭内での子どもの発達や親子関係の影響を多角的に学ぶ。子どもだけでなく、子育てを行う親・家族の視点から子ども家庭支援のあり方を見つめ、支援の目的や機能、支援の実践方法やその課題について講義する。授業ではディスカッションを通じて理解を深め、ミニテストで知識の定着を目指す。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	オリエンテーション　生涯発達：幼児期の発達の特徴と発達課題
第 2 回	生涯発達：学童期の発達の特徴と発達課題
第 3 回	生涯発達：青年期の発達の特徴と発達課題
第 4 回	生涯発達：成人期・老年期の発達の特徴と発達課題
第 5 回	家族・家庭の理解：家族・家庭の意義と機能
第 6 回	家族・家庭の理解：親子関係・家族関係の理解
第 7 回	家族・家庭の理解：子育ての経験と親としての育ち
第 8 回	子育てと家庭に関する現状と課題：子育てを取り巻く社会的状況
第 9 回	子育てと家庭に関する現状と課題：ライフコースと仕事・子育て
第 10 回	子育てと家庭に関する現状と課題：多様な家庭とその理解
第 11 回	子育てと家庭に関する現状と課題：特別な配慮を要する家庭
第 12 回	子どもの精神保健とその課題：子どもの生活・生育環境とその影響①
第 13 回	子どもの精神保健とその課題：子どもの生活・生育環境とその影響②
第 14 回	子どもの精神保健とその課題：子どもの心の健康に関わる問題①
第 15 回	子どもの精神保健とその課題：子どもの心の健康に関わる問題②

予習・復習

・予習：各自、予習課題（ディスカッションテーマ）について調べ、授業内のディスカッションで共有できるよう、自分の考えをまとめておいてください。
・復習：授業内で行うミニテスト（確認テスト）は評価に影響しませんが、ミニテストの内容を復習し、理解を深めるように心がけてください。

履修上の注意

授業中はディスカッションなどへの積極的な参加を期待いたします。
交通機関の遅延等の理由を除いて、20 分以上の遅刻は欠席扱いになります。遅刻 3 回で 1 回の欠席扱いとなり、欠席 6 回以上で単位付与はしません。

到 達 目 標

1．生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得し、初期経験の重要性、発達課題等について理解する。
2．家族・家庭の意義や機能を理解するとともに、親子関係や家族関係等について発達的な観点か理解し、子どもとその家庭を包括的に捉える視点を習得する。
3．子育て家庭をめぐる現代の社会的状況と課題について理解する。
4．子どもの精神保健とその課題について理解する。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
理解度（60%）	授業内容を越えた自主的な学修ができる。	授業内容をほぼ100%理解している。	理解はしているが、授業内容の理解に多少不足がある。	授業内容の最低限の理解をしている。	授業内容についての理解ができていない。
考察力（20%）	授業内容をもとに問題意識を持ち、それについて多方向から考え説明することができる。	授業内容をもとに問題意識を持ち、それについて考えることができる。	授業内容をもとに問題意識を持つことができる。	他者の意見などを参考にすれば、問題意識を持つことができる。	問題意識を持つことができない。
参加意欲度（20%）	課題に対して主体的かつ積極的に取り組み、周囲との協調的な姿勢も持つことができる。	課題に対して主体的かつ積極的に取り組む姿勢が見られる。	課題に対して積極的に取り組もうとしている。	課題に対し、周囲と協調しようとする姿勢が見られる。	課題への取り組みが消極的である。

評価方法

学期末試験 60%、授業毎のリアクションペーパー及びディスカッションへの参加度 40%

テキスト

・授業毎に資料配布
・参考図書：松本峰雄監修『よくわかる！保育士エクササイズ10.子ども家庭支援の心理学演習ブック』ミネルヴァ書房（2022）

子ども家庭福祉　～すべての子どもの育ちを支える福祉～

佐藤　晃子

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
2年	前期	2	必修	－	－	必修

授業概要

本授業では，子どもやその家族を取り巻く社会状況を踏まえた上で，子ども家庭福祉の理念，歴史，制度，実施体系等子ども家庭福祉の基本的な知識について講義する。特に，子ども家庭福祉の中心となる子どもの権利や権利擁護という考え方について，保育者として実践につなげることができるよう，具体的な事例に即して理解を深める。また，現代の子どもをめぐる福祉的な課題について，新聞・雑誌記事や映像資料等を用いてできる限り多くの事例を紹介する。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	オリエンテーション／子ども家庭福祉とは何か
第 2 回	現代社会と子ども家庭福祉
第 3 回	子どもの権利と権利擁護
第 4 回	子ども家庭福祉の成立と展開
第 5 回	子ども家庭福祉の制度と法体系
第 6 回	子ども家庭福祉の機関と施設
第 7 回	子育て支援・次世代育成支援と保育施策
第 8 回	母子保健施策とひとり親家庭への福祉施策
第 9 回	子ども虐待と DV 問題の防止施策
第 10 回	社会的養護を必要とする子どもへの福祉施策
第 11 回	障害のある子どもへの福祉施策
第 12 回	非行問題等を抱える子どもへの支援
第 13 回	子どもと貧困
第 14 回	子ども家庭福祉の専門職と連携
第 15 回	子ども家庭福祉の今後の課題／まとめ

予習・復習

・予習：各回の教科書の該当部分を事前に読み，疑問点について調べておくこと。

・復習：授業のレジュメ，教科書を読み直し，授業の振り返りとまとめをしておくこと。

履修上の注意

・ 遅刻 3 回で欠席 1 回とする。
・ 遅刻，早退，欠席については，直接担当教員に申し出ること。

到 達 目 標

1) 子ども家庭福祉の理念，歴史，制度，実施体系等，子ども家庭福祉の基本的な知識について理解する。
2) 子どもの権利や権利擁護という考え方について，実践と関連づけて理解する。
3) 現代の子どもをめぐる福祉的な課題に関心を深め，現状を理解し，今後のあり方について考察する。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
自分の考えを論理的に文章で説明する力（レポート）（60%）	授業内容を踏まえた上で，自分の意見を論理的に文章にすることができ，かつ，授業内容を越えた自主的な学習の成果が反映されている。	授業内容を踏まえた上で，自分の意見を論理的に文章にすることができる。	自分の意見を論理的に文章にすることはできているが，授業内容への理解が不足している。	授業内容の理解が不足しており，意見の論述の論理性も不足が見られる。	授業内容が理解できておらず，意見の論述に論理性がない。
理解度（その他課題）（20%）	授業内容を越えた自主的な学習や発展的な議論ができる。	授業内容を十分理解している。	授業内容を理解できていない部分がある。	授業内容をほとんど理解できていない。	授業内容を理解できていない。
自分の考えを論理的に述べる力（その他課題）（20%）	授業内容を踏まえ，自分の意見を論理的に述べることができ，かつ，授業内容を越えた発展的な主張を展開できる。	授業内容を踏まえ，自分の意見を論理的に述べることができる。	自分の意見を述べることができるが，授業への理解が不足している。	授業への理解が不足しており，自分の意見もほとんど述べることができない。	授業の内容を理解できておらず，自分の意見も述べることができない。

評価方法

最終レポート　60%
その他課題（リアクションペーパー，グループディスカッション等）　40%

テキスト

・教科書名：『みらい×子どもの福祉ブックス　子ども家庭福祉［第２版］』
・著 者 名：喜多一憲監修，堀場純也編集
・出版社名：みらい
・出 版 年（ISBN）：2024 年（9784860154998）

社会的養護Ⅰ　～こどもの権利擁護と自立支援～

西内　俊朗

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
1年	前期	2	選択	－	－	必修

※実務経験のある教員による授業科目

授業概要

・子どもの養護を担う「社会的養護」、「施設養護」の内容について講義する。
・子どもの「権利擁護」、「自立支援」の内容について講義する。
・児童福祉施設について適切な理解ができるように講義する。
・障害児者通園施設や医療機関での実務経験に基づき、様々な事例課題を提示してグループワークを指導する。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	子どもの社会的養護
第 2 回	日本における社会的養護のしくみ
第 3 回	社会的養護に携わる専門職
第 4 回	家庭支援の理論と実践
第 5 回	家庭的養護の理念と里親制度
第 6 回	乳幼児の生命と健やかな育ちの保障
第 7 回	児童養護施設の歴史と自立支援
第 8 回	非行のある子どもの自立支援
第 9 回	情緒障がいのある子どもの社会的養護
第 10 回	知的障がいのある子どもの社会的養護
第 11 回	身体障がいのある子どもの社会的養護
第 12 回	児童養護施設における子どもの権利擁護
第 13 回	当事者からみた日本の社会的養護
第 14 回	施設の運営
第 15 回	社会的養護の課題と展望

予習・復習

・予習：日頃の子育てに関するニュース等に関心を持つようにする。

・復習：毎回の授業で具体的に説明

履修上の注意

・遅刻、早退は3回につき1回の欠席とする。授業回数の3分の2以上の出席がない場合は期末試験を受けることができない。
・毎回の授業で、「授業レポート」を作成して提出。これを評価対象の資料とする。

到 達 目 標

・社会福祉の制度、実施体系、相談援助の方法と技術について理解する
・子どもが健やかに育つ社会のために、求められる社会福祉と保育のあり方を理解する。
・子育てにかかわる現状を自分自身の問題として考え、課題解決に向けた心構えを持つ。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
理解度（　５０%）	授業内容を超えた自主的な学修ができる。	授業内容をほぼ100%理解している。	理解はしているが授業内容の理解に多少不足がある。	授業内容を最低限の理解をしている。	内容についての理解ができていない。
文章で説明する力（レポート）（　３０%）	他人を説得する内容が記述することができる。	論理が通った説明文を記述することができる。	不足する点があるが、説明文を書くことができる。	最低限の内容について説明ができる。	内容についての説明ができない。
課題整理能力（　２０%）	課題整理能力の弱い他者に適切なアドバイスができる。	様々情報を適切に取捨選択して課題を整理することができる。	情報の整理方法に多少の課題があるが他者のアドバイスなしで課題整理できる。	他者のアドバイスを踏まえて課題整理ができる。	他者のアドバイスあっても課題整理ができない。

評価方法

筆記試験　　６０%
授業内レポート　３０%
受講態度　　１０%

テキスト

授業の中で説明する

社会的養護Ⅱ ～子どもの自立を支援する～

西内　俊朗

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
1年	後期	1	選択	－	－	必修

※実務経験のある教員による授業科目

授 業 概 要

・社会的養護Ⅰで学んだ内容を基礎にして、実践的な能力を培っていけるように講義する。
・教員自身が福祉施設等で勤務した実務経験に基づき、社会的養護の実際場面の事例課題を提示して、グループワークやディスカッションを指導する。
・施設実習の事前学習として、個別支援計画作成、記録の取り方、自己評価の内容について講義する。

授 業 計 画

授業回	授業内容
第 1 回	社会的養護における子どもの理解
第 2 回	日常的支援
第 3 回	治療的支援
第 4 回	自立支援
第 5 回	施設養護の生活特性および実際１
第 6 回	施設養護の生活特性および実際２
第 7 回	施設養護の生活特性および実際３
第 8 回	施設養護の生活特性および実際４
第 9 回	家庭養護の生活特性と実際
第 10 回	アセスメントと個別支援計画の作成
第 11 回	記録および自己評価
第 12 回	保育の専門性に関わる知識・技術と実践
第 13 回	社会的養護に関わる知識・技術と実践
第 14 回	社会的養護における家庭支援
第 15 回	社会的養護の課題と展望

予 習 ・ 復 習

・予習：日々の子育て関係のニュースに関心を持ち、社会的養護に関する理解を深める。

・復習：毎回の授業で具体的に説明

履修上の注意

・遅刻、早退は3回につき1回の欠席とする。授業回数の3分の2以上の出席がない場合は期末試験を受けることができない。
・毎回の授業で、「授業レポート」を作成して提出。これを評価対象の資料とする。

到 達 目 標

・子どもの理解を踏まえた社会的養護の基礎的な内容について具体的に理解する。
・施設養護および家庭養護の実際について理解する。
・社会的養護における計画、記録、自己評価の実際について理解する。
・社会的養護に関わる相談援助の方法、技術について理解する。
・社会的養護における子ども虐待の防止と家庭支援について理解する。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
理解度（　５０%）	授業内容を超えた自主的な学修ができる。	授業内容をほぼ100%理解している。	理解はしているが授業内容の理解に多少不足がある。	授業内容を最低限の理解をしている。	内容についての理解ができていない。
文章で説明する力（レポート）（　３０%）	他人を説得する内容が記述することができる。	論理が通った説明文を記述することができる。	不足する点があるが、説明文を書くことができる。	最低限の内容について説明ができる。	内容についての説明ができない。
課題整理能力（　２０%）	課題整理能力の弱い他者に適切なアドバイスができる。	様々情報を適切に取捨選択して課題を整理することができる。	情報の整理方法に多少の課題があるが他者のアドバイスなしで課題整理できる。	他者のアドバイスを踏まえて課題整理ができる。	他者のアドバイスあっても課題整理ができない。

評価方法

筆記試験　　６０%
授業内レポート　３０%
受講態度　　１０%

テキスト

・教科書名：よくわかる社会的養護Ⅱ
・著 者 名：小木曽宏　宮本秀樹　鈴木崇之
・出版社名：ミネルヴァ書房
・出 版 年（ISBN）：9784623092024

保育原理　～保育の基本的知識や保育実践の基本を理解する～	関根　久美

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
1年	前期	2	必修	－	－	必修

※実務経験のある教員による授業科目

授 業 概 要

幼稚園・ 保育所での保育は、乳幼児期に人間形成の基礎を培う重要な時期であり，子どもの健全な心身の発育を図るためには正しい子ども観と保育観をもち、子どもの発達を見通して発達段階にふさわしいかかわりが保育の基本となる。この授業では、実務経験を活かした教員が保育の現場での実際を通して保育の基本について講義する。また、保育の歴史についても文献調査、教具の使用などにより、保育の成り立ちを理解できるよう指導する。

授 業 計 画

授業回	授業内容
第 1 回	オリエンテーション ・講義の概要説明/保育原理とは（現代の子どもの生活環境）
第 2 回	保育の理念と子ども ・保育をめぐる理念と子どもとのかかわりについて学ぶ
第 3 回	保育思想の変遷（西洋） ・欧米における保育思想について、歴史や意義、思想を学ぶ
第 4 回	保育思想の変遷（日本） ・日本における保育思想について、歴史や意義、思想を学ぶ
第 5 回	保育士の専門性と役割 ・保育専門職のひとつである保育士について、意義・役割・専門性について学ぶ
第 6 回	保育所の役割と保育の本質 ・児童福祉施設としての保育所における役割とその本質について学ぶ
第 7 回	保育と環境 ・保育の環境（物的・人的・自然・社会的・文化的）について理解する
第 8 回	子どもの発達過程と保育 ・乳児から幼児の発達過程と保育の方法について学ぶ
第 9 回	保育と遊び ・保育における遊びの意義や役割を学ぶ。
第 10 回	保育の計画・評価 ・保育における指導計画（全体的な計画）の意義や評価について学ぶ
第 11 回	家庭・地域との連携 ・保護者との連携、災害時等での地域との連携の重要性にっついて学ぶ
第 12 回	多様な保育ニーズ ・障害、外国籍、貧困など様々な観点から、保育ニーズについて学ぶ
第 13 回	日本における保育施策の現状と課題 ・子ども子育て支援新制度等、日本における保育施策の現状とその課題について学ぶ
第 14 回	日本における保育制度 ・幼稚園・保育所の相違や設置基準等、日本における保育制度の現状とその課題について学ぶ
第 15 回	まとめ

予 習 ・ 復 習

・予習：各回でのトピックについて教科書を中心に読み込むとともに、不明確な点については文献、インター ネット等で確認する。

・復習：ノートやプリント等で振り返りをしつつ、不足分について関連文献を読み込み、資料収集を行い、成果の定着を図る。

履修上の注意

・保育士を志す学生との自覚を持ち、積極的に授業に参加すること。
・教科書・資料のプリントをファイルにまとめ、常に持参すること。

到 達 目 標

・保育･教育に関する思想や歴史から保育の意義を理解する。
・保育の基本を理解し､保育目標や内容･方法を考察できる。
・保育の現状や課題について説明できる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
理解度（40%）	授業内容を越えた自主的な学修ができる。	授業内容をほぼ100%理解している。	理解はしているが授業内容の理解に多少不足がある。	授業内容を最低限の理解をしている。	内容についての理解ができていない。
課題解法能力（30%）	解法が分からない他人にアドバイスができる。	何も参照せずに独自の能力で課題を解くことができる。	参考書や教科書を参考にすれば、独自で課題を解くことができる。	他者のアドバイスがあれば課題を解くことができる。	他者のアドバイスがあっても自発的に課題を解くことができない。
解法を文章で説明する力（レポ ―ト）（30%）	他人を説得する内容を記述することができる。	論理が通った説明文を記述することができる。	不足する点があるが、説明文を書くことができる。	最低限の内容について説明ができる。	内容についての説明ができない。

評価方法

・授業への参加姿勢（10%）課題レポートの提出（30%)、試験（60%）で評価を行い、

総合評価 60 点以 上を合格点とする。

テキスト

教科書名：保育原理

参考文献：保育所保育指針解説書・幼稚園教育要領解説書

子どもの保健　～子どもの健康を育むための知識を学ぶ～

鈴木香代子

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
1年	前期	2	選択	－	－	必修

授 業 概 要

乳幼児期は心身の著しい成長発達を遂げる時期であり、生涯にわたる健康の基礎を育む重要な時期でもある。子どもの健やかな成長発達、健康を育むためには、保育者として必要な知識を身につけ、子どもやその家族への適切な対応方法を理解しておく必要がある。子どもの保健の授業では、講義を通して、保育における保健活動に必要な基本的知識を学習する。また、保育士として必要な保健の知識を実践に結び付けられるよう、保育場面でよくある事例を通して理解を深めていく。

授 業 計 画

授業回	授業内容
第 1 回	オリエンテーション 子どもの保健とは
第 2 回	保健活動の意義と目的 子どもの出生と母子保健の意義
第 3 回	子どもの保健の諸統計（人口統計、母子保健統計と子どもを取り巻く社会）
第 4 回	子どもの成長発達の特徴 子どもの身体発育とその評価
第 5 回	子どもの生理機能の発達①（人の体の仕組み、子どもの呼吸、体温、循環機能）
第 6 回	子どもの生理機能の発達②（子どもの消化吸収、排泄機能、睡眠）
第 7 回	子どもの運動機能、感覚機能の発達
第 8 回	子どもの精神発達 子どもの成長発達についてのまとめ
第 9 回	子どもの健康観察と体調不良時のサイン 感染症の基礎知識
第 10 回	子どもによくある感染症
第 11 回	子どもによくある感染症と予防
第 12 回	子どもによくある病気の特徴と対応
第 13 回	アレルギー疾患の特徴と対応
第 14 回	子どもの心の健康
第 15 回	授業のまとめ

予 習 ・ 復 習

・予習：授業にて指示した内容について予習を行う。

・復習：授業での配布資料の該当箇所を確認し、学習内容を復習する。
　　Microsoft Forms を使用した確認問題の復習を行う。

履修上の注意

主体的に授業に参加してください。
課題等の提出期限は必ず守ってください。

到 達 目 標

1. 子どもの健康と保健の意義について理解できる。
2. 子どもの保健の諸統計から、子どもを取り巻く社会環境に関心をもつことができる。
3. 子どもの基本的な成長発達について理解することができる。
4. 子どもの健康状態把握のための観察ポイントを理解できる。
5. 子どもによくある病気の特徴や基本的な対応方法を理解することができる。
6. 現代社会と子どもの心の健康について関心をもつことができる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
子どもの保健に関する知識の理解度（70%）	授業内容を超えた自主的な学修ができている。	授業内容をほぼ100%理解できている。	授業内容を概ね理解できているが、多少の不足がある。	最低限の授業内容を理解しているが、不足がある。	授業内容が理解できていない。
課題への取り組み（15%）	自分の考えを含めて非常にわかりやすく課題をまとめることができている。	自分の考えも含めてわかりやすく課題をまとめることができている。	課題をまとめることができているが、自分の考えがやや不足している。	課題をまとめることができているが、内容が不足している。	課題を適切にまとめることができていない。
授業への取り組み（15%）	授業内容に関心をもち、非常に積極的に授業に参加している。	授業内容に関心をもち、積極的に授業に参加している。	授業内容に関心はあるが、積極性にやや欠けている。	授業内容への関心がやや欠けており、積極性もやや欠けている。	授業内容に関心がなく、積極的に学ぶ姿勢がない。

評価方法

期末試験 70%、課題 15%、授業への取り組み 15%

テキスト

指定テキストなし

子どもの健康と安全

～子どもの健康を育むための援助を理解する～

鈴木香代子

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
1年	後期	1	選択	－	－	必修

授業概要

子どもの健やかな健康を育むためには、保育士として適切な知識や援助技術が求められる。この科目では、子どもの保健での学びをもとに、個々の子どもに応じた保健的対応や集団全体の健康管理および安全対策の視点から、子どもの健康管理、感染症防止対策、事故防止対策、危機管理対策等について具体的に学習していく。また、保育士として必要な保健の知識・援助技術を実践に結び付けられるよう、保育場面でよくある事例を交えながら学習した知識の理解を深めていく。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	オリエンテーション 保健的観点を踏まえた保育環境と援助
第 2 回	子どもの健康と保育所における衛生管理
第 3 回	3歳未満児への生活の援助と保健的対応① （子どもの手洗い、歯磨きの援助技術について）
第 4 回	3歳未満児への生活の援助と保健的対応② （0歳児の安全管理と清潔を保つための援助について）
第 5 回	3歳未満児への生活の援助と保健的対応② （0歳児の清潔を保つための援助について）
第 6 回	子どもの身体計測とその評価 子どもの健康観察と異常の早期発見
第 7 回	子どもの体調不良時の対応
第 8 回	子どものけがの対応と応急処置
第 9 回	子どもの救急処置と救急蘇生法
第 10 回	個別的な配慮を必要とする子どもへの対応① （アレルギー疾患への対応）
第 11 回	個別的な配慮を必要とする子どもへの対応② （慢性疾患や医療的ケアが必要な子どもへの対応）
第 12 回	子どもの保健と保育所における感染症対策
第 13 回	保育所における安全管理と危機管理対策
第 14 回	子どもの健康と保健活動
第 15 回	授業のまとめ

予習・復習

・予習：テキストの該当箇所を読み、予習をする。

・復習：授業での配布資料やテキストの該当箇所を確認し、学習内容を復習する。
Microsoft Forms を使用した確認問題の復習を行う。

履修上の注意

主体的に授業に参加してください。
課題等の提出期限は必ず守ってください。

到 達 目 標

1. 保健的観点を踏まえた保育環境や援助について理解することができる。
2. 子どもの健康観察方法、子どもの体調不良やけが等に対する適切な対応について具体的に理解することができる。
3. 子どもの発達に応じた生活の援助と保健的対応を理解することができる。
4. 保育所における感染症対策、アレルギー対策、安全管理について、関連するガイドラインをもとに具体的に理解することができる。
5. 子どもの健康および安全にかかわる組織的な対応や保健計画の立案から評価までの一連の過程を理解することができる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
子どもの健康と安全に関する知識（60%）	授業内容を超えた自主的な学修ができている。	授業内容をほぼ100%理解できている。	授業内容を概ね理解できているが、多少の不足がある。	最低限の授業内容を理解しているが、不足がある。	授業内容が理解できていない。
課題への取り組み（20%）	自分の考えを含めて非常にわかりやすく課題をまとめることができている。	自分の考えも含めてわかりやすく課題をまとめることができている。	課題をまとめることができているが、自分の考えがやや不足している。	課題をまとめることができているが、内容が不足している。	課題を適切にまとめることができていない。
授業（講義・演習）への取り組み（20%）	授業内容に関心をもち、非常に積極的に授業に参加している。	授業内容に関心をもち、積極的に授業に参加している。	授業内容に関心はあるが、積極性にやや欠けている。	授業内容への関心がやや欠けており、積極性もやや欠けている。	授業内容に関心がなく、積極的に学ぶ姿勢がない。

評価方法

期末試験 60%、課題 20%、授業への取り組み 20%

テキスト

・教科書名：子どもの健康と安全演習ノート　改訂第３版
・著 者 名：小林　美由紀（編著）
・出版社名：診断と治療社
・出 版 年（ISBN）：2024 年（ISBN 978478782702）

子どもの食と栄養Ⅰ

～栄養の基本を知ろう、乳幼児の食生活について考えよう～

中西由季子

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
1年	前期	1	選択	－	－	必修

授業概要

子どもの食と栄養Ⅰの授業では、まず現在の子どもの食生活の現状から問題点を把握し、改善すべき点について講義する。次に栄養に関する基礎知識を身につけ、子どもの発育・発達に必要な栄養（胎児期・離乳期・幼児期）について講義する。離乳期・幼児期の栄養に関しては講義だけではなく、調乳や離乳食の調理についても学び、実践できる力を養うために指導する。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	ガイダンス　子どもの健康と食生活の意義①　保育士がなぜ健康や栄養のことを学ぶのか、ブロックを使用して問いに対応した作品を作成し、グループ内で対話を行う。
第 2 回	子どもの健康と食生活の意義②　現在の子どもの食生活の現状から問題点を把握し、改善すべき点について講義する。
第 3 回	栄養に関する基本的知識　栄養の基本、消化と吸収　栄養と栄養素の違いや消化吸収の仕組みについて講義する。
第 4 回	栄養に関する基本的知識　栄養素１　主要栄養素（炭水化物・脂質・タンパク質）について講義する。
第 5 回	栄養に関する基本的知識　栄養素２　ビタミン(脂溶性・水溶性)について講義する。
第 6 回	栄養に関する基本的知識　栄養素３　ミネラルについて講義する。
第 7 回	栄養に関する基本的知識　栄養バランスのとれた食事、調理の基本　栄養バランスのとれた食事とはどのような食事なのか、食事摂取基準や食事バランスガイドについて講義する。調理の基本についても講義する。
第 8 回	子どもの発育・発達と食生活　小児期の発育と発達　小児期の発育と発達について講義する。
第 9 回	子どもの発育・発達と食生活　妊娠・授乳期の栄養　妊娠期・授乳期の母親に必要な栄養について講義する。
第 10 回	子どもの発育・発達と食生活　乳児期 乳汁栄養　乳児に必要な栄養について講義し、ブロックを使って作品を作り、乳児について考え言語化し、グループ内で対話する。
第 11 回	子どもの発育・発達と食生活　乳児期 調乳　調乳について講義し、問いづくりの手法を用いながら、調乳について理解を深める。
第 12 回	子どもの発育・発達と食生活　乳児期 離乳栄養　離乳期と離乳栄養について講義する。
第 13 回	子どもの発育・発達と食生活　乳児期 離乳食とベビーフード　離乳食について講義し、実際に月齢別の離乳食の作成について指導する。
第 14 回	子どもの発育・発達と食生活　幼児期の食生活　幼児期の食生活の特徴について講義する。
第 15 回	子どもの発育・発達と食生活　幼児期の食事　幼児期の食事・栄養について講義し、ブロックを使って作品を作り、幼児期の食事について考え言語化し、グループ内で対話する。

予習・復習

・予習：次の授業内容に該当する部分の教科書を読んでくること。

・復習：事後学習として出された課題は必ず取り組むこと。

履修上の注意

・授業には積極的に参加すること。私語、居眠りをしないこと。
・課題等の提出期限を遵守すること。
・スマートフォンの利用については指示のあったとき以外は認めない。
・遅刻・早退は 30 分以内、それ以降は欠席とする。
・遅刻 3 回で欠席 1 回分とするので注意すること。

到 達 目 標

・子どもを取り巻く環境について考え、子どもの食生活の現状と課題について理解できる。
・栄養学の基本的な知識を身につけ、乳児期および幼児期の栄養と食生活について理解できる。
・調乳および離乳食の作成が実践できる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
子どもの食生活の現状と課題について理解する（10%）	自分で子どもの食生活の現状を情報収集し、課題をみつけ、解決策を提案できる。	子どもの食生活の現状を理解でき、課題に対する解決策を提案できる。	子どもの食生活の現状を理解でき、課題もわかる。	子どもの食生活の現状を理解できるが、課題が何かわからない。	子どもの食生活の現状がわからない。
栄養について理解する（10%）	栄養について、授業内容を越えた自主的な学修ができる。	食品に入っている栄養素を理解できる。	5 大栄養素の働きを理解している。	5 大栄養素を言うことができる。	5 大栄養素がわからない。
栄養バランスのよい食事について理解する（10%）	栄養バランスについて、授業内容を越えた自主的な学修ができる。	栄養バランスのとれた食事を具体的に考えることができる。	栄養バランスのとれた食事がわかる。	栄養バランスはわかるが、バランスのよい食事がどのようなものかわからない。	栄養バランスとは何かわからない。
乳児期、幼児期の栄養について理解する（10%）	乳児期、幼児期の栄養について授業内容を越えた自主的な学修ができる。	乳児期、幼児期の栄養について理解しており、調乳・調理することができる。	調乳・離乳食の作り方がわかる。	各時期にどのような食事を摂取するか理解できる。	乳児期、幼児期の食事についてイメージできない。
課題解法能力（60%）	授業内課題を提出しており、小テストの正答率が 80 点以上である。	授業内課題を提出しており、小テストの正答率が 60 点以上である。	授業内課題を提出しており、小テストの正答率が 40 点以上である。	授業内課題を提出しており、小テストの正答率が 20 点未満である。	授業内の課題を提出していない。小テストの正答率が 20 点未満である。

評価方法

受講態度 10%＋課題レポート 20%、学期末試験 70%

テキスト

・教科書名：子どもの食と栄養第 2 版
・著 者 名：太田百合子　堤ちはる
・出版社名：羊土社
・出 版 年（ISBN）：2023（978-4-7581-0911-6）

子どもの食と栄養Ⅱ　～食育を実践しよう、特別な配慮を必要とする子供の食生活について考えよう～

中西由季子

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
2年	後期	1	選択	－	－	必修

授業概要

食育基本法や子どもの食の問題点や改善点について、食育を実践する手法について講義する。食育活動について企画書を作成し、自作の食育活動媒体を作成し、プレゼンテーションを実施するための指導をする。また、食の安全（食中毒)、アレルギー疾患や障がいのある子どもの食と栄養についても講義する。被災時に役立つ食事をつくることができるように指導する。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	ガイダンス・子どもの食と栄養Ⅰの復習　ブロックを使って作品を作成し、子どもの食と栄養Ⅰを振り返り、グループ内で対話を行う。
第 2 回	子どもの発育・発達と栄養・食生活　学童・思春期の食事　学童期・思春期の男女の成長の違いを含め栄養・食事について講義する。
第 3 回	成人の栄養・食生活　生活習慣病や高齢期のフレイルと食の関係について講義し、日常生活活動調査および食生活の 24 時間思い出しにより、自分の必要なエネルギー量を知り、普段の自分の食事の栄養バランスの状態を知ることができるように指導する。
第 4 回	食育の基本と実践　食育の基本と事例紹介など講義する。
第 5 回	食育について計画する①　食育活動計画書について講義する。
第 6 回	食育について計画する②　食育活動計画書について講義し、各自で作成できるように指導する。
第 7 回	食の安全（食中毒）　食中毒の原因となる微生物や事例紹介など講義をする。
第 8 回	防災食ワークショップ　ローリングストック法による防災食備蓄法を紹介し、被災時に活用できるポリ袋クッキングによる親子丼とライスペーパー大福の調理を指導する。
第 9 回	SDGs と食育　2030SDGs カードゲームを実施し、SDG s と教育・子どもの栄養について体感できるように指導する。
第 10 回	児童福祉施設や家庭における食と栄養　児童福祉施設にはどのような施設が含まれるのか、どのような給食運営が行われるのか講義する。
第 11 回	食育発表会１　第 6 回から計画・準備してきた食育活動について、デモンストレーションも含め一人 5 分のプレゼンテーションを行う。
第 12 回	食育発表会２　第 6 回から計画・準備してきた食育活動について、デモンストレーションも含め一人 5 分のプレゼンテーションを行う。
第 13 回	特別な配慮を要する子どもの食と栄養①食物アレルギーのある子どもへの対応　食物アレルギーの仕組みとアレルギー症状が発症しないような予防法について講義する。
第 14 回	特別な配慮を要する子どもの食と栄養②障がいのある子どもへの対応　発達障害の子どもの食に関する対応について講義する。
第 15 回	特別な配慮を要する子どもの食と栄養③体調不良および疾患の子どもへの対応　体調不良および疾患の子どもへ注意すべきポイントについて講義し、ブロックを使って作品を作り、グループ内で対話する。

予習・復習

・予習：次の授業内容に関して教科書を読み、わからないことをチェックしておくこと。

・復習：事後学習として出された課題は必ず取り組むこと。

履修上の注意

・子どもの食と栄養Ⅰを履修していること。
・授業には積極的に参加すること。
・私語、居眠りをしないこと。
・課題等の提出期限を遵守すること。
・スマートフォンの利用については指示のあったとき以外は認めない。
・遅刻・早退は 30 分以内、それ以降は欠席とする。
・遅刻 3 回で欠席 1 回分とするので注意すること。

到 達 目 標

学童期、思春期、成人期の栄養と食生活について理解し、実践できる。
なぜ食育が必要なのか理解することができ、実際に食育を行うことができる。
疾患のある子ども、特別な配慮の必要な子どもへの対応ができる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
学童期、思春期の栄養と食生活について理解する。（１０%）	学童期、思春期の栄養、食生活について授業内容を越えた自主的な学修ができる。	学童期、思春期の食生活の問題点について考え、解決するための取り組みを実践できる。	学童期、思春期の食生活の問題点について考え、解決策を検討することができる。	学童期、思春期の食生活の問題点について考えることができる。	学童期、思春期の栄養、食生活について理解できない。
学童期、成人期の栄養と食生活について理解する。（５%）	成人期の栄養、食生活について授業内容を越えた自主的な学修ができる。	成人期の食生活の問題点について考え、解決するための取り組みを実践できる。	成人期の食生活の問題点について考え、解決策を検討することができる。	成人期の食生活の問題点について考えることができる。	成人期の栄養、食生活について理解できない。
食育活動が実践できる（課題解法能力）（50%）	積極的に食育の取り組みについて実践することができる。	子どもの食に関する問題点について考え、解決するための取り組みを実践できる。	子どもの食に関する問題点について考え、解決策を検討することができる。	子どもの食に関する問題点について考えることができる。	なぜ食育が必要なのかわからない。
特別な配慮を要する子どもの食と栄養について理解する（１５%）	特別な配慮を要する子どもの食と栄養について授業内容を越えた自主的な学修ができる。	特別な配慮を要する子どもの食と栄養について考えることができる。	特別な配慮を要する子どもの食と栄養が理解できる。	特別な配慮を要する子どもについて理解できる。	特別な配慮とはなにかについて理解できない。
文章で説明する力（レポート）（２0%）	他人を説得する内容を記述することができる。	論理が通った説明文を記述することができる。	不足する点があるが、説明文を書くことができる。	最低限の内容について説明ができる。	内容についての説明ができない。

評価方法

レポート（課題、食育指導案、調理実習レポート）60%、食育発表 20%、最終レポート 20%

テキスト

・教科書名：子どもの食と栄養第 2 版
・著 者 名：太田百合子　堤ちはる
・出版社名：羊土社
・出 版 年（ISBN）：2023（978-4-7581-0911-6）

乳児保育Ⅰ　～乳児保育の基本を理解する～	関根　久美

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
1年	前期	2	選択	－	－	必修

※実務経験のある教員による授業科目

授業概要

教科書解説、実務経験を活かした教員の解説、DVD視聴、などから、乳児保育の理念、基本について講義する。乳児の発達や援助方法などを理論的に理解できるよう講義する。また、学生同士のディスカッションも行う。講義だけでなく、具体的な保育実践について現場での実践に基づいて指導する。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	オリエンテーション、乳児保育の意義・目的・歴史的変遷について
第 2 回	乳児保育の役割と機能について
第 3 回	日本の保育・子育ての支援のシステム
第 4 回	保育所における乳児保育、保育内容（養護と教育)、保育士の役割
第 5 回	3歳未満児とその家族をとりまく環境と子育て支援について
第 6 回	これからの日本の乳児保育の課題について
第 7 回	3歳未満児の発育・発達を踏まえた生活と遊びの援助①
第 8 回	3歳未満児の発育・発達を踏まえた生活と遊びの援助②
第 9 回	3歳未満児の発育・発達を踏まえた生活と遊びの援助③
第10回	3歳未満児の発育・発達を踏まえた生活と遊びの援助④
第11回	乳児保育における環境（安全・清潔など）について
第12回	乳児保育における環境（人・物・自然・社会事象）について
第13回	乳児保育における計画・記録・評価について
第14回	乳児保育における連携・協働について
第15回	振り返りとまとめ

予習・復習

・予習：保育所保育指針、教科書を読んでおく。

・復習：授業内容のプリント、ノートを整理し、重要事項をチェックする。

履修上の注意

保育士を志す学生として主体的・積極的に授業に参加すること。

到 達 目 標

１、乳児保育の意義・目的と歴史的変遷及び役割などについて理解する。
２、保育所をはじめとする多様な保育の場における乳児保育の現状と課題について理解する。
３、3 歳未満児の発育・発達を踏まえた保育の内容と運営体制について理解する。
４、乳児保育における職員間の連携・協働及び保護者や地域の関係機関との連携について理解する。
５、乳児の遊びについて理解し、実践に繋げる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
乳児保育の意義と目的の理解（ 10%）	授業内容を超えた学修ができる	授業内容を100%理解している。	授業内容に興味関心をもち、理解するよう努める。	授業内容に興味関心が薄く、理解が浅い。	授業内容に興味関心がなく、理解ができない。
多様な保育現場の現状と課題の理解（ 10%）	多様な保育現場について自ら調査をし、現状の理解ができる。	多様な保育現場について理解している。	多様な保育現場について興味関をもち、理解するよう努める。	多様な保育現場について興味関心が薄く、理解が浅い。	保育現場に興味がなく、理解ができない。
3 歳未満児の発育発達の理解（ 50%）	3 歳未満児の発達について様々な情報を入手して理解ができる。	3 歳未満児の発育発達について授業により理解できる。	3 歳未満児の発達発育に興味をもち、理解するよう努める。	3 歳未満児に興味関心が薄く、教員の助言により理解する。	3 歳未満児に興味がなく、理解ができない。
保育実技の実践（ 10%）	授業を超えた自主的な学修をして保育実践ができる。	声や表情に配慮した保育実技の実践ができる。	一人で保育実技の実践ができる。	周囲の人と共に保育実技の実践ができる。	保育実技の実践ができない。
課題作品への取り組み（ 20%）	課題以上の工夫を凝らした作品作りに取り組む。	課題作品に前向き丁寧に取り組む。	課題作品に取り組む。	課題作品に雑な取り組みが見られる。	課題作品に取り組まない。

評価方法

試験　70%　　課題の評価　20%　　授業態度　10%

テキスト

・教科書名：乳児保育の基礎と実践
・著 者 名：関根久美　山本智子
・出版社名：大学図書出版
・出 版 年：2020 年（ISBN：978-4-909655-20-2）

乳児保育Ⅱ　～乳児保育の実践～	関根　久美

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
1年	後期	1	選択	－	－	必修

※実務経験のある教員による授業科目

授業概要

乳児保育Ⅰで学習した理論を実践していくための指導をする。保育現場において保育方法の技術が向上するよう、実務経験を活かした具体的な実践方法を指導する。学生同士の意見交換や発表の場を多く設け、学生自らが考え、理論と実践が伴った保育ができるよう指導する。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	オリエンテーション　子どもと保育士等との関係の重要性
第 2 回	子どもの主体性の尊重と自己の育ち　子どもの体験と学びの芽生え
第 3 回	子どもの1日の生活の流れと保育の環境 子どもの生活や遊びを支える環境構成
第 4 回	3歳未満児の発育・発達を踏まえた生活と援助の実際①（抱っことおんぶ）
第 5 回	3歳未満児の発育・発達を踏まえた生活と援助の実際②（着替えとおむつ替え）
第 6 回	3歳未満児の発育・発達を踏まえた生活と援助の実際③（調乳と授乳）
第 7 回	3歳未満児の発育・発達を踏まえた生活と援助の実際④（おもちゃ作成）
第 8 回	3歳未満児の発育・発達を踏まえた生活と援助の実際⑤（おもちゃ作成と実践）
第 9 回	子ども同士の関わりとその援助の実際 集団での生活における配慮
第 10 回	長期的な指導計画　個別的な指導計画と集団の指導計画
第 11 回	短期的な指導計画の作成
第 12 回	指導計画の実践①
第 13 回	指導計画の実践②
第 14 回	指導計画の実践③
第 15 回	振り返りとまとめ

予習・復習

・予習：実践のための計画を立て、準備しておく。

・復習：授業での実践を各自、自宅、実習などで実践する。

履修上の注意

保育士を志す学生として主体的・積極的に授業に参加すること

到 達 目 標

１、3 歳未満児の発育・発達の過程や特性を踏まえた援助や関わりの基本的な考え方について理解する。
２、養護及び教育の一体性を踏まえ、3 歳未満児の子どもの生活と遊びと保育の方法及び環境について、具体的に理解する。
３、乳児保育における配慮の実際について、具体的に理解する。
４、上記 1～３を踏まえ、乳児保育における計画の作成について、具体的に理解し実践する。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
3 歳未満児の援助の考え方について理解する（ 30%）	3 歳未満児の援助について積極的に情報を入手し理解ができる。	3 歳未満児の援助方法の考え方が授業により理解できる。	3 歳未満児の援助方法が理解できる。	3 歳未満児の援助方法について理解が薄い。	3 歳未満児の援助についての理解ができていない。
養護と教育の一体性を踏まえた保育方法について理解する。（ 30%）	養護と教育の一体性を踏まえた保育方法を保育所の役割を把握の上理解できる。	養護と教育の一体性を踏まえた保育方法を理解できる。	養護と教育の一体性を踏まえた保育の理解は薄いが、保育方法については理解できる。	養護と教育の一体性を踏まえた保育についての理解が乏しく、保育方法の理解が難しい。	保育所保育に興味がなく、保育方法を理解できない。
乳児の遊びにおいての活動の実践（ 20%）	子どもの発達に即した方法で実践を行い、臨機応変な対応ができる。	指導案に即した実践を積極的な態度で実践する。	指導案に即した実践ができるが、消極的である。	指導案に即した実践ができない。	実践ができない。
乳児保育における指導計画（ 10%）	指導計画の学習を理解し、詳細で綿密な指導計画の立案ができる。	指導計画の学習を理解し、指導計画の立案ができる。	テキスト等から情報を入手し、指導計画の立案ができる。	教員の助言を受け、指導計画の立案ができる。	指導計画について理解ができず、立案ができない。
保育実践に対する積極性（ 10%）	子どもの前に立つ保育士の在り方を理解し、実践に取り組む。	自らが楽しんで保育実践に取り組む。	周囲の人の助言を受け保育実践に取り組む。	保育実践に取り組む態度が消極的である。	保育実践に取り組まない。

評価方法

試験 60%　保育実践 20%　指導計画 10%　授業態度 10%

テキスト

・教科書名：乳児保育の基礎と実践
・著 者 名：関根久美　山本智子
・出版社名：大学図書出版
・出 版 年 2020 年（ISBN：978-4-909655-20-2）

特別支援論Ⅰ（対象理解）　～特別支援教育の基礎・基本～

井上　昌士

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
1年	後期	1	選択	必修	必修	必修

※実務経験のある教員による授業科目

授業概要

障害のある子どもに関わる教師や保育士として必要な特別支援教育の基礎的事項について、次の 3 点を重点的に学ぶ。

- 障害児理解と支援方法に関する基礎的事項
- 多様な学びの場における障害のある子どもの教育課程や実践内容
- 特別支援教育の現状と課題、関連する諸制度

これらの内容について、公立特別支援学校での教育実践や国立特別支援教育研究所での研究活動などの実務経験を基に詳しく講義する。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	オリエンテーション：障害児・者との関わりと特別支援教育の理念 ※シラバス、授業の進め方の説明及び自分と障害児・者との今までの関わりについて確認する。
第 2 回	障害児教育の歴史と特別支援教育の現状 ※世界と日本における障害児教育の歴史を学び、障害の捉え方の変化について学ぶ。
第 3 回	視覚障害，聴覚障害の特性の理解と支援 ※視覚障害，聴覚障害の定義及び特性について理解し、その具体的な支援方法について学ぶ。
第 4 回	知的障害の特性の理解と支援 ※知的障害の定義及び特性について理解し、その具体的な支援方法について学ぶ。
第 5 回	肢体不自由，病弱・身体虚弱の特性の理解と支援 ※肢体不自由，病弱・身体虚弱の定義及び特性について理解し、その具体的な支援方法について学ぶ。
第 6 回	言語障害，情緒障害の特性の理解と支援 ※言語障害，情緒障害の定義及び特性について理解し、その具体的な支援方法について学ぶ。
第 7 回	発達障害①：自閉症の特性の理解と支援Ⅰ ※社会性の障害、コミュニケーションの障害の特性について理解し、その具体的な支援方法について学ぶ。
第 8 回	発達障害②：自閉症の特性の理解と支援Ⅱ ※想像力の障害、感覚過敏等の特性について理解し、その具体的な支援方法について学ぶ。
第 9 回	発達障害③：学習障害の特性の理解と支援 ※LD の定義と特性について理解し、その具体的な支援方法について学ぶ。
第 10 回	発達障害④：注意欠陥／多動性障害等の特性の理解と支援 ※ADHD の定義と特性について理解し、その具体的な支援方法について学ぶ。
第 11 回	共生社会の形成とインクルーシブ教育システムの構築に関する理解 ※インクルーシブ教育の背景やその理念の概要について学ぶ。
第 12 回	連続性のある多様な学びの場①　特別支援学校における指導の実際 ※特別支援学校の位置付けや対象障害種、教育課程等の概要について学ぶ。
第 13 回	連続性のある多様な学びの場②　特別支援学級における指導の実際 ※特別支援学級の位置付けや対象障害種、教育課程等の概要について学ぶ。
第 14 回	連続性のある多様な学びの場③　通級による指導，通常の学級での特別支援教育 ※通級による指導の位置付けや対象障害種、教育課程等の概要及び通常の学級における取組について学ぶ。
第 15 回	まとめ：特別支援教育を巡る状況の変化

予習・復習

- 予習：授業で取り扱う内容について，書籍やインターネットや新聞，TV 等を活用して情報収集を行う。
- 復習：資料（PPT スライド等）を用いて学んだ内容を整理して確認する。

履修上の注意

- 授業中の基本的マナーを守ること
- 授業遅刻３回で欠席１回とする。
- 遅刻、早退、欠席については直接担当教員に申し出ること。
- やむを得ず授業を欠席した場合は，必ず授業資料を受け取りに来ること。

到 達 目 標

- 障害や特別支援教育についての基礎・基本を理解する。
- 特別支援教育を巡る状況や現状の概要を理解する。
- 連続性のある多様な学びの場の概要を理解する。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
知識/理解度<何を理解しているか>（60%）	授業で扱った特別支援教育に係る基礎・基本的事項等に関する知識を理解しているとともに、実習等に活用できるレベルに達している。	授業で扱った特別支援教育に係る基礎・基本的事項等に関する知識を理解し、実習等への活用が期待できる。	授業で扱った特別支援教育に係る基礎・基本的事項等に関する知識は概ね理解しているが、不十分な内容がある。	授業で扱った特別支援教育に係る基礎・基本的事項等関する知識を最低限理解している。	授業で扱った特別支援教育に係る基礎・基本的事項等関する知識を理解するに至っていない。
レポート・発表力<思考・判断・表現：理解したことをどう使うか>（20%）	授業で習得した知識等をいかして、レポートや発表の内容が根拠に基づいて明確に示されている。	レポートや発表の内容が、授業で習得した知識等を踏まえて示されている。	レポートや発表の内容が、授業で習得した知識等を踏まえて示されているが、不十分な内容がある。	レポートや発表の内容が、十分に課題と関わっていない。	レポートや発表の内容が、課題と関わっていない。
主体的に学ぶ態度（どのように学びと向き合うか）（20%）	積極的に授業に参加するとともに、自らの学習状況を把握し、よりよく学ぼうとする意欲をもって取り組んでいる。	積極的に授業に参加し、理解したことを学びに生かそうと努力している。	授業に参加しているがやや積極性に欠け、理解したことを学びに生かそうすることがあまり見られない。	主体的に学ぶ態度にやや欠ける面が見られる。	主体的に学ぶ態度が見られない。

評価方法

学期末試験　60%
提出物，授業内レポート等 20%
受講態度　20%

テキスト

- 教科書は使用しないが，各回資料（PPT スライド等）を配布する。

特別支援論Ⅱ（乳･幼児への支援方法）　～特別な支援を要する乳・幼児への適切な支援を行うために～

井上　昌士

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
2年	前期	1	選択	必修	－	必修

※実務経験のある教員による授業科目

授 業 概 要

特別支援論Ⅰの内容を基に、特別な支援を必要とする子どもの支援について、次の3点を重点的に学ぶ。

- 障害児保育の基本的知識
- 子どもの理解と発達支援
- 家庭および関係機関との連携

これらの内容について、公立特別支援学校での教育実践や国立特別支援教育研究所での研究活動などの実務経験を基に詳しく講義する。

授 業 計 画

授業回	授業内容
第 1 回	オリエンテーション　「障害のある子どもとは」 ※シラバス、授業の進め方についての説明及び「障害」のとらえについて学ぶ。
第 2 回	気になる子どもとは ※「気になる子ども」とはどういう子どもなのか実習体験を踏まえて協議する。
第 3 回	障害に関する法律・制度の理解 ※新しい児童福祉施設のサービス体系や障害者手帳等の制度等について学ぶ。
第 4 回	障害のある子どもの特徴（1）　感覚と運動 ※感覚の特性に配慮した支援について学び、具体的な方法について協議する。
第 5 回	障害のある子どもの特徴（2）　認知・コミュニケーション ※認知の発達やコミュニケーションの発達について学び、具体的な支援について協議する。
第 6 回	障害のある子どもの保育における理解 ※統合教育のとらえ方と必要性について学び、理解を深める。
第 7 回	障害のある子どもに配慮した環境設定 ※応用行動分析学の ABC 分析を使い、気になる子どもの行動変容についての演習を行う。
第 8 回	障害のある子どもに配慮した関わりとコミュニケーション ※生活の自立に向けた支援、障害特性に合わせた環境構成について学ぶ。
第 9 回	障害のある子どもと他の子どもとの関わり ※他の子どもとの関係の支援、他の子どもの理解について学ぶ。
第 10 回	保護者・家族との理解と支援 ※障害のある子ども・気になる子どもの保護者の心理について学び、その支援について協議する。
第 11 回	地域の関係機関との連携と個別の支援計画 ※地域の関係機関の機能を調べ、個別の支援計画との連携について学ぶ。
第 12 回	就学支援と小学校との連携 ※就学先と就学支援システムについて、就学に向けての保護者支援について協議する。
第 13 回	個別支援計画の作成と観察・記録・評価 ※保育における指導計画の位置づけと個別指導計画を立てることの大切さについて学ぶ。
第 14 回	インクルーシブ保育について ※統合保育とインクルーシブ保育の相違点について、事例を通して整理する。
第 15 回	まとめ　障害児保育の現状と課題

予 習 ・ 復 習

- 予習：次回の授業内容に関する教科書の該当部分を事前に読み、概要を把握しておく。
- 復習：復習：教科書と授業で使用した資料等を使って学んだ内容を整理し確認する

履修上の注意

- 授業中の基本的マナーを守ること
- 授業遅刻３回で欠席１回とする。
- 遅刻、早退、欠席については直接担当教員に申し出ること。
- やむを得ず授業を欠席した場合は，必ず授業資料を受け取りに来ること。

到 達 目 標

- 特別な支援を要する子どもへの具体的な支援方法を理解する。
- 関係する専門機関の機能やその役割について理解する。
- 保護者への支援について，その具体的な方法や内容について理解する。
- 保育の記録や個別の支援計画の役割や必要性、活用について理解する。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
知識/理解度 ＜何を理解しているか＞ (60%)	授業で扱った障害保育等に関する知識を理解しているとともに、実習等に活用できるレベルに達している。	授業で扱った障害保育等に関する知識を理解し、実習等への活用が期待できる。	授業で扱った障害保育等に関する知識は概ね理解しているが、不十分な内容がある。	授業で扱った障害保育等に関する知識を最低限理解している。	授業で扱った障害保育等に関する知識を理解するに至っていない。
レポート・発表力＜思考・判断・表現：理解したことをどう使うか＞ (20%)	授業で習得した知識等をいかして、レポートや発表の内容が根拠に基づいて明確に示されている。	レポートや発表の内容が、授業で習得した知識等を踏まえて示されている。	レポートや発表の内容が、授業で習得した知識等を踏まえて示されているが、不十分な内容がある。	レポートや発表の内容が、十分に課題と関わっていない。	レポートや発表の内容が、課題と関わっていない。
主体的に学ぶ態度（どのように学びと向き合うか) (20%)	積極的に授業に参加するとともに、自らの学習状況を把握し、よりよく学ぼうとする意欲をもって取り組んでいる。	積極的に授業に参加し、理解したことを学びに生かそうと努力している。	授業に参加しているがやや積極性に欠け、理解したことを学びに生かそうすることがあまり見られない。	主体的に学ぶ態度にやや欠ける面が見られる。	主体的に学ぶ態度が見られない。

評価方法

学期末試験　60%
提出物，授業内レポート等 20%
受講態度　20%

テキスト

・教科書名：障害児保育
・著 者 名：監修　市川奈緒子
・出版社名：ミネルヴァ書房
・出 版 年（ISBN）：2020 年　978-462308763

特別支援論Ⅲ(児童への支援方法)　～特別な教育的ニーズを要する児童に要する具体的な支援～

井上　昌士

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
2年	後期	1	選択	－	必修	－

※実務経験のある教員による授業科目

授業概要

特別支援論Ⅰの内容を基に、小学校に在籍する特別な教育的ニーズのある児童への支援について、具体的な支援や指導内容の検討・演習を通して、次の4点を重点的に学ぶ。

- 小学校における特別支援教育の体制
- 特別な教育的ニーズのある児童への具体的支援方法
- 各教科における指導内容および指導方法の工夫
- 通常の学級，通級による指導，特別支援学級における指導の実際

これらの内容について、公立特別支援学校での教育実践や国立特別支援教育研究所での研究活動などの実務経験を基に詳しく講義する。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	オリエンテーション　特別な教育的ニーズとは　インクルーシブ教育とは ※シラバス及び授業の進め方を説明し、特別支援教育の理念、インクルーシブ教育の動向を確認する。
第 2 回	小学校における特別支援教育体制の理解 ※多様な学びの場の連続性としての特別支援学級、通級による指導、通常の学級の支援体制について学ぶ。
第 3 回	学習指導要領から読み解く小学校における特別支援教育 ※小学校学習指導要領及び同解説総則編に示されている「障害のある児童などへの指導」の内容について確認し、ポイントとなる事柄について学ぶ。
第 4 回	各教科等における指導内容や指導方法の工夫 ※小学校学習指導要領解説の各教科編に示されている指導内容や指導方法の工夫について学ぶ。
第 5 回	障害のある子を対象とした学習指導案の作成 ※目標設定や実態把握、学習評価等、障害のある子を対象とした学習指導案の作成する際に留意すべき点について具体的な事例を通して学ぶ。
第 6 回	「個別の教育支援計画」と「個別の指導計画」の作成と活用 ※学習指導要領に示されている位置付けや留意点を確認し、作成する意義、必要性について学ぶ。
第 7 回	ユニバーサルデザインの考え方を取り入れた支援の工夫 ※授業におけるユニバーサルデザインについて事例を通して、その工夫や効果を協議する。
第 8 回	知的障害児への支援 ※小学校に在籍する知的障害児への具体的な指導内容や指導方法等について学ぶ。
第 9 回	発達障害のある児童への支援① ※小学校に在籍する自閉症スペクトラムのある児童への具体的な支援方法について学ぶ。
第 10 回	発達障害のある児童への支援② ※小学校に在籍する LD,ADHD の児童への具体的な支援方法について学ぶ。
第 11 回	模擬授業① ※先生役、児童役等役割分担をして模擬授業を行い、終了後に反省会を開き振り返りを行う。
第 12 回	模擬授業② ※先生役、児童役等役割分担をして模擬授業を行い、終了後に反省会を開き振り返りを行う。
第 13 回	模擬授業③ ※先生役、児童役等役割分担をして模擬授業を行い、終了後に反省会を開き振り返りを行う。
第 14 回	特別支援教育コーディネーターと校内支援体制及び保護者への支援 ※小学校等で特別支援教育を行うための体制の整備及び必要な取組について、その具体的な内容について学ぶ。
第 15 回	帰国子女や日本語の習得が困難な児童及び不登校児童への指導 ※指導の在り方について、小学校学習指導要領解説総則編に示されている内容を確認して、その内容等について学ぶ。

予習・復習

- 予習：次回の授業内容に関連する学習指導要領等の該当部分を事前に確認しておく。必要に応じて課題を提示する。
- 復習：教科書と授業で使用した資料等を使って学んだ内容を整理し確認する。

履修上の注意

- 授業中の基本的なマナーを守ること。
- 遅刻３回で欠席１回とする。
- 遅刻、早退、欠席については直接担当教員に申し出ること。
- やむを得ず授業を欠席した場合は，必ず授業資料を受け取りに来ること。

到 達 目 標

- 指導の実際を知り、小学校における特別支援教育体制を理解する。
- 特別な教育的ニーズを要する児童への具体的な支援方法を理解する。
- 各教科等のおける具体的な指導内容や指導方法の工夫について理解する。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
知識/理解度＜何を理解しているか＞ (50%)	授業で扱った小学校に在籍する特別な教育的ニーズを要する児童への支援内容等に関する知識等を理解しているとともに、実習等に活用できるレベルに達している。	授業で扱った小学校に在籍する特別な教育的ニーズを要する児童への支援内容等に関する知識等を理解し、実習等への活用が期待できる。	授業で扱った小学校に在籍する特別な教育的ニーズを要する児童への支援内容等に関する知識等は概ね理解しているが、不十分な内容がある。	授業で扱った小学校に在籍する特別な教育的ニーズを要する児童への支援内容等に関する知識等を最低限理解している。	授業で扱った小学校に在籍する特別な教育的ニーズを要する児童への支援内容等に関する知識等を理解するに至っていない。
模擬授業/レポート発表力＜思考・判断・表現：理解したことをどう使うか＞ (30%)	授業で習得した知識等をいかして、模擬授業の指導案やレポートが作成され、課題やテーマが明確に表現され、今後の工夫や課題点も示されている。	授業で習得した知識等をいかして、模擬授業の指導案やレポートが作成され、課題やテーマが表現されている。	模擬授業の指導案やレポートの発表内容は、授業で習得した知識等を踏まえて示されているが、一部不十分な内容がある。	模擬授業やレポートの内容が、十分に指導案や課題と関わっていない。	模擬授業やレポートの内容が、指導案や課題と関わっていない。
主体的に学ぶ態度（どのように学びと向き合うか) (20%)	積極的に授業に参加するとともに、自らの学習状況を把握し、よりよく学ぼうとする意欲をもって取り組んでいる。	積極的に授業に参加し、理解したことを学びに生かそうと努力している。	授業に参加しているがやや積極性に欠け、理解したことを学びに生かそうすることがあまり見られない。	主体的に学ぶ態度にやや欠ける面が見られる。	主体的に学ぶ態度が見られない。

評価方法

学期末試験　50%
模擬授業（指導案，教材製作を含む)，授業内レポート等 30%
受講態度　20%

テキスト

- 教科書名：①小学校学習指導要領②小学校学習指導要領解説総則編③特別支援学校学習指導要領解説自立活動編
- 著 者 名：①～③文部科学省
- 出版社名：①②東洋館出版社　③開隆堂出版
- 出 版 年：①～③2018
- ＩＳＢＮ：①978-4-491-03460-7　②978-4-491-03460-4　③978-4-304-04231-7

地域子育て支援論～地域の多様なネットワークと子育て支援～

佐藤　晃子

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
2年	後期	2	選択	－	－	選択必修

授業概要

近年，地域の子育て支援は保育者にとって重要な役割となっている。他方，地域社会には，多様な組織・団体，施設があり，子育てや子どもの育ちを支える様々な取り組みが行われ，ネットワークが形成されている。本授業では，幼稚園・保育所のみならず児童館，公民館などの各種地域施設，またボランティア団体，NPO等各種団体など，様々な主体による地域子育て支援の実践について取り上げ，その現状と課題について映像資料等を用いて検討する。また，受講生自身が地域子育て支援のプログラムを作成し，模擬保育と相互検討を行う。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	オリエンテーション／「地域子育て支援」が必要とされる背景
第 2 回	幼稚園・幼稚園・認定こども園における子育て支援（子育てサロン等）：文献や映像等を用いた実践事例検討
第 3 回	児童館における子育て支援①乳幼児：文献や映像等を用いた実践事例検討
第 4 回	児童館における子育て支援②小学生：文献や映像等を用いた実践事例検討
第 5 回	児童館における子育て支援③中高校生：文献や映像等を用いた実践事例検討
第 6 回	保護者主体による子育て支援①子育てサークル，子育てネットワーク：文献や映像等を用いた実践事例検討
第 7 回	地域住民による子育て支援②プレイパーク：文献や映像等を用いた実践事例検討
第 8 回	地域子育て支援における自治体の役割
第 9 回	世界の子育て支援（カナダ・ドロップインセンター，ニュージランド・ネウボラ等）
第10回	地域子育て支援プログラムの考え方と実際：活動見学
第11回	地域子育て支援プログラムの作成と準備①：グループ活動
第12回	地域子育て支援プログラムの作成と準備②：グループ活動
第13回	地域子育て支援プログラムの発表と相互検討①模擬保育と振り返り
第14回	地域子育て支援プログラムの発表と相互検討②模擬保育と振り返り
第15回	まとめ：「地域子育て支援」の今後の課題 「支援」の意味を考える

予習・復習

・予習：翌回のテーマに関する内容ついて，自分なりに調べておくこと。グループ活動の準備を積極的に行うこと。

・復習：授業のレジュメ，資料を読み直し，授業の振り返りとまとめをしておくこと。

履修上の注意

- 遅刻 3 回で欠席 1 回とする。
- 遅刻，早退，欠席については，直接担当教員に申し出ること。
- 学外での活動を予定しているが，実施場所・日程等については未定である。
- 演習形式で進められるため，議論や発表等積極的な参加が求められる。

到 達 目 標

1) 地域において子育て支援が必要とされる背景を理解する。
2) 具体的な地域活動の現状と課題について理解する。
3) 地域における子育て支援プログラムを作成できるようになる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
課題解決能力（プログラム作成）（30%）	提示された課題に沿い，かつ発展的なプログラムを作成することができる。	提示された課題に沿ったプログラムを作成することができる。	提示された課題とプログラムに少しずれがある。	提示された課題とプログラムがあっていない。	提示された課題に沿ったプログラムを作成することができていない。
他者と協力してグループ活動ができる（プログラム作成及び発表）（30%）	グループの役割分担を行い，メンバーと協力しながら，準備及び発表に積極的に関わっている。	自分の役割を見つけ，準備及び発表に積極的に関わっている。	準備及び発表において，与えられた役割は果たすことができている。	準備及び発表において，与えられた役割をほとんど果たすことができていない。	グループ活動に参加していない。
理解度（その他課題）（20%）	授業内容を越えた自主的な学習や発展的な議論ができる。	授業内容を十分理解している。	授業内容を理解できていない部分がある。	授業内容をほとんど理解できていない。	授業内容を理解できていない。
自分の考えを論理的に述べる力（その他課題）（20%）	議論に積極的に参加し，自分の意見を論理的に述べることができる。	自分の意見を論理的に述べることができる。	自分の意見を述べることができるが，やや論理性に欠ける。	自分の意見をほとんど述べることができない。	議論に参加していない。

評価方法

プログラム作成及び発表　60%
その他課題（小課題，グループディスカッション等）　40%

テキスト

特になし。各回でレジュメ，資料を配布する。

子ども家庭支援論　～様々な家庭と子どもを支援するために～

佐藤　晃子

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
2年	前期	2	選択	－	－	必修

授業概要

本授業では，保育者が子どもとその家庭を支援していくために必要な知識と基本的な態度について理解することを目的とし，子ども家庭支援の意義と役割，保育士による子ども家庭支援の基本，子育て家庭に対する支援の体制，多様な支援の展開と関係機関との連携について講義する。また，現代社会における子どもや家庭への支援の必要性や多様な支援のニーズをおさえた上で，保育所等保育施設における子育て家庭への支援，さらには市区町村レベルでの子育て支援のあり方について考える。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	オリエンテーション／子ども家庭支援とは何か
第 2 回	子ども家庭支援の目標と機能
第 3 回	子ども家庭支援における保育者の役割
第 4 回	保育士に求められる基本的態度
第 5 回	保育の特性と保育士の専門性を生かした子ども家庭支援
第 6 回	保護者との相互理解と信頼関係の形成
第 7 回	家庭の状況に応じた支援
第 8 回	地域の資源の活用と関係機関等との連携・協力
第 9 回	子育て家庭の福祉を図るための社会資源
第 10 回	次世代育成支援対策と子ども・子育て支援新制度の推進
第 11 回	子ども家庭支援の対象と内容
第 12 回	保育所等利用児童とその家庭への支援
第 13 回	地域の子育て家庭への支援
第 14 回	要保護児童およびその家庭への支援
第 15 回	子ども家庭支援の現状と課題／まとめ

予習・復習

・予習：各回の教科書の該当部分を事前に読み，疑問点について調べておくこと。

・復習：授業のレジュメ，教科書を読み直し，授業の振り返りとまとめをしておくこと。

履修上の注意

・ 遅刻 3 回で欠席 1 回とする。
・ 遅刻，早退，欠席については，直接担当教員に申し出ること。

到 達 目 標

1) 子ども家庭支援の意義や目的について理解する。
2) 保育士による子ども家庭支援の基本について理解する。
3) 子育て家庭に対する支援の体制とその多様な展開について理解する。
4) 子ども家庭支援の現状と課題について理解，考察する。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
自分の考えを論理的に文章で説明する力（レポート）（60%）	授業内容を踏まえた上で，自分の意見を論理的に文章にすることができ，かつ，授業内容を越えた自主的な学習の成果が反映されている。	授業内容を踏まえた上で，自分の意見を論理的に文章にすることができる。	自分の意見を論理的に文章にすることはできているが，授業内容への理解が不足している。	授業内容の理解が不足しており，意見の論述の論理性も不足が見られる。	授業内容が理解できておらず，意見の論述に論理性がない。
理解度（その他課題）（20%）	授業内容を越えた自主的な学習や発展的な議論ができる。	授業内容を十分理解している。	授業内容を理解できていない部分がある。	授業内容をほとんど理解できていない。	授業内容を理解できていない。
自分の考えを論理的に述べる力（その他課題）（20%）	授業内容を踏まえ，自分の意見を論理的に述べることができ，かつ，授業内容を越えた発展的な主張を展開できる。	授業内容を踏まえ，自分の意見を論理的に述べることができる。	自分の意見を述べることができるが，授業への理解が不足している。	授業への理解が不足しており，自分の意見もほとんど述べることができない。	授業の内容を理解できておらず，自分の意見も述べることができない。

評価方法

最終レポート　60%
その他課題（リアクションペーパー，グループディスカッション等）　40%

テキスト

・教科書名：『MINERVA 初めて学ぶ子どもの福祉 4　子ども家庭支援』
・著 者 名：倉石哲也・大竹智編著
・出版社名：ミネルヴァ書房
・出 版 年（ISBN）：2020 年（4623079295）

在宅保育　～ベビーシッターの仕事～	関根　久美

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
2年	後期	2	選択	－	－	選択必修

授業概要

ベビーシッターの職務について、教科書解説、DVD視聴を通して、具体的、実践的に学ぶ講義をする。ベビーシッターとして子どもの遊びの援助や産後ケアの業務について演習を行う。そのための具体的な方法を指導する

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	オリエンテーション
第 2 回	子ども子育て支援新制度における「居宅訪問型保育」と「ベビーシッター」について
第 3 回	一般的ベビーシッターの業務について
第 4 回	子どもの発達とそのケア①
第 5 回	子どもの発達とそのケア②
第 6 回	子どもの発達とそのケア③
第 7 回	子どもの発達とそのケア④
第 8 回	産後ケアについて（解説）
第 9 回	産後ケアについて（演習）
第10回	季節に応じた遊びの実践
第11回	安全管理について①
第12回	安全管理について②
第13回	保育計画、保育報告について
第14回	「講演：ベビーシッター業務の事例」を聞く。
第15回	振り返りとまとめ

予習・復習

・予習：テキストを熟読しておく。

・復習：演習したことは、自宅などで振り返り実践してみる。

履修上の注意

保育士資格取得者としてのベビーシッター認定資格取得を目的とする授業であることを自覚して受講すること。

到 達 目 標

ベビーシッターの職務について理解する。その理解が的確で実践することができるか否かの試験に合格し、認定資格を取得する。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
ベビーシッターの職務についての理解（ 70%）	授業内容を超えた学修ができる。	授業内容 100%理解している。	授業内容に興味関心をもち、理解するよう努め、ほぼ理解できる。	授業内容に興味関心を持つが理解に乏しい。	授業内容についての理解ができていない。
子どもの遊びへの取り組み（ 20%）	授業内容を超えた学修ができる。	授業内容を理解し、積極的に演習に取り組む。	自らが楽しんで演習に取り組む。	周囲の人の助言を受けて演習に取り組む。	演習に取り組まない。
産後ケアの演習への取り組み（ 10%）	授業内容を超えた学修ができる。	授業内容を理解し、積極的に演習に取り組む。	自らが楽しんで演習に取り組む。	周囲の人の助言を受けて演習に取り組む。	演習に取り組まない。

評価方法

試験　70%　　課題の評価　20%　　授業態度　10%

テキスト

・教科書名：「家庭訪問保育の理論と実践」
・著 者 名：公益社団法人全国保育サービス協会監修
・出版社名：中央法規出版
・出 版 年（ISBN）：2022 年（ISBN978-4-8058-8427-0）

栽培　～主な野菜の作り方を学ぼう～	橋本　敏幸

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
1年	前期	1	選択	−	−	−

授業概要

基本的な野菜を取り上げ、その栽培方法を習得することを指導する。また、幼児教育での農業体験の重要性を講義する。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	科目「栽培」についてのガイダンス（菜園での心得・姿勢について）
第 2 回	トマトなどの定植（野菜苗の植え付けの基本を覚える）
第 3 回	エダマメ・トウモロコシの播種（種まきの基本を知る）
第 4 回	土壌の性質と施肥（豊かな土壌を作る有機物・化学肥料の施肥量を計算する）
第 5 回	ジャガイモの管理（除草と芽掻きの要領を体験する）
第 6 回	トマトの整枝（美味しいトマトを収穫するための技術を習得する）
第 7 回	キュウリ・ナスなどの管理の仕方を学ぶ（肥料・水の管理）
第 8 回	葉菜類栽培の基礎を学ぶ（コマツナ・ホウレンソウなど）
第 9 回	根菜類栽培の基礎を学ぶ（ダイコン・ニンジン・サツマイモ）
第 10 回	ジャガイモの収穫と保存の仕方を学ぶ
第 11 回	エダマメ・トウモロコシの収穫と調整の仕方を学ぶ
第 12 回	菜園の片づけ（栽培した菜園に感謝を込めてきれいにする）
第 13 回	地球温暖化と食糧危機に今、私たちにできることを考える（講義）
第 14 回	幼児教育と農業（自然や生命を通して子供の発達を考える）（講義）
第 15 回	栽培授業のまとめ

予習・復習

・予習：用意した資料等を事前に熟読すること。指示した課題についてはノートにまとめる。

・復習：特に実習で学んだ事柄をまとめて記録する。

履修上の注意

栽培は実習中心の授業です。天候（雨・高温）の影響を受けやすいので体調管理が重要です。また、除草など地味で根気のいる作業が多くあります。相応の覚悟が必要です。そのために実習に適した服装を用意してください。正当な理由がない場合は始業時に遅れた者は遅刻とします。

到 達 目 標

誰でもが一つの野菜を栽培できることを目指す。
栽培（農業）が子どもの発達に影響を及ぼすことについて考えられるようになる。
地道に野菜作りに取り組める姿勢を身に着ける。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
栽培方法についての理解度（４０％）	栽培方法を理解し次に行う管理を自ら判断し正確に行うことができる。	栽培方法を理解し指示に従って正確に管理を行うことができる。	栽培方法はほぼ理解できているが正確な管理を行うことが困難である。	栽培方法がやや理解不足のため指導のもとある程度の管理ができる。	栽培方法が理解不足のため指導のもとでも管理が困難である。
栽培実習能力についての到達度（４０％）	機械や道具を正しく使いこなし作業手順について先を見ながら率先して行うことができる。	機械や道具を正しく使いこなし指示通りに作業を行うことができる。	機械や道具の使い方にやや難があるが積極的に作業を行うことができる。	機械や道具の使い方にやや難があり作業が消極的で時間がかかる。	消極的で実習を行う姿勢が見られない。
文章で説明する力（２０％）	栽培手順や重点箇所を理路整然と正しくまとめることができる。	栽培手順や重点箇所をやや大まかであるが正しくまとめることができる。	栽培手順や重点箇所をやや正確さに欠けるがまとめることができる。	栽培手順や重点箇所が説明不足なまとめ方である。	栽培手順や重点箇所をまとめる力が劣っている。

評価方法

学期末考査　４０％
実習態度　　４０％
レポート　　２０％

テキスト

教科書は使いません。必要に応じて資料を配布します。

演劇　～演技・演出の体験とファシリテーション～	中村　一規

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
1・2年	後期	1	選択	－	－	－

授業概要

身体を使って実践的に演劇を体験する。「短編作品を創作し発表すること」「シアターゲームとそのファシリテーション」の２項目を中心に、演劇という表現方法について体系的に学ぶ。自らの表現を獲得すること、他者とのコミュニケーション理解することについて指導する。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	演劇とは何か？①　演劇について考えてみる
第 2 回	演劇とは何か？②　シアターゲームを体験する
第 3 回	演劇とは何か？③　インプロを体験する
第 4 回	演技演出体験①　発声体験　人に届く声とはなにか？
第 5 回	演技演出体験②　短編戯曲の読み合わせと発表
第 6 回	演技演出体験③　演出を付けてみる、付けられてみる
第 7 回	演技演出体験④　短編作品のストーリーを考える
第 8 回	演技演出体験⑤　短編作品の創作と練習
第 9 回	演技演出体験⑥　短編作品の発表とフィードバック
第 10 回	ファシリテーションとは何か？①　さまざまなシアターゲーム
第 11 回	ファシリテーションとは何か？②　ワークショッププログラムの組み方、進め方
第 12 回	ファシリテーションとは何か？③　実践とフィードバック
第 13 回	ファシリテーションとは何か？④　今、必要とされている表現とは？
第 14 回	ファシリテーションとは何か？⑤　今、必要とされているコミュニケーション力とは？
第 15 回	授業のまとめ

予習・復習

・予習：必要に応じて、テキスト・動画などの事前課題を課す。
・復習：振り返りシートの記入と提出。連続課題の場合は創作や練習、プレゼンテーションの準備

履修上の注意

動きやすい服装で参加すること。
実技を中心とした授業だが、体調がすぐれない場合は見学も可（要相談）
グループでの作業が多いため、遅刻はできる限り無いように。

到 達 目 標

演技スキルの向上や知識の習得だけが目的ではなく、演劇を通じて「なぜ表現するのか」「表現にどのような力があるのか」「幼児・児童に表現をどう促し導くべきか」などについて、思考し自覚ができるようになることを目指す。
芸術という答えがないことについて、身体を通じて創作し、他者と協働できるようになるために必要な、心と身体を整えることを目標とする。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
知識・理解（４０％）	演劇についての知識と理解があり、それを応用し発展させることができている	演劇についての知識と理解があり、それを活用する術に自覚的である	演劇について知識を身につけ理解している	演劇に対して最低限の知識を身に付け、理解している	演劇に対する知識と理解が不十分である
意識・関心（３０％）	授業課題に他者と協働して取り組み、優れた成果をあげている	授業課題に自覚的に取り組み、成果をあげている	授業課題に集中して取り組んでいる	授業課題に最低限、取り組んでいる	授業課題への取り組みが不十分である
技能・表現（３０％）	演劇を表現・説明するための能力が十分にあり、それを活用しオリジナルの形に昇華できている	演劇を表現・説明するための能力が十分に備わっている	演劇を身体を通じて、他者に伝わるように表現・説明できている	演劇を身体を通じて最低限、表現・説明している	演劇を表現・説明するための能力が不十分である

評価方法

（知識・理解）学期末試験、レポートなど　４０％
（思考・関心）振り返りシート、授業態度など　３０％
（技能・表現）授業内発表、プレゼンテーションなど　３０％

テキスト

必要に応じて、その都度テキストを配布する。
参考図書については、授業内で紹介する。

教育実習指導(事前事後)(幼稚園)

～幼稚園での実習を有意義なものとするために～

木谷・小山内・関根・
西・齊藤・佐々木・小林

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
1・2 年	後期・前期	1	選択	必修	－	－

※実務経験のある教員による授業科目

授 業 概 要

1 年次後期の「教育実習Ⅰ（幼稚園)」と 2 年次前期の「教育実習Ⅱ（幼稚園)」のそれぞれについて、実習の事前と事後に指導を行う。事前指導では、実習活動中のルールやマナー、実習日誌を書く目的と書き方、指導案の書き方、部分実習および責任実習に向けた活動の探究等を講義する。事後指導では、実習活動の振り返りを行い、学生自身が自分の課題を確認し幼児教育者としての資質を培う。

授 業 計 画

授業回	授業内容
第 1 回	【教育実習Ⅰ】事前指導① 教育実習の概要と本授業（事前事後指導）の流れ、個人調書の作成
第 2 回	【教育実習Ⅰ】事前指導② 実習生としてのマナーと心構え、実習先事前訪問（オリエンテーション）について
第 3 回	【教育実習Ⅰ】事前指導③ 実習の課題の作成、実習日誌の意義と幼稚園の一日の流れ
第 4 回	【教育実習Ⅰ】事前指導④ 実習日誌の書き方（場面の記録や環境構成図を含む)
第 5 回	【教育実習Ⅰ】事前指導⑤ 部分実習に向けた準備、指導案の基本的な書式
第 6 回	【教育実習Ⅰ】事前指導⑥ 実習直前：実習期間中の連絡方法や日誌の提出と受け取りの理解、巡回指導の説明
第 7 回	【教育実習Ⅰ】事後指導 「教育実習Ⅰ」の振り返りと「教育実習Ⅱ」に向けた自己課題の省察
第 8 回	【教育実習Ⅱ】事前指導① 教育実習Ⅱのねらい、実習先事前訪問（オリエンテーション）について
第 9 回	【教育実習Ⅱ】事前指導② 責任実習に向けた準備
第 10 回	【教育実習Ⅱ】事前指導③ 責任実習の日の日誌の書き方について
第 11 回	【教育実習Ⅱ】事前指導④ 指導案の作成❶　指導案を作成する意義と理解し、書式を確認する
第 12 回	【教育実習Ⅱ】事前指導⑤ 指導案の作成❷　作成した指導案を修正しながら、指導案の書き方を理解する
第 13 回	【教育実習Ⅱ】事前指導⑥ 指導案の作成❸　指導案に沿った保育の展開や配慮を理解する
第 14 回	【教育実習Ⅱ】事前指導⑦ 実習直前：実習期間中の連絡方法や日誌の提出と受け取りの理解、巡回指導の説明
第 15 回	【教育実習Ⅱ】事後指導 「教育実習Ⅱ」の振り返りと今後の課題の省察

予 習 ・ 復 習

予習：次回の授業内容を確認し、教場に持参する物や提出物を整える。
復習：授業時に提示された課題を完成させ、期日内に提出できるよう準備する。

履修上の注意

・遅刻は授業開始から 30 分までとし、必ず事前に連絡を入れること。
・各実習指導の授業の欠席が 2 割を超えた場合、事前指導段階であれば実習を実施できない。事後指導を含む場合は、本授業の単位は認められない。
・やむを得ず欠席する場合は必ず事前に連絡を入れ、証明書添付した欠席届を提出する。
・授業時には毎回、『実習のてびき』と『実習日誌・実習指導案　パーフェクトガイド』を持参する。
・日誌や指導案を作成する授業回には、定規等の必要な筆記具を持参する。

到 達 目 標

【教育実習Ⅰ】
・実習生としてマナーを守り意欲的に初めての実習に取り組むために、実習の課題を明確にする。
・３歳から小学校就学始期までの子どもの発達を理解し、幼児の前に立つための準備をする。
・一日の保育の流れやつながりを理解し、日誌に時系列に記録ができるようにする。
・実習の手続きや提出物の期日を守り、自主的で意欲的な態度を身につける。
・終了後に実習活動を振り返り、教育実習Ⅱに向けて自身の課題を明確に理解する。
【教育実習Ⅱ】
・実習園の特色や教育・保育方針を理解した上で、自分の課題を明確にして実習に向かう。
・保育者による子どもへの援助の意図や配慮を感じ取り、それを「気づき」として日誌に書けるようにする。
・〈導入、展開、まとめ〉の流れ、子どもの動きを予測した配慮や留意点を含めた指導案を作成する。
・実習の手続きや提出物の期日を守り、見通しをもって計画的に実習への準備をすすめる。
・終了後に実習活動を振り返り、保育者としての自身の課題を明確に理解する。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
実習活動への理解と事前準備への取り組み姿勢（40%）	実習の流れを完全に理解し、実習に向けて主体的・積極的に取り組んでいる	実習の流れを理解し、授業内の指示を守り適切に準備を進めている	実習活動への理解にやや不安があり、教員の助言を受けつつ準備を行う	実習活動への理解が不足しており、準備に教員の直接的な援助が必要となる	実習を行う上で必要な理解がなく、準備を進めることが困難である
幼稚園の役割と幼稚園教諭の職務への理解（20%）	幼児教育の意義や幼稚園の役割、教諭の職務について完全に理解している	幼児教育の意義や幼稚園の役割、教諭の職務についてほぼ理解している	幼児教育や幼稚園実習への意欲はあるが、理解面で不十分な部分がある	幼児教育や幼稚園実習への意欲は乏しいが、学ぼうとする姿勢はある	幼児教育や幼稚園実習への関心が薄く、学習態度にも問題がある
実習日誌の記入に対する理解（20%）	実習日誌の意義を十分に理解し、各項目に模範的な記述ができる	実習日誌の意義を理解し、過不足なく記述することができる	日誌に書く内容の基本的な理解はあるが、実際の記述は不十分である	日誌への理解が不十分であるため、記述内容が薄く気づきが含まれない	日誌への理解が不足しているため、日誌を書くことが困難である
指導案の作成に対する理解（20%）	指導案の意義を十分に理解し、模範的な立案ができる	指導案の意義を理解し、過不足のない立案ができる	指導案の立案に必要な基本的な理解はあるが、記述に不十分な部分がある	指導案への理解が不十分であるため、立案に教員の直接的な指導を必要とする	指導案への理解が不足しているため、立案することが困難である

評価方法

授業態度、課題等の提出物、授業理解を測る確認テストの結果等により、総合的に評価を行う

テキスト

・川口短期大学『実習のてびき』
・文部科学省『幼稚園教育要領解説（平成 30 年)』フレーベル館　ISBN: 978-4577814475
・小櫃智子（編）『改訂版　実習日誌・実習指導案パーフェクトガイド』わかば社、2023 年
ISBN: 978-4907270438

教育実習Ⅰ（幼稚園）

～幼児との関わりと幼稚園教諭の職務と幼稚園の役割を学ぶ～

専任教員

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
1年	－	2	選択	必修	－	－

※実務経験のある教員による授業科目

授業概要

実際に幼稚園に赴き、教育活動や幼児の園生活に関わりながら幼児の発達への理解を深め、具体的な幼稚園教諭の職務内容を学び、幼稚園の役割についての理解を深めるよう指導する。

授業計画

【実習期間】

2025年11月7日～11月21日（10日間）

【実習内容】

・観察実習や参加実習を通して、保育者に準ずる立場で幼児教育活動を実践的に学ぶ
・参加し観察した内容や気づきや考察した内容を、実習日誌に記録する
・実習園の指導の下、部分実習を通じて「幼児の前に立つ」ことを体験し省察する

予習・復習

・予習
① 実習先事前訪問での学びに基づいて、実習園の教育方針や概要を理解する
② 教育実習事前指導の授業に出席し、実習活動のねらいを理解し自身の実習の課題を定める
③ 実習中は翌日の実習課題を想定して、教材準備等に努める
・復習
実習中は毎日、実習日誌の記入を通して、その日に学んだことや気づいたことを振り返る

履修上の注意

・教育実習Ⅰを実施するには、以下の全ての条件を満たすことが必要である
① 本実習の派遣条件科目の単位を修得している
② 「教育実習指導（事前事後）（幼稚園）」の授業に規定数以上出席し、全ての授業内容を学んでいる
③ 全ての手続きと書類提出を、所定の期日内に済ませている
④ 「教育実習指導（事前事後）（幼稚園）」の到達目標を全て達している
⑤ 実習開始前に「誓約書」を本学に提出している
・教育実習の日程を守り、実習園の指導に従い実習を実施することが必要である
教育実習期間中の欠席は、原則として認めない。考慮すべき理由で証明する書類を提出し欠席が認められた場合は、実習園へ証明書類を提出し、実習期間を延長する必要がある

到達目標

1. 実習生の姿勢と態度
・実習生としてのマナーを守り、実習活動に意欲的に取り組む
・実習先でも礼儀正しく、謙虚な姿勢で指導を受ける
・自分から進んで質問をし、実践を通して学びを深める
2. 知識と技能
・事前に十分に準備をして、「幼児の前に立つ」経験をする
・３歳から小学校就学始期までの幼児の発達を理解する
3. 実習日誌
・各年齢の発達の特徴や保育活動の流れやつながりを理解し、時系列で記録できる
・幼児に対する幼稚園教諭の働きかけや配慮を具体的に記録できる
・幼児の姿を観察し、「場面の記録」として具体的で詳細な記述ができる
・実習で感じた気づきを日誌に書くことができる
4. 手続きと提出物
・主体的に作成し、提出期日を守って提出する

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
学生としての実習時の態度（30%）	実習の意義を十分に理解し、模範的な実習態度で取り組む	実習の意義を理解し、指導や助言を受け入れ積極的に取り組む	指導や助言を受け入れ、努力する姿がみられる	遅刻や欠席はないが、実習への取り組みは不十分である	連絡のない欠席や遅刻をし、実習への意欲が見られない
幼稚園教諭及び幼稚園への理解（30%）	幼児教育の理念や保育者の職務や役割を十分に理解し、模範的に学んでいる	幼児教育の理念や保育者の職務を理解し、積極的に学んでいる	幼児教育の理念や保育者の職務について学ぼうとする意欲がある	幼児教育の理念や保育者の職務についての学びが不十分である	幼児教育の理念や保育者の役割に対する理解が足りない
幼児への理解（20%）	年齢による発達の違いを十分に理解し、それに即した模範的な関わりができる	年齢による発達の違いを理解し、それを踏まえた関わりを意識している	幼児の姿を観察し、幼児の興味や関心を理解しようとしている	観察が不足しているため、年齢にあった関わりができない	保育者としての視座がなく、単に子どもと遊ぶのに止まる
教育活動の実践力（10%）	主体的・積極的に子どもと関わり、模範的な部分実習ができる	子どもの前に立つ意欲を持ち、さまざまな活動に取り組む	幼児の前に立つように決められたり求められたりすれば、行う	活動をする際、子どもへの配慮が不十分である	子どもの前に立つことができず、求められても遠慮する姿が見られる
実習時の観察力と記録力（10%）	教育活動を時系列で具体的に記録し、多くの気づきもあり模範的な記述である	時系列に抜けなく記録をし、環境構成図や気づきも記載されている	時系列に教育活動を記録しているが、具体性に乏しく気づきも少ない	指導や助言を受けて改善を心がけているが、その内容は不十分である	毎日の日誌提出が滞っていたり、指導や助言を受け入れなかったりする

評価方法

実習園による評価（評価観点：実習態度、幼稚園理解、幼児理解）と、実習日誌の記載内容への評価の2点で評価を行う。

実習園から受け取った「実習日誌」を所定の期日までに教員・保育士養成支援センターへ提出していることを前提とする

テキスト

指定なし

教育実習Ⅱ(幼稚園)

～幼稚園教諭として必要な能力・技術について学ぶ～

専任教員

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
2年	－	2	選択	必修	－	－

※実務経験のある教員による授業科目

授業概要

教育実習Ⅰでの経験を基礎として、観察や指導案に基づいた実践を行う。幼稚園の教育理念や教育課程を把握し、「個」と「集団」の理解、幼稚園教諭の職務に対する理解等がさらに深まるよう指導する。また、指導案を作成し実践的な体験を通して学べるよう指導する。

授業計画

【実習期間】

2025年6月2日～6月13日（10日間）

【実習内容】

参加実習の他、指導案を作成し部分実習・責任実習を行い、実践的に学ぶ

予習・復習

・予習　①実習先事前訪問にもとづいて、実習園の概要を理解する
②教育実習事前指導を受講し、責任実習の内容・意義を理解し、自身の実習の課題を定める。
③実習中は次の日の実習課題を明確にするとともに、教材準備等に努める

・復習　実習中は毎日、実習日誌の記入を通して、実習の振り返りに努める

履修上の注意

・教育実習Ⅱを実施するためには、原則として以下のすべての条件を満たすことが必要である
①実習派遣条件科目の単位を修得していること
②「教育実習指導（事前事後）(幼稚園)」の授業に原則全出席していること
③すべての書類の提出及び手続きを所定の期日までに完了していること
④「教育実習指導（事前事後）(幼稚園)」の到達目標に達していること
⑤実習開始前に「誓約書」を本学に提出していること

・教育実習日程を守り、実習を実施することが必要である
教育実習期間中の欠席は、原則として認めない。認められた場合でも、実習の延長が必要である

到達目標

1. 実習生の姿勢・態度

・実習園の特色や保育方針等を理解し、課題を明確にして実習に臨む
・「今日の課題」を考察し、「明日の課題」を明確にしながら学びを積み上げようとする
・「個」と「集団」に積極的に関わり、観察し学びを深める

2. 知識および技能

・保育におけるPDCAサイクルを理解する
・ピアノや絵本の読み聞かせなど、保育技術を磨いて実習に臨み、実践の場においてさらなる向上を目指す
・幼児の言動から心情を感じ取りながら、関わることができる

3. 実習日誌

・保育者の意図を感じ取り「学び」や「気づき」を書くことができる
・「個」と「集団」の姿を記録できる
・幼児との関わりを詳細に記録し、省察することができる

4. 指導案

・子どもの姿を予測し、配慮事項や留意点を挙げることができる
・導入、展開、まとめを一連の流れとして立案できる

5. 手続きと提出物

・期日を確認し、計画的に進められる

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
実習生としての態度（30%）	指導や助言を受け入れ、実習に積極的・主体的に取り組む	指導や助言を受け入れ、実習に意欲的に取り組む	指導や助言を受け入れ、努力する姿勢がみられる	遅刻や欠席はないが、実習への取り組みが不十分である	連絡のない欠席や遅刻をし、実習への意欲が感じられない
幼児への関わりの態度（10%）	幼児の実態を配慮した関わりを主体的に行うことができる	幼児に対する配慮をした関わりを行うことができる	幼児に対する配慮が不十分であるが関わることができる	幼児との関わりに自信が持てない	幼児と関わりに消極的である
幼児理解（20%）	年齢ごとの発達を理解し、その興味関心を実際の幼児の姿から確認できる	年齢ごとの発達を理解し、その興味関心を理解できる	幼児の興味関心を理解できる	幼児の年齢ごとの発達や興味関心への理解に乏しい	幼児の発達、幼児の興味関心を理解できない
園への理解（10%）	教育理念や保育者の役割を理解し、積極的・主体的に学ぶことができる	教育理念や保育者の役割を理解し、意欲的に学ぶことができる	教育理念や保育者の役割について学ぶ姿勢がみられる	教育理念や保育者の役割についての学びが不十分である	学校の理念や役割への理解が薄い
実習の記録（20%）	時系列で具体的に教育活動を記録でき、場面の記録や実習生の気づきの記載も十分である	時系列で具体的に教育活動を記録でき、実習生の気づきの記載もある	時系列に教育活動を記録できるが、具体性や気づきが薄い	指導や助言を受けて日誌を提出するが、記録すべき内容が記載されていない	日誌の記載が不十分であり、指導や助言を受け入れられない
責任実習（10　%）	指導案作成を含む準備が万全であり、当日も責任感を持って子どもの姿に配慮し臨機応変に保育を展開する	指導案作成を含む準備が十分であり、当日も責任感を持って子どもの姿に配慮して保育を展開する。	指導案を作成し、当日は保育者として子どもの姿に配慮して保育を展開する	指導案を作成し保育活動を展開するものの、準備不足や柔軟性に課題がみられる	指導案を含む準備が不十分で、保育活動の展開に困難を伴う

評価方法

実習園による評価（評価観点：実習態度・幼稚園理解・幼児理解）及び実習日誌を、総合して評価をする。実習日誌を期日までに提出していることが評価の前提となる。

テキスト

なし

教育実習指導（事前事後）(小学校)

～より良い教師を目指して、有意義な教育実習を行うために～

長沼・木谷・
小山内・一色

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
1年・2年	後期・前期	1	選択	－	必修	－

※実務経験のある教員による授業科目

授 業 概 要

・小学校教諭および中・高等学校教諭としての実務経験に基づき、事前指導において、各自が小学校教育の役割と教育実習の意義・目的を理解し、実習への心構えを整えられるように指導する。また、授業展開技術の理解と実践の向上を目指して指導する。
・事後指導においては、実習で学んだことを整理するとともに、小学校教諭としての資質・能力を培うために自らの課題を明確にすることができるよう指導する。

授 業 計 画

授業回	授業内容
第 1 回	小学校について―文部科学省・教育委員会、学校現場、１日の流れ 教育実習の心得（1）―服務の厳正、個人情報や SNS の扱い
第 2 回	教育実習までの準備―教育実習について、事前オリエンテーション、子どもたちの発達 児童と学校生活―学校の現状、諸問題と課題
第 3 回	授業展開技術の理解（1）―学習指導要領、指導計画、教材研究と学習指導案
第 4 回	授業展開技術の理解（2）―学習指導案の作成
第 5 回	教育実習の心得（2）―実習までの心構え、個人情報や SNS の扱い 授業展開技術の理解（3）―教材・教具の作成
第 6 回	授業展開技術の実践（1）―授業の実施
第 7 回	授業展開技術の実践（2）―授業の実施
第 8 回	授業展開技術の実践（3）―授業の実施
第 9 回	教育実習の実際―現職の小学校教諭から実際の様子を学ぶ
第 10 回	実習日誌―実習日誌の書き方、実習日誌の例
第 11 回	実習中の心得（3）―先生方や学級への関わり、服務の厳正、個人情報や SNS の扱い
第 12 回	授業展開技術の実践（4）―授業の実施
第 13 回	授業展開技術の実践（5）―授業の実施
第 14 回	実習後の学習―実習終了後の挨拶、礼状の書き方、学びの整理と反省
第 15 回	教育実習のまとめ

予 習 ・ 復 習

・予習：授業内容に関する教科書の該当部分を事前に読むこと。
・復習：授業で扱われた内容を教科書であらためて確認すること。

履修上の注意

・事前指導の欠席が 2 割を超えた場合、教育実習に参加することはできない。
・川口短期大学「実習のてびき」と配布資料、教科書は毎回持参すること。
・指導案作成や模擬授業の実施、また教育実習に持参するために、個人用パソコンを準備すること。

到 達 目 標

＜事前指導＞
・小学校教育への理解を深め、教育実習の意義を理解することができる。
・教育実習の準備として、実習中の心得や実習日誌の書き方を理解することができる。
・授業展開技術を理解し、実践することができる。
＜事後指導＞
・小学校教諭としての資質・能力を培うために自らの課題を明確にすることができる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
＜事前指導＞教育実習の理解と準備に対する取組（20%）	実習の流れを理解し、主体的・積極的に準備に取り組んでいる。	実習の流れを理解し、教員の見守りのもと準備に取り組んでいる。	実習の流れの理解にやや不安があり、教員の助言を受け、準備に取り組んでいる。	実習の流れの理解が不足しており、教員の援助を受けて準備に取り組んでいる。	実習の流れを理解することができず、準備することが難しい。
＜事前指導＞授業展開技術の理解（30%）	各教科の特質を理解したうえで綿密に教材研究が行われ、その内容が学習指導案に適切に反映されている。	各教科の特質を理解したうえで教材研究が行われ、その内容が学習指導案に反映されている。	各教科の特質の理解にやや不安があるものの、学習指導案の基本的な書き方を理解している。	学習指導案の書き方への理解が不足しており、教員の援助を受けて準備に取り組む。	学習指導案の書き方を理解することができず、作成することが難しい。
＜事前指導＞授業展開技術の実践（30%）	子どもの実態に応じ、子どもの学びを促進するさまざまな工夫が見られ、指示の出し方や板書が的確である。	子どもの学びを促進する工夫が見られ、指示の出し方や板書が的確である。	子どもの学びを促進する工夫が見られるが、指示の出し方や板書にやや課題がある。	子どもの学びを促進する工夫が必要であり、指示の出し方や板書にも課題がある。	指導案を含む準備が不十分で、教育活動の展開に困難を伴うことが予想される。
＜事後指導＞実習日誌の記録（20%）	自分の実践や子どもの様子、実習校の先生方の活動について、気づいたことや考えたことの記載を十分に行おうとしている。	自分の実践や子どもの様子、実習校の先生方の活動について、気づいたことや考えたことの記載を行おうとしている。	自分の実践や子どもの様子、実習校の先生方の活動について、気づいたことを記載しているが、具体性に乏しい。	指導や助言を受けて日誌を提出しようとするが、記録すべき内容が記載されていない。	日誌の記載が不十分であり、指導や助言を受け入れられない。

評価方法

・実習課題および授業態度（20%）、学習指導案の作成（30%）、模擬授業の様子（30%）、実習日誌の記録（20%）をとおして総合的に判断する。

テキスト

・教科書名：『小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 総則編』
著 者 名：文部科学省
出版社名：東洋館
出 版 年：平成 30 年
・教科書名：『小学校教育実習ガイド（第 2 版第 3 刷）』
著 者 名：石橋裕子・梅澤実・林幸範編著
出版社 名：萌文書林
出 版 年：2023 年

教育実習Ⅰ（小学校）　～より良い教師になるということ～

こども学科専任教員

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
1年	－	2	選択	－	必修	－

※実務経験のある教員による授業科目

授業概要

・小学校における教科、特別の教科「道徳」、および特別活動について、その指導法について指導する。
・児童について、各学年の相違を知・徳・体それぞれの発達面を勘案して指導する。
・実習校の学校目標・沿革・児童数・地域・施設設備等の特徴を把握し、学校運営における 教師の任務や役割等について指導する。
・小学校教諭および中・高等学校教諭としての実務経験に基づき、教育実習の意義について指導する。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	オリエンテーション(1) 実習に参加の挨拶と学校説明を受ける。
第 2 回	オリエンテーション(2) 配属クラスの授業進捗状況と実習前準備について
第 3 回	実習初日のオリエンテーション、校長からの訓話、自己紹介
第 4 回	クラス活動に参加し、観察を中心とした実習。
第 5 回	朝礼での全校生徒を前にした自己紹介。クラス活動に参加し、観察を中心とした実習。
第 6 回	クラス活動への参加。他のクラスの観察。
第 7 回	クラス活動への参加。他のクラスの観察。
第 8 回	クラス活動への参加。他のクラスの観察。
第 9 回	クラス活動への参加。他のクラスの観察。
第 10 回	クラス活動への参加。他のクラスの観察。
第 11 回	クラス活動への参加。教科等指導。
第 12 回	クラス活動への参加。教科等指導。
第 13 回	クラス活動への参加。教科等指導。
第 14 回	クラス活動への参加。教科等指導。
第 15 回	教育実習反省会。教育実習Ⅱへの課題と準備の確認。

予習・復習

・予習：授業等の準備
・復習：実習日誌の作成

履修上の注意

・実習は全出席するものであり、遅刻・早退のないようにすること。
・社会通念から逸脱した行為（服務規程違反や個人情報流出等）があれば、実習の中止となる。
・**個人用パソコンを準備すること。**

到 達 目 標

・教科、特別の教科「道徳」、特別活動について、実際にどういった授業がなされているか理解 し、自ら授業案を作成できるよう課題を持つ。
・教師の任務役割について理解し、自らが教育を行うことについて明確化する。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
実習生としての態度（30%）	指導や助言を受け入れ、実習に積極的・主体的に取り組む。	指導や助言を受け入れ、実習に意欲的に取り組む。	指導や助言を受け入れ、努力する姿勢がみられる。	遅刻や欠席はないが、実習への取り組みが不十分である。	連絡のない欠席や遅刻をし、実習への意欲が感じられない。
教育活動の実践（20%）	児童に対する教育活動を、積極的・主体的に行う。	児童に対する教育活動を、意欲的に行う。	児童の前に立って教育活動をしようとする努力がみられる。	教育活動において児童に対する配慮が不十分である。	児童の前にたって教育活動を行うことができない。
児童理解（20%）	年齢ごとの発達を理解し、実際の児童の姿からそれを確認できる。	児童の興味や関心を理解し、教育活動につなげることができる。	児童の姿を観察し、幼児の興味や関心を理解する。	観察が不足し、児童の興味や関心への理解が不十分である。	児童への理解が不足し、幼児に対する興味・関心が薄い。
学校についての理解（10%）	教育理念や教師の役割を理解し、積極的・主体的に学ぶことができる。	教育理念や教師の役割を理解し、意欲的に学ぶことができる。	教育理念や教師の役割について学ぶ姿勢がみられる。	教育理念や教師の役割についての学びが不十分である。	学校の理念や役割への理解が薄い。
実習の記録（20%）	時系列で具体的に教育活動を記録でき、場面の記録や実習生の気づきの記載も十分である。	時系列で具体的に教育活動を記録でき、実習生の気づきの記載もある。	時系列に教育活動を記録できるが、具体性や気づきが薄い。	指導や助言を受けて日誌を提出するが、記録すべき内容が記載されていない。	日誌の記載が不十分であり、指導や助言を受け入れられない。

評価方法

実習校の評価および実習日誌により厳正に評価を行なう。

テキスト

・**石橋裕子・梅澤実・林幸範編著『小学校教育実習ガイド（第２版)』(事前指導で使用)**
・学習指導要領解説など大学で使用したもの及び実習先で指定のもの
・教育実習日誌(小学校)

教育実習Ⅱ(小学校)　～より良い教師になるということ～	こども学科専任教員

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
2年	－	2	選択	－	必修	－

※実務経験のある教員による授業科目

授業概要

・小学校における教科、特別の教科「道徳」、および特別活動について、その指導法について指導する。
・児童について、各学年の相違を知・徳・体それぞれの発達面を勘案して指導する。
・実習校の学校目標・沿革・児童数・地域・施設設備等の特徴を把握し、学校運営における 教師の任務や役割等について指導する。
・小学校教諭および中・高等学校教諭としての実務経験に基づき、教育実習の意義について詳しく指導する。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	オリエンテーション(1) 実習に参加の挨拶と学校説明を受ける。
第 2 回	オリエンテーション(2) 配属クラスの授業進捗状況と実習前準備について
第 3 回	実習初日のオリエンテーション、校長からの訓話、自己紹介
第 4 回	クラス活動に参加し、観察を中心とした実習。
第 5 回	朝礼での全校生徒を前にした自己紹介。クラス活動に参加し、観察を中心とした実習。
第 6 回	クラス活動への参加。他のクラスの観察。
第 7 回	クラス活動への参加。他のクラスの観察。
第 8 回	クラス活動への参加。他のクラスの観察。
第 9 回	クラス活動への参加。教科等指導。
第 10 回	クラス活動への参加。教科等指導。
第 11 回	クラス活動への参加。教科等指導。
第 12 回	クラス活動への参加。研究授業。
第 13 回	クラス活動への参加。教科等指導。
第 14 回	クラス活動への参加。お別れ会など。
第 15 回	教育実習反省会。教師になるということについて再認識。

予習・復習

・予習：授業等の準備
・復習：実習日誌の作成

履修上の注意

・実習は全出席するものであり、遅刻・早退のないようにすること。
・社会通念から逸脱した行為（服務規程違反や個人情報流出等）があれば、実習の中止となる。
・<u>個人用パソコンを準備すること。</u>

到 達 目 標

・教科、特別の教科「道徳」、特別活動について、実際にどういった授業がなされているか理解 し、自ら授業案を作成できるよう課題を持つ。
・教師の任務役割について理解し、自らが教育を行うことについて明確化する。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
実習生としての態度（20%）	指導や助言を受け入れ、実習に積極的・主体的に取り組む。	指導や助言を受け入れ、実習に意欲的に取り組む。	指導や助言を受け入れ、努力する姿勢がみられる。	遅刻や欠席はないが、実習への取り組みが不十分である。	連絡のない欠席や遅刻をし、実習への意欲が感じられない。
教育活動の実践（30%）	指導案作成を含む準備が万全であり、責任感を持って児童の姿に配慮し臨機応変に教育活動を展開する。	指導案作成を含む準備が十分であり、責任感を持って子どもの姿に配慮して教育活動を展開する。	指導案を作成し、教師として責任感をもって子どもの姿に配慮して教育活動を展開する。	指導案を作成し教育活動を展開するものの、準備不足や柔軟性に課題がみられる。	指導案を含む準備が不十分で、教育活動の展開に困難を伴う。
児童理解（20%）	年齢ごとの発達を理解し、実際の児童の姿からそれを確認できる。	児童の興味や関心を理解し、教育活動につなげることができる。	児童の姿を観察し、幼児の興味や関心を理解する。	観察が不足し、児童の興味や関心への理解が不十分である。	児童への理解が不足し、幼児に対する興味・関心が薄い。
学校についての理解（10%）	教育理念や教師の役割を理解し、積極的・主体的に学ぶことができる。	教育理念や教師の役割を理解し、意欲的に学ぶことができる。	教育理念や教師の役割について学ぶ姿勢がみられる。	教育理念や教師の役割についての学びが不十分である。	学校の理念や役割への理解が薄い。
実習の記録（20%）	時系列で具体的に教育活動を記録でき、場面の記録や実習生の気づきの記載も十分である。	時系列で具体的に教育活動を記録でき、実習生の気づきの記載もある。	時系列に教育活動を記録できるが、具体性や気づきが薄い。	指導や助言を受けて日誌を提出するが、記録すべき内容が記載されていない。	日誌の記載が不十分であり、指導や助言を受け入れられない。

評価方法

実習校の評価および実習日誌により厳正に評価を行なう。

テキスト

・**石橋裕子・梅澤実・林幸範編著『小学校教育実習ガイド（第２版)』(<u>事前指導で使用</u>)**
・学習指導要領解説など大学で使用したもの及び実習先で指定のもの
・教育実習日誌(小学校)

保育実習指導Ⅰ（事前事後）～有意義な実習を行うために～

岩﨑･宮澤･小林･藤田

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
1年	後期	1	選択	－	－	必修

※実務経験のある教員による授業科目

授業概要

保育実習における実習を円滑に進め学習効果を上げるために、実習生に必要な知識やスキルについての実習事前事後指導を行う。また、保育士の実務経験に基づき実習園の概要を把握し、実習への意欲を高めながら自己の課題を明確にし、効果的な保育実習の実施を目指し事前指導を行う。

実習終了後には、実習成果報告会を行い個々に実習での経験を整理するとともに、受講生が互いに学び合える場を設けるなど、保育実習Ⅲ・Ⅳに向けて自己課題を明確にするための事後指導を行う。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	【事前指導】保育実習の概要と事前事後指導の流れ
第 2 回	実習生としてのマナーと心構え
第 3 回	保育所の生活と社会的役割
第 4 回	課題を明確にして保育実習に取り組むために
第 5 回	実習日誌の書き方①記録の意義、記入上の諸注意
第 6 回	実習日誌の書き方②記録の取り方、記入の仕方
第 7 回	実習日誌の書き方③記録の取り方、記入の実際（ワーク）
第 8 回	実習先事前訪問（オリエンテーション）について
第 9 回	実習目標と課題の立て方
第 10 回	指導案の作成①指導案を作成する意味と指導案の書き方
第 11 回	指導案の作成②実際に指導案を作成する
第 12 回	実習直前オリエンテーション
第 13 回	【事後指導】実習成果発表会
第 14 回	保育実習Ⅰでの反省と振り返り
第 15 回	保育実習Ⅲ・Ⅳに向けての課題

予習・復習

・予習：①次回の授業内容を確認し、持ち物や提出物を整える。
　　②自己の課題を明確にして実習に臨む。
・復習：①課題を完成させ、期日内に提出できるように自主的に準備を進める。
　　②実習終了後には、実習成果報告会に向けて実習における自己の学びをまとめる。

履修上の注意

事前指導は、欠席が 2 割を超えた場合、実習を実施できない（講義要項 p.1 および p.16 参照）　・川口短期大学「実習のてびき」と配布資料、教科書は毎回持参すること

到 達 目 標

実習に関するマナーを理解するとともに、子どもの生活や遊びにおける関心をもって実習に臨む　・子どもの発達過程を理解し、実習に臨む　・実習日誌の意義・記入上の諸注意を理解し、日誌に具体的な記述ができるようになり実習に臨む　・期日を守り提出物や実習の手続きを自主的に進められる　・保育実習Ⅰを振り返り、保育実習Ⅲ・Ⅳの課題を明確にできる

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
理解度（50%）	授業内容を十分理解し、授業内容を越えた自主的な学習ができる。	授業内容を十分理解している。	授業内容を理解できていない部分がある。	授業内容をほとんど理解できていない。	授業内容を理解できていない。
課題解決能力（40%）	提示された課題に沿って、資料を調べたり参照したりしながら課題を作成することができる。また、関連する事柄について自主的な学習ができる。	提示された課題に沿って、資料を調べたり参照したりしながら課題を作成することができる。	提示された課題と内容にずれがある、または、課題に不足がある。	提示された課題と内容があっていない。	課題を作成することができていない。
実習体験を論理的に文章で説明する力（10%）	実習体験を踏まえ、自分の意見を論理的かつ発展的に文章にすることができる。	実習体験を踏まえ、自分の意見を論理的に文章にすることができる。	実習体験を論理的に文章にすることはできているが、論理性に不足が見られる。	実習体験を文章にすることはできているが、論理的ではない。	実習体験を文章で説明することができていない。

評価方法

授業態度、課題の内容とその提出状況等により、総合的に評価する。

テキスト

・Ⅲ：小櫃智子他編著『改訂版　実習日誌・実習指導案 パーフェクトガイド』わかば社，2023 年（ISBN：4907270437）
・「実習のてびき」（川口短期大学より配布）
・厚生労働省編『保育所保育指針解説』（平成 29 年度告示）フレーベル館，2018 年 3 月（ISBN9784577814482）

保育実習指導Ⅱ(事前事後)

～有意義な施設実習とするために～

井上･小山内･佐藤･西内

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
1年	後期	1	選択	－	－	必修

※実務経験のある教員による授業科目

授業概要

実習を円滑に進め学習効果を上げるために、実習に必要な知識やスキルについての実習事前指導を行う。具体的には、実習施設における子ども・利用者の人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務、実習日誌の書き方、実習施設の特色等について指導を行う。また、現場職員を講師に招き、施設理解を深められるようにする。実習終了後には、実習先の講評や実習日誌、自己評価、実習成果報告会等を通して、実習のまとめと振り返りを行い、保育士としての目標、自己の課題が明確になるよう事後指導を行う。

授業は、特別支援学校での勤務経験を反映させて実施する。

授業計画

授業回	授業内容	
第 1 回	【事前指導】	保育実習Ⅱ（施設）の概要と意義、目的／実習事前事後指導の流れ
第 2 回		施設の理解（施設の目的、利用児・者の理解、支援者の役割）(1) 児童養護施設
第 3 回		施設の理解（施設の目的、利用児・者の理解、支援者の役割）(2) 福祉型障害児入所施設
第 4 回		施設の理解（施設の目的、利用児・者の理解、支援者の役割）(3) 医療型障害児入所施設
第 5 回		施設の理解（施設の目的、利用児・者の理解、支援者の役割）(4) 障害者入所施設
第 6 回		実習に向けた心構えと施設実習の実際（先輩の体験談を聞く※）
第 7 回		支援の技法を学ぶ（障害児・者を対象としたレクリエーション活動や自立活動）
第 8 回		実習施設について知る／実習日誌の書き方（1）実習施設の概要
第 9 回		施設の生活と支援の実際（1）（現場職員の方の話を聞く※）
第 10 回		実習日誌の書き方（2）施設での日々の記録を書くために
第 11 回		施設の生活と支援の実際（2）（現場職員の方の話を聞く※）
第 12 回		実習の課題・毎日の課題の意義と立て方 実習日誌の書き方（3）施設での場面記録を書くために
第 13 回		実習における諸注意と事前の自己チェック
第 14 回	【事後指導】	実習の振り返り
第 15 回		保育実習Ⅲ・Ⅳに向けての課題

※の回は、講師の都合等により、回数・日程は変更の可能性がある。

予習・復習

・予習：①次回の授業内容を確認し、持ち物や提出物を整える。
　　②自己の課題を明確にして実習に臨む。
・復習：①課題を完成させ、期日内に提出できるように自主的に準備を進める。
　　②実習終了後には、実習における自己の学びを振り返り、まとめる。

履修上の注意

・事前指導（13 回）の欠席が 2 割を超えた場合、実習はできない。
・川口短期大学「実習のてびき」と教科書は毎回持参すること。

到 達 目 標

・人権を理解し尊重する態度を身につけて実習に臨む。
・施設の役割と社会的な位置づけ、施設の現状（生活、職員の役割）を理解して実習に臨む。
・観察することの意味を理解して実習に臨む。
・記録の取り方・記入の仕方を理解して実習に臨む。
・期日を守り、提出物や実習の手続きを自主的に進められる。
・保育実習Ⅱを振り返り、保育実習Ⅲ・Ⅳの課題を明確にできる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
理解度・実習に向けた準備（30%）	授業内容を十分理解し、授業内容を越えた自主的な学習や準備ができる。	授業内容を十分理解し、実習に向けた準備ができている。	授業内容を理解できていない部分があり、実習に向けた準備が不十分である。	授業内容をほとんど理解できておらず、実習に向けた準備もほとんどできていない。	授業内容を理解できておらず、実習に向けた準備も全くできていない。
課題解決及び発表能力（40%）	提示された課題に沿って、資料を調べたり参照したりしながら課題を作成することができる。また、関連する事柄について自主的な学習ができる。	提示された課題に沿って、資料を調べたり参照したりしながら課題を作成することができる。	資料を調べたり参照したりすることができず、提示された課題と内容にずれがある、または、課題に不足がある。	資料を調べたり参照したりすることができず、提示された課題と内容があっていない。	課題を作成することができていない。
授業に対する積極性（10%）	授業内での学習に積極的に取り組み、自主的な学習や準備につなげることができる。	授業内での学習に積極的に取り組むことができる。	授業内での学習への取り組みがやや消極的である。	授業内での学習への取り組みが消極的である。	授業内での学習に取り組む姿がみられない。
実習体験を論理的に文章で説明する力（10%）	実習体験を踏まえ、自分の意見を論理的かつ発展的に文章にすることができる。	実習体験を踏まえ、自分の意見を論理的に文章にすることができる。	実習体験を論理的に文章にすることはできているが、論理性に不足が見られる。	実習体験を文章にすることはできているが、論理的ではない。	実習体験を文章で説明することができていない。

評 価 方 法

授業態度、課題の内容とその提出状況等により、総合的に評価する。

テキスト

・守巧他著『改訂版　施設実習パーフェクトガイド』わかば社，2023 年（ISBN：4907270429）
・「実習のてびき」（川口短期大学より配布）
・厚生労働省編『保育所保育指針解説』（平成 29 年度告示）フレーベル館，2018 年 3 月（ISBN:457781448X）

保育実習Ⅰ(保育所)　～保育所の機能・子ども理解に向けて～　担当教員

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
1年	－	2	選択	－	－	必修

授業概要

実際に保育所の生活を体験する中で、保育所の機能、保育所での乳幼児の生活とその流れ、保育士の職務・役割、「養護」と「教育」を一体として行う保育所保育の基本等について理解できるように指導する

授業計画

(1) 実習期間
20026年2月・3月の間の12日間以上、90時間以上の実習を行う（実習園により日程が異なる)。
(2) 実習内容
①観察・参加実習を中心とし、保育者に準ずる立場で実践的に学び、実習日誌に記録する
②各実習園のご指導の下、部分実習を行う

予習・復習

予習：①実習先事前訪問にもとづき、実習園の概要理解に努める
②保育実習事前指導を受け準備学習をする。 実習の目標を定め、実習日誌に記載する
③実習中は、次の日の実習目標をたて、教材準備等に努める
復習：実習中は毎日、実習日誌の記入を通して、実習の振り返りに努める・

履修上の注意

(1) 保育実習Ⅰを実施するためには、原則として以下のすべての条件を満たすことが必要である。
①実習派遣条件科目の単位を修得していること
②「保育実習指導Ⅰ(事前事後)」の授業に原則全出席していること
③すべての書類の提出及び手続きを所定の期日までに完了していること
④「保育実習指導Ⅰ(事前事後)」の到達目標に達していること
(2) 保育実習日程を守り、実習を実施することが必要である。
保育実習期間中の欠席は、原則として認めらない。認められた場合でも、実習の延長が必要である。

到達目標

1. 実習生の姿勢・態度
・保育実習に関するマナーを学ぶ
・安全に配慮できる
・子どもの生活や遊びにおける関心を高める
2. 知識および技能
・デイリープログラムを理解する（子どもの一日と保育者の一日を理解する）
・信頼関係を築くための技能を身につける
・子どもの発達過程を理解する
3. 実習日誌
・実習日誌の意義・記入上の諸注意について理解する
・記録のとり方・記入の仕方を学ぶ
4. 指導案
・指導案とは何かを知る
5. 手続きと提出物
・期日を守り、自主的に進められる

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
実習生としての態度（40%）	実習生として大変優れている。	実習生として優れている。	実習生として適切である。	実習生として努力を要する。	実習生としてかなり努力を要する。
保育の知識・技能（50%）	実習生として大変優れている。	実習生として優れている。	実習生として適切である。	実習生として努力を要する。	実習生としてかなり努力を要する。
実習日誌（10%）	実習生として大変優れている。	実習生として優れている。	実習生として適切である。	実習生として努力を要する。	実習生としてかなり努力を要する。

評価方法

実習園による評価（評価観点：実習態度・保育所理解・幼児理解）及び実習日誌を、総合して評価をする。実習日誌を期日までに提出していることが評価の前提となる

テキスト

特になし

保育実習Ⅱ(施設)

～施設保育士の役割と子ども・利用者援助理解について～

専任教員

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
1年	－	2	選択	－	－	必修

※実務経験のある教員による授業科目

授業概要

施設での生活や療育を実際に体験する中で、施設の機能や施設での生活と流れを知り、子ども・利用者を理解し、援助の仕方や方法、施設保育士の職務等について理解できるよう指導する。

授業計画

(1) 実習期間実習時間

2026年2月・3月の間に、12日間実習を行う（実習施設により日程が異なる)。

(2) 実習内容

観察・参加実習を中心とする（実習施設によっては部分実習を行う場合がある)。

予習・復習

・予習　① 実習先への事前訪問にもとづき、施設の概要理解に努める。
② 保育実習事前指導を受講し、実習の目標を定め、実習日誌に記載する。
③ 実習中は、次の日の実習目標をたて、教材準備等に努める。

・復習　実習中は毎日、実習日誌の記入を通して、実習の振り返りに努める。

履修上の注意

(1) 保育実習Ⅱを実施するためには、原則として以下のすべての条件を満たすことが必要である。

①実習派遣条件科目の単位を修得していること。
②「保育実習指導Ⅱ(事前事後)」の授業に原則全て出席していること。
③すべての書類の提出及び手続きを所定の期日までに完了していること。
④「保育実習指導Ⅱ(事前事後)」の到達目標に達していること。

(2) 保育実習日程を守り、実習を実施することが必要である。保育実習期間中の欠席は、原則として認められない。認められた場合でも、実習の延長が必要である。

到達目標

1. 実習生の姿勢・態度

・人権を理解し尊重する態度を身につける。
・施設実習を通し自己の成長を目指す。
・観察することの意味を理解して実践する。

2. 知識および技能

・信頼関係を築くための技能を身につける。
・施設の役割と社会的な位置づけを知る。
・施設の現状（生活、職員の役割）を理解する。

3. 実習日誌

・実習日誌の意義・記入上の諸注意について理解する。
・記録の取り方・記入の仕方を学ぶ。

4. 指導案

・部分実習の具体例を学ぶ。

5. 手続きと提出物

・期日を守り、自主的に進められる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
実習生としての態度（40%）	実習生として大変優れている。	実習生として優れている。	実習生として適切である。	実習生として努力を要する。	実習生としてかなり努力を要する。
保育の知識・技能（50%）	実習生として大変優れている。	実習生として優れている。	実習生として適切である。	実習生として努力を要する。	実習生としてかなり努力を要する。
実習日誌（10%）	実習生として大変優れている。	実習生として優れている。	実習生として適切である。	実習生として努力を要する。	実習生としてかなり努力を要する。

評価方法

施設による評価（実習態度、施設理解、施設保育士の職務理解等）および実習日誌の評価を総合して行う。実習日誌を期日までに提出していることが評価の前提となる。

テキスト

なし

保育実習指導Ⅲ･Ⅳ(事前事後)～実習の集大成として～

木谷・井上･佐藤･岩﨑
･宮澤･小林･西内・藤田

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
2年	前期	1	選択	－	－	必修

※実務経験のある教員による授業科目

授 業 概 要

保育実習Ⅲ（保育所）・Ⅳ（施設）の意義、目的、方法などを学ぶとともに、保育実習Ⅰ（保育所）・Ⅱ（施設）において明確になった課題について、さらに学びを深められるよう実習事前指導を行う。また、子どもや利用者、保育士の役割と職務内容について理解を深め、保育士としての専門性や実践的知識を高めるため、責任実習の実施に向けた指導を行う。

事後指導では、実習先の講評や実習日誌、自己評価、実習反省会等を通して、実習のまとめと振り返りを行い、保育士としての新たな目標、自己の課題が明確になるよう指導する。

授業は、特別支援学校や保育所での勤務経験を反映させて実施する。

授 業 計 画

授業回	授業内容	
	保育実習Ⅲ（保育所）	保育実習Ⅳ（施設）
	【事前指導】	
第 1 回	実習事前事後指導の流れについて	実習事前事後指導の流れについて
第 2 回	保育実習Ⅲ（保育所）の目的と意義	保育実習Ⅳ（施設）の目的と意義
第 3 回	実習先事前訪問について	実習先事前訪問について
第 4 回	課題を明確にして保育実習に取り組むために	課題を明確にして保育実習に取り組むために
第 5 回	実習日誌とその活用（1）	実習日誌とその活用（1）
第 6 回	実習日誌とその活用（2）	実習日誌とその活用（2）
第 7 回	指導案の作成（1）	施設の役割と現状
第 8 回	指導案の作成（2）	指導案の作成
第 9 回	模擬保育（1）	模擬保育（1）
第 10 回	模擬保育（2）	模擬保育（2）
第 11 回	模擬保育（3）	施設の理解を深める（施設見学①）
第 12 回	模擬保育（4）	施設の理解を深める（施設見学②）
第 13 回	実習における諸注意と事前の自己チェック	実習における諸注意と事前の自己チェック
	【事後指導】	
第 14 回	実習の総括と自己評価① レポート作成	実習の総括と自己評価① レポート作成
第 15 回	実習の総括と自己評価② グループワーク	実習の総括と自己評価② グループワーク

予 習 ・ 復 習

（1）予習　①次回の授業内容を確認し、持ち物や提出物を整える。
②実習先事前訪問にもとづき、自己の課題を明確にして実習に臨む。

（2）復習　①課題を完成させ、期日内に提出できるように計画的に準備を進める。
②実習終了後には、実習成果報告会に向けて実習における自己の学びをまとめる。

履修上の注意

・事前指導の欠席が 2 割を超えた場合、実習を実施できない。
・川口短期大学「実習のてびき」と教科書は毎回持参すること。
・保育実習指導Ⅳでは、学外授業を行う予定である。

到 達 目 標

・園や施設の方針を理解したうえで、保育者の関わりを基に適切に行動できるようになり実習に臨む。
・生活・遊びを促すための教材研究や援助の仕方を理解して実習に臨む。
・記録のとり方・記入の仕方を理解して実習に臨む。
・指導案を書く意味を理解し、指導案を保育実習につなげることができる。
・期日を守り提出物や実習の手続きを計画的に進められる。
・保育実習Ⅲ・Ⅳを振り返り、今後の課題を明確にできる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
理解度（50%）	授業内容を十分理解し、授業内容を越えた自主的な学習ができる。	授業内容を十分理解している。	授業内容を理解できていない部分がある。	授業内容をほとんど理解できていない。	授業内容を理解できていない。
課題解決能力（40%）	提示された課題に沿って、資料を調べたり参照したりしながら課題を作成し発表することができる。また、関連する事柄について自主的な学習ができる。	提示された課題に沿って、資料を調べたり参照したりしながら課題を作成し発表することができる。	提示された課題と内容にずれがある、または、課題に不足がある。	提示された課題と内容があっていない。	課題を作成することができていない。
実習体験を論理的に文章で説明する力（10%）	実習体験を踏まえ、自分の意見を論理的かつ発展的に文章にすることができる。	実習体験を踏まえ、自分の意見を論理的に文章にすることができる。	実習体験を論理的に文章にすることはできているが、論理性に不足が見られる。	実習体験を文章にすることはできているが、論理的ではない。	実習体験を文章で説明することができていない。

評価方法

授業態度、課題の内容とその提出状況等により、総合的に評価する。

テキスト

・「実習のてびき」（川口短期大学より配布）
・厚生労働省編『保育所保育指針解説』（平成 29 年度告示）フレーベル館，2018 年 3 月（ISBN：457781448X）
・Ⅲ：小櫃智子他編著『改訂版　実習日誌・実習指導案 パーフェクトガイド』わかば社，2023 年（ISBN：4907270437）
・Ⅳ：守巧他著『改訂版　施設実習パーフェクトガイド』わかば社，2023 年（ISBN：4907270429）

保育実習Ⅲ(保育所)

～保育所理解および保育理解を深める～

専任教員

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
2年	－	2	選択	－	－	選択必修

※実務経験のある教員による授業科目

授業概要

保育実習Ⅰ(保育所)の学びを踏まえ、子どもとのかかわりを深めながら観察し、保育理念や保育課程を把握し、保育士の職務をより深く理解できるように指導する。また、修得した全教科の知識と技能を基礎として、総合的に実践する応用力を身に付けられるように指導する

授業計画

（1） 実習期間と実習時間

2026 年 8 月･9 月の間の 12 日間以上、90 時間以上の実習を行う（実習園によって日程が異なります)。

(2) 実習内容

実習園の指導のもと参加実習、指導実習（部分実習および責任実習）を行い、省察する。

予習・復習

・復習：(1) 予習　① 実習先事前訪問にもとづき、保育園の概要理解に努める

② 保育実習事前指導を受講し、実習の目標を定め、実習日誌に記載する

③ 実習中は、次の日の実習目標をたて、教材準備等に努める

(2) 復習　実習中は毎日、実習日誌の記入を通して、実習の振り返りに努める

履修上の注意

(1) 保育実習Ⅲを実施するためには、原則として以下のすべての条件を満たすことが必要である。

①実習派遣条件科目の単位を修得していること

②「保育実習指導(事前事後)Ⅲ」の授業に原則全出席していること

③すべての書類の提出及び手続きを所定の期日までに完了していること

④保育実習指導Ⅲ（事前事後）の到達目標に達していること

(2) 保育実習日程を守り、実習を実施することが必要である。

保育実習期間中の欠席は、原則として認めらない。認められた場合でも、実習の延長が必要である。

到達目標

1. 実習生の姿勢・態度

・園や施設の方針を理解したうえで、適切に行動できる

・目標を明確にし、向上心をもって実践的な学びを積み上げることができる

2. 知識および技能

・保育内容にふさわしい教材準備や環境構成ができる

・生活・遊びを促すための援助ができる

3. 実習日誌

・乳幼児とのかかわりから保育士の意図を感じ取り「学び」や「気づき」を書くことができる

・実習生のかかわりを詳細に記録し、省察することができる。

・子どもの姿を場面で捉え、そこから「乳幼児理解」につなげていくことができる。

4. 指導案

・指導案を書く意味が分かり、指導案を保育実践につなげることができる

・全日実習指導案の作成から実践につなげる

5. 手続きと提出物

・期日を守り、計画的に進められる

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
実習生としての態度（40%）	実習生として大変優れている。	実習生として優れている。	実習生として適切である。	実習生として努力を要する。	実習生としてかなり努力を要する。
保育の知識・技能（50%）	実習生として大変優れている。	実習生として優れている。	実習生として適切である。	実習生として努力を要する。	実習生としてかなり努力を要する。
実習日誌（10%）	実習生として大変優れている。	実習生として優れている。	実習生として適切である。	実習生として努力を要する。	実習生としてかなり努力を要する。

評価方法

実習園による評価（実習態度、保育所理解、幼児理解等）および実習日誌の評価を総合して行う。実習日誌を期日までに提出していることが評価の前提となる。

テキスト

なし

保育実習Ⅳ(施設)

～児童福祉施設への理解を深め、実践力を高める～

専任教員

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
2年	－	2	選択	－	－	選択必修

※実務経験のある教員による授業科目

授業概要

保育実習Ⅱ(施設)の学びをふまえ、児童福祉施設(保育所を除く)、その他社会福祉施設における実践を通して、施設における子ども・利用者の生活を理解するとともに、保育士として必要な支援技術の向上を目指し指導する。

授業計画

(1) 実習期間実習時間

2025年8月・9月の間に、12日間の実習を行う（実習施設により日程は異なります)。

(2) 実習内容

観察・参加実習を中心とするが、施設の指導をもとに部分実習も行う。

予習・復習

(1) 予習　① 実習先事前訪問にもとづき、施設の概要理解に努める。
② 保育実習事前指導を受講し、実習の目標を定め、実習日誌に記載する。
③ 実習中は、次の日の実習目標をたて、教材準備等に努める。

(2) 復習　実習中は毎日、実習日誌の記入を通して、実習の振り返りに努める。

履修上の注意

(1) 保育実習Ⅳを実施するためには、原則として以下のすべての条件を満たすことが必要である。
①実習派遣条件科目の単位を修得していること。
②「保育実習指導(事前事後)Ⅳ」の授業に原則全出席していること。
③すべての書類の提出及び手続きを所定の期日までに完了していること。
④保育実習指導Ⅳ（事前事後）の到達目標に達していること。

(2) 保育実習日程を守り、実習を実施することが必要である。
保育実習期間中の欠席は、原則として認めらない。認められた場合でも、実習の延長が必要である。

到達目標

1. 実習生の姿勢・態度
- 施設の方針を理解したうえで、保育者と子ども・利用者とのかかわり方を学び、適切に行動できる。
- 保育者として学んだことを主体的に果たすことができる。

2. 知識および技能
- 信頼関係を築くための技能を身につける。
- 施設の役割と社会的な位置づけを知る。
- 施設の現状（生活、職員の役割）を理解する。

3. 実習日誌
- 子どもや利用者とのかかわりから保育者の意図を感じ取り、「学び」や「気づき」を書くことができる。
- 「個」と「集団」の姿を記録できる。
- 実習生のかかわりを詳細に記録し、省察することができる。

4. 指導案
- 指導案を書く意味が分かり、指導案を実践につなげることができる。

5. 手続きと提出物
- 期日を守り、計画的に進められる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
実習生としての態度（40%）	実習生として大変優れている。	実習生として優れている。	実習生として適切である。	実習生として努力を要する。	実習生としてかなり努力を要する。
保育の知識・技能（50%）	実習生として大変優れている。	実習生として優れている。	実習生として適切である。	実習生として努力を要する。	実習生としてかなり努力を要する。
実習日誌（10%）	実習生として大変優れている。	実習生として優れている。	実習生として適切である。	実習生として努力を要する。	実習生としてかなり努力を要する。

評価方法

施設による評価（実習態度、施設理解、施設保育士の職務理解等）および実習日誌の評価を総合して行う。実習日誌を期日までに提出していることが評価の前提となる。

テキスト

なし

保育・教職実践演習（幼・小）

～これまでの学びをふりかえる～

長沼・関根・西・岩崎・小林・西内・藤田・一色

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
2年	後期	2	選択	必修	必修	必修

※実務経験のある教員による授業科目

授業概要

入学から２年次前期までに学んできた教員および保育士になるために必要な知識・技能について習得できているかを整理し、学びの確認を行う。免許・資格取得関連項目について、何をどう学んだか、学修評価表（かわたんシート）を通じて確認し、保育所をはじめとする各児童福祉施設、幼稚園および小学校について、分野ごとに、子ども理解、クラス経営、内容の指導法等に関するグループディスカッションなどを行っていく。

また、外部講師の講義を通して、広い視野に立って教育・福祉について指導する。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	ガイダンス
第 2 回	全体講義①外部講師の講義（先輩から学ぶ保育・教育の現場）
第 3 回	クラス別演習①
第 4 回	全体講義②外部講師の講義（保育所で働くということ）
第 5 回	クラス別演習②
第 6 回	全体講義③外部講師の講義（児童福祉施設で働くということ）
第 7 回	クラス別演習③
第 8 回	全体講義④外部講師の講義（幼稚園で働くということ）
第 9 回	クラス別演習④
第 10 回	全体講義⑤外部講師の講義（小学校で働くということ）
第 11 回	クラス別演習⑤
第 12 回	全体講義⑥ふりかえり
第 13 回	クラス別演習⑥
第 14 回	全体報告会
第 15 回	まとめ

予習・復習

・予習：日頃から、情報メディアセンター（図書館）へ赴くなどして、教育・保育・福祉に関する書物に目を通しておく。

・復習：授業で学んだことをノートにまとめておき、随時確認する。

履修上の注意

すべての教育実習または保育実習を履修済みであることを履修の要件とする（教育実習または保育実習をすべて終えていない者は履修できない）。

原則として、すべての回の出席を求める。やむを得ない欠席については、必ず届け出ること。

クラス別演習は、２０～３０名程度のクラスを編制し、クラス別の授業を行う。履修クラスはガイダンスで提示する。

到 達 目 標

これまで大学で学んできた授業内容、および実習での活動について、学修評価表（かわたんシート） を通して全体の関係性を理解することができる。

また、自己の学修と他者の学修とをグループディスカッション等を通して比較し、教育・保育・福祉の多様性を理解することができる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
理解度（40%）	授業内容を超えた自主的な学修ができる。	授業内容をほぼ100%理解している。	授業内容の理解に多少不足がある。	授業内容について最低限の理解をしている。	授業内容についての理解ができていない。
課題解決および発表能力（40%）	解決方法や発表の仕方が分からない他人へアドバイスができる。	何も参照せずに独自の能力で課題を解き、発表することができる。	参考文献等を参照しながら課題を解き、発表することができる。	他人のアドバイスがあれば課題を解き、発表することができる。	他人のアドバイスがあっても自発的に課題を解くことができず発表することもできない。
授業への積極性（10%）	授業に積極的に取り組み、自主的な学習へつなげることができる。	授業に積極的に取り組むことができる。	授業への取り組みが、やや消極的である。	授業への取り組みが消極的である。	授業へ取り組む姿勢がみられない。
論理的に文章で説明する力（10%）	提示された課題について、他人を十分に説得する内容を記述することができる。	論理が通った内容をよく記述することができる。	不足する点はあるものの、他人が理解できる程度の論理的な文章を書くことができる。	最低限の内容について文章で説明ができる。	内容について文章で説明することができない。

評価方法

学期末レポート 70%
授業内レポート 20%
受講態度 10%

テキスト

教科書は使用しない。

ICT 活用の理論と方法（旧課程）

～教育 DX への対応とオンライン授業の実践的活用法～

織戸　恒男

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
2 年	後期	2	選択	－	必修	－

授 業 概 要

「情報通信技術（ICT; Information & Communication Technology）を活用した教育の理論及び方法」の習得を目的として、ｸﾗｳﾄﾞﾈｯﾄﾜｰｸを利用した情報や知識のやり取り（＝生徒とｵﾝﾗｲﾝでつながる）に焦点を当て、教育ﾃﾞｼﾞﾀﾙﾄﾗﾝｽﾌｫｰﾒｰｼｮﾝに対応したｵﾝﾗｲﾝ授業の実践的活用方法をﾊﾝｽﾞｵﾝ（体験型学習）形式で指導する。

授 業 計 画

授業回	授業内容
第 1 回	イントロダクション －現代社会における ICT の役割－ 日常生活と最先端テクノロジー／ICT の基本理解／教育へのテクノロジー活用の意義
第 2 回	GIGA スクール構想と教育現場のデジタルトランスフォーメーション（DX） ICT 活用指導力が求められる理由／1 人 1 台の情報端末／情報活用能力とモラルの育成
第 3 回	オンライン授業に必要な情報端末（PC・スマートフォン・タブレット類）と基本操作 OS／アプリケーションソフト／データストレージサービス／コラボレーションツール
第 4 回	オンラインコミュニケーションと情報検索・収集の方法 ドメインの理解／電子メール・チャット／Web ブラウザー／検索エンジン／SNS
第 5 回	教育機関向けクラウド型ネットワークサービスの活用方法 クラウドサービスの機能・特徴と活用事例／校務の情報化／Microsoft Teams 基本設定確認
第 6 回	オンライン教室の設定 ①（トライアル・基礎編） テクノロジーを活用した教育の意義／クラウドサービスを活用したオンライン教室の特徴
第 7 回	オンライン教室の設定 ②（実践・活用編） オンライン教室の計画／クラスの作成／生徒の招待／チャネルの作成／チームの設定
第 8 回	オンライン授業の開始 ①（トライアル・基礎編） クラウドサービスを活用したオンライン授業の特徴／オンライン授業の設計
第 9 回	オンライン授業の開始 ②（実践・活用編） 生徒との対話・やり取り／資料ファイルの投稿／メッセージ投稿・返信・編集
第 10 回	オンライン授業の運営 ①（トライアル・基礎編） 授業開始／オーディオ・ビデオ・録画など授業運営の環境設定
第 11 回	オンライン授業の運営 ②（実践・活用編） 出席確認／画面共有／意見交換／グループワーク／質疑応答など授業運営の基本
第 12 回	オンライン授業の運営 ③（応用編） アンケート実施／課題／小テスト／ルーブリック／成績評価など授業運営の応用
第 13 回	オンライン授業の検証（機能・操作確認編） クラス・授業への参加／メッセージ確認・返信／質問・回答確認／録画閲覧／課題確認
第 14 回	模擬授業の実施と参加（実際の授業を想定したオンライン・ロールプレイ）
第 15 回	模擬授業の検証（オンライン授業の改善点・課題の明確化と解決策の検討）

予 習 ・ 復 習

- 予習：教科書の指定された範囲を必ず講義までに学習しておくこと（他に、授業内で事前準備の指示あり）。
- 復習：講義で学習した内容を必ずその日のうちに復習すること。興味や関心を持ったこと／理解できなかったこと／感想や要望／質問などを、毎回配布するシート（ミニットペーパー）に記入し、次回講義までに必ず提出すること(他に、授業内で課題の指示あり)。

履修上の注意

4. 受講者所有のノートパソコンを持参することを推奨する。
5. 受講者の情報端末操作リテラシーや理解度などに応じて、授業内容を変更することがある。
6. 交通機関の遅延等を除き、遅刻は原則認めない（やむを得ない事由の場合には要事前連絡）。

到 達 目 標

5. 教育現場おける ICT 活用の意義と理論を理解する。
6. ICT 活用指導力に必要な情報端末機能を操作することができる。
7. 教育機関向けクラウドサービスを活用したオンライン教室を設定することができる。
8. 教育機関向けクラウドサービスを活用したオンライン授業を実施することができる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
ICT 活用の意義と理論の理解（20%）	ICT 活用の意義と理論の理解にとどまらず、オンライン授業の設計まで習得できている。	ICT 活用の意義と理論を理解している。	ICT の役割を理解している。	ICT の役割をある程度理解している。	ICT 活用の意義や理論も ICT の役割も理解していない。
ICT 活用指導力に必要な情報端末の操作（20%）	講義で取り上げていない情報端末の機能を応用することができる。	講義で取り上げた情報端末の機能を活用することができる。	情報端末の機能をある程度活用することができる。	情報端末の機能を不十分であるが、操作することができる。	情報端末を操作することができない。
オンライン教室の設定（30%）	講義で取り上げていないオンライン教室設定の機能を応用することができる。	講義で取り上げたオンライン教室設定の機能を活用することができる。	オンライン教室設定の機能をある程度活用することができる。	オンライン教室設定の機能を不十分であるが、操作することができる。	オンライン教室設定の機能を操作することができない。
オンライン授業の実施（30%）	講義で取り上げていないオンライン授業実施の機能を応用することができる。	講義で取り上げたオンライン授業実施の機能を活用することができる。	オンライン授業実施の機能をある程度活用することができる。	オンライン授業実施の機能を不十分であるが、操作することができる。	オンライン授業実施の機能を操作することができない。

評価方法

受講態度（体験型学習への取り組み）40%、後期定期試験（実技）40%、課題（レポートなど）20%

テキスト

・教科書名：できる Microsoft Teams for Education すぐに始めるオンライン授業
・著 者 名：清水理史&できるシリーズ編集部
・出版社名：インプレス
・出 版 年（ISBN）：2021 年（978-4-295-01099-9）
※その他、講義で用いた資料は Microsoft Teams の「ICT 活用の理論と方法」のチームにある「クラスの資料」のフォルダーにアップロードする（必要に応じてダウンロードすること）。

保育･教育学演習Ⅰ　～運動遊びの実践・実感を通して～	小山内　弘和

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
1年	後期	1	必修	－	選択必修	－

授業概要

本演習では、「身体、身体活動」を中心に実践していく。自分自身が様々な運動を経験し、その中での気づきを発見する。また、運動の「できない」から「できる」に変わるためにどのように活動を組み立てていく必要があるかを自分たちで探索的に考えていく。その経験を踏まえて、運動に対して多角的に取り組めるように運動あそびの作成も行っていく。実践、実感し、物事を系統的に考えられるよう指導する。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	ガイダンス：　保育・教育学演習Ⅰ　体育・健康科学についての進め方や注意事項を伝達する。
第 2 回	運動遊びの実践①：　運動遊びを実践し、自己の運動遊びの「できる」「できない」を確認するとともに、互いに教えあうことを実践してみる。
第 3 回	パラバルーンの立案、作成、実践①：　全員で行う種目であるパラバルーンを知るとともに、体験してみる。
第 4 回	パラバルーンの立案、作成、実践②：　パラバルーンの演技を、音楽、振付から考え、完成させるための準備を進める。
第 5 回	パラバルーンの発表（リハーサル）①：　一通り完成したパラバルーンの演技を実際に行い、細かな調整を行う。
第 6 回	パラバルーンの発表：　全員で発表を行う。
第 7 回	運動遊びの実践②：　大人であっても「できない」遊びを実施しながら、「できる」ための方法を ICT やアイディアを持ち寄って検討してみる。
第 8 回	運動遊びの立案：　運動遊びを人に「行わせること」を目指して、各自が実践する内容を立案する。
第 9 回	運動遊びの作成：　運動遊びを人に「行わせること」を目指して立案した内容を実践できるようにシナリオを作成する。
第 10 回	遊びの発表（シミュレーション）：　運動遊びを人に「行わせること」を目指して作成した内容のシミュレーションを行い、発表の準備をする。
第 11 回	運動遊びの発表・実践①：　運動遊びを人に「行わせること」を実際に実践してみる。
第 12 回	運動遊びの発表・実践②：　運動遊びを人に「行わせること」を実際に実践してみる。
第 13 回	運動あそびの評価分析：　運動遊びを人に「行わせること」の実践について、互いに評価・分析を検討することで、その内容の理解を深める。
第 14 回	保育・教育学演習Ⅱについて：　保育・教育学演習Ⅱの内容について説明することで、保育・教育学演習Ⅱへの見通しをもった準備を行わせる。
第 15 回	全体総括

予習・復習

集団での活動が中心となることから、内容の理解が薄い場合は他の多くの学生に負担を強いることになることから、以下の予習・復習を必ず行う事。

・予習：内容の理解を深めるようシミュレーションや内容の確認を十分にして授業に臨む。

・復習：行ったことを、再度検討し次への課題を発見する。

履修上の注意

実技での活動を中心とする。全ての内容において多くの準備を必要とする。できる・できないのみではなく、積極的で「一生懸命」な姿勢で取り組むこと。集団での活動が中心となることから、協調性を持ち、積極的にコミュニケーションを取ることを期待する。
・主にアリーナで行うが、その際は適した服装をすること。
・遅刻（30 分以内の遅れ）は 3 回で 1 回の欠席とする。
※履修者の状況に合わせて，内容を変更する場合がある。

到 達 目 標

初めて行う運動や、「できる」または「できない」運動に取り組むことで、運動へどのようにアプローチしていくかを積極的に考えることができる。
互いに協力しあいながら、運動に取り組み楽しみを共有することができる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
理解度（30%）	授業内を越え積極的に学修ができる。	授業内容をほぼ100%理解している。	理解はしているが授業内容の理解に多少不足がある。	授業内容を最低限の理解をしている。	内容についての理解ができていない。
授業への積極性（30%）	授業内での学習に積極的に取り組み、自主的な学習や準備につなげることができる。	授業内での学習に積極的に取り組むことができる。	授業内での学習への取り組みがやや消極的である。	授業内での学習への取り組みが消極的である。	授業内での学習に取り組む姿がみられない。
問題発見能力（20%）	発見できない学生に解決方法をアドバイスできる。	独自の能力で課題を発見することができる。	参考にするものがあれば、独自の能力で課題を発見することができる。	他人のアドバイスがあれば課題を発見することができる。	他人のアドバイスがあっても自発的に課題を発見すること ができない。
授業での協調性（20%）	授業内での学習に協調的に取り組み、自主的な学習や準備も協調して行うことができる。	授業内での学習にとても協調的に取り組むことができる。	授業内での学習に協調的に取り組むことができる。	授業内での学習にやや協調的に取り組むことができる。	授業内での学習に協調的に取り組むことができない。

評価方法

・授業への貢献度（積極性、協調性）（50%）
・発表（20%）
・提出物（30%）

テキスト

なし。
必要に応じて、適宜、プリントを配布する。

保育･教育学演習Ⅰ　～絵本を読む・絵本をつくる～

木谷　安憲

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
1年	後期	1	必修	－	選択	－

授 業 概 要

幼稚園実習や就職後に使うための、創作絵本の制作をする。
創作紙芝居の共同制作し、その方法と意義の理解を指導していく。

授 業 計 画

授業回	授業内容
第 1 回	紙芝居の共同制作　アイディア出し　作画
第 2 回	紙芝居の共同制作　作画　脚本
第 3 回	紙芝居の共同制作　完成　上演練習
第 4 回	絵本の制作 アイディアを出す
第 5 回	絵本の制作 構成
第 6 回	校外授業
第 7 回	校外授業
第 8 回	絵本の制作 作画
第 9 回	絵本の制作 作画
第 10 回	絵本の制作 作画
第 11 回	絵本の制作 彩色
第 12 回	絵本の制作 彩色
第 13 回	絵本の制作 製本
第 14 回	絵本の制作 製本
第 15 回	まとめ・振り返り

予 習 ・ 復 習

・予習：多くの絵本を読む。

・復習：下描きなど事前準備が必要な場合は指示をする。

履修上の注意

自分の宝物を作るつもりでこの授業に臨む。
校外授業を行う(場所、取り組みなどについては授業の中で説明する)。
20 分を超えた遅刻は欠席扱いとする。遅刻 3 回で 1 回の欠席とする

到 達 目 標

絵本について詳しくなる。
自分の絵本を完成させる。
実習や就職した後に役立つ知識や経験を積む。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
思考力［絵本・紙芝居制作等における活動計画等］(20%)	思考力を働かせた、全学生の見本となるような活動計画等を作ることができる。	思考力を働かせた、すぐれた活動計画等を作ることができる。	思考力を働かせた活動計画等を作ることができる。	活動計画等を作ることができても、思考力の観点が抜けている。	思考力という観点が抜けている
構想力［絵本・紙芝居制作等におけるアイディア等］(20%)	全学生の見本となるような構想力のある作品制作を行うことができる。	すぐれた構想力のある作品制作を行うことができる。	構想力のある作品制作を行うことができる。	作品制作を行うことができるが、構想力の観点が抜けている。	構想力という観点が抜けている。
表現力［絵本・紙芝居制作等における表現力］(40%)	全学生の見本となるような見本作品を作る表現力を持っている。	すぐれた作品を作る表現力を持っている。	作品を作る表現力を持っている。	作品を作ることができても、表現力の観点が抜けている。	表現力という観点が抜けている。
総合的な力(20%)	思考力、構成力、表現力を結びつけ、全学生の見本となるような実践を行うことができる。	思考力、構成力、表現力を結びつけた、すぐれた実践を行うことができる。	思考力、構成力、表現力を結びつけた、実践を行うことができる	実践を行うことができても、思考力、構成力、表現力が結びついていない。	思考力、構成力、表現力を結びつける観点が抜けている。

評価方法

提出作品(70%)
制作態度・発表(30%)

テキスト

使用せず。適宜プリントを配布する

保育･教育学演習Ⅰ　～特別支援教育に関心を深める～

井上　昌士

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
1年	後期	1	必修	－	選択必修	－

授業概要

本演習では、特別支援教育に関する研究領域について、受講生一人ひとりが抱く疑問や知りたいことを中心に、個人またはグループで調査・研究テーマを設定して取り組む。研究領域は特に限定せず、心理、病理、生理、教育課程、指導方法、指導内容、指導体制など幅広く扱い、受講生が特別支援教育への関心を深められるよう指導する。

前半は調査・研究テーマに基づき、資料の収集・整理および分析を行い、中間報告を実施する。後半は成果物（レポートや教材など）および発表資料の作成に取り組み、発表会を実施する。発表と討議を通じて、さらに理解を深められるよう指導する。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	オリエンテーション
第 2 回	調査・研究テーマ設定について
第 3 回	調査・研究活動①　資料の収集と整理
第 4 回	調査・研究活動②　資料の収集と整理
第 5 回	調査・研究活動③　資料の分析
第 6 回	調査・研究活動④　資料の分析
第 7 回	調査・研究活動⑤　中間発表用レジュメ作成
第 8 回	中間発表　質疑応答
第 9 回	調査・研究活動⑥修正・改善点の確認　追加資料の収集と整理、分析
第 10 回	レポート・教材等，発表資料作成①　構想立案
第 11 回	レポート・教材等，発表資料作成②　制作活動
第 12 回	レポート・教材等，発表資料作成③　製作活動
第 13 回	レポート・教材等，発表資料作成④　発表練習
第 14 回	レポート・教材等発表会
第 15 回	まとめ

予習・復習

- 予習：調査・研究活動、発表資料作成のスケジュールに沿って、効率よく活動が進むように計画的に準備を行う。
- 復習：取り組んだ活動の見直しや不足部分の補充を行い、次回に備える。

履修上の注意

- 資料収集、分析を重視し、エビデンスに基づいた調査・研究活動、発表になるように努めること。
- 遅刻３回で欠席１回とする。
- 遅刻、早退、欠席については直接担当教員に申し出ること。

到 達 目 標

- テーマに関連する資料や文献を収集・整理し、それらを引用・参照して分析を行う方法を学び、理解する。
- 設定した調査・研究テーマのレポートや教材等を作成し発表を行う。
- 特別支援教育への関心を高める。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
レポート・ポスター発表力＜思考・判断・表現：理解したことをどう使うか＞ (40%)	収集・整理したテーマに関連する資料や文献を十分に活用して、レポートやポスターが制作され、発表の内容が根拠に基づいて明確に示されている。	収集・整理したテーマに関連する資料や文献を活用して、レポートやポスターが制作され、発表の内容が、テーマと関わって示されている。	レポートやポスターの発表の内容が、テーマと関わって示されているが、一部不十分な内容がある。	レポートやポスターの発表の内容が、十分にテーマと関わっていない。	レポートやポスターの発表の内容が、テーマと関わっていない。
主体的に学ぶ態度（どのように学びと向き合うか) (60%)	調査・研究活動及び制作活動に積極的に参加するとともに、自らの進捗状況を把握し、よりよく活動を遂行しようとする意欲をもって取り組んでいる。	調査・研究活動及び制作活動に積極的に参加し、よりよいものにしようと改善・工夫をしながら取り組んでいる。	調査・研究活動及び制作活動に参加しているが、やや積極性に欠け、改善・工夫しようとする態度があまり見られない。	主体的に学ぶ態度にやや欠ける面が見られる。	主体的に学ぶ態度が見られない。

評価方法

発表内容：40%
受講態度（参加度、貢献度を含む）：60%

テキスト

教科書は使用しない。

保育･教育学演習Ⅰ　～『クオーレ』を読む～

長沼　秀明

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
1年	後期	1	必修	－	選択必修	－

授業概要

イタリアの作家エドモンド・デ・アミーチスの名作『クオレ』(1886 年刊行) を講読します。この作品には、今から 130 年ほど前の北イタリアの都市の 1 年間の学校生活が小学 4 年生の日記形式で綴られています。作品の講読をつうじて各自が保育・教育学に関する諸問題を発見・分析し、皆で討議することを通じて、各自が保育者・教育者として必要な社会認識の基本的能力を培うことができるよう指導します。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	はじめに（履修上の注意および授業の位置づけなど）
第 2 回	作品の講読・分析（その 1）
第 3 回	作品の講読・分析（その 2）
第 4 回	作品の講読・分析（その 3）
第 5 回	作品の講読・分析（その 4）
第 6 回	作品の講読・分析（その 5）
第 7 回	作品の講読・分析（その 6）
第 8 回	作品の講読・分析（その 7）
第 9 回	作品の講読・分析（その 8）
第 10 回	作品の講読・分析（その 9）
第 11 回	レポート（ミニ論文）の作成（その 1）
第 12 回	レポート（ミニ論文）の作成（その 2）
第 13 回	レポート（ミニ論文）の作成（その 3）
第 14 回	レポート（ミニ論文）の作成（その 4）
第 15 回	まとめ

予習・復習

・予習：授業内容に関する教科書の該当部分を事前に読んできてください。
・復習：授業で扱われた内容を教科書であらためて確認しておいてください。

履修上の注意

毎回、積極的に課題に取り組み、発言して、授業に大いに貢献してください。学生諸君同士、お互い大いに学びあってください。
遅刻 2 回を欠席 1 回に換算するので、くれぐれも遅刻しないこと。

到 達 目 標

文学作品の講読を通じて、保育者・教育者として必要な社会認識の基本的能力を培うことができるようになること。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
理解度（40%）	授業内容を超えた自主的な学修ができる。	授業内容をほぼ100%理解している。	授業内容の理解に多少不足がある。	授業内容について最低限の理解をしている。	授業内容についての理解ができていない。
課題解決および発表能力（30%）	解決方法や発表の仕方が分からない他人へアドバイスができる。	何も参照せずに独自の能力で課題を解き、発表することができる。	参考文献等を参照しながら課題を解き、発表することができる。	他人のアドバイスがあれば課題を解き、発表することができる。	他人のアドバイスがあっても自発的に課題を解くことができず発表することもできない。
授業への積極性（10%）	授業に積極的に取り組み、自主的な学習へつなげることができる。	授業に積極的に取り組むことができる。	授業への取り組みが、やや消極的である。	授業への取り組みが消極的である。	授業へ取り組む姿勢がみられない。
論理的に文章で説明する力（20%）	提示された課題について、他人を十分に説得する内容を記述することができる。	論理が通った内容をよく記述することができる。	不足する点はあるものの、他人が理解できる程度の論理的な文章を書くことができる。	最低限の内容について文章で説明ができる。	内容について文章で説明することができない。

評価方法

授業の成果 70%
学期末レポート 30%

テキスト

・教科書名：『クオレ』(21 世紀版 少年少女世界文学館 22)
・著 者 名：エドモンド・デ・アミーチス著、矢崎源九郎訳
・出版社名：講談社
・出 版 年（ISBN）：2011 年

保育･教育学演習Ⅰ　～保育学～

関根　久美

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
1年	後期	1	必修	－	選択	－

授 業 概 要

児童文化財である「エプロンシアター」を作成について指導する。
人形劇、児童劇などのパフォーマンスを観覧の場を設定し指導する。

授 業 計 画

授業回	授業内容
第 1 回	オリエンテーション
第 2 回	エプロンシアターの題材を決定する。
第 3 回	エプロンシアターの型紙つくり①
第 4 回	エプロンシアターの型紙つくり②
第 5 回	エプロンシアターの型紙つくり③
第 6 回	布の裁断①
第 7 回	布の裁断②
第 8 回	エプロンシアターの縫製①
第 9 回	エプロンシアターの縫製②
第 10 回	外部での実践見学
第 11 回	観覧した「演目」に関るまとめ
第 12 回	エプロンシアターの縫製③
第 13 回	エプロンシアターのしかけつくり①
第 14 回	エプロンシアターのしかけつくり②
第 15 回	振り返りとまとめ

予 習 ・ 復 習

・予習：作成について資料収集をする。

・復習：各自の計画に間に合うよう、自宅での実践を行う。

履修上の注意

自分の課題に向かって前向きに取り組むこと。

到 達 目 標

教員の援助を受けながら、自分の力で「エプロンシアター」を完成させる。作成方法、裁縫の技法を身に付ける。「人形劇」「児童劇」の観劇から感性を豊かにする。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
エプロンシアター作成への取り組み（ 80%）	自らの技量で作成することができ、主体的に作成に取り組む。	教員の助言を受けながら、主体的に作成に取り組む。	教員の助言、補助を受けながら、主体的に作成に取り組む。	教員の補助、周囲の人の助言を受けながら、作成に取り組む。	エプロンシアターの作成に取り組まない。
外部での観劇からの学び（ 20%）	子どもの感性を豊かにするという観点から演目の楽しさを捉えることができる。	子どもの目線での演目の楽しさを捉え学びに繋げる。	自らが感じた楽しさから演目の楽しさを捉え、学びに繋げる。	自らが演目を楽しむ。	観劇に参加しない。

評価方法

作成の取り組みの評価 80%　課題提出 20%

テキスト

特になし。メディアセンター等を利用し各自の課題に適した資料を入手する。

保育･教育学演習Ⅰ　～教育と社会について考える～

西　敏郎

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
1年	後期	1	必修	－	選択必修	－

授 業 概 要

本演習では、子どもや学校教育に関する文献や映像資料を取り上げ、内容についてメンバーでディスカッションを行う。学術的な文献のみならず、文芸作品などにおける教育に関連する文化的側面からもアプローチし、子どもや教育に関する問題を多角的な視点から考えることができるよう指導する。

授 業 計 画

授業回	授業内容
第 1 回	オリエンテーション
第 2 回	文献の精読とディスカッションⅠ①（文芸作品）
第 3 回	文献の精読とディスカッションⅠ②（文芸作品）
第 4 回	文献の精読とディスカッションⅠ③（文芸作品）
第 5 回	文献の精読とディスカッションⅠ④（文芸作品）
第 6 回	文献の精読とディスカッションⅠ⑤（文芸作品）
第 7 回	文献の精読とディスカッションⅠ⑥（文芸作品）
第 8 回	中間のまとめ（レポート作成）
第 9 回	文献の精読とディスカッションⅡ①（学術論文）
第 10 回	文献の精読とディスカッションⅡ②（学術論文）
第 11 回	文献の精読とディスカッションⅡ③（学術論文）
第 12 回	文献の精読とディスカッションⅡ④（学術論文）
第 13 回	文献の精読とディスカッションⅡ⑤（学術論文）
第 14 回	文献の精読とディスカッションⅡ⑥（学術論文）
第 15 回	授業のまとめ（レポートの作成）

予 習 ・ 復 習

・予習：授業の前に、事前に配布された文献・資料を読み内容を捉え、問題に対する自分の考えをある程度まとめてくること。

・復習：授業のなかで関心を持った内容や、疑問に思った点について自分で文献や資料等で調べ理解を深めること。

履修上の注意

・日頃から、子どもや教育に関連する新聞記事やニュースに関心をもつことが望ましい。
・遅刻３回で欠席１回の扱いとする。

到 達 目 標

・文献や資料の内容を理解し、多角的な視点から考察することができる。
・ディスカッションを通して、他者の意見に耳を傾け、自分の考えをまとめることができる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
授業内容の理解度（40%）	授業内容を越えた自主的な学修ができる	授業内容を十全に理解している	授業内容を理解はしているが多少不足がある	授業の基本的な内容を概ね理解しているにすぎない	授業内容を全く理解していない
問題を捉え考察する力（30%）	授業の内容にとどまらず関連する発展的な内容を踏まえて考えることができる	授業の内容に関して、自分の考えを自分の言葉でまとめることができる	参考書や教科書を参考にすれば、自分の考えを導くことができる	他者の助言があれば、自分の考えをまとめることができる	他者の助言があっても、自分の考えがまとまらない
自分の考えを論理的に文章で説明する力（30%）	他者を説得する内容を記述することができる	論理的な説明文を記述することができる	不足する点はあるが、説明文を書くことができる	基本的な内容を説明することができる	基本的な内容についての説明ができない

評価方法

提出物や発表内容（50%）、授業への取り組み姿勢（50%）

テキスト

・教科書等は特に指定しないが、必要に応じて適宜資料を配布する。

保育･教育学演習Ⅰ

～管・打楽器を中心とした音楽表現活動に関する研究及び演習～

齊藤　淳子

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
1年	後期	1	必修	－	選択必修	－

授業概要

管・打楽器や身の回りにあるもの等を用いて，自らも主体的且つ豊かに表現することで，子ども達 に「音楽の楽しさ」「表現することの楽しさや大切さ」を伝えられるような保育者・教育者を目指す。 また，楽曲分析や討論，演習などを通して研究を深めるための方法を指導する。

授業計画

授業回	授業内容	
第 1 回	ガイダンス，研究テーマの検討	
第 2 回	研究計画について	楽器の奏法の習得①
第 3 回	楽器編成や幼児・児童に合わせた編曲について	〃 ②
第 4 回	探求・研究活動①	〃 ③
第 5 回	探求・研究活動②	〃 ④
第 6 回	探求・研究活動③	〃 ⑤
第 7 回	探求・研究活動④	〃 ⑥
第 8 回	中間発表(学園祭での発表)	
第 9 回	探求・研究活動⑤	〃 ⑦
第 10 回	探求・研究活動⑥	〃 ⑧
第 11 回	探求・研究活動⑦	〃 ⑨
第 12 回	探求・研究活動⑧	〃 ⑩
第 13 回	探求・研究活動⑨	〃 ⑪
第 14 回	探求・研究活動⑩	〃 ⑫
第 15 回	探求・研究活動⑪	〃 ⑬

予習・復習

楽器の演奏技能の向上には個人練習は必須である。基礎練習を含め，曲練習をして授業に臨むこと。また，発表に向けての準備も行うこと。

履修上の注意

・大学祭での発表などや学外での演奏会鑑賞等，授業外での活動も行うため，必ず参加すること。
・遅刻３回で１欠席扱いとする。

到 達 目 標

・管・打楽器，鍵盤楽器，声等によるアンサンブル力の向上
・ステージ発表におけるパフォーマンス力の向上
・ステージ発表に向けた企画・運営のための実践力の向上

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
楽器の技能（30%）	担当楽器を自由に演奏することができ，さらに上手く表現できない人に対してアドバイスすることができる。	担当楽器をしっかりと演奏することができ，所々，工夫することができる。	時々躓くが，担当楽器を一人であれば，ほぼ演奏できる。	アドバイスを参考に，担当楽器を演奏しようとするが躓きがかなり多い。	アドバイスを受けても考えることができず，全く演奏することができない。
器楽合奏の技能（30%）	周りに指示を出しながら練習や演奏を進め，全体の流れを把握しながら的確にアドバイスすることができる。	全体の流れを把握し，周りの人と合わせてしっかり演奏することができる。	全体の流れはあまり把握できておらず，周りと上手く合わせられないところがある。	全体の流れを把握できておらず，一度躓くと，途中から流れに戻ることが難しい。	全体の流れや自分の役割を全く把握しておらず，合奏は見ているだけになっている。
ステージ発表に向けた創意工夫（10%）	曲に応じた音色の工夫や振付，パフォーマンスなどを意識して演奏することができる。	曲に応じた振付，パフォーマンスなどを意識して演奏することができる。	演奏することはほぼできるが，パフォーマンスは所々だけ意識することができる。	演奏することはあまりできず，パフォーマンスまで意識を向けることは難しい。	演奏することがほぼできず，パフォーマンスを意識することは全くできない。
企画・運営の能力（10%）	発表に向け，魅せる演奏をするためのパフォーマンスを含めた企画・運営方法を考えることができる。	周りと協力して，ステージ発表の企画・運営について考えることができる。	ステージ発表の企画・運営について，意見を求められたときに発言することができる。	ステージ発表の企画・運営について，意見を求められてもほとんど何もいうことなく，お願いされたことだけを行う。	ステージ発表の企画・運営について何も考えておらず，お願いされたことも行うことができない。
学習意欲（20%）	話し合い活動の際にリーダーを務め，話し合いをまとめるなど積極的な態度で授業に取り組んでいる。課題は期日内に全て提出している。	話し合い活動の際に活発に意見やアイディアを出し，積極的な態度で授業に取り組んでいる。課題は期日内に全て提出している。	話し合い活動の際，意見を求められたらいうことはできるが，授業に臨む姿はやや積極性に欠ける。課題は概ね期日内に提出している。	話し合い活動の際に意見を求められてもほとんど何もいうことがなく，授業に臨む姿は積極性に欠ける。課題は提出しているが期日を守れないものが多い。	話し合い活動の際，その場にいるだけで話し合い等に参加しておらず，授業に臨む姿は消極的である。未提出の課題がある。

評価方法

演奏技能及びアンサンブル力（60%）　発表（20%）　学習態度・課題提出（20%）

テキスト

適宜，楽譜や資料を配布するため，スクラップブック等に整理し，まとめること。

保育･教育学演習Ⅰ　～絵本や昔話、幼年童話を深く学ぶ～	佐々木美和

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
1年	後期	1	必修	－	選択	－

授業概要

児童文学や児童文化を研究領域に、ゼミ生一人ひとりが自ら選んだテーマに沿って学びを深められるように指導する。

前半は教育実習Ⅰでの部分実習活動を念頭に、絵本の種類や知識、使い方など、絵本において知っておくべき基本的な事柄を確認する。その上で、想定される対象年齢児の発達や成長を踏まえて選んだ絵本の読み聞かせを実演してもらい、それに対して個別指導を行う。

後半は、1つの研究テーマを柱に、ゼミ生間で発表や意見交換を行う。研究テーマに該当すれば、児童文学や児童文化作品から研究対象を自由に選ぶことができる。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	ガイダンス ・２年間のゼミ授業とチューター制度の確認 ・学生同士で自己紹介
第 2 回	絵本研究の基本① ・個別面談指導（１回目）
第 3 回	絵本研究の基本② ・絵本の特徴と“絵本でリブリオバトル”（※お気に入りの絵本を1冊持参）
第 4 回	絵本研究の基本③ ・絵本作品の鑑賞と研究観点（形態別）について説明、学園祭に関して
第 5 回	絵本研究の基本④ ・絵本作品の鑑賞と研究観点（作家別）について説明、学園祭に関して
第 6 回	学園祭での出展を通じて① ・学園祭に向けての準備や練習（※協働活動）
第 7 回	学園祭での出展を通じて② ・学園祭での実践と振り返り
第 8 回	教育実習Ⅰに向けて① ・読み聞かせ活動に向けた絵本の選書と紹介
第 9 回	教育実習Ⅰに向けて② ・絵本の読み聞かせの実践と指導
第 10 回	絵本研究の基本⑤ ・「研究テーマ（共通）」の説明
第 11 回	絵本研究の基本⑥ ・調査と分析の準備
第 12 回	児童文化の活動① ・折り紙「指人形」の説明と制作　　※児童文学作品をテーマとした内容
第 13 回	児童文化の活動② ・折り紙「指人形」の制作
第 14 回	保育実習Ⅰ・Ⅱに向けて ・折り紙「指人形」による「劇」実演
第 15 回	絵本研究の基本⑦ ・「プレ発表」研究テーマに則した研究発表

予習・復習

・予習：文献や配布資料の読み込み、教材（絵本）の調査、発表準備など（毎回授業時に指示する）

・復習：実演や発表の準備、発表後の討議や資料の整理（毎回授業時に指示する）

履修上の注意

・演習（ゼミナール）授業なので、積極的に自分の考えや意見を述べ発表すること。
・遅刻は 20 分までとし、3 回で 1 回の欠席とみなす。
・児童文学や児童文化のテーマに関連する施設や展覧会等の訪問見学を実施する予定である。

到 達 目 標

・教育者や保育者に求められる児童文学・児童文化に関する知識と理論と、それを現場で生かす実践力を身につける。
・文献や資料をもとに考察を深め、自分の見解を客観的かつ具体的に他者へ伝える能力（発表力や説明力）を身につける。
・グループワークを通して討議の意義を理解し、他者の意見から学ぶ姿勢を身につける。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
保育活動実践力（30%）	すべての課題に対して模範的な実演ができる	すべての課題の実演内容が必要十分である	課題によって実演内容の出来不出来が分かれる	準備不足な面はあるが、課題に挑んでいる	実演していない課題がある、または準備不足が非常に目立つ
調査分析力（25%）	指導内容を超えて、主体的に調査や分析ができる	指導内容を踏まえて、必要十分な調査や分析ができる	調査や分析が指導時に求めたレベルに満たない	調査や分析の精度や独自性が十分でない	事前の調査や分析をほとんどしていない
口頭発表力（25%）	論理的で独自性があり、発表の仕方にも工夫がある	論理の通った内容の発表ができる	説明の不足する点があるが、発表することができる	最低限の内容だが、発表をすることはできる	研究発表をしない、または準備不足が非常に目立つ
協働活動力（20%）	ゼミ生同士の活動に積極的に関わり、他者から学ぼうとする	ゼミ生同士の活動において、協力する姿勢がある	協働活動において自分の役割を理解し、それに努める	協働活動において常に受動的な態度だが、活動には参加する	活動に参加しない、または非常に消極的な姿勢が目立つ

評価方法

・研究発表　50%
・制作課題　30%
・受講態度　20%

テキスト

教科書は使用しない。
必要に応じて資料やワークシートを配布する。

保育･教育学演習Ⅰ（教育学・子ども家庭福祉論）

～地域と子ども・子育て～

佐藤　晃子

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
1年	後期	1	必修	－	選択	－

授 業 概 要

「地域と子ども・子育て」というテーマのもとに，その現状と課題を概観した上で，地域において行われている子ども・子育て支援の実際について，文献や映像資料等に加え実地調査や体験学習を通して検討を行う。具体的には，受講生自らが育ってきた／住んでいる地域における子育て支援の実践事例について，その意義や役割，課題等について調査研究する。また，実際に地域に出て，子育て支援活動を実施し，準備から計画，実施に至るまで，学生主体で活動を行う。

授 業 計 画

授業回	授業内容
第 1 回	オリエンテーション
第 2 回	地域と子ども・子育てをめぐる現状と課題①（文献を用いたグループディスカッション）
第 3 回	地域と子ども・子育てをめぐる現状と課題②（文献を用いたグループディスカッション）
第 4 回	地域における子ども･子育て支援の実際（映像資料等を用いたグループディスカッション）
第 5 回	事例調査の進め方（先行研究，資料収集の方法や成果のまとめ・発表方法等について）
第 6 回	地域における子ども・子育て支援事例の収集，発表準備
第 7 回	地域における子ども・子育て支援の実際①受講生による事例調査報告
第 8 回	地域における子ども・子育て支援の実際②受講生による事例調査報告
第 9 回	地域での子育て支援活動の準備①対象についての事前学習
第 10 回	地域での子育て支援活動の準備②指導案の作成等（グループ活動）
第 11 回	地域での子育て支援活動の準備③模擬保育等（グループ活動）
第 12 回	地域での子育て支援活動の実施（学外授業）
第 13 回	学外授業の振り返り
第 14 回	実践活動記録の作成（グループ活動）
第 15 回	活動報告会／まとめ

予 習 ・ 復 習

・予習：個人またはグループでの課題や活動の準備。

・復習：特になし。

履修上の注意

・ 遅刻 3 回で欠席 1 回とする。
・ 学外での活動を予定しているが，実施場所・日程等については未定である。

到 達 目 標

1) 地域と子ども・子育てに関する諸課題について研究的姿勢を持って探究し，論理的思考やプレゼンテーション能力を身につける。
2) 保育者としての立場から，地域子育て支援活動を観察及び実践し，基本的知識と技術を習得する。
3) 自分の役割を見つけ，能動的にグループ活動に参加し協働して取り組むことができる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
課題解決能力（プログラム作成）（30%）	提示された課題に沿い，かつ発展的なプログラムを作成することができる。	提示された課題に沿ったプログラムを作成することができる。	提示された課題とプログラムに少しずれがある。	提示された課題とプログラムがあっていない。	提示された課題に沿ったプログラムを作成することができていない。
他者と協力してグループ活動ができる（プログラム作成及び発表）（30%）	グループの役割分担を行い，メンバーと協力しながら，準備及び発表に積極的に関わっている。	自分の役割を見つけ，準備及び発表に積極的に関わっている。	準備及び発表において，与えられた役割は果たすことができている。	準備及び発表において，与えられた役割をほとんど果たすことができていない。	グループ活動に参加していない。
理解度（その他課題）（20%）	授業内容を越えた自主的な学習や発展的な議論ができる。	授業内容を十分理解している。	授業内容を理解できていない部分がある。	授業内容をほとんど理解できていない。	授業内容を理解できていない。
自分の考えを論理的に述べる力（その他課題）（20%）	議論に積極的に参加し，自分の意見を論理的に述べることができる。	自分の意見を論理的に述べることができる。	自分の意見を述べることができるが，やや論理性に欠ける。	自分の意見をほとんど述べることができない。	議論に参加していない。

評価方法

プログラム作成及び発表　60%
その他課題（小課題，グループディスカッション等）　40%

テキスト

特になし。授業内に適宜紹介する。

保育･教育学演習Ⅰ　～臨床保育学演習～

岩崎　桂子

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
1年	後期	1	必修	－	選択必修	－

授 業 概 要

園生活で使用されている保育知識・技術を、受講生の興味・関心に応じて理解が深められるように指導する。現在、保育現場で行われているモンテッソーリ教育やシュタイナー保育、ヨコミネ式保育等について文献、実地調査を交えて学習を進める。また、保育現場で使用できる教材を作成し発表を行えるよう指導する。

授 業 計 画

授業回	授業内容
第 1 回	オリエンテーション
第 2 回	各自で保育方法を調べる
第 3 回	各自で調べた保育方法を発表する
第 4 回	テーマに基づきグループで理解を深める
第 5 回	グループで実地調査に向けて準備を行う
第 6 回	グループワーク発表準備：学内
第 7 回	グループワーク発表
第 8 回	保育教材について調べる
第 9 回	保育教材作成①-ペープサート作成１-
第 10 回	保育教材作成②-ペープサート作成 2-
第 11 回	保育教材作成③-ペープサート作成 3・練習-
第 12 回	保育教材作成④-ペープサート作成 3・練習 2-
第 13 回	作成した保育教材の発表①
第 14 回	作成した保育教材の作成②
第 15 回	まとめ・振り返り

予 習 ・ 復 習

・予習：各自の課題に応じた資料作成・教材作成
・復習：学んだことを元に他教科との関連を横断的に捉える。

履修上の注意

・自分の課題に積極的に取り組むこと。学外での学習を行う予定であるため授業時間外での学習が必要になる。
・遅刻（授業開始 20 分）３回で、欠席１回とする。
・オープンキャンパス等の学校行事に参加する。

到 達 目 標

・保育方法について学び、知識を増やし今後の自分の保育に生かす。
・教材作成を通じて、実習や就職後に生かす。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
製作物（30%）	期限内に丁寧な作品を作成できる	期限内に作品を作成出来る	製作は終了したが期限内に仕上げることができない。	期限内に製作は終了したが雑な仕上がりである。	授業回数終了までに製作を終わらすことが出来ない。
発表（30%）	具体的な指導案を作成し練習の成果が発揮できる。	練習不足であるが具体的な指導案作成が出来る。	具体的な指導案作成、発表に向けた練習ができない。	具体的な指導案作成ができないがアドバイスがあれば発表ができる。	アドバイスがあっても指導案を作成し発表ができない。
受講態度（40%）	授業や行事に積極的に参加し自身の課題に向けた取り組みができる。	授業や行事に参加し自身の課題を見いだす事ができる。	授業や行事に参加するが自身の課題が見つけられない。	授業や行事に対する参加が不十分であるが自身の課題を見いだせる。	授業や行事に参加出来ず自身の課題を見つけることができない

評価方法

課題への取り組み 30%　　発表 50%　　受講態度 20%

テキスト

・特になし。適時、資料を配布する。

保育･教育学演習Ⅰ　～科学的探究の方法と実践～

小林　佳美

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
1年	後期	1	必修	－	選択	－

授業概要

本演習では、自然物や自然の事象、身近な生活で使っている化学製品を上手に生かした遊びを通して、その遊びのなかの不思議さの解明や、遊びがより魅力的に展開されるための方法を主体的に探究できるように指導する。特に演習Ⅰでは日常生活や、学校内外の身近な自然に潜む不思議さ、おもしろさ、美しさに出会える体験活動を設定することで、科学的な見方・考え方に加えて、受講生自身が自ら課題（問）をもち、探究しようとする意欲・態度を育成することを目指す。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	ガイダンス
第 2 回	色素のふしぎで遊ぶ①ペーパークロマトグラフィの色あそび。
第 3 回	色素のふしぎで遊ぶ②インクアートのしおり製作。
第 4 回	プラスチックのふしぎであそぶ①ペットボトル飲料ラベル、食品カップ・パックでオリジナルパッケージづくり。
第 5 回	プラスチックのふしぎであそぶ②プラバンシートを活用したプラバン作品製作。
第 6 回	科学あそびを活用したお店屋さんの開店計画作成、看板・チラシ等の準備。
第 7 回	科学あそびを活用したお店屋さんの実施。
第 8 回	PVA のふしぎであそぶ①割れないシャボン玉の材料・道具の探究。
第 9 回	PVA のふしぎであそぶ②スライムの触感遊びと「光るスライム」製作を通して化学発光の仕組みにふれる。
第 10 回	学外学習（科学館見学）
第 11 回	結晶化のふしぎで遊ぶ①過冷却を利用した氷の花と凝固点降下によるアイスづくり。
第 12 回	結晶化のふしぎで遊ぶ②尿素でクリスマスオーナメント製作。
第 13 回	人工イクラ・人工クラゲを作りふしぎな感触遊びを楽しむと共にゲル化の仕組みにふれる。
第 14 回	浮沈子ボトル製作で圧力と浮力の見える化実験。
第 15 回	振り返り、ドキュメンテーション作成。

予習・復習

・予習：授業計画に沿って、次の活動の材料や工程等を調べる。
・復習：ドキュメンテーション用の写真、配布資料等を整理し学習内容を振り返る。

履修上の注意

・3 回の遅刻で 1 回の欠席、20 分以降の入室は欠席として扱います。
・受講生一人ひとりが生活や学習を進める過程で見つけた課題（問い）を探究することを推奨しますので、上記の計画にとらわれず、自らの「不思議だな」「やってみたいな」と思うことを積極的に発信してください。

到 達 目 標

・身のまわりの自然や生活のなかにある不思議さや美しさに心を動かし、それを表現できる。
・自然科学や子どもの遊び、保育に関連する社会問題について、自らの問いや意見をもち、それを表現できる。
・自らの課題（問い）を、自分なりの方法で試行錯誤して解決しようとする姿勢・態度を身に着ける。
・他のゼミ生と協働し、活動がより深い学びとなるようにリーダーシップを発揮できる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
身のまわりの自然や生活のなかにある不思議さや美しさに心を動かし、それを表現できる。（25%）	身のまわりの自然や生活のなかにある不思議さや美しさに頻繁に心を動かし、表現し、他者によりよい影響を与えている。	身のまわりの自然や生活のなかにある不思議さや美しさに心を動かし、それ積極的に表現できる。	身のまわりの自然や生活のなかにある不思議さや美しさに心を動かしているようだが、表現が偏っていて、十分でない。	表現方法が適切でないため、ときに他者の心情・意欲・態度にネガティブな影響を及ぼす。	他者に認識される表現がほとんど見られない。
自然科学や子どもの遊び、保育に関連する社会問題について、自らの問いや意見をもち、それを表現できる。（25%）	自然科学や子どもの遊び、保育に関連する社会問題について、積極的に自らの問いや意見を表現し、他者によりよい影響を与えている。	自然科学や子どもの遊び、保育に関連する社会問題について、積極的に自らの問いや意見を表現できる。	自然科学や子どもの遊び、保育に関連する社会問題について、自らの問いや意見をもっているが、表現の仕方が偏っていて、十分でない。	表現方法が適切でないため、ときに他者の心情・意欲・態度にネガティブな影響を及ぼす。	他者に認識される表現がほとんど見られない。
自らの課題（問い）を、自分なりの方法で試行錯誤して解決しようとする姿勢・態度を身に着ける。（25%）	自らの課題（問い）を、自分なりの方法で試行錯誤して解決しようとする姿勢・態度が常に見られ、他者のモチベーションも高めている。	自らの課題（問い）を、自分なりの方法で試行錯誤して解決しようとする姿勢・態度が見られる。	自らの課題（問い）を、自分なりの方法で試行錯誤して解決しようとする姿勢・態度があまり見られない。	自らの課題（問い）を問うても回答がなく、指導された方法でのみ活動を行っている。	ほとんど活動に参加しようとしない。
他のゼミ生と協働し、活動がより深い学びとなるようにリーダーシップを発揮できる。（25%）	他のゼミ生と協働し、活動がより深い学びとなるように、リーダー的な立場で他者に影響力を発揮している。	他のゼミ生と協働し、活動がより深い学びとなるように他者に影響力を発揮している。	他のゼミ生と協働しているが、活動がより深い学びとなるような姿勢が見られない。	他のゼミ生との協働は見られないが、常に活動には参加している。	ほとんど活動に参加しようとしない。

評 価 方 法

授業態度　50%、活動実践による成果物 30%、ドキュメンテーション 20%
※本授業内で指示された手順をその通りに行うことよりも、自ら探究しようとする姿勢や意欲を評価します。

テ キ ス ト

・指定しない。必要に応じて資料を配布する。

保育･教育学演習Ⅰ　～保育者・教員としての感性・表現力の育成～

宮澤多英子

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
1年	後期	1	必修	－	選択必修	－

授業概要

保育者や教員には、子どもの表現に気付き、受けとめ、育む実践力が求められます。本授業は、声や音を素材とする「音楽表現」を中心として、将来保育者・小学校教員として子どもの豊かな表現を支えるための感性や表現力を育成することを目指し、様々な活動を通して表現の芽生えや育ちに対する理解や表現の技能について学びます。

授業では、生活の中での感性・表現力の育成として、身の周りの音を聴くサウンド・ウォークを行い他者と共有するための「サウンド・マップ」を作成したり、身近な素材を用いた音あそびに取り組んだり、日常生活の体験や音環境が子どもの感性の育成に与える影響について実践的に指導します。また、音楽文化としての楽曲演奏における感性・表現力の育成として、大学祭や保育現場でのコンサートを企画し、聴き手と一体となって楽しめるプログラムの考案や演奏法、表現法について指導します。さらに、協働的に表現をつくりあげる活動として、ピアノ連弾や ICT の利点を生かしたリモート演奏動画の制作を行い、履修者同士が意見を交わしながら楽曲のよさや美しさの要因となる音楽的要素や音楽表現の教育的意義について学びます。

授業計画

授業回	授業内容	
第 1 回	オリエンテーション、大学祭での演奏発表の企画・立案	
第 2 回	大学祭での演奏発表に向けて①　合唱・合奏（パート練習）	
第 3 回	大学祭での演奏発表に向けて②　合唱・合奏（パート・全体練習）	
第 4 回	大学祭での演奏発表に向けて③　合唱・合奏・うたあそび（パート・全体練習）	
第 5 回	大学祭での演奏発表に向けて④　合唱・合奏・うた絵本・司会進行（全体練習）	
第 6 回	大学祭での演奏発表に向けて⑤　合唱・合奏 等（全体練習）、全体の流れの確認	
第 7 回	【大学祭での演奏発表】準備・リハーサル・本番・片付け	
第 8 回	【学外演習】保育現場でのミニコンサートと保育体験	
第 9 回	身の周りの音を聴く①　サウンド・ウォークの実施	
第 10 回	身の周りの音を聴く②　「サウンド・マップ」の作成	
第 11 回	身の周りの音を聴く③　身近な素材を用いた音あそび（音さがし・音作品づくり）	
第 12 回	リモート演奏動画の制作①　※ICT の活用　合唱練習	ピアノ連弾①　譜読み・ペア練習
第 13 回	リモート演奏動画の制作②　合唱・合奏練習、動画撮影	ピアノ連弾②　ペア練習
第 14 回	リモート演奏動画の制作③　合奏練習、動画撮影・編集	ピアノ連弾③　ペア練習・聴き合い
第 15 回	リモート演奏動画の制作④　鑑賞会	ピアノ連弾④　演奏発表会

予習・復習

・予習：楽譜が配布された楽曲は事前に譜読みをし、自主練習を行いましょう。
・復習：授業で学んだ内容について要点を整理し、楽曲については必ず自主練習を行いましょう。

履修上の注意

・遅刻は 3 回で 1 回欠席とします。授業開始後 20 分以降は欠席扱いとします。
・大学祭での演奏発表は、準備・リハーサル・本番・片付けまで、全ての活動への参加を必修とします。

到 達 目 標

・音や音楽に対する感性や表現力を高めようとする意欲をもち、授業に主体的、協働的に取り組むことができる。
・楽曲にふさわしい表現を創意工夫しながら、楽曲のよさや美しさを生かして演奏発表することができる。
・身の周りの音や身近な素材のもつ音色に能動的に関わり、多角的な視点から音環境や音楽表現について思考・判断することができる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
学修に対する姿勢や態度（40%）	指定された予習・復習や課題以外にも自主的に課題を設定して取り組み、音楽表現活動に積極的に取り組むことができる。	指定された予習・復習や課題に丁寧に取り組み、音楽表現活動に主体的に取り組むことができる。	指定された予習・復習や課題に取り組んでいるが、音楽表現活動への取り組みがやや消極的である。	指定された予習・復習や課題に取り組んでいるが、音楽表現活動への取り組みが消極的である。	指定された予習・復習や課題に取り組まず、音楽表現活動への取り組みが消極的である。
表現の創意工夫と表現の技能（50%）	楽曲にふさわしい表現を創意工夫しながら、楽曲のよさや美しさを十分に生かして表現することができる。	楽曲にふさわしい表現を創意工夫しながら、楽曲のよさや美しさを生かして表現することができる。	楽曲にふさわしい表現を自分なりに工夫してはいるものの、表現の技能がやや不足している。	楽曲にふさわしい表現を自分なりに工夫してはいるものの、表現の技能が不十分である。	楽曲にふさわしい表現の工夫がみられず、表現の技能も不十分である。
音環境や音楽表現に対する思考力と判断力（10%）	身の回りの音や身近な素材のもつ音色を十分に知覚・感受し、その関わりについて多角的な視点から考え、思考・判断を深めることができる。	身の回りの音や身近な素材のもつ音色を知覚・感受し、その関わりについて多角的な視点から思考・判断することができる。	身の回りの音や身近な素材のもつ音色を知覚・感受し、その関わりについての自分なりに思考・判断している。	身の回りの音や身近な素材のもつ音色を知覚・感受するものの、その関わりに対する思考・判断が不十分である。	身の回りの音や身近な素材のもつ音色を知覚・感受するものの、その関わりに対する思考・判断がみられない。

評価方法

・受講態度 40%　…【評価項目】学修に対する姿勢や態度
・演奏発表 50%　…【評価項目】表現の創意工夫と表現の技能
・テキストの課題 10%　…【評価項目】音環境や音楽表現に対する思考力と判断力

テキスト

初回の授業で以下のテキストを配布する。
・教科書名：『保育者養成のための創作表現活動―音楽・造形・身体動作のつながり―』
・著 者 名：宮澤多英子
・出版社名：株式会社 外為印刷
・出 版 年：2021 年

保育･教育学演習Ⅰ ～福祉心理学（いのちの教育含む）を学ぶ～	西内　俊朗

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
1年	後期	1	必修	－	選択必修	－

授業概要

・福祉対象者への心理学的支援全般についての講義および福祉施設（医療含む）見学を実施する。
・福祉心理学における心理学的支援の実際について講義する。
・子どもの健全育成にとって重要とされる「いのちの教育」「死への準備教育」について講義する。
・障害児者通園施設や医療機関での実務経験に基づき、様々な話題提供や事例課題を提示してグループワークの指導を行う。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	社会福祉の展開と心理学的支援
第 2 回	生活を支える心理的支援
第 3 回	暴力被害者への心理的支援
第 4 回	高齢者への心理的支援
第 5 回	障害・疾病のある方への心理的支援
第 6 回	生活困窮・貧困者への心理的支援
第 7 回	児童虐待への心理的支援の実際
第 8 回	子どもと親への心理的支援の実際
第 9 回	認知高齢者の心理的支援の実際
第 10 回	ひきこもり・自殺予防の心理的支援の実際
第 11 回	精神障害者への心理的支援の実際
第 12 回	家族・福祉施設職員等への心理的支援の実際
第 13 回	福祉施設（医療含む）見学および福祉・医療・介護分野での多職種協働の実際
第 14 回	がん医療における心理的支援の実際と「死への準備教育」について
第 15 回	まとめ

予習・復習

・予習：事前に配布した資料を読んで授業に臨むこと

・復習：毎回の授業で具体的に説明

履修上の注意

・遅刻、早退は3回につき1回の欠席とする。
・授業の中でグループワークを実施するので、積極的に参加してください。

到 達 目 標

・保育者、教育者として必要とされる児童福祉分野、高齢福祉分野、最新の医療保健の動向についての理解を深め、具体的な実践活動につなげていける基本的能力を培う。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
理解度（　５０%）	授業内容を超えた自主的な学修ができる。	授業内容をほぼ100%理解している。	理解はしているが授業内容の理解に多少不足がある。	授業内容を最低限の理解をしている。	内容についての理解ができていない。
文章で説明する力（レポート）（　３０%）	他人を説得する内容が記述することができる。	論理が通った説明文を記述することができる。	不足する点があるが、説明文を書くことができる。	最低限の内容について説明ができる。	内容についての説明ができない。
課題整理能力（　２０%）	課題整理能力の弱い他者に適切なアドバイスができる。	様々情報を適切に取捨選択して課題を整理することができる。	情報の整理方法に多少の課題があるが他者のアドバイスなしで課題整理できる。	他者のアドバイスを踏まえて課題整理ができる。	他者のアドバイスあっても課題整理ができない。

評価方法

課題レポート・発表・施設見学　７０%
受講態度　３０%

テキスト

・教科書名：授業の中で説明する
・著 者 名：
・出版社名：
・出 版 年（ISBN）：

保育･教育学演習Ⅰ　～子どものあそび（身体活動）～

藤田　倫子

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
1年	後期	1	必修	－	選択必修	－

授業概要

・本演習では、実際に体験することで見えてくることを大切に考え、「子どものあそび」（身体活動）に関わる理論について学ぶとともに、実践を組み合わせて指導していく。保育者、教員として、子どもや保護者に適切に伝えることができ、「あそび」の実践ができることを目標にする。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	オリエンテーション・子どもの運動やあそびへのかかわりについて
第 2 回	環境から引き出される子どもの想像と創造、動作①あそびの実践
第 3 回	環境から引き出される子どもの想像と創造、動作②あそびの実践
第 4 回	環境から引き出される子どもの想像と創造、動作③あそびの実践
第 5 回	子どもの運動あそびの実践①最近接領域について
第 6 回	子どもの運動あそびの実践②子どもの自発的な身体活動について
第 7 回	子どもの運動あそびの実践③親子ふれあい体操教室への参加（フィールドワーク）
第 8 回	子どもの運動あそびの実践④親子ふれあい体操教室への参加（フィールドワーク）
第 9 回	親子ふれあい体操啓発ポスター製作①
第 10 回	親子ふれあい体操啓発ポスター製作②
第 11 回	子どもの健康に関する文献調査①
第 12 回	子どもの健康に関する文献調査②
第 13 回	子どもの健康に関する文献調査③PPT 作成
第 14 回	子どもの健康に関する文献調査④PPT 作成
第 15 回	まとめ

予習・復習

・予習：次の授業の事前学習として示された項目を調べて、授業に臨むこと。
・復習：授業中の重要ポイントを振り返り、現代社会の課題と関連付けて自分の考えをもつ。

履修上の注意

・「感じる」ことを大切にし、それらをいろいろな方法で、できる限り表現すること。
・他学生の表現について、多様な意見や考えがあることを理解し、自らの考えと関連付けて理解を深める。
・やむを得ない理由による遅れの場合を除き、原則、遅刻は認めない。

到 達 目 標

①「子どものあそび」について、理論を理解する。
②子どもや保護者に「あそび」を通して関わる際の留意点を理解し、適切に伝えることができる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
専門知識の理解（40%）	授業内容を越え積極的に学修ができる。	授業内容を十分に理解している。	理解はしているが、授業内容の理解に多少不足がある。	授業内容を最低限理解している。	内容についての理解ができていない。
専門知識の活用力・応用能力（20%）	専門的な知識を実社会での実践に役立てることができる。	課題について、専門的な知識を用いて説明できる。	専門的な知識について理解しているが、活用・応用能力に多少不足がある。	専門的な知識の獲得・修得に取り組んでいるが、説明できない。	専門的な知識に関心がない、またはその獲得・修得に取り組んでいない。
発言力・傾聴力（20%）	自らの意見を論理的に発言でき、相手の意見を尊重し、理解しながら聞くことができる。	自らの意見を発言でき、相手の意見を理解しながら聞くことができる。	自己主張の発言や、周囲の意見に同意してばかりである。相手の意見は聞いている。	最低限の発言のみで、相手の意見も聞いていないことがある。	発言をしない。相手の意見を尊重せず、自分の考え方や意見を押し付ける。
授業での協調性（20%）	授業内で他学生と顕著に協調を図れる。	授業内で他学生と十分に協調を図れる。	授業内で他者と部分的に協調を図れる。	授業内で他者と協調を図る努力はみられる	授業内で他者と協調を図れない。

評価方法

授業への取り組み：専門知識の理解（40%）・専門知識の活用力・応用能力・実践力（20%）・発言力・傾聴力 （20%）・授業での協調性（20%）

テキスト

・適宜、資料を配布する

保育･教育学演習Ⅰ

～保育・教育カウンセリングの技法と事例検討～

一色　翼

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
1年	後期	1	必修	－	選択必修	－

授 業 概 要

保育・教育カウンセリングとは、保育者・教育者だからこそできる、保育や教育の場において実践的に役に立つカウンセリングのことである。

本授業では、実践力のある保育者・教育者の育成を目指し、保育・教育カウンセリングの技法と活用事例について指導する。具体的には、演習やトレーニングを通して保育・教育カウンセリング・スキルの獲得を目指す。また、子ども・保護者・同僚との交流場面を想定しつつ、「こんな時はどうする？」という視点で事例検討を行い、保育・教育カウンセリングに関する知識の獲得を目指す。

授 業 計 画

授業回	授業内容
第 1 回	ガイダンス　授業計画と進め方
第 2 回	保育・教育カウンセリングの基本的な考え
第 3 回	保育・教育カウンセリングの技法（1）　ペーシング、あいづち、リフレクション
第 4 回	保育・教育カウンセリングの技法（2）　ミラーリング、Ｉメッセージ、リフレーミング
第 5 回	保育・教育カウンセリングの技法（3）　勇気づけ、エンカウンター、モデリング
第 6 回	保育・教育カウンセリングの技法（4）　ピア・サポート、アサーション、解決志向アプローチ
第 7 回	子どもに関わる保育・教育カウンセリング（1） かんしゃくが止まらない子、友だちと遊べない子、ケンカが絶えない子
第 8 回	子どもに関わる保育・教育カウンセリング（2） 保育者になつかない子、集中できない子、嘘をつく子
第 9 回	子どもに関わる保育・教育カウンセリング（3） 暴力をふるう子、よい食習慣がない子、まばたき・指しゃぶりが多い子
第 10 回	子どもに関わる保育・教育カウンセリング（4） 性に関心のある子、発達に課題のある子、家族が問題を抱えている子
第 11 回	保護者に関わる保育・教育カウンセリング（1） 保護者との信頼関係、かかわり方のポイント、子育て支援
第 12 回	保護者に関わる保育・教育カウンセリング（2） 発達障害の子どもを抱える保護者へのかかわり、精神疾患を抱える保護者へのかかわり
第 13 回	同僚の保育者・教育者と支え合うための保育・教育カウンセリング（1） 保育者・教育者のメンタルヘルス、チームワーク
第 14 回	同僚の保育者・教育者と支え合うための保育・教育カウンセリング（2） 専門家によるコンサルテーション、チームワーク
第 15 回	まとめ　保育・教育カウンセリングに基づいた保育・教育の在り方

予 習 ・ 復 習

・予習：指定したテキストの内容について、事前に学習しておくこと。

・復習：授業内容と関連するものについて、関心を広げ、発展的な学修を行うことを期待する。
授業の内容によって、レポートを課すことがある。

履修上の注意

1．授業開始後 20 分未満の遅刻を 3 回すると、1 回分の欠席扱いとする。
　　授業開始後 20 分を超過した場合、遅刻ではなく欠席扱いとする。
2．授業中、グループごとのディスカッションや意見交換、演習を行う。
　　授業内容に関連した発言を求めるため、積極的な発言を期待する。
3．配布プリントはファイルし、整理しておくこと。
4．身近に乳幼児や児童がいたら、授業内容と照らし合わせながら観察し、理解を深めることを期待する。

到 達 目 標

1．演習を通して、保育者・教育者に必要とされる心理学の知識、カウンセリング・スキルを身に付ける。
2．保育・教育カウンセリングの基盤となる理論を踏まえて、自分の考えを文章で表現することができる。
3．保育・教育カウンセリングのスキル及び基盤となる理論を踏まえて、根拠を示しながら自分の考えを発言・議論することができる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
保育・教育カウンセリング・スキルの習得度（40%）	演習内容を超えた保育・教育カウンセリング・スキルが身に付いている。	演習した保育・教育カウンセリング・スキルが身に付いている。	演習した保育・教育カウンセリング・スキルが身に付いているが、多少不足がある。	演習した保育・教育カウンセリング・スキルが最低限身に付いている。	演習した保育・教育カウンセリング・スキルが身に付いていない。
考えを文章で表現する力（レポート）（30%）	説得力のある文章で自分の考えを表現できている。	論理的に矛盾のない文章で自分の考えを表現できている。	文章で自分の考えを表現できている。	文章で自分の考えを最低限表現できている。	文章で自分の考えを表現することができていない。
根拠を示しながら発言・議論する力（30%）	根拠を示しながら説得力のある発言・議論をすることができている。	根拠を示しながら発言・議論をすることができている。	根拠を示しながら発言・議論をすることができているが、多少根拠が乏しい。	最低限の根拠を示しながら発言・議論をすることができている。	根拠を示しながら発言・議論をすることができていない。

評価方法

・保育・教育カウンセリングの習得度　40%
・課題への取組（レポート等）　30%
・授業中の議論や発言等　30%

テキスト

・テキストは使用しない。
・必要に応じてプリントを配布する。

保育･教育学演習Ⅱ　～運動遊びの実践的検討を通して～

小山内　弘和

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
2年	前期	1	必修	－	選択必修	－

授業概要

身体、身体活動」の視点からテーマを選定し、検討、実践、まとめを行っていく。特に、運動遊びを作成、発表する事を中心に進めていく。運動の実践について学習していくよう指導する。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	ガイダンス：　保育・教育学演習Ⅱ　体育・健康科学についての進め方や注意事項を伝達する。
第 2 回	運動遊びについての確認：　簡単な運動遊びを実施することで、各自の身体的な活動能力を確認する。
第 3 回	運動実践について学ぶ①：　運動を実践させるために必要なことを考え、それを実践できる方策について検討する。
第 4 回	運動実践について学ぶ②：　運動を実践させるために必要なことを考え、それを実践できる方策について検討する。
第 5 回	運動遊び最終発表の検討③：　最終発表に向けた運動遊びの立案を ICT なども用いながら行い、物品等の確認を行う。
第 6 回	運動遊び最終発表の検討④：　最終発表に向けた運動遊びの立案を実践するための資料を ICT なども用いながら作成を進める。
第 7 回	運動遊び最終発表の検討⑤：　最終発表に向けた運動遊びの立案を実践するための資料を ICT なども用いながら作成を進める。
第 8 回	運動遊び最終発表の検討⑥：　最終発表に向けた運動遊びの立案を実践するための資料を ICT なども用いながら作成を進める。
第 9 回	発表シミュレーション①：　最終発表の運動遊びにむけ、シミュレーションを行う。
第 10 回	発表シミュレーション②：　最終発表の運動遊びにむけ､最後のシミュレーションを行う。
第 11 回	最終発表①：　運動遊びの最終発表を行う。(20 分×3 人)
第 12 回	最終発表②：　運動遊びの最終発表を行う。(20 分×3 人)
第 13 回	最終検討①：　最終発表を基に、評価・分析を行う。
第 14 回	最終検討②：　最終発表、検討を基に、運動遊びの資料の最終提出に向けて作業を行う。
第 15 回	まとめ

予習・復習

授業内での内容以外にシミュレーションや分析を必要とすることから、以下の予習・復習を行うこと。
・予習：授業前には机上での活動のみならず、様々な側面から内容を十分に理解してくるようにする。
・復習：行ったことを、再度検討し次への課題を発見するとともに、資料の最終版に反映させる。

履修上の注意

全ての内容において、多くの準備を必要とする。それらに対しては積極的な姿勢で取り組むこと。また、「一生懸命」であること。

・実践を行う際は、それに適した服装をすること。

・遅刻（30 分以内の遅れ）は 3 回で 1 回の欠席とする。

到 達 目 標

「身体、身体活動」に注目して、課題の追求のために、グループで協力して実践的に学習していく。テーマの選定と実践を通して、身体活動についての視点や思考するための基礎を獲得する。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
理解度（30%）	授業内を越え積極的に学修ができる。	授業内容をほぼ100%理解している。	理解はしているが授業内容の理解に多少不足がある。	授業内容を最低限の理解をしている。	内容についての理解ができていない。
問題発見能力（30%）	発見できない学生に解決方法をアドバイスできる。	独自の能力で課題を発見することができる。	参考にするものがあれば、独自の能力で課題を発見することができる。	他人のアドバイスがあれば課題を発見することができる。	他人のアドバイスがあっても自発的に課題を発見すること ができない。
問題解決能力（20%）	解決できない学生に解決方法をアドバイスできる。	独自の能力で課題を解決することができる。	参考にするものがあれば、独自の能力で課題を解決することができる。	他人のアドバイス があれば課題を解決することができる。	他人のアドバイスがあっても自発的に課題を解決すること ができない。
授業での協調性（20%）	授業内での学習に協調的に取り組み、自主的な学習や準備も協調して行うことができる。	授業内での学習にとても協調的に取り組むことができる。	授業内での学習に協調的に取り組むことができる。	授業内での学習にやや協調的に取り組むことができる。	授業内での学習に協調的に取り組むことができない。

評価方法

・提出物（30%）

・発表（50%）

・授業への貢献度（協調性）（20%）

テキスト

なし。

必要に応じてプリントを配布する。

保育･教育学演習Ⅱ～絵本や紙芝居を読む・手作り作品を作る～	木谷　安憲

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
2年	前期	1	必修	－	選択	－

授業概要

絵本を読み、絵本に対する理解を深める。絵本と紙芝居を比較することで、それぞれの良さを知る。
手作り絵本や紙芝居を制作し、実習に持っていき園児達の前で読む。
演習を通して、絵本や紙芝居が保育にはたす役割について理解を深めるように指導する。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	ガイダンス 授業の概要とスケジュール
第 2 回	好きな絵本を紹介する
第 3 回	紙芝居と絵本の違いを知る
第 4 回	紙芝居と絵本の分析する
第 5 回	園で読まれる絵本について調べる
第 6 回	共同制作 大きな絵
第 7 回	かんたんな絵本の制作の仕方を学ぶ
第 8 回	絵本の共同制作 アイディアを出す
第 9 回	絵本の共同制作 下描き
第 10 回	校外授業
第 11 回	校外授業
第 12 回	絵本の制作　彩色
第 13 回	絵本の制作　彩色
第 14 回	絵本の制作　製本
第 15 回	絵本の制作　完成 まとめ・振り返り

予習・復習

・予習：できるだけ多くの絵本を読む。

・復習：下描きなど事前準備が必要な場合は指示をする。

履修上の注意

この授業で自分の宝物を作る。
校外授業を行う(場所、取り組みなどについては授業の中で説明する)。
20 分を超えた遅刻は欠席扱いとする。遅刻 3 回で 1 回の欠席とする

到 達 目 標

絵本について自分の考えを言えるようになる。
読者である園児を想定した自分の絵本を完成させる。
実習や就職した後に役立つ知識や経験を実践を通して積む。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
思考力［絵本・紙芝居制作等における活動計画等］(20%)	思考力を働かせた、全学生の見本となるような活動計画等を作ることができる。	思考力を働かせた、すぐれた活動計画等を作ることができる。	思考力を働かせた活動計画等を作ることができる。	活動計画等を作ることができても、思考力の観点が抜けている。	思考力という観点が抜けている
構想力［絵本・紙芝居制作等におけるアイディア等］(20%)	全学生の見本となるような構想力のある作品制作を行うことができる。	すぐれた構想力のある作品制作を行うことができる。	構想力のある作品制作を行うことができる。	作品制作を行うことができるが、構想力の観点が抜けている。	構想力という観点が抜けている。
表現力［絵本・紙芝居制作等における表現力］(40%)	全学生の見本となるような見本作品を作る表現力を持っている。	すぐれた作品を作る表現力を持っている。	作品を作る表現力を持っている。	作品を作ることができても、表現力の観点が抜けている。	表現力という観点が抜けている。
総合的な力(20%)	思考力、構成力、表現力を結びつけ、全学生の見本となるような実践を行うことができる。	思考力、構成力、表現力を結びつけた、すぐれた実践を行うことができる。	思考力、構成力、表現力を結びつけた、実践を行うことができる	実践を行うことができても、思考力、構成力、表現力が結びついていない。	思考力、構成力、表現力を結びつける観点が抜けている。

評価方法

提出作品(70%)
制作態度・発表(30%)

テキスト

使用せず。適宜プリントを配布する。

保育･教育学演習Ⅱ　～特別支援教育の理解を深める～

井上　昌士

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
2年	前期	1	必修	－	選択必修	－

授業概要

保育・教育学演習Ⅰで学んだ内容を基に、関心を持ったテーマをさらに掘り下げて研究・調査を行い、その成果をまとめて発表する。実習先や卒業後の就職先を想定し、教材・教具の作成や ICT 機器の活用などを踏まえて研究テーマを設定する。そのテーマに沿って調査研究を進め、研究発表会に向けた制作活動を行う。研究発表会では、個人またはグループごとにオリジナリティを生かした成果物（レポート）を発表し、最後に全体で意見交換を行い、今後の実践に役立てる。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	オリエンテーション
第 2 回	調査・研究テーマ設定について
第 3 回	調査・研究活動①　資料の収集と整理
第 4 回	調査・研究活動②　資料の収集と整理
第 5 回	調査・研究活動③　資料の分析
第 6 回	調査・研究活動④　資料の分析
第 7 回	調査・研究活動⑤　中間発表用レジュメ作成
第 8 回	中間発表　質疑応答
第 9 回	調査・研究活動⑥−１修正・改善点の確認　追加資料の収集と整理、分析
第 10 回	調査・研究活動⑥−２修正・改善点の確認　追加資料の収集と整理、分析
第 11 回	レポート・発表資料作成①　構想立案
第 12 回	レポート・発表資料作成②　制作活動
第 13 回	レポート・発表資料作成③　製作活動
第 14 回	レポート・発表資料作成④　発表練習
第 15 回	研究発表会

予習・復習

- 予習：調査・研究活動、レポート・発表資料作成のスケジュールに沿って、効率よく活動が進むように計画的に準備を行う。
- 復習：取り組んだ活動の見直しや不足部分の補充を行い、次回に備える。

履修上の注意

- 資料収集、分析を重視し、エビデンスに基づいた調査・研究活動、発表になるように努めること。
- 遅刻３回で欠席１回とする。
- 遅刻、早退、欠席については直接担当教員に申し出ること。

到 達 目 標

- テーマに関連する資料や文献を収集・整理し、それらを引用・参照して分析を行う方法を身につける。
- 設定した調査・研究テーマのレポート等を作成し発表を行う。
- 特別支援教育への理解を深める。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
レポート・ポスター発表力＜思考・判断・表現：理解したことをどう使うか＞（40%）	収集・整理したテーマに関連する資料や文献を十分に活用して、レポートやポスターが制作され、発表の内容が根拠に基づいて明確に示されている。	収集・整理したテーマに関連する資料や文献を活用して、レポートやポスターが制作され、発表の内容が、テーマと関わって示されている。	レポートやポスターの発表の内容が、テーマと関わって示されているが、一部不十分な内容がある。	レポートやポスターの発表の内容が、十分にテーマと関わっていない。	レポートやポスターの発表の内容が、テーマと関わっていない。
主体的に学ぶ態度（どのように学びと向き合うか）（60%）	調査・研究活動及び制作活動に積極的に参加するとともに、自らの進捗状況を把握し、よりよく活動を遂行しようとする意欲をもって取り組んでいる。	調査・研究活動及び制作活動に積極的に参加し、よりよいものにしようと改善・工夫をしながら取り組んでいる。	調査・研究活動及び制作活動に参加しているが、やや積極性に欠け、改善・工夫しようとする態度があまり見られない。	主体的に学ぶ態度にやや欠ける面が見られる。	主体的に学ぶ態度が見られない。

評価方法

発表内容：40%
受講態度（参加度、貢献度を含む）：60%

テキスト

教科書は使用しない。

保育･教育学演習Ⅱ　～『クオーレ』を読む（続）～	長沼　秀明

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
2 年	前期	1	必修	－	選択必修	－

授 業 概 要

1 年次の成果を十分にふまえて、各自の問題意識を文学作品の講読・分析を通じて、さらに学問的に深めていけるよう指導します。具体的には、各自が追究すべき課題および作品を設定し、授業を通じて分析・考察をすすめます。

授 業 計 画

授業回	授業内容
第 1 回	はじめに（履修上の注意および授業の位置づけなど）
第 2 回	課題の設定および作品の選定（その 1）
第 3 回	課題の設定および作品の選定（その 2）
第 4 回	課題の設定および作品の選定（その 3）
第 5 回	作品の講読・分析（その 1）
第 6 回	作品の講読・分析（その 2）
第 7 回	作品の講読・分析（その 3）
第 8 回	作品の講読・分析（その 4）
第 9 回	作品の講読・分析（その 5）
第 10 回	作品の講読・分析（その 6）
第 11 回	論文の作成（その 1）
第 12 回	論文の作成（その 2）
第 13 回	論文の作成（その 3）
第 14 回	論文の作成（その 4）
第 15 回	まとめ

予 習 ・ 復 習

・予習：授業内容に関する教科書の該当部分を事前に読んできてください。
・復習：授業で扱われた内容を教科書であらためて確認しておいてください。

履修上の注意

毎回、積極的に課題に取り組み、発言して、授業に大いに貢献してください。学生諸君同士、お互い大いに学びあってください。
遅刻 2 回を欠席 1 回に換算するので、くれぐれも遅刻しないこと。

到 達 目 標

文学作品の講読を通じて、保育者・教育者として必要な社会認識の能力を養うことができるようになること。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
理解度（30%）	授業内容を超えた自主的な学修ができる。	授業内容をほぼ100%理解している。	授業内容の理解に多少不足がある。	授業内容について最低限の理解をしている。	授業内容についての理解ができていない。
課題解決および発表能力（30%）	解決方法や発表の仕方が分からない他人へアドバイスができる。	何も参照せずに独自の能力で課題を解き、発表することができる。	参考文献等を参照しながら課題を解き、発表することができる。	他人のアドバイスがあれば課題を解き、発表することができる。	他人のアドバイスがあっても自発的に課題を解くことができず発表することもできない。
授業への積極性（10%）	授業に積極的に取り組み、自主的な学習へつなげることができる。	授業に積極的に取り組むことができる。	授業への取り組みが、やや消極的である。	授業への取り組みが消極的である。	授業へ取り組む姿勢がみられない。
論理的に文章で説明する力（30%）	提示された課題について、他人を十分に説得する内容を記述することができる。	論理が通った内容をよく記述することができる。	不足する点はあるものの、他人が理解できる程度の論理的な文章を書くことができる。	最低限の内容について文章で説明ができる。	内容について文章で説明することができない。

評価方法

授業の成果 70%
学期末レポート 30%

テキスト

・教科書名：『クオレ』(21 世紀版 少年少女世界文学館 22)
・著 者 名：エドモンド・デ・アミーチス著、矢崎源九郎訳
・出版社名：講談社
・出 版 年（ISBN）：2011 年

保育･教育学演習Ⅱ　～保育学～	関根　久美

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
2年	前期	1	必修	－	選択	－

授業概要

保育者として、子どもが「楽しい」と感じることができる児童文化財の作成、それの実践について具体的な指導をする。実際のパフォーマンスから「子どもの感性」について考察する場を設定し、指導する。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	オリエンテーション
第 2 回	エプロンシアターの振り返り①
第 3 回	エプロンシアターの振り返り②
第 4 回	人形劇などのパフォーマンス観覧
第 5 回	人形劇などのパフィーマンスの振り返り
第 6 回	エプロンシアター発表①
第 7 回	エプロンシアター発表②
第 8 回	エプロンシアター発表の振り返り
第 9 回	児童文化財作成①
第 10 回	児童文化財作成②
第 11 回	児童文化財実践①
第 12 回	児童文化財実践②
第 13 回	保育現場における行事についての研究①
第 14 回	保育現場における行事についての研究②
第 15 回	これまでの授業のまとめ

予習・復習

・予習：子どもの発達に合った児童文化財について事前学習する。

・復習：実践後には、各自で反省をし、自分の課題を見出す。

履修上の注意

自ら課題を見つけ、積極的に授業に取り組む。

到 達 目 標

保育・教職実践演習Ⅰにおいて作成したエプロンシアターを保育園において、子どもの発達や興味・関心、環境に見合った実践をする。

様々な児童文化財を子どもたちが楽しめるよう、工夫して作成し、実践する。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
エプロンシアター作品の評価（ 40%）	丁寧な仕上げで独自の工夫がみられる。	丁寧な仕上がりで人形や仕掛けができている。	人形や仕掛けができている。	人形や仕掛けの仕上がりが雑である。	エプロンシアターが未完成である。
エプロンシアター実践の評価（ 40%）	子どもの発達に即した実践で独自の工夫がみられる。	子どもとのやり取りを楽しみながら、実践ができる。	子どもの前に立って笑顔で実践ができる。	子どもの前に立って実践できるが緊張して笑顔はない。	子どもの前で実践ができない。
児童文化財への取り組み（ 20%）	自主的、積極的に取り組み、独自の工夫がみられる。	自主的、積極的に取り組組む。	周囲の人の助言や援助を受け、取り組む。	教員の援助を必要とする。	課題に取り組まない。

評価方法

作品評価 40%　　実践（発表）における評価 40%　　授業態度　20%

テキスト

特になし。メディアセンター等を利用し各自の課題に適した資料を入手する。

保育･教育学演習Ⅱ　～教育と社会について考える～	西　敏郎

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
2年	前期	1	必修	－	選択必修	－

授 業 概 要

本演習では、教育や社会における自分自身の関心に基づいて参照する文献を選び精読し、内容について発表を行う。自分で選んだ文献を精読したうえで、内容に対する自分自身の考えをまとめることができるよう指導する。

授 業 計 画

授業回	授業内容
第 1 回	オリエンテーション
第 2 回	文献の選定方法と読み方について
第 3 回	発表用レジュメ・資料の作成について
第 4 回	課題の設定と文献の選定①
第 5 回	課題の設定と文献の選定①
第 6 回	課題の設定と文献の選定①
第 7 回	文献の精読と分析①
第 8 回	文献の精読と分析②
第 9 回	文献の精読と分析③
第 10 回	（報告）発表とディスカッション①
第 11 回	（報告）発表とディスカッション②
第 12 回	（報告）発表とディスカッション③
第 13 回	（報告）発表とディスカッション④
第 14 回	（報告）発表とディスカッション⑤
第 15 回	授業のまとめ

予 習 ・ 復 習

・予習：自分で選んだ文献を読み進めること。

・復習：授業のなかで関心を持った内容や疑問に思った点について、自分で文献や資料等で調べ理解を深めること。

履修上の注意

・授業外の時間を利用して、文献を要約し考察を加えたレジュメを作成する必要があります。
・遅刻３回で欠席１回の扱いとします。

到 達 目 標

・自分の問題関心に基づき、参照すべき文献を選ぶことができる。
・文献を精読したうえで内容を要約し、自分なりの考察を加えたレジュメを作成し、発表することができる。
・ディスカッションを通して、他者の意見に耳を傾け、自分の考えを再構築することができる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
授業内容の理解度（40%）	授業内容を越えた自主的な学修ができる	授業内容を十全に理解している	授業内容を理解はしているが多少不足がある	授業の基本的な内容を概ね理解しているにすぎない	授業内容を全く理解していない
問題を捉え考察する力（30%）	授業の内容にとどまらず関連する発展的な内容を踏まえて考えることができる	授業の内容に関して、自分の考えを自分の言葉でまとめることができる	参考書や教科書を参考にすれば、自分の考えを導くことができる	他者の助言があれば、自分の考えをまとめることができる	他者の助言があっても、自分の考えがまとまらない
自分の考えを論理的に文章で説明する力（30%）	他者を説得する内容を記述することができる	論理的な説明文を記述することができる	不足する点はあるが、説明文を書くことができる	基本的な内容を説明することができる	基本的な内容についての説明ができない

評価方法

提出物や発表内容（50%）、授業への取り組み姿勢（50%）

テキスト

・教科書等は特に指定しないが、必要に応じて適宜資料を配布する。

保育･教育学演習Ⅱ

～打楽器を中心とした音楽表現活動に関する研究及び演習～

齊藤　淳子

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
2年	前期	1	必修	－	選択必修	－

授 業 概 要

ミニコンサートやワークショップ等の企画・運営を行うことで，保育・教育現場における発表会等の企画・運営のための実践力を養うとともに，研究テーマに関する楽曲分析や演習等を通して，研究を深めるための方法を指導する。

授 業 計 画

授業回	授業内容	
第 1 回	ガイダンス，研究計画	管・打楽器奏法の習得①
第 2 回	探求・研究活動①	〃 ②
第 3 回	探求・研究活動②	〃 ③
第 4 回	探求・研究活動③	〃 ④
第 5 回	探求・研究活動④	〃 ⑤
第 6 回	探求・研究活動⑤	〃 ⑥
第 7 回	コンサート・ワークショップの企画・立案	〃 ⑦
第 8 回	探求・研究活動⑥	〃 ⑧
第 9 回	探求・研究活動⑦	〃 ⑨
第 10 回	探求・研究活動⑧	〃 ⑩
第 11 回	探求・研究活動⑨	〃 ⑪
第 12 回	探求・研究活動⑩	〃 ⑫
第 13 回	探求・研究活動⑪	〃 ⑬
第 14 回	リハーサル	〃 ⑭
第 15 回	ミニコンサート及びワークショップ	

予 習 ・ 復 習

楽器の演奏技能の向上には個人練習は必須である。基礎練習を含め，曲練習をして授業に臨むこと。また，発表に向けての準備も行うこと。

履修上の注意

・オープンキャンパスでのミニコンサートやワークショップ，学園祭での発表等，授業外での活動にも必ず参加すること。
・大学祭が行われる 10 月までは練習を継続するため，その練習に必ず参加すること。

到 達 目 標

・管・打楽器によるアンサンブル力の向上
・ステージ発表におけるパフォーマンス力の向上
・ステージ発表やワークショップに向けた企画・運営のための実践力の向上

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
太鼓の技能（30%）	どの曲も自由に演奏でき，上手く表現できていない人に対してアドバイスすることができる。	どの曲も基本的な奏法を意識し，しっかりと音を響かせながら演奏することができる。	太鼓を演奏することはできるが，響きにムラがある。	太鼓をしっかりと音を鳴らすことができず，リズムも不安定である。	太鼓は音を出しているだけで，曲を演奏することはできない。
太鼓によるアンサンブルの技能（30%）	周りに指示を出しながら練習や演奏を進め，全体の流れを把握しながら的確にアドバイスすることができる。	全体の流れを把握し，周りの人と阿吽の呼吸で演奏することができる。	なんとなく周りに合わせることはできるが，全体の流れはあまり把握できていない。	なんとなく周りに合わせようとはしているが，流れの把握もできておらず，上手く合わせることができない。	周りに合わせようとすることなく，合っていなくても気にすることなく自分のペースで演奏している。
ステージ発表に向けた創意工夫（10%）	曲に応じた音色の工夫や振付，パフォーマンスなどを意識して演奏することができる。	曲に応じた振付，パフォーマンスなどを意識して演奏することができる。	演奏することはほぼできるが，パフォーマンスの動きや声は小さい。	演奏することはほぼできるが，リズムを小手先で刻んでいるだけで，動きはなく，声も出していない。	簡単なところのみ音を出しているが，曲を演奏しているとは言い難く，創意工夫は全く何もしていない。
企画・運営の能力（10%）	発表に向け，魅せる演奏をするためのパフォーマンスを含めた企画・運営方法を考えることができる。	周りと協力して，ステージ発表の企画・運営について考えることができる。	ステージ発表の企画・運営について，意見を求められたときに発言することができる。	ステージ発表の企画・運営について，意見を求められてもほとんど何もいうことなく，お願いされたことだけを行う。	ステージ発表の企画・運営について何も考えておらず，お願いされたことも行うことができない。
学習意欲（20%）	話し合い活動の際にリーダーを務め，話し合いをまとめるなど積極的な態度で授業に取り組んでいる。課題は期日内に全て提出している。	話し合い活動の際に活発に意見やアイディアを出し，積極的な態度で授業に取り組んでいる。課題は期日内に全て提出している。	話し合い活動の際，意見を求められたらいうことはできるが，授業に臨む姿はやや積極性に欠ける。課題は概ね期日内に提出している。	話し合い活動の際に意見を求められてもほとんど何もいうことがなく，授業に臨む姿は積極性に欠ける。課題は提出しているが期日を守れないものが多い。	話し合い活動の際，その場にいるだけで話し合い等に参加しておらず，授業に臨む姿は消極的である。未提出の課題がある。

評価方法

演奏技能及びアンサンブル力（60%）　発表（20%）　学習態度・課題提出（20%）

テキスト

適宜，楽譜や資料を配布するため，スクラップブック等に整理し，まとめること。

保育･教育学演習Ⅱ　～絵本や童話について専門的に学ぶ～

佐々木美和

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
2年	前期	1	必修	－	選択	－

授 業 概 要

児童文学や児童文化を研究領域に、履修学生（ゼミ生）一人ひとりが自ら選んだテーマに沿って学びを深められるように指導する。「保育・教育学演習Ⅰ」での学びを発展させ、ゼミ生個人が選んだ研究テーマについて調査や分析を進める。発表やグループ討議を経て、一人ひとりの考察を深め、全員でその成果をまとめる。

この一連の研究活動を通して、児童文学や児童文化全般に対する知識を増やし理解が深まってくように個別に指導を行う。また、就学や学生生活に関する相談はもちろん、実習活動や就職活動への支援を行う。

授 業 計 画

授業回	授業内容
第 1 回	ガイダンス ・研究発表についての説明と個別面談指導の日程決め
第 2 回	絵本研究に向けて① ・作家論アプローチと様式（形態）アプローチ
第 3 回	絵本研究に向けて② ・個別面談指導（１回目）
第 4 回	絵本研究に向けて③ ・受容者アプローチと教材活用論アプローチ
第 5 回	絵本研究に向けて④ ・作品論アプローチ
第 6 回	教育実習Ⅱに向けて① ・折り紙シアターやマジックショーの習得 ・責任実習の活動案（指導案）の指導
第 7 回	教育実習Ⅱに向けて② ・絵本の読み聞かせ指導
第 8 回	絵本研究に向けて⑤ ・文献調査や資料収集と整理
第 9 回	絵本研究に向けて⑥ ・文献調査や資料収集と整理
第 10 回	絵本研究に向けて⑦ ・「プレ発表会」と質疑応答、個別面談指導（２回目）
第 11 回	個人研究発表活動① ・「中間発表会」と質疑応答
第 12 回	個人研究発表活動② ・個別面談指導（３回目）
第 13 回	児童文化活動 ・長い「あやとり」を用いた「遊び」体験
第 14 回	個人研究発表活動③ ・「研究発表会」（前半）での研究発表
第 15 回	個人研究発表活動④ ・「研究発表会」（後半）での研究発表

予 習 ・ 復 習

・予習：文献や配布資料の読み込み、教材（絵本）の調査、発表準備など（毎回授業時に指示する）

・復習：実演や発表の準備、発表後の討議や資料の整理（毎回授業時に指示する）

履修上の注意

・演習（ゼミナール）授業なので、積極的に自分の考えや意見を述べ発表すること。
・遅刻は 20 分までとし、3 回で 1 回の欠席とみなす。
・児童文学や児童文化のテーマに関連する施設や展覧会等の訪問見学を実施する予定である。

到 達 目 標

・教育者や保育者に求められる児童文学・児童文化に関する知識と理論と、それを現場で生かす実践力を身につける。
・文献や資料をもとに考察を深め、自分の見解を客観的かつ具体的に他者へ伝える能力（発表力や説明力）を身につける。
・グループワークを通して討議の意義を理解し、他者の意見から学ぶ姿勢を身につける。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
保育活動実践力（30%）	すべての課題に対して模範的な実演ができる	すべての課題の実演内容が必要十分である	課題によって実演内容の出来不出来が分かれる	準備不足な面はあるが、課題に挑んでいる	実演していない課題がある、または準備不足が非常に目立つ
調査分析力（25%）	指導内容を超えて、主体的に調査や分析ができる	指導内容を踏まえて、必要十分な調査や分析ができる	調査や分析が指導時に求めたレベルに満たない	調査や分析の精度や独自性が十分でない	事前の調査や分析をほとんどしていない
口頭発表力（25%）	論理的で独自性があり、発表の仕方にも工夫がある	論理の通った内容の発表ができる	説明の不足する点があるが、発表することができる	最低限の内容だが、発表をすることはできる	研究発表をしない、または準備不足が非常に目立つ
協働活動力（20%）	ゼミ生同士の活動に積極的に関わり、他者から学ぼうとする	ゼミ生同士の活動において、協力する姿勢がある	協働活動において自分の役割を理解し、それに努める	協働活動において常に受動的な態度だが、活動には参加する	活動に参加しない、または非常に消極的な姿勢が目立つ

評価方法

・研究発表　50%
・制作課題　30%
・受講態度　20%

テキスト

教科書は使用しない。
必要に応じて資料やワークシートを配布する。

保育･教育学演習Ⅱ（教育学・子ども家庭福祉論）

～地域と子ども・子育て～

佐藤　晃子

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
2年	前期	1	必修	－	選択	－

授業概要

「地域と子ども・子育て」というテーマのもとに，受講生自らの問題関心に沿って，グループで調査研究を進め，成果発表を行う。調査研究は，子どもや保護者，保育者・支援者等へのインタビューや，子育て支援活動や団体・施設等へのフィールドワークなど実地調査を行うことを基本とし，調査を行うために必要な基礎的知識や方法論等について指導する。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	オリエンテーション
第 2 回	調査研究の進め方①資料収集，文献研究の方法について
第 3 回	調査研究の進め方②主にインタビューやフィールドワークの方法・技法について
第 4 回	各自の研究関心についてのグループディスカッション
第 5 回	各自の研究関心に関連する文献・資料の検討①
第 6 回	各自の研究関心に関連する文献・資料の検討②
第 7 回	各自の研究テーマ・調査対象の発表とグループ編成
第 8 回	各グループの研究テーマの発表と具体的な研究スケジュールの作成（グループ活動）
第 9 回	調査準備①（グループ活動）
第 10 回	調査準備②（グループ活動）
第 11 回	調査の実施（グループ活動，学外活動）
第 12 回	調査・研究のまとめ①（全体での振り返り，共有）
第 13 回	調査・研究のまとめ②（グループ活動）
第 14 回	調査・研究のまとめとグループ発表の準備
第 15 回	グループ報告会／まとめ

予習・復習

・予習：個人またはグループでの課題や活動の準備。

・復習：個人またはグループでの課題や活動の振り返り。

履修上の注意

・ 遅刻 3 回で欠席 1 回とする。
・ 学外での活動を予定しているが，実施場所・日程等については未定である。

到 達 目 標

1) 地域と子ども・子育てに関する諸課題について研究的姿勢を持って探究し，論理的思考やプレゼンテーション能力を身につける。
2) 保育者としての立場から，地域の子ども・子育て及びその支援の実態を考察し，自らの子ども・保育観，保育者としてのあり方について捉え直す。
3) 自分の役割を見つけ，能動的にグループ活動に参加し協働して取り組むことができる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
研究課題を設定し，探究する力（課題レポート作成）（30%）	自分自身の関心のあるテーマを設定し，それに即したレポートを作成することができ，関連した事柄について積極的に研究を深めることができている。	自分自身の関心のあるテーマを設定し，それに即したレポートを作成することができる。	自分自身の関心のあるテーマを設定することはできているが，レポートの内容に不足がある。	テーマ設定及びレポートの内容に不足がある。（研究的ではなく，調べ学習に留まっている）	テーマの設定やレポートを作成することができていない。
他者と協力してグループ活動ができる（課題レポート作成及び発表）（30%）	グループの役割分担を行い，メンバーと協力しながら，準備及び発表に積極的に関わっている。	自分の役割を見つけ，準備及び発表に積極的に関わっている。	準備及び発表において，与えられた役割は果たすことができている。	準備及び発表において，与えられた役割をほとんど果たすことができていない。	グループ活動に参加していない。
理解度（その他課題）（20%）	授業内容を越えた自主的な学習や発展的な議論ができる。	授業内容を十分理解している。	授業内容を理解できていない部分がある。	授業内容をほとんど理解できていない。	授業内容を理解できていない。
自分の考えを論理的に述べる力（その他課題）（20%）	議論に積極的に参加し，自分の意見を論理的に述べることができる。	自分の意見を論理的に述べることができる。	自分の意見を述べることができるが，やや論理性に欠ける。	自分の意見をほとんど述べることができない。	議論に参加していない。

評価方法

課題レポート及び発表　60%
その他課題（小課題，グループディスカッション等）　40%

テキスト

特になし。授業内に適宜紹介する。

保育･教育学演習Ⅱ　～自分の保育を見つめなおす～

岩崎　桂子

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
2年	前期	1	必修	－	選択必修	－

授業概要

保育・教育学演習Ⅰに続き、保育方法を学び保育の技術・知識が増えるように指導する。また、就職に向けて各自の保育観に合った就職先の選定を行うための材料とし、指導する。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	オリエンテーション
第 2 回	実習先での保育方法を学ぶ
第 3 回	実習先での保育方法を考察する
第 4 回	実習先での保育方法・保育計画について発表①
第 5 回	実習先での保育方法・保育計画について発表②考察
第 6 回	教材研究
第 7 回	教材作成-パネルシアター
第 8 回	主活動での実践計画を立てる①調べ学習
第 9 回	主活動での実践計画を立てる②活動計画を立てる
第 10 回	主活動での実践計画を立てる②発表　前半
第 11 回	主活動での実践計画を立てる④発表　後半
第 12 回	模擬保育振り返り
第 13 回	教材制作-ペープサート・スケッチブックシアター
第 14 回	教材発表
第 15 回	まとめ-卒業までの自身の課題を見つめ直す-

予習・復習

・予習：各自の課題に応じた資料作成・教材作成
・復習：学んだことを元に他教科との関連を横断的に捉える。

履修上の注意

自分の課題に積極的に取り組むこと。学外での学習を行う予定であるため授業時間外での学習が必要になる。学生の状況により、授業内容が変更する可能性がある。
遅刻（授業開始 20 分）３回で欠席１回とする。
オープンキャンパスに授業の一環として参加する可能性がある。
学外に出向き、授業を行うことがある。

到 達 目 標

・様々な保育について学び、各自の保育観を確立する。
・就職に向けて各自の強みを身につける。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
製作物（30%）	期限内に丁寧な作品を作成できる	期限内に作品を作成出来る	製作は終了したが期限内に仕上げることができない。	期限内に製作は終了したが雑な仕上がりである。	授業回数終了までに製作を終わらすことが出来ない。
発表（50%）	具体的な指導案を作成し練習の成果が発揮できる。	練習不足であるが具体的な指導案作成が出来る	具体的な指導案作成、発表に向けた練習ができない。	具体的な指導案作成ができないがアドバイスがあれば発表ができる。	アドバイスがあっても指導案を作成し発表ができない。
受講態度（20%）	授業や行事に積極的に参加し自身の課題に向けた取り組みができる。	授業や行事に参加し自身の課題を見いだす事ができる。	授業や行事に参加するが自身の課題が見つけられない	授業や行事に対する参加が不十分であるが自身の課題を見いだせる。	授業や行事に参加出来ず自身の課題を見つけることができない

評価方法

課題への取り組み 30%　　発表 50%　　受講態度 20%

テキスト

・特になし。適時、資料を配布する。

保育･教育学演習Ⅱ　～多様な探究の方法と展開～	小林　佳美

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
2年	前期	1	必修	－	選択	－

授業概要

演習Ⅰから続く本演習では、引き続き受講生自身が自ら課題（問）をもち、探究しようとする意欲・態度を育成することを目指す。その方法として、本演習では、認定こども園における子育て支援行事への参画や、学校周辺での自然フィールドワーク、自然物や自然の事象、身近な生活で使われる科学製品を活用した遊び等について、ゼミ生同士で計画、実践し、ドキュメンテーション記録を作成するサイクルを通して学び合う体験ができるように指導していく。また、自らの保育観やキャリア展望を内省し、ディスカッションする機会を設け、今後の実習、就職活動はもとより、専門的職業人として自律的にキャリアを選択していくための探究方法を指導する。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	ガイダンス
第 2 回	ダイラタンシー現象を生かした触感遊びと片栗粉スクイーズ製作、及び写真による記録。
第 3 回	活動記録としての「ドキュメンテーション」の作成意義・方法の講義と情報機器を用いた作成。
第 4 回	学外保育演習① 子育て支援行事「ナイトコドモエン」での科学あそびコーナーの計画・準備。
第 5 回	学外保育演習② 子育て支援行事「ナイトコドモエン」でのコーナー運営の体験。
第 6 回	学外保育演習③ 情報機器を用いた「ナイトコドモエン」のドキュメンテーション作成。
第 7 回	（オンライン課題）保育職場の就労環境、保育の構造の質に関する情報収集と整理。
第 8 回	（オンライン課題）保育職場の運営・経営形態、組織構造の特性に関する情報収集と整理。
第 9 回	子ども・子育てを支援する仕事の探究①自らのキャリア展望に基づく情報収集と、プレゼンテーションソフトを用いた発表資料の作成。
第 10 回	子ども・子育てを支援する仕事の探究②プレゼンテーションの実施。
第 11 回	フィールドワーク① 大学周辺の自然環境を生かせる遊びの調査と散策マップの作成。
第 12 回	フィールドワーク② 大学周辺の自然散策マップを活用した自然遊びの実践。
第 13 回	フィールドワーク③ 自然素材を生かしたドキュメンテーションの作成。
第 14 回	夏の遊びの探究① 光/水/空気/音のふしぎを楽しむ遊びの立案（ウェブ型指導計画の作成とプレゼンテーション）。
第 15 回	夏の遊びの探究② 前回の指導計画をもとにした子ども主体の遊びの実践。

予習・復習

・予習：授業計画に沿って、次の活動の材料や工程等を調べる。
・復習：ドキュメンテーション用の写真、配布資料等を整理し学習内容を振り返る。

履修上の注意

・3 回の遅刻で 1 回の欠席、20 分以降の入室は欠席として扱います。
・受講生一人ひとりが生活や学習を進める過程で見つけた課題（問い）を探究することを推奨しますので、上記の計画にとらわれず、自らの「不思議だな」「やってみたいな」と思うことを積極的に発信してください。

到 達 目 標

・身のまわりの自然や生活のなかにある不思議さや美しさに心を動かし、それを表現できる。
・自然科学や子どもの遊び、保育に関連する社会問題、キャリアについて、自らの問いや意見をもち、それを表現できる。
・自らの課題（問い）を、自分なりの方法で試行錯誤して解決しようとする姿勢・態度を身に着ける。
・他のゼミ生と協働し、活動がより深い学びとなるようにリーダーシップを発揮できる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
身のまわりの自然や生活のなかにある不思議さや美しさに心を動かし、それを表現できる。（25%）	身のまわりの自然や生活のなかにある不思議さや美しさに頻繁に心を動かし、表現し、他者によりよい影響を与えている。	身のまわりの自然や生活のなかにある不思議さや美しさに心を動かし、それ積極的に表現できる。	身のまわりの自然や生活のなかにある不思議さや美しさに心を動かしているようだが、表現が偏っていて、十分でない。	表現方法が適切でないため、ときに他者の心情・意欲・態度にネガティブな影響を及ぼす。	他者に認識される表現がほとんど見られない。
自然科学や子どもの遊び、保育に関連する社会問題、キャリアについて、自らの問いや意見をもち、それを表現できる。（25%）	自然科学や子どもの遊び、保育に関連する社会問題、キャリアについて、積極的に自らの問いや意見を表現し、他者によりよい影響を与えている。	自然科学や子どもの遊び、保育に関連する社会問題、キャリアについて、積極的に自らの問いや意見を表現できる。	自然科学や子どもの遊び、保育に関連する社会問題、キャリアについて、自らの問いや意見をもっているが、表現の仕方が偏っていて、十分でない。	表現方法が適切でないため、ときに他者の心情・意欲・態度にネガティブな影響を及ぼす。	他者に認識される表現がほとんど見られない。
自らの課題（問い）を、自分なりの方法で試行錯誤して解決しようとする姿勢・態度を身に着ける。（25%）	自らの課題（問い）を、自分なりの方法で試行錯誤して解決しようとする姿勢・態度が常に見られ、他者のモチベーションも高めている。	自らの課題（問い）を、自分なりの方法で試行錯誤して解決しようとする姿勢・態度が見られる。	自らの課題（問い）を、自分なりの方法で試行錯誤して解決しようとする姿勢・態度があまり見られない。	自らの課題（問い）を問うても回答がなく、指導された方法でのみ活動を行っている。	ほとんど活動に参加しようとしない。
他のゼミ生と協働し、活動がより深い学びとなるようにリーダーシップを発揮できる。（25%）	他のゼミ生と協働し、活動がより深い学びとなるように、リーダー的な立場で他者に影響力を発揮している。	他のゼミ生と協働し、活動がより深い学びとなるように他者に影響力を発揮している。	他のゼミ生と協働しているが、活動がより深い学びとなるような姿勢が見られない。	他のゼミ生との協働は見られないが、常に活動には参加している。	ほとんど活動に参加しようとしない。

評 価 方 法

授業態度　50%、活動実践による成果物 20%、ドキュメンテーション 30%
※遊び・活動のプロセスを指示した通りに行うことよりも、自ら探究しようとする姿勢や意欲を評価します。

テ キ ス ト

指定しない。必要に応じて資料を配布する。

保育･教育学演習Ⅱ ～子どもの感性・表現を育む実践力の育成～

宮澤多英子

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
2年	前期	1	必修	－	選択必修	－

授 業 概 要

保育者や教員には、子どもの表現に気付き、受けとめ、育む実践力が求められます。本授業は、「保育・教育学演習Ⅰ」で身に付けた表現の芽生えや育ちに対する理解や表現の技能を生かし、将来保育者・小学校教員として子どもの感性・表現力を育む音楽表現活動を実現するための実践力を育成することを目指します。

授業では、音楽文化としての楽曲演奏における実践力の育成として、「保育・教育学演習Ⅰ」での演奏発表の経験を生かし、保育現場におけるアウトリーチ活動を行います。子どもが主体となって音や音楽を楽しむことのできる参加型コンサートを主体的・協働的に企画し、演奏発表を行います。保育現場における音楽鑑賞会のアウトリーチ活動の実践経験に基づいて、対象年齢の子どもの発達や園生活での音楽経験を踏まえたプログラムの考案や演奏法、表現法について指導します。また、子どもの生活の中で表れる音や音楽への興味や音楽的表現がどのように集団での表現あそびに発展するのかを考え、総合的な表現を引き出す環境や活動の展開について、音遊びや音楽遊び、劇あそびの体験を通して実践的に学びます。

授 業 計 画

授業回	授業内容
第 1 回	オリエンテーション、保育現場での演奏発表（アウトリーチ活動）の企画・立案
第 2 回	保育現場でのコンサートに向けて①　活動計画案の作成、斉唱・合唱・合奏（パート練習）
第 3 回	保育現場でのコンサートに向けて②　斉唱・合唱・合奏（パート・全体練習）
第 4 回	保育現場でのコンサートに向けて③　斉唱・合唱・合奏・うた絵本（全体練習）
第 5 回	保育現場でのコンサートに向けて④　斉唱・合唱・合奏・音楽あそび・司会進行（全体練習）
第 6 回	保育現場でのコンサートに向けて⑤　全体の流れの確認、リハーサル
第 7 回	【学外演習】保育現場でのコンサート（アウトリーチ活動）
第 8 回	【オープンキャンパスでの演奏発表】準備・本番・片付け
第 9 回	保育現場での演奏発表（アウトリーチ活動）の振り返り
第 10 回	総合的な表現活動の体験①　音あそび（音楽表現から造形表現への広がり）
第 11 回	総合的な表現活動の体験②　音楽あそび（音楽表現から身体表現への広がり）
第 12 回	総合的な表現活動の体験③　劇あそび（音楽表現・身体表現・造形表現との関わり）
第 13 回	総合的な表現活動の体験④　劇あそび（活動計画案の作成）
第 14 回	総合的な表現活動の体験⑤　劇あそび（作成した活動計画案の発表）
第 15 回	【劇あそびの発表】リハーサル・本番・振り返り

予 習 ・ 復 習

・予習：楽譜が配布された楽曲は事前に譜読みをし、自主練習を行いましょう。
・復習：授業で学んだ内容について要点を整理し、楽曲については必ず自主練習を行いましょう。

履修上の注意

・遅刻は 3 回で 1 回欠席とします。授業開始後 20 分以降は欠席扱いとします。
・保育現場でのコンサートに向けた活動では、リハーサルと本番両方の出席を必修とします。

到 達 目 標

・自分自身の音や音楽に対する感性や表現力を高めようとする意欲をもち、授業に主体的、協働的に取り組むことができる。
・聴き手が楽しめる演奏発表の企画を考案し、表現を創意工夫しながら演奏することができる。
・総合的な表現活動の体験や考案を通して、音楽表現と造形・身体表現とのつながりや関わりについて多角的な視点から思考・判断することができる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
学修に対する姿勢や態度（40%）	指定された予習・復習や課題以外にも自主的に課題を設定して取り組み、音楽表現活動に積極的に取り組むことができる。	指定された予習・復習や課題に丁寧に取り組み、音楽表現活動に主体的に取り組むことができる。	指定された予習・復習や課題に取り組んでいるが、音楽表現活動への取り組みがやや消極的である。	指定された予習・復習や課題に取り組んでいるが、音楽表現活動への取り組みが消極的である。	指定された予習・復習や課題に取り組まず、音楽表現活動への取り組みが消極的である。
表現の創意工夫と表現の技能（50%）	楽曲にふさわしい表現を創意工夫しながら、楽曲のよさや美しさを十分に生かして表現することができる。	楽曲にふさわしい表現を創意工夫しながら、楽曲のよさや美しさを生かして表現することができる。	楽曲にふさわしい表現を自分なりに工夫してはいるものの、表現の技能がやや不足している。	楽曲にふさわしい表現を自分なりに工夫してはいるものの、表現の技能が不十分である。	楽曲にふさわしい表現の工夫がみられず、表現の技能も不十分である。
総合的な表現に対する思考力・判断力（10%）	音楽表現と造形・身体表現とのつながりや関わりについて、多角的な視点から思考・判断を深めることができる。	音楽表現と造形・身体表現とのつながりや関わりについて、多角的な視点から思考・判断することができる。	音楽表現と造形・身体表現とのつながりや関わりについて、自分なりに思考・判断している。	音楽表現と造形・身体表現とのつながりや関わりについての思考・判断がやや不足している。	音楽表現と造形・身体表現とのつながりや関わりについて、思考・判断が不十分である。

評価方法

・受講態度 40%　…【評価項目】学修に対する姿勢や態度
・演奏発表 50%　…【評価項目】表現の創意工夫と表現の技能
・テキストの課題 10%　…【評価項目】総合的な表現に対する思考力・判断力

テキスト

「保育・教育学演習Ⅰ」に引き続き、以下のテキストを使用する。
・教科書名：:『保育者養成のための創作表現活動―音楽・造形・身体動作のつながり―』
・著 者 名：宮澤多英子
・出版社名：株式会社 外為印刷
・出 版 年：2021 年

保育･教育学演習Ⅰ ～福祉心理学（いのちの教育含む）を学ぶ～	西内　俊朗

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
1年	後期	1	必修	－	選択必修	－

授業概要

・福祉対象者への心理学的支援全般についての講義および福祉施設（医療含む）見学を実施する。
・福祉心理学における心理学的支援の実際について講義する。
・子どもの健全育成にとって重要とされる「いのちの教育」「死への準備教育」について講義する。
・障害児者通園施設や医療機関での実務経験に基づき、様々な話題提供や事例課題を提示してグループワークの指導を行う。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	社会福祉の展開と心理学的支援
第 2 回	生活を支える心理的支援
第 3 回	暴力被害者への心理的支援
第 4 回	高齢者への心理的支援
第 5 回	障害・疾病のある方への心理的支援
第 6 回	生活困窮・貧困者への心理的支援
第 7 回	児童虐待への心理的支援の実際
第 8 回	子どもと親への心理的支援の実際
第 9 回	認知高齢者の心理的支援の実際
第 10 回	ひきこもり・自殺予防の心理的支援の実際
第 11 回	精神障害者への心理的支援の実際
第 12 回	家族・福祉施設職員等への心理的支援の実際
第 13 回	福祉施設（医療含む）見学および福祉・医療・介護分野での多職種協働の実際
第 14 回	がん医療における心理的支援の実際と「死への準備教育」について
第 15 回	まとめ

予習・復習

・予習：事前に配布した資料を読んで授業に臨むこと

・復習：毎回の授業で具体的に説明

履修上の注意

・遅刻、早退は3回につき1回の欠席とする。
・授業の中でグループワークを実施するので、積極的に参加してください。

到 達 目 標

・保育者、教育者として必要とされる児童福祉分野、高齢福祉分野、最新の医療保健の動向についての理解を深め、具体的な実践活動につなげていける基本的能力を培う。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
理解度（　５０%）	授業内容を超えた自主的な学修ができる。	授業内容をほぼ100%理解している。	理解はしているが授業内容の理解に多少不足がある。	授業内容を最低限の理解をしている。	内容についての理解ができていない。
文章で説明する力（レポート）（　３０%）	他人を説得する内容が記述することができる。	論理が通った説明文を記述することができる。	不足する点があるが、説明文を書くことができる。	最低限の内容について説明ができる。	内容についての説明ができない。
課題整理能力（　２０%）	課題整理能力の弱い他者に適切なアドバイスができる。	様々情報を適切に取捨選択して課題を整理することができる。	情報の整理方法に多少の課題があるが他者のアドバイスなしで課題整理できる。	他者のアドバイスを踏まえて課題整理ができる。	他者のアドバイスあっても課題整理ができない。

評価方法

課題レポート・発表・施設見学　７０%
受講態度　３０%

テキスト

・教科書名：授業の中で説明する
・著 者 名：
・出版社名：
・出 版 年（ISBN）：

保育･教育学演習Ⅱ　～子どもや保護者へのメッセージ～

藤田　倫子

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
2年	前期	1	必修	－	選択必修	－

授業概要

・本演習では、子どもの生活にかかわる正確な情報を、発信する相手に、適切に発信する力を身につけることを目的とする。また、正確な情報を発信するために、検索力や調査力など、情報収集に関する知識やリテラシーについて理解する。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	オリエンテーション・1年次の学びを振り返る
第 2 回	研究ノートの作成①興味のある内容を明確にする
第 3 回	研究ノートの作成②論文の読み込みとディスカッション①
第 4 回	研究ノートの作成③論文の読み込みとティスカッション②
第 5 回	研究ノートの作成④論文の読み込みとディスカッション③
第 6 回	研究ノートの作成⑤興味のある内容についてまとめる①
第 7 回	研究ノートの作成⑥興味のある内容についてまとめる②
第 8 回	研究ノートの作成⑦興味のある内容についてまとめる③
第 9 回	パワーポイントの作成①
第 10 回	パワーポイントの作成②
第 11 回	パワーポイントの作成③
第 12 回	屋内・屋外遊戯施設の見学①（フィールドワーク）
第 13 回	屋内・屋外遊戯施設の見学②（フィールドワーク）
第 14 回	発表とディスカッション①
第 15 回	発表とディスカッション②まとめ

予習・復習

・予習：興味のある事柄について、論文検索を行っておく。

・復習：授業内で行った内容について振り返り、メモを作成する。

履修上の注意

・図書室やパソコン室を適宜活用する。
・自分のこころと向き合い、興味や関心が明確になるように努めるとともに、保育や教育に必要な情報を得るための努力をする。

到 達 目 標

・子どもの生活にかかわる正確な情報を、適切に発信する力を身につける。
・正確な情報を発信するために、検索力や調査力など、情報収集に関する知識やリテラシーについて理解できる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
専門知識の理解（40%）	授業内容を越え積極的に学修ができる。	授業内容を十分に理解している。	理解はしているが、授業内容の理解に多少不足がある。	授業内容を最低限理解している。	内容についての理解ができていない。
専門知識の活用力・応用能力（20%）	専門的な知識を実社会での実践に役立てることができる。	課題について、専門的な知識を用いて説明できる。	専門的な知識について理解しているが、活用・応用能力に多少不足がある。	専門的な知識の獲得・修得に取り組んでいるが、説明できない。	専門的な知識に関心がない、またはその獲得・修得に取り組んでいない。
専門知識の発信力 （40%）	正確な情報とともに、自らの意見や情報のねらい等を論理的に表現し、発信できる。	正確な情報とともに、自らの意見や情報のねらい等を論理的に発信できるが、表現力に欠ける。	正確な情報や論理的説明はできるが、情報発信のねらいや目的があいまいである。	正確な情報のみの発信で、論理的にまとまっておらず、伝達力、発信力が弱い。。	不正確な情報を不適説に発信する。

評価方法

授業への取り組み：専門知識の理解（40%）・専門知識の活用力・応用能力（20%）・専門知識の発信力（40%）

テキスト

・適宜資料を配布する

保育･教育学演習Ⅱ

～魅力的な保育者・教育者を目指すための心理学の応用～

一色　翼

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
2年	前期	1	必修	－	選択必修	－

授 業 概 要

保育・教育学演習Ⅰを通して学んだ保育・教育カウンセリングのスキルと知識を生かし、魅力的な保育者・教育者となることを目指すためには、その前提として、広汎にわたって人間の心理そのものへの関心と理解を深める必要がある。

本授業では、学生一人ひとりが関心のある心理学に焦点を当てる。そしてその知見を保育・教育に生かす方法について考え、一連の成果に関する発表会を実施する。選んだ課題に関連する先行研究をどのように探すのか、そしてその知見を保育や教育にどのように応用するのか、その知識や方法について指導する。

授 業 計 画

授業回	授業内容
第 1 回	ガイダンス　授業計画と進め方
第 2 回	心理学の応用例（1）　「人にうそをつく心理」を保育・教育に生かす
第 3 回	心理学の応用例（2）　「人に魅力を感じる心理」を保育・教育に生かす
第 4 回	心理学の応用例（3）　「人を苦手になる心理」を保育・教育に生かす
第 5 回	課題（関心のある心理学）についてのディスカッション
第 6 回	課題（関心のある心理学）の設定と資料の選定・検討（1）
第 7 回	課題（関心のある心理学）の設定と資料の選定・検討（2）
第 8 回	課題（関心のある心理学）の設定と資料の選定・検討（3）
第 9 回	発表資料の作成（1）
第 10 回	発表資料の作成（2）
第 11 回	発表会（1）　発表と質疑応答
第 12 回	発表会（2）　発表と質疑応答
第 13 回	発表会（3）　発表と質疑応答
第 14 回	発表会（4）　発表と質疑応答
第 15 回	まとめ　魅力的な保育者・教育者を目指すための心理学の応用

予 習 ・ 復 習

・予習：自分で選んだ資料を読み進めること。
　　自分が担当する回の発表資料の作成を進めること。
・復習：授業内容と関連するものについて、関心を広げ、発展的な学修を行うことを期待する。

履修上の注意

1．授業開始後 20 分未満の遅刻を 3 回すると、1 回分の欠席扱いとする。
　　授業開始後 20 分を超過した場合、遅刻ではなく欠席扱いとする。
2．課題を設定し、発表会を行う。
　　授業内容に関連した発言を求めるため、積極的な発言を期待する。
3．配布プリントはファイルし、整理しておくこと。

到 達 目 標

1．心理学と関連させて課題を設定し、探究する力を身に付ける。
2．心理学の知見を踏まえて、自分の考えを効果的に表現することができる。
3．心理学の知見を踏まえて、根拠を示しながら自分の考えを発言・議論することができる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
課題を設定して探究する力（発表資料）（35%）	演習内容を超えた保育・教育カウンセリング・スキルが身に付いている。	関心のある課題を設定し、それに即した発表資料を作成することができる。	関心のある課題を設定することができているが、発表資料に多少不足がある。	関心のある課題を設定することができているが、発表資料に不足がある。	課題設定や発表資料ができていない。
考えを表現する力（発表資料）（35%）	説得力のある資料で自分の考えを表現できている。	論理的に矛盾のなく自分の考えを表現できている。	自分の考えを表現できている。	自分の考えを最低限表現できている。	自分の考えを表現することができていない。
根拠を示しながら発表する力（発表）（30%）	根拠を示しながら説得力のある発言・議論をすることができている。	根拠を示しながら発言・議論をすることができている。	根拠を示しながら発言・議論をすることができているが、多少根拠が乏しい。	最低限の根拠を示しながら発言・議論をすることができている。	根拠を示しながら発言・議論をすることができていない。

評価方法

・発表資料　70%
・発表　30%

テキスト

・テキストは使用しない。
・必要に応じてプリントを配布する。

文学　～文学とドラマの交わり～	柴田　勝二

年次	時期	単位	卒業	区分
1・2年	後期	2	選択	教養科目　選択

授業概要

西洋の作品も交えつつ、主に古典から現代に至る日本文学の作品を対象として、その特質を講義します。劇と物語・小説作品については、著名作品の内容を把握するとともにその映像化を取り上げ、原作との比較をおこないます。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	ガイダンス：日本文学の特質
第 2 回	和歌と西洋詩：自然の表現の多様性
第 3 回	俳句から近代詩へ：言葉の意味とイメージの重なり
第 4 回	夢幻能の世界：『井筒』と『伊勢物語』
第 5 回	近松劇の世界：『心中天網島』を見る
第 6 回	『卒都婆小町』：三島由紀夫作品の概要と原作との比較
第 7 回	『源氏物語』：似姿を求める行動
第 8 回	『源氏物語』：堀川とんこう監督作品の鑑賞と検討
第 9 回	西洋のドラマ：『嵐が丘』の主題と風土
第 10 回	西洋のドラマ：『嵐が丘』と西洋的自我
第 11 回	『沈黙』：遠藤周作作品の概要と主題
第 12 回	『沈黙』：マーティン・スコセッシ監督作品の鑑賞と検討
第 13 回	『ドライブ・マイ・カー』：村上春樹作品の概要と主題
第 14 回	『ドライブ・マイ・カー』：濱口竜介監督作品の鑑賞と検討
第 15 回	『ドライブ・マイ・カー』：濱口竜介監督作品の鑑賞と検討

予習・復習

・予習：各時間に取り上げる作品についてあらかじめ学んでおくこと。
・復習：学習した内容を振り返り、レポート提出の準備をすること。

履修上の注意

・毎時間欠かさず出席すること。
・授業中は私語を慎むこと。
・遅刻は 10 分まで許容する。遅刻２回について欠席１回に換算する。

到 達 目 標

・日本の古典文学にどのような特質があるかを説明できる。
・三島・遠藤・村上といった近現代の代表的な作家がどのような作品を生み出しているか説明できる。
・文学作品を通して日本文化と西洋文化の違いを説明できる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
日本文学への理解度（40%）	古典・近現代の代表的な作家・作品の特質を十分に説明できる。	古典・近現代の代表的な作家・作品の標準的な特質を説明できる。	古典か近現代の代表的な作家・作品の特質をある程度説明できる。	古典か近現代の代表的な作家・作品の特質を最低限説明できる。	古典か近現代の代表的な作家・作品の特質を説明できない。
日本演劇・映画への理解度（30%）	古典劇と現代映画の特質と、文学作品との連関を十分に説明できる。	古典劇と現代映画の特質と、文学作品との連関を標準的に説明できる。	古典劇か現代映画の特質をある程度説明できる。	古典劇か現代映画の特質を最低限説明できる。	古典劇か現代映画の特質を説明できない。
作品への鑑賞と批評の能力（30%）	原作の作品とそのドラマ化の特徴を把握したうえで自身の見解を明晰に述べることができる。	原作の作品とそのドラマ化の特徴を把握し、自身の見解を不足なく述べることができる。	原作の作品とそのドラマ化の特徴を把握し、自身の見解をある程度述べることができる。	原作の作品とそのドラマ化の特徴に対する自身の見解を最低限述べることができる。	原作の作品とそのドラマ化の特徴に対する自身の見解を適切に述べることができない。

評価方法

・時間ごとに課する小レポート：20%
・中間レポート：30%
・期末レポート：50%

テキスト

テキストは使用せず、毎時間教員がプリントを配布する。

文化論　～映像で学ぶ企業理解のための「文化」論～

平澤　純子

年次	時期	単位	卒業	区分
1・2年	後期	2	選択	教養科目　選択

授業概要

上のサブタイトルをご覧になって「企業と文化って関係あるの」と思ったかもしれません。実は企業活動のプロセスや結果に大きな影響を及ぼします。この授業では「経営文化」「組織文化」「企業文化」といった文脈での「文化」を学びます。「文化」（価値と規範の体系）という概念で企業を見ることができるようになっていただきたいと思います。価値と規範といった概念で映像の中の出来事を見て映像の中の人々の「文化」を推察していただきます。具体的には次のようなことを講義します。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	ガイダンス 授業のねらい、授業の受け方、予習・復習のしかた、評価についての説明
第 2 回	§1　国による「文化」の違い　その1 「文化が違う」ということはどういうことなのか、考えてみよう。
第 3 回	§1　国による「文化」の違い　その2 行動の違いの根底にある、規範の違いを探ってみよう。
第 4 回	§1　国による「文化」の違い　その3 文化の違いを理解しあうことは、いかにして可能か考えてみよう。
第 5 回	§2　官と民による「文化」の違い 官にはどんな文化があるかを学ぶ。
第 6 回	§2　官と民による「文化」の違い 官と民の文化の違い、違いの要因を学ぶ。
第 7 回	§2　官と民による「文化」の違い 官と民、それぞれの苦手を理解する。
第 8 回	§2　官と民による「文化」の違い 官と民、それぞれ学び合うべきところを考えてみよう。
第 9 回	これまでの学びの振り返り 授業の意図がつかめていたか、確認してみよう。
第 10 回	§3　「価値」による理解　その1 自己理解：自分は何を大事にしている人なのかを理解しよう。
第 11 回	§3　「価値」による理解　その2 企業理解：企業が追求する価値の表明たる経営理念、企業理念との向き合い方を学ぶ。
第 12 回	§4　「文化」による企業理解　その1 企業が追求する価値の表明たる理念を浸透する方法を学ぶ。
第 13 回	§4　「文化」による企業理解　その2 追求する価値が言動や企業の性格を規定することを学ぶ。
第 14 回	§4　「文化」による企業理解　その3 企業の文化を誰がどのように体現しているかを理解しよう。
第 15 回	§4　「文化」による企業理解　その4 企業の文化を自分なりに理解してみよう。

予習・復習

予習・復習に求めることは確認・要約です。あえて復習から述べます。

・復習：毎回の授業の後で次の2点を確認してください。①「へえ」と思ったこと、②学んだ概念や理論が、ここにも当てはめることができるのではないかと思う経験や出来事を探してみてください。

・予習：前回の授業のポイントを1分間で人に説明できるように整理してください(要約)。

履修上の注意

1 電車の遅延など、合理的理由のある遅刻は、証明書を提出してください。こうした手続のない遅刻は成績に反映させます。
2 やむを得ない欠席は「履修のてびき」に記載の手続きをしてください。
3 授業計画や評価方法を変更せざるを得ない場合（例：感染症拡大防止をめぐる行政措置）には説明します。授業の中での説明、掲示板、teams、メールによる説明がありえます。

到 達 目 標

この授業が終わる頃、次のような状態に到達することを目標とします。
1　あらゆる場で文化の違いに気づき、違う文化を尊重できるようになる。
2　文化という視点で企業を比較し、企業を理解できるようになる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
理解度（ 50%）	指導内容を深く理解した上で自分の意見や考えを持つことができている。	指導内容を十分理解できている。	指導内容を理解できていないところがある。	指導内容の最低限は理解している。	指導内容をほとんど理解できていない。
受講態度（ 50%）	意欲的に受講し、教室全体に大きなプラスの影響を与えている。	意欲的に受講し、教室全体にプラスの影響を与えている。	おおむね意欲的に受講している。	意欲的に受講しているとは言えない。	意欲が見られない。

評価方法

・学期末試験（50%）：ルーブリックの「理解度」にあたります。
　　試験は授業をどのくらい理解・吸収して成長できているかを重要視します。
・受講態度　（50%）：ルーブリックの「受講態度」にあたります。

テキスト

教科書はありません。教室で配られる資料や teams にアップロードされる資料の受け取りや管理は、自分で確実に実行してください。

環境論　～人と自然とのつながりを考える～	小島　望

年次	時期	単位	卒業	区分
1・2年	後期	2	選択	教養科目　選択

授業概要

講義前半は、自然科学・社会科学的な視点から「生物多様性（ヒトを含めた様々な生物のつながりとそれらを支える環境からなる全体)」とは何かについて考えます。後半は、動物園動物や身近なペットを題材に、「生命のつながり」について法的倫理的な問題を扱います。扱うテーマは全て、①物事を様々な角度から考える、②物事を批判的に見る目を持つ、③常に弱者へ配慮を忘れないようにする、④科学の限界を知る、の４つの視座から分析・検証を行なうことができる問題設定をし，講義を行います。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	ガイダンス 講義の進め方や成績の評価方法などについて
第 2 回	野生動物への餌づけ 野生動物へ餌をあげることによる影響
第 3 回	野生動物の交通事故 野生動物の交通事故の原因と対策
第 4 回	絶滅の危機に瀕している生き物たち１ レッドリスト、レッドデータブックとは何か
第 5 回	絶滅の危機に瀕している生き物たち２ 生物の絶滅原因
第 6 回	動物園の役割と今後 1 動物園は必要？動物園の実態とは？
第 7 回	動物園の役割と今後 2 動物園を評価するための準備と予備知識
第 8 回	動物園の役割と今後 3 動物園評価の方法とその意味
第 9 回	動物園の役割と今後 4 動物園評価の発表
第 10 回	動物園の役割と今後 5 動物園の将来像
第 11 回	ペットと私たちの生活１ 身近なペット、イヌ・ネコ
第 12 回	ペットと私たちの生活２ 外来生物が引き起こす問題、輸入規制対象となる飼育動物
第 13 回	ペットと私たちの生活３ 飼育動物に関する法律
第 14 回	ペットと私たちの生活４ ペット産業の実態
第 15 回	ペットと私たちの生活５ イヌ・ネコの命を救う活動

予習・復習

・予習：次回の講義で扱うテーマのチェックは必ずしておいてください。授業内で予習や事前準備等の指示をします。

・復習：原則的に講義毎に必ずレポートまたは感想文を提出してもらいます。講義時間内に行ないますが、これは講義を聞くだけでなく、学んだことを忘れないうちに整理し、自分のものにする訓練だと考えてください。まれに復習の一環としてレポート提出をしてもらう時があります。

履修上の注意

「自然科学」を履修すればより理解が深まりますので，できる限り履修するようにしてください。本講義は、受講生にとって興味深いであろうとっておきの問題の題材ばかりを集め、また、受講生の人生観や価値観を変えるかもしれないような内容も用意しています。魅力的な講義ができるよう最大限の努力をしていますので、楽しみにしておいてください。なお、遅刻については公共交通機関の遅延を除き、授業開始 20 分以上が経過した際の入室は認めていません。授業中のスマホも厳禁です。

到 達 目 標

「環境問題」について、個人の努力や価値観で考えるのではなく、様々な角度から問題を検証する「多面的視点」を養うことを目標とします。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
理解力（30%）	授業内容を越えた自主的な取り組みができる。	授業内容をほぼ100%理解してい る。	理解はしているが 授業内容の理解に多少不足がある。	授業内容を最低限の理解をしてい る。	内容についての理解ができていな い。
発展力（40%）	与えられた内容以上に自らすすんで学習を進め、それを使って社会の発展に貢献しようと考えている。	学習したものを強みとして就活などで利用することを考えている。	学習内容の意味を見出すことを考えている。	単位だけ取れればよいと考えている。	単位だけ取れればよいとさえも考えていない。
受講姿勢（30%）	強く興味をもち他の社会問題などと結びつけて考えていることが質問内容などから窺える。	強く興味を持っている様子が質問内容などから窺える、	興味を持っている様子が受講態度などから窺える。	興味を持とうと努力する様子が受講態度などから窺える。	興味を全くもっていない様子が受講態度などから窺える。

評価方法

講義時間内実施レポート 70%、定期テキスト 30%

テキスト

・教科書名：『生物多様性と現代社会：「生命の輪」30 の物語』
・著者名：小島望
・出版社名：農山漁村文化協会出版
・出版年：2010 年

経営学（旧課程）　～経営学に対する理解を深める～

平澤　純子

年次	時期	単位	卒業	区分
2年	前期	2	必修	専門科目　必修

授業概要

1年生のときに学んだ旧課程の必修科目「経営学総論」をベースに、経営学の理解を深めるのがこの授業のねらいですが、特に本学のカリキュラムに鑑み、「経営戦略論」と「経営組織論」を中心に学びます。これらの学問分野の中身や必要性を具体的に理解するために、映像を見て考える授業です。

具体的には次のようなことを指導します。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	ガイダンス 授業のねらい、授業の受け方、予習・復習のしかた、評価についての説明
第 2 回	経営学とは　その1　経営学とはどんな学問か
第 3 回	経営学とは　その2　経営学を学ぶ意義
第 4 回	経営戦略論　その1　戦略がないとどうなるのか
第 5 回	経営戦略論　その2　戦略の役割、次元
第 6 回	経営戦略論　その3　戦略を立てるための分析
第 7 回	経営戦略論　その4　基本的な戦略
第 8 回	経営戦略論　その5　戦略の具体例
第 9 回	経営組織論　その1　ざんねんな組織
第 10 回	経営組織論　その2　組織とは何か
第 11 回	経営組織論　その3　経営の中のコミュニケーション
第 12 回	経営組織論　その4　人はなぜ働くのか
第 13 回	経営組織論　その5　経営者・管理者は何をするのか
第 14 回	経営組織論　その6　優れた組織
第 15 回	まとめと振り返り

予習・復習

予習・復習に求めることは確認・要約です。あえて復習から述べます。

・復習：毎回の授業の後で次の2点を確認してください。①「へえ」と思ったこと、②学んだ概念や理論が、ここにも当てはめることができるのではないかと思う経験や出来事を探してみてください。

・予習：前回の授業のポイントを1分間で人に説明できるように整理してください(要約)。

履修上の注意

1 電車の遅延など、合理的理由のある遅刻は、証明書を提出してください。こうした手続のない遅刻は成績に反映させます。
2 やむを得ない欠席は「履修のてびき」に記載の手続きをしてください。
3 授業計画や評価方法を変更せざるを得ない場合（例：感染症拡大防止をめぐる行政措置）には説明します。授業の中での説明、掲示板、teams、メールによる説明がありえます。

到 達 目 標

この授業が終わる頃、次のような状態に到達することを目標とします。
1　経営戦略とは何か、具体例を挙げて言えるようになる。
2　組織をマネジメントすることの難しさがどこにあるか、具体例を挙げて言えるようになる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
理解度（ 50%）	指導内容を深く理解した上で自分の意見や考えを持つことができている。	指導内容を十分理解できている。	指導内容を理解できていないところがある。	指導内容の最低限は理解している。	指導内容をほとんど理解できていない。
受講態度（ 50%）	意欲的に受講し、教室全体に大きなプラスの影響を与えている。	意欲的に受講し、教室全体にプラスの影響を与えている。	おおむね意欲的に受講している。	意欲的に受講しているとは言えない。	意欲が見られない。

評価方法

・学期末試験（50%）：ルーブリックの「理解度」にあたります。
　　試験は授業をどのくらい理解・吸収して成長できているかを重要視します。
・受講態度　（50%）：ルーブリックの「受講態度」にあたります。

テキスト

教科書はありません。教室で配られる資料や teams にアップロードされる資料の受け取りや管理は、自分で確実に実行してください。

民法　～人生の必修科目～

三重野雄太郎

年次	時期	単位	卒業	区分
1・2年	前期	2	選択	専門科目　選択

授業概要

民法とは、私たち一般市民の間の関係について定めた法律である。

法律というと、皆さんには「難しい」、「お堅い」などと思われるであろう。しかし、コンビニでお茶を買うのも、大学に来るのに電車やバスに乗るのも「契約」という法律に定められた行為に基づくものである。また、婚姻（結婚）も法律に定められた行為である。これらは、全て民法に規定されている。そうすると、民法というのは実は私たちにとって非常に身近なもので、生きていくうえで否が応でも関わらざるを得ない法律だということが分かって頂けるだろう。

また、皆さんには、法律は、私たちを縛るルールであると思われるかもしれない。確かにそういった側面があることは否めないが、一方で、法律は私たちを守ってくれるものでもある。交通事故に遭った場合に被害弁償をしてもらう、配偶者に浮気されたので離婚してもらうなどといったような場合に民法の知識があれば、泣き寝入りしなくて済むであろう。

本講義では、私たちの生活に直接関わりうる事柄を中心に取り上げながら、民法の基本を学んでもらう。民法を学ぶことで、皆さんが一市民として幸せに生きていくためにも必要な知識・素養が得られるであろう。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	オリエンテーション
第 2 回	契約とは？①
第 3 回	契約とは？②
第 4 回	債務不履行①
第 5 回	債務不履行②
第 6 回	意思表示①
第 7 回	意思表示②
第 8 回	意思表示③
第 9 回	消費生活と法
第 10 回	物権
第 11 回	担保物権
第 12 回	不法行為①
第 13 回	不法行為②
第 14 回	家族関係
第 15 回	相続・遺言

予習・復習

・予習：教科書の該当箇所を精読し、毎回指示する予習課題に取り組む。疑問点を書き出しておく。
・復習：教科書の該当箇所と配布資料を再確認し、理解できた点、できなかった点をまとめる。

履修上の注意

①大学生として、大人としての自覚をもって振る舞うこと。
②当然ながら、他の受講生や担当教員の迷惑となる行動は厳に慎むこと
③欠席すること自体は、やむを得ないが、欠席した分のフォローは自分で行うこと。友達にノートをコピーさせてもらうなど方法はいろいろある。課題の告知なども休んでいたので知りませんでしたなどという言い訳はスルーする。また、一度配布した資料等は、再配布はしない。欠席してもらっていない、紛失してしまったなどといった場合は、友達にコピーさせてもらうなど自身で対応すること。
④自身に関わる事柄として、当事者意識を持って学ぶこと。
⑤授業は基本的に講義形式で行うが、発問して答えてもらったり、グループワークをしてもらったり、みんなでディスカッションをしたりなどの活動を取り入れることもある。（単にその場に居るという「出席」ではなく）授業に積極的に「参加」して欲しい。
⑥授業中にミニレポートを課す予定である。成績評価にも関わるので真剣に取り組まれたい。
⑦本授業を履修して下さる場合、本シラバスの内容について熟知・了承頂けているという前提で教員は対応する。
⑧教科書・参考書を自身の判断で用意しないのは自由であるが、みんな用意している前提で授業運営・課題について対応がなされる。
⑨本シラバスの記載事項については、受講人数その他の事情により変更することがありうる。

到 達 目 標

①現代社会における様々な法的問題や私たちの日常生活に直接関わる法的事象について、関心を持ち、自身に関わる事柄として考えることができる。
②具体的な法的事例を切り口にして法律学を学び、各事例に関わる条文、判例、概念などを理解するとともに、それらを活用して具体的事例について妥当な解決策を導き出すことができる。
③自身の考えを根拠をもって論理的かつ的確に表現できる
④立場の異なる人の考えに耳を傾け、理解しようと努める態度を養う。
⑤他者と議論して問題に対する妥当な結論を見出すことができる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
理解度（70%）	授業内容を越えた自主的な学修ができる。	授業内容をほぼ100%理解している。	授業内容をひととおり理解しているが、多少不足がある。	授業内容について最低限の理解はしている。	授業内容について理解できていない。
論理的思考力・表現力（30%）	他人を納得させられるくらいに説得力ある論理的な文章が書ける。	根拠を挙げて、論理的な文章が書ける。	論理性・説得性に不足があるが、根拠を示しながら文章を書ける。	最低限の内容を示す文章が書ける。	課題で問われている内容に即した文章を書けていない。

評価方法

期末レポート　　70%
授業内課題など提出物　　30%

テキスト

・教科書名：ストーリーから学ぶ民法ナビ
・著者名：出雲孝ほか
・出版社名：みらい
・出版年：2021 年
・ISBN：978-4-86015-540-7

※参考書
・参考書名：概説　生命倫理学
・著者名：三重野雄太郎ほか
・出版社名：大学教育出版
・出版年：2025 年（3 月末公刊予定）
・ISBN：978-4-86692-339-0

心理学　～心のはたらきを理解する～

伊澤　利文

年次	時期	単位	卒業	区分
1・2年	前期	2	選択	専門科目　選択

授業概要

この授業では、まず人間の「心」についての基礎を学んでゆきます。生物としての人間という視点から心理学の基礎的な知識を習得します。次に、他の動物にはみられない人間心理の特徴的な部分についての学習に進みます。そして最終的に、みなさん自身を含めた「人間」という存在の理解を目指します。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	ガイダンス、および心理学の歴史　－心への関心はいつ生まれたのか？－
第 2 回	「心」はどこにあるのか？　－脳の構造と人間心理との関係－
第 3 回	知覚　－感覚を使った世界とのつながり方を知る－
第 4 回	学習　－新しいことが「出来るようになる」メカニズムについて－
第 5 回	記憶　－新しいことを「覚える（覚えておく）」メカニズムについて－
第 6 回	感情　－自分の周りの世界を「彩る」メカニズムと人間の生活について－
第 7 回	感情　－自分の周りの世界を「彩る」メカニズムと人間の生活について－
第 8 回	ストレス　－さまざまなストレスと心身への影響について－
第 9 回	発達　－人間が「成長する」メカニズムについて－
第 10 回	言語　－人間が「会話」し「理解する」仕組みについて－
第 11 回	思考　－人間が手に入れた「考える」メカニズムについて－
第 12 回	意識　－「意識がある」とは心理学的にどのような状態なのか？－
第 13 回	パーソナリティ　－性格を科学的に理解することの意味－
第 14 回	社会心理　－社会生活における「情報処理」と「他者」の役割について－
第 15 回	睡眠と夢　－人間の「眠り」と「夢」のメカニズムについて？－

予習・復習

・予習：各回の授業テーマに関連する予備知識をつけておくことが望ましい（ネットなどで）。

・復習：スマホなどで撮影した画像から、授業ノートを分かりやすく清書することが望ましい。

履修上の注意

授業には積極的な態度で望み、心と身体の基本的なメカニズムを理解するよう努めること。欠席した分だけ、得られる情報量が少なくなることを意識してください。そのため、この授業では「遅刻 2 回で欠席 1 回」の扱いとしますので注意するように。

到 達 目 標

・科学的な視点から心理学の基礎を学ぶ。
・科学的な視点から世界を眺め、必要な場合には状況を分析して対処できるようになる。
・この授業で得られた心理学の知識を、今後の生活で活用できるようにする。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
理解度（４０%）	-	授業内容をほぼ理解できている。	授業内容の理解が多少不足している。	授業内容を大まかにではあるが理解している。	出席不足などから授業内容を理解していない。
関心度（３５%）	授業内容を越えた領域まで興味を示している。	授業に大きな関心を持って望んでいる。	授業内容への好奇心が多少不足している。	授業内容への関心があまり持てていない。	授業内容にほぼ関心がなく出席しているだけである。
発信力（２５%）	自分の疑問点を分かり易く簡略に質問できる。	教員からの質問に対して自分の考えを口頭で表現できる。	教員からの質問に対して自分の意見を発信できる（挙手）。	教員からの質問に対して自分の意見を発信できない。	-

評価方法

定期テスト　：　７０%
発表　：　２０%
受講態度　：　１０%

テキスト

使用しません。資料が必要な場合に、適宜プリントを配布します　。

メンタルケア　～こころの健康の維持とは～	蓮井千恵子

年次	時期	単位	卒業	区分
1・2年	前期	2	選択	専門科目　選択

授業概要

メンタルヘルスとは心理、精神的な健康を意味する。心理、精神的な健康さとその健康さを損なうもの、ことについての理解を目的とした講義を行う。こころの健康は自分一人で維持することは困難であるという理解を促すことを目的としている。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	オリエンテーション　講義の内容の説明とスケジュールの確認　メンタルヘルスの意味を理解する。
第 2 回	こころの健康と異常 I
第 3 回	こころの健康と異常 II
第 4 回	こころに問題を抱えた人に対する援助 I
第 5 回	こころに問題を抱えた人に対する援助 II
第 6 回	精神障害（を有する人）に対する偏見 I　自分がどんな偏見を持っているか、いないか理解しよう。他者の意見を聞いてみよう。
第 7 回	精神障害（を有する人）に対する偏見 II　自分がどんな偏見を持っているか、いないか理解しよう。他者の意見を聞いてみよう。
第 8 回	家族心理療法 I　健康な家族とはどういうものだろうか。
第 9 回	家族心理療法 II　家族成員の一人の変化は家族全体の健康を取り戻すことに役立つだろうか。
第 10 回	家族心理療法 III　家族成員の一人の変化は家族全体の健康を取り戻すことに役立つだろうか。
第 11 回	心理療法・精神科治療の効果 I　心理臨床の効果に関する研究を紹介し、効果と限界について説明する。現在どのようなことが現在わかっており、これからの課題は何かを理解する。
第 12 回	心理療法・精神科治療の効果 II　心理臨床の効果に関する研究を紹介し、効果と限界について説明する。現在どのようなことが現在わかっており、これからの課題は何かを理解する。
第 13 回	心理療法の失敗とは？
第 14 回	メンタルをケアするための様々なアプローチ
第 15 回	まとめ

予習・復習

・予習：講義中に関連図書を紹介する。また次の回にレジュメを配布することがあるので、必ず読んでくること。
・復習：講義中に関連図書を紹介する。

履修上の注意

他者と交流することから学ぶことを重要な講義となっている。そのため講義ではグループワークを行う。グループディスカッションでは、積極的な参加を必要とする。ただし学年が異なるなどの場合は、作業を一人で行うことは差し支えない。その場合、教室全体で共有する際、積極的に発表してほしい。遅刻は４回で１回欠席となる。

到 達 目 標

１）こころの異常と健康について説明することができる。２）こころの健康を損なうもの、ことについて説明することができる。３）こころの健康を維持するため何が必要か学ぶ。４）他者の意見を聞き、自分のコミュニケーション能力を現状より高めることを目的とする。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
理解度（30%）	授業内容を越えた自主的な学修ができる。	授業内容をほぼ100%理解している。	理解はしているが授業内容の理解に多少不足がある。	授業内容を最低限の理解をしている。	内容についての理解ができていない。
読解力・要約力（50%）	解法が分からない他人にアドバイスができる。	読んで正しく理解し、期待される課題をとけること	参考書や教科書を参考にすれば、課題をとくができる。	他人のアドバイスがあれば課題の理解ができる。	他人のアドバイスがあっても自発的に課題を解くことができない。
文章で説明する力（レポート）（20%）	他人を説得する内容が記述できることができる	論理が通った説明文を記述することができる。	不足する点があるが、説明文を書くことができる。	最低限の内容について説明ができる。	内容についての説明ができない。

評価方法

定期試験　50 %　　小テスト 30%　レポート 20%

テキスト

適宜レジュメを配布する。

臨床心理学　～臨床心理を体験してみよう～

蓮井千恵子

年次	時期	単位	卒業	区分
1・2年	前期	2	選択	専門科目　選択

授業概要

臨床心理学は何のために発展したのか、何を学ぶのかということを目的とした講義を行う。自分の体験とてらしあわせ、他者の体験について考えることについて学ぶ。他者との話し合いを通して、自分の考えをまとめ、それをさらに他者に伝え、共有することを重要視した講義である。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	オリエンテーション　講義の内容の説明とスケジュールの確認　臨床心理学を学ぶ意味について理解する。
第 2 回	精神医学と臨床心理学の違いについてⅠ　双方は重なる面もあるが､異なる面も存在する。その相違について学び、理解する。
第 3 回	精神医学と臨床心理学の違いについて II　事例を通して、双方の違いを理解する。
第 4 回	臨床心理学の実際Ⅰ　自分を理解する一環として、質問紙による心理検査を実際に行ってみる。
第 5 回	臨床心理学における心理査定の意義　心理臨床においては心理査定（心理検査）が用いられるが、検査の目的、紹介、査定の違いについて理解する。
第 6 回	臨床心理学における観察の意義　心理臨床において観察は非常に重要である。実際に観察してみよう。観察レポートを作成する
第 7 回	臨床心理学の実際 II　心理療法場面の DVD を見て、グループディスカッションを行い、自分たちの意見を発表する。まず自分なりの感覚に基づき、自分の意見を持つことが重要である。
第 8 回	臨床心理学の実際 III　個人心理療法の目的について理解する。
第 9 回	臨床心理学の実際 IV　心理療法の事例について読み、面接で何が起きているのか理解を深める。
第 10 回	日常生活における心理臨床
第 11 回	心理療法における失敗①　失敗を通して何を学ぶか、どう失敗から学ぶか、他者の体験談を読み、自分の失敗についての理解の仕方や対応の仕方について考える。
第 12 回	心理療法における失敗②　臨床心理学において失敗とは何かということについて理解を深める。
第 13 回	恋愛に関する心理学　男女差は存在する？
第 14 回	アウトサイダーアート
第 15 回	まとめ

予習・復習

・予習：講義中に、関連図書を紹介する。また次に用いるレジュメを渡すこともあるので、それを読んでおくこと。
・復習：講義中に、関連図書を紹介する。

履修上の注意

臨床心理学は実践学問である為、体験することを通して学ぶことを重要視する。講義中はグループワークを行うので、グループでのディスカッションに積極的な参加を必要とする。ただし、学年等が異なる場合は、作業を一人でおこなってもさしつかえない。遅刻は4回で1回欠席となる。

到 達 目 標

1）臨床心理学において、何が目指されているかについて説明できること、2）臨床心理学において自分を理解することの重要性を説明できること、3）心理、精神的に実際に自分が困った時、どのように対処すればよいか説明できること、4）コミュニケーション能力を高めることを目標とする。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
理解度（30%）	授業内容を越えた自主的な学修ができる。	授業内容をほぼ100%理解している。	理解はしているが授業内容の理解に多少不足がある。	授業内容を最低限の理解をしている。	内容についての理解ができていない。
読解力・要約力（50%）	解法が分からない他人にアドバイスができる。	読んで正しく理解し、期待される課題をとけること	参考書や教科書を参考にすれば、課題をとくができる。	他人のアドバイスがあれば課題の理解ができる。	他人のアドバイスがあっても自発的に課題を解くことができない。
文章で説明する力（レポート）（20%）	他人を説得する内容が記述できることができる	論理が通った説明文を記述することができる。	不足する点があるが、説明文を書くことができる。	最低限の内容について説明ができる。	内容についての説明ができない。

評価方法

定期試験　50 %　　小テスト 30%　レポート 20%

テキスト

適宜レジュメを配布する。